

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第586集

野沢^{のざわ}Ⅱ遺跡・舟渡^{ふなと}Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書

経営体育成基盤整備事業更木新田地区関連遺跡発掘調査

2011

岩手県県南広域振興局農政部北上農村整備センター
(財)岩手県文化振興事業団

野沢Ⅱ遺跡・舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書

経営体育成基盤整備事業更木新田地区関連遺跡発掘調査

序

岩手県には、旧石器時代から連綿と続く数多くの遺跡が残されております。先人達が創造してきたこれらの貴重な文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは、私達県民に課せられた責務であるといえましょう。一方、広大な面積を有し、その大部分が山地である本県にあっては地域開発による社会資本の充実も県民の切実な願いであります。

このような埋蔵文化財の保護、保存と開発との調和は今日的な課題であり、当岩手県文化振興事業団は埋蔵文化財センターの創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもと、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、記録保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、経営体育成基盤整備事業に関連して平成21年度に発掘調査を行った北上市更木新田地区に所在する野沢Ⅱ遺跡および舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡の調査結果をまとめたものであります。発掘調査によって、この地域に平安時代の集落跡が存在していたことが明らかになりました。他にも縄文～弥生時代・近世の遺構や遺物が見つかっており、長きにわたって生活に利用されていた場所であることも判りました。

この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず、埋蔵文化財行政に対する理解の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成に御援助・御協力を賜りました岩手県県南広域振興局農政部北上農村整備センター・北上市教育委員会をはじめとする関係各位に衷心より感謝申し上げます。

平成23年1月

財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 池田克典

例 言

- 1 本報告書は、岩手県北上市更木に所在する野沢Ⅱ遺跡・舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡の発掘調査の結果を収録したものである。
- 2 本遺跡の調査は、経営体育成基盤整備事業に関わる事前の緊急発掘調査である。調査は岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課と岩手県県南広域振興局北上総合支局農林部農村整備室（現岩手県県南広域振興局農政部北上農村整備センター）との協議を経て、（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが委託を受け、受託事業として実施した。なお、費用負担は岩手県教育委員会が岩手県県南広域振興局北上総合支局農林部農村整備室に農家負担分を補助している。
- 3 本遺跡の調査成果は、すでに『平成21年度発掘調査報告書』（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第571集）において発表しているが、内容については本書が優先する。
- 4 岩手県遺跡登録台帳に登録されている野沢Ⅱ遺跡・舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡の遺跡番号と遺跡略号は、次の通りである。

野沢Ⅱ遺跡	遺跡番号	ME46-2306	／	遺跡略号	NZⅡ-09
舟渡Ⅰ遺跡	遺跡番号	ME46-1390	／	遺跡略号	FTⅠ-09
舟渡Ⅱ遺跡	遺跡番号	ME46-2314	／	遺跡略号	FTⅡ-09
- 5 今回調査を行った舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡は、岩手県教育委員会が作成した『岩手県遺跡情報検索システム（花巻・北上地方振興局管内）』においてそれぞれ別遺跡として登録されており、本来は別遺跡として章立てし、報告すべきものであるが、今回の調査区が両遺跡に挟まれた遺跡範囲外部分を含むこと、また今回の調査結果を受けてこれまでの遺跡範囲の見直しが行われることとなったが、本報告書作成期間内にその結果が判らないことから、今回は舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡としてまとめて報告する。
- 6 野外調査の面積・期間・担当者は、次の通りである。

野沢Ⅱ遺跡	4,500㎡	／	平成21年4月10日～8月5日	／	菅 常久・溜 浩二郎・山田めぐみ
舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡	11,847㎡	／	平成21年5月11日～11月13日	／	〃
- 7 室内整理の期間・担当者は次の通りである。

野沢Ⅱ遺跡	平成21年11月2日～平成22年3月31日	溜 浩二郎・山田めぐみ
舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡	平成21年11月2日～平成22年3月31日	菅 常久・山田めぐみ
- 8 遺物の鑑定は、次の機関に依頼した。

石材鑑定	：花崗岩協会
炭化材同定	：木炭協会
- 9 基準点測量は、株式会社キタテックに委託した。
- 10 野外調査と室内整理にあたっては、次の方々の御協力と御指導をいただいた（敬称略）。

北上市教育委員会
- 11 本報告書の編集については、溜浩二郎が行った。各章の執筆については第Ⅰ章「調査に至る経過」は岩手県県南広域振興局農政部北上農村整備センターに原稿を依頼し、執筆していただいたものである。第Ⅱ章～Ⅳ章は溜、第Ⅴ章は山田が墓壙・柱穴状土坑・溝跡、それ以外を菅が執筆した。
- 12 本遺跡の調査で得られた一切の資料、出土遺物・撮影写真・遺構実測図・遺物実測図は、岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

目 次

I	調査に至る経過	1
II	遺跡周辺の地理的環境	
1	遺跡の位置	1
2	地形と地質	2
3	遺跡周辺の歴史的環境	2
III	調査の経過と方法	
1	野外調査の経緯	9
2	野外調査の方法	9
3	室内整理の手順と方法	11
IV	野沢Ⅱ遺跡	
1	遺跡の立地	13
2	基本土層	13
3	調査の概要	13
4	検出した遺構	14
5	出土遺物	44
6	まとめ	57
V	舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡	
1	遺跡の立地	59
2	基本土層	59
3	調査の概要	62
4	検出した遺構	62
5	遺構外出土遺物	115
6	まとめ	137
	報告書抄録	209

表 目 次

1 表 周辺の遺跡一覧……………	8	第 9 表 墓壇出土遺物一覧表……………	109
<野沢Ⅱ遺跡>			
第 2 表 柱穴状土坑一覧……………	34・35	第10表 縄文・弥生土器観察表……………	129
第 3 表 縄文・弥生土器観察表……………	53	第11表 古代土器観察表……………	131
第 4 表 古代土器観察表……………	54	第12表 土製品観察表……………	133
第 5 表 石器観察表……………	55	第13表 陶磁器観察表……………	134
第 6 表 石製品観察表……………	56	第14表 石器観察表……………	134
第 7 表 陶磁器観察表……………	56	第15表 石製品観察表……………	135
<舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡>			
第 8 表 柱穴状土坑観察表……………	92	第16表 金属遺物観察表……………	135

図 版 目 次

第 1 図 遺跡の位置……………	3	第21図 3～5号溝跡……………	31
第 2 図 地形分類図……………	4	第22図 6～9号溝跡……………	32
第 3 図 周辺地形と調査範囲……………	5	第23図 1号井戸跡……………	33
第 4 図 周辺の遺跡分布図……………	7	第24図 柱穴状土坑 (P P 1～10)……………	36
第 5 図 グリッド配置図……………	10	第25図 柱穴状土坑 (P P 11～22)……………	37
第 6 図 凡例図……………	12	第26図 柱穴状土坑 (P P 23～45)……………	38
<野沢Ⅱ遺跡>			
第 7 図 基本土層……………	13	第27図 柱穴状土坑 (P P 59～131)……………	39
第 8 図 1号住居跡 (1)……………	14	第28図 柱穴状土坑 (P P 46～58・132 ～137)……………	40
第 9 図 1号住居跡 (2)……………	15	第29図 性格不明遺構 (1)……………	41
第10図 2号住居跡……………	16	第30図 性格不明遺構 (2)……………	42
第11図 3号住居跡 (古段階)……………	18	第31図 遺構配置図……………	43
第12図 3号住居跡 (古段階・新段階)……………	19	第32図 遺構内出土遺物 (1)……………	45
第13図 4号住居跡 (1)……………	20	第33図 遺構内出土遺物 (2)……………	46
第14図 4号住居跡 (2)……………	21	第34図 遺構内出土遺物 (3)……………	47
第15図 5号住居跡 (1)……………	22	第35図 遺構内出土遺物 (4)……………	48
第16図 5号住居跡 (2)……………	23	第36図 遺構内出土遺物 (5)……………	49
第17図 5号住居跡 (3)……………	24	第37図 遺構外出土遺物 (縄文・弥生土器)……………	50
第18図 1号掘立柱建物跡……………	25	第38図 遺構外出土遺物 (弥生土器・ 土師器)……………	51
第19図 1～3号土坑……………	27		
第20図 1・2号溝跡……………	30		

第39図 遺構外出土遺物（石器・石製品・陶器）	52	第63図 20～22号溝跡	100
<舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡>		第64図 23・24号溝跡	101
第40図 基本土層	59	第65図 25～28号溝跡	102
第41図 遺構配置図（1）	60	第66図 29～31号溝跡	103
第42図 遺構配置図（2）	61	第67図 柱穴状土坑（PP1～27）	104
第43図 1号住居跡（1）	63	第68図 柱穴状土坑（PP28～65）	105
第44図 1号住居跡（2）	64	第69図 墓域・1号墓壙	110
第45図 2号住居跡	65	第70図 2～4号墓壙	111
第46図 3号住居跡	67	第71図 5～8号墓壙	112
第47図 4号住居跡	68	第72図 9～12号墓壙	113
第48図 5号住居跡	69	第73図 13～16号墓壙	114
第49図 1号焼成遺構	70	第74図 遺構内出土遺物（1）	116
第50図 1号焼土	71	第75図 遺構内出土遺物（2）	117
第51図 1～4号土坑	78	第76図 遺構内出土遺物（3）	118
第52図 5～9号土坑	79	第77図 遺構内出土遺物（4）	119
第53図 10～15号土坑	80	第78図 遺構内出土遺物（5）	120
第54図 16～21号土坑	81	第79図 遺構内出土遺物（6）	121
第55図 22・23号土坑	82	第80図 遺構内出土遺物（7）	122
第56図 1～3号溝跡	93	第81図 遺構外出土土器（縄文・弥生1）	123
第57図 4・5号溝跡	94	第82図 遺構外出土土器（縄文・弥生2）	124
第58図 6・8号溝跡	95	第83図 遺構外出土土器（縄文・弥生3）	125
第59図 7・9・12号溝跡	96	第84図 遺構外出土土器（縄文・弥生4）	126
第60図 10・11号溝跡	97	第85図 遺構外出土遺物（古代土器・ミニチュア・陶磁器・土製品・石器）	127
第61図 13～16号溝跡	98	第86図 遺構外出土遺物（石器・石製品・金属遺物）	128
第62図 17～19号溝跡	99		

写真図版目次

写真図版1 航空写真	143	写真図版8 3号住居跡（新段階）	150
写真図版2 出土陶磁器	144	写真図版9 4号住居跡	151
<野沢Ⅱ遺跡>		写真図版10 4号住居跡	152
写真図版3 調査区近景、基本土層	145	写真図版11 5号住居跡	153
写真図版4 1号住居跡	146	写真図版12 5号住居跡	154
写真図版5 2号住居跡	147	写真図版13 1号掘立柱建物跡、1・2号柱穴列	155
写真図版6 3号住居跡（古段階）	148	写真図版14 1～3号土坑	156
写真図版7 3号住居跡（古段階）	149		

写真図版15	1号井戸跡、 性格不明遺構……………	157	写真図版43	20・21号溝跡……………	185
写真図版16	1・2号溝跡……………	158	写真図版44	19・22・23号溝跡……………	186
写真図版17	3・4号溝跡……………	159	写真図版45	24～26号溝跡……………	187
写真図版18	5・6号溝跡……………	160	写真図版46	27～29号溝跡……………	188
写真図版19	7～9号溝跡……………	161	写真図版47	30・31号溝跡……………	189
写真図版20	遺物出土状況……………	162	写真図版48	1～6号墓壙……………	190
<舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡>			写真図版49	7～11号墓壙……………	191
写真図版21	航空写真、調査区近景……………	163	写真図版50	12～16号墓壙、墓域全景……………	192
写真図版22	基本土層……………	164	<野沢Ⅱ遺跡>		
写真図版23	1号住居跡……………	165	写真図版51	遺構内出土土器(1)……………	193
写真図版24	1号住居跡……………	166	写真図版52	遺構内出土土器(2)……………	194
写真図版25	2号住居跡……………	167	写真図版53	遺構内出土土器(3)……………	195
写真図版26	2号住居跡……………	168	写真図版54	遺構外出土土器……………	196
写真図版27	3号住居跡……………	169	写真図版55	石器……………	197
写真図版28	4・5号住居跡……………	170	写真図版56	陶磁器……………	198
写真図版29	1号焼成遺構、1号焼土……………	171	<舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡>		
写真図版30	1～4号土坑……………	172	写真図版57	遺構内出土遺物(1)……………	199
写真図版31	5～8号土坑……………	173	写真図版58	遺構内出土遺物(2)……………	200
写真図版32	9～12号土坑……………	174	写真図版59	遺構内出土遺物(3)……………	201
写真図版33	13～16号土坑……………	175	写真図版60	遺構内出土遺物(4)、 遺構外出土土器(1)……………	202
写真図版34	17～20号土坑……………	176	写真図版61	遺構外出土土器(2)……………	203
写真図版35	21～23号土坑……………	177	写真図版62	遺構外出土土器(3)……………	204
写真図版36	1～3号溝跡……………	178	写真図版63	遺構外出土土器(4)、 土製品……………	205
写真図版37	4・5号溝跡……………	179	写真図版64	石器(1)……………	206
写真図版38	6・7号溝跡……………	180	写真図版65	石器(2)、石製品、 金属遺物(1)……………	207
写真図版39	8・9・13号溝跡……………	181	写真図版66	金属遺物(2)……………	208
写真図版40	10～12号溝跡……………	182			
写真図版41	14～16号溝跡……………	183			
写真図版42	17・18号溝跡……………	184			

I 調査に至る経過

野沢Ⅱ遺跡、舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡は、「経営体育成基盤整備事業更木新田地区」のほ場整備に伴い、その事業区域内に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

本地区は北上市の北東、花巻市との市境に位置し、現況は小区画・不整形な水田で、なおかつ幅員狭小な農道となっていることから、作業効率が悪く、また用排水兼用の土側溝水路のため、用水不足や排水不良となっており、維持管理に支障を来しているところである。このため、本事業地区においては、大区画ほ場整備を実施することで、農作業の効率化、生産コストの削減、生産性の向上等を図り、農地集積による安定した経営体および担い手農家の育成を目的として事業着手したものである。

当事業の施工に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、北上地方振興局農村整備室から平成17年10月11日付北地農整第460号、県南広域振興局北上総合支局農林部農村整備室から平成18年11月9日付北総農整第580-1号、平成19年2月23日付北総農整第580-2号「経営体育成基盤整備事業更木新田地区に係る埋蔵文化財の試掘調査（依頼）」により岩手県教育委員会に対して試掘調査の依頼を行った。

依頼を受けた岩手県教育委員会は平成17年10月12日～平成19年2月27日にかけてそれぞれ試掘調査を実施し、工事に着手するには舟渡Ⅰ遺跡、野沢Ⅰ・Ⅱ遺跡の発掘調査が必要となる旨を平成18年3月31日付教生第1887号、平成19年1月31日付教生第1474号、平成19年3月7日付教生第1660号「経営体育成基盤整備事業更木新田地区予定箇所における埋蔵文化財の試掘調査について（回答）」によりそれぞれ回答してきた。

その結果を踏まえ、当農村整備室は岩手県教育委員会と協議し、調整を受けて平成21年4月8日付で財団法人岩手県文化振興事業団との間で委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

なお、岩手県県南広域振興局北上総合支局農林部農村整備室は、岩手県広域振興局再編に伴い、平成22年度より岩手県県南広域振興局農政部北上農村整備センターとして事業継続がなされている。

(岩手県県南広域振興局農政部北上農村整備センター)

II 遺跡周辺の地理的環境

1 遺跡の位置

野沢Ⅱ遺跡・舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡が所在する北上市更木新田地区は、北上市北東部の北緯39度20分02秒～39度20分02秒、東経141度08分25秒～141度09分09の地点に位置し、北上山地の北西端部、北上川左岸に立地する。遺跡は国土地理院発行の5万分の1地形図「花巻」NJ-54-13-16（盛岡16号）および「北上」NJ-54-14-13（一関13号）の図幅に含まれる。

北上市は県都盛岡市から南方約47kmの距離にあり、総面積は437.55㎡。北に花巻市、南に金ヶ崎町、東に奥州市、西に西和賀町が隣接する。古くから交通の要衝として栄え、藩政時代の黒沢尻は北上川舟運の南部藩最南端の商港であった。平成3年4月に旧北上市、和賀町、江釣子村の3市町村が合併し、現在の北上市となった。

2 地形と地質

遺跡は北上市と花巻市の東側を蛇行し、南流する北上川左岸に立地し、地形的には北上川河谷平野に載る。この平野は北上川の流路変遷の過程を示す谷底平野及び氾濫平野や自然堤防、旧河道などで構成され、一様に低平ではない低地が発達している。この北上川河谷平野を境にして東西で地勢は大きく異なり、対照的な様相を呈する。北上川より東側は早池峰山（標高1,914m）を最高峰に剣ヶ峰（1,827m）・中岳（1,679m）・鶏頭山（1,445m）・毛無森山（1,427m）などの高山が東西に連なった『早池峰連峰』を形成する北上山地が広がるが、遺跡周辺は北上山地の西縁丘陵地域で、比較的なだらかな山地が広がり、水乞山（287m）・物見山（294m）・明神岳（356m）・館山（329m）などの低山が概ね標高300m前後、丘陵地は標高150～300mの中小起伏山地帯が広がっている。また地質は花崗岩類・蛇紋岩・安山岩で構成される古生層と砂層・頁岩で構成される鮮新生層を基盤とする山地や丘陵地が入り組んで発達している。対して北上川西側は、急峻で起伏の大きな奥羽山脈が分布し、その東側の断層崖下には奥羽山脈から発した急勾配の河川が北上川へ合流する。ゆえに砂礫の堆積は著しく、扇状地性台地が発達している。

表層地質においても地形同様に北上川河谷平野を境として東西で対照的な様相を呈している。北上山地側では第三紀の安山岩質岩石が大部分を占め、奥羽山脈側では沖積世の砂礫層を挟むように第四紀のロームが広がっている。遺跡のある北上川河谷平野は未固結堆積物である沖積世の砂礫層で構成されている。

参考文献

- 岩手県企画開発室（北上山系開発） 1976 『北上山系開発地域 土地分類基本調査 花巻』
 岩手県企画開発室（北上山系開発） 1976 『北上山系開発地域 土地分類基本調査 北上』

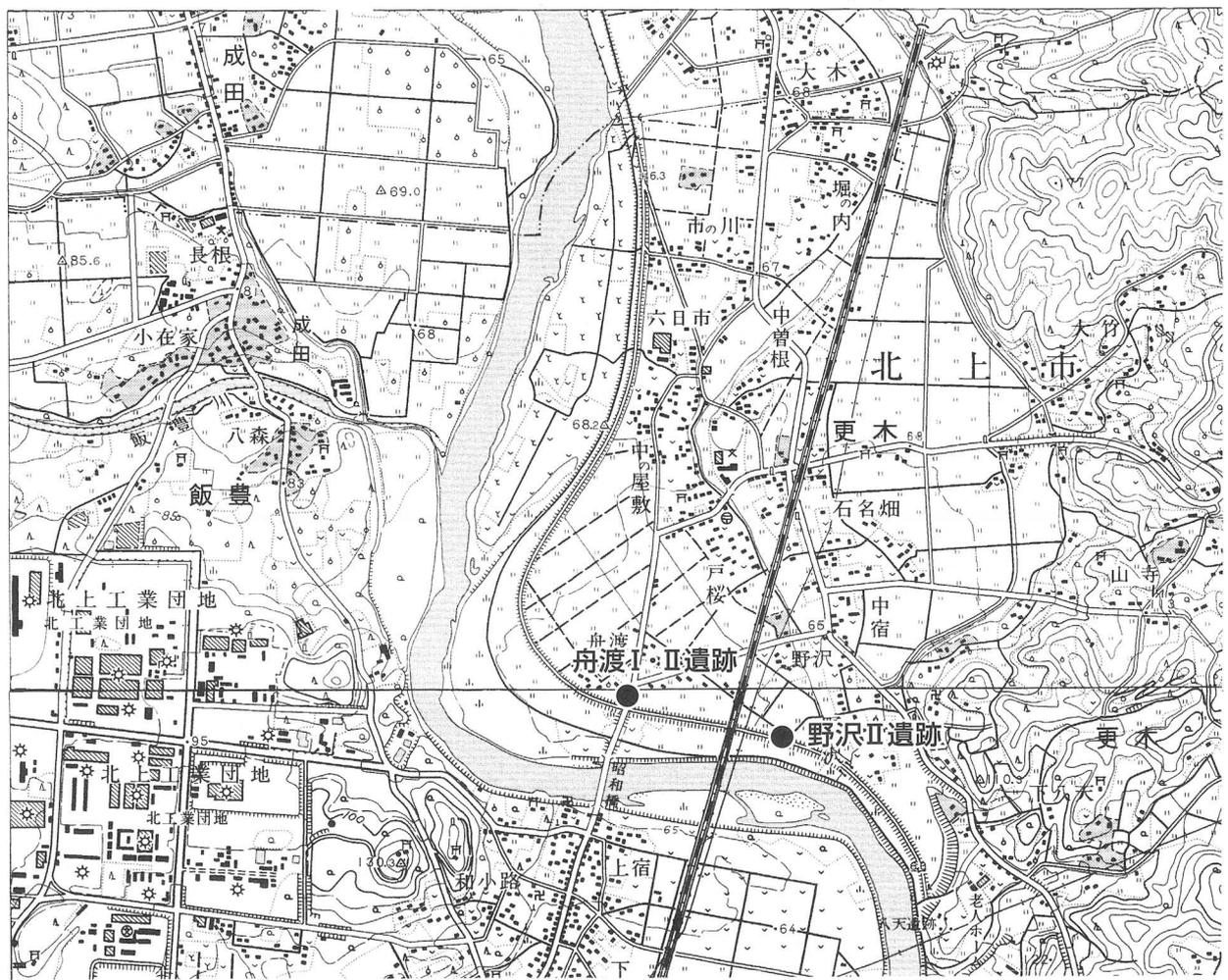
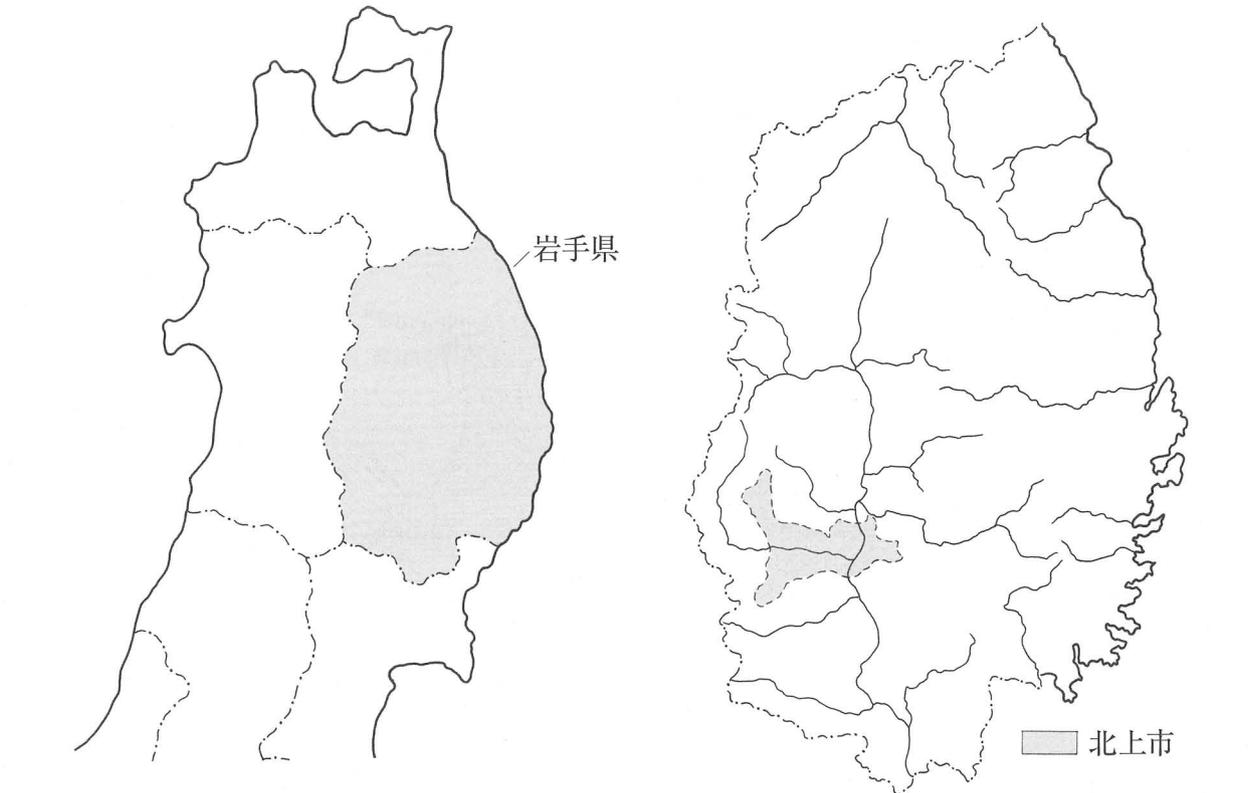
3 遺跡周辺の歴史的環境

(1) 北上市の遺跡

平成21年3月現在、岩手県教育委員会が作成した『岩手県遺跡情報検索システム（花巻・北上地方振興局管内）』によれば、北上市内では508箇所の遺跡が登録されている。全体の31%にあたる158遺跡は複数の時代にまたがる複合遺跡である。時代別にみると旧石器時代13遺跡、縄文時代279遺跡、弥生時代26遺跡、古墳時代6遺跡、奈良・平安時代257遺跡、中世96遺跡、近世21遺跡で、縄文時代と奈良・平安時代の遺構・遺物が見つかった遺跡は周知されている遺跡全体の半数をそれぞれ超えている。遺跡のある北上川の沖積平野上には主に古代の集落遺跡が多く、東側の北上山地縁辺部にあたる丘陵地上には縄文時代の遺跡や中世城館があり、全体としては、沖積平野に占地する縄文時代の遺跡は段丘あるいは山地に位置する遺跡に比べて少ない傾向にあり、沖積平野上にある遺跡では縄文時代の遺物は散布した状態で出土することが多い傾向がある。

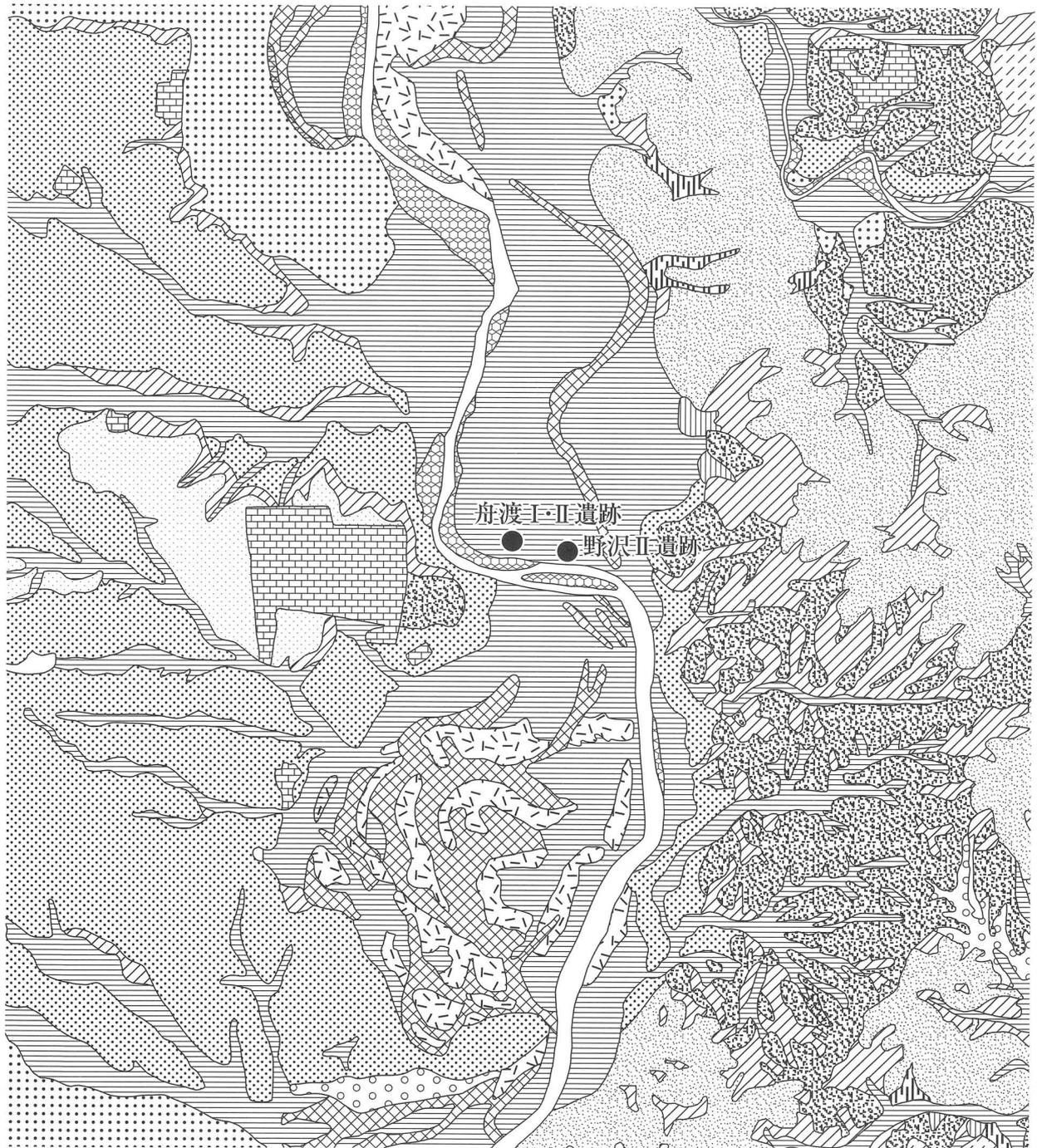
(2) 周辺の遺跡

更木地区とその周辺には、縄文時代から近世にかけての遺跡が多く分布している。特に平安時代の集落跡や中世城館跡が多く見受けられるが、そのなかには縄文時代・弥生時代などを含む複合遺跡もあり、古来より人々が生活の場として利用し続けていたことがわかる。周辺の遺跡（第4図）には北



1:25,000 土沢 口内

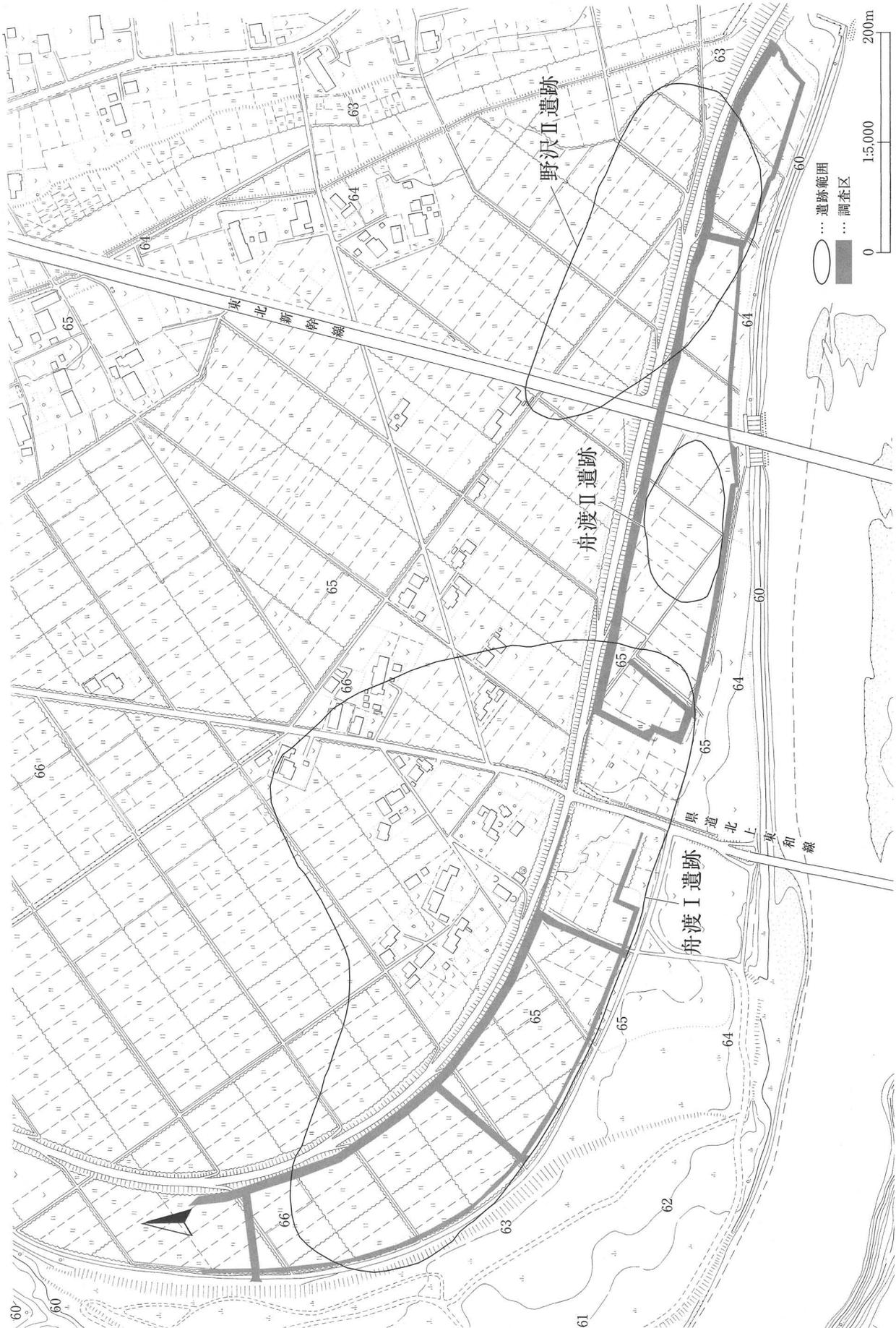
第1図 遺跡位置図



0 1:50,000 2km

- | | | | | | |
|---|------------------------|---|------------|---|------------------------|
|  | 小起伏山地
(起伏量 200m 未満) |  | 山麓地及び他の緩斜面 |  | 丘陵地Ⅰ
(起伏量 200~100m) |
|  | 丘陵地Ⅱ
(起伏量 100m 未満) |  | 砂礫段丘Ⅰ |  | 砂礫段丘Ⅱ |
|  | 砂礫段丘Ⅲ |  | 沖積段丘 |  | 扇状地 |
|  | 崖錐性扇状地 |  | 谷底平野及び氾濫平野 |  | 自然堤防 |
|  | 旧河道 |  | 河原 |  | 人工改变地 |

第2図 地形分類図



第3図 周辺地形と調査範囲

上市の遺跡と併せて今回の事業に関連して調査が行われた花巻市の遺跡も含めた76遺跡を掲載した。

ここでは、調査を行った更木地区とその周辺の遺跡を中心に時代ごとに概観していきたい。

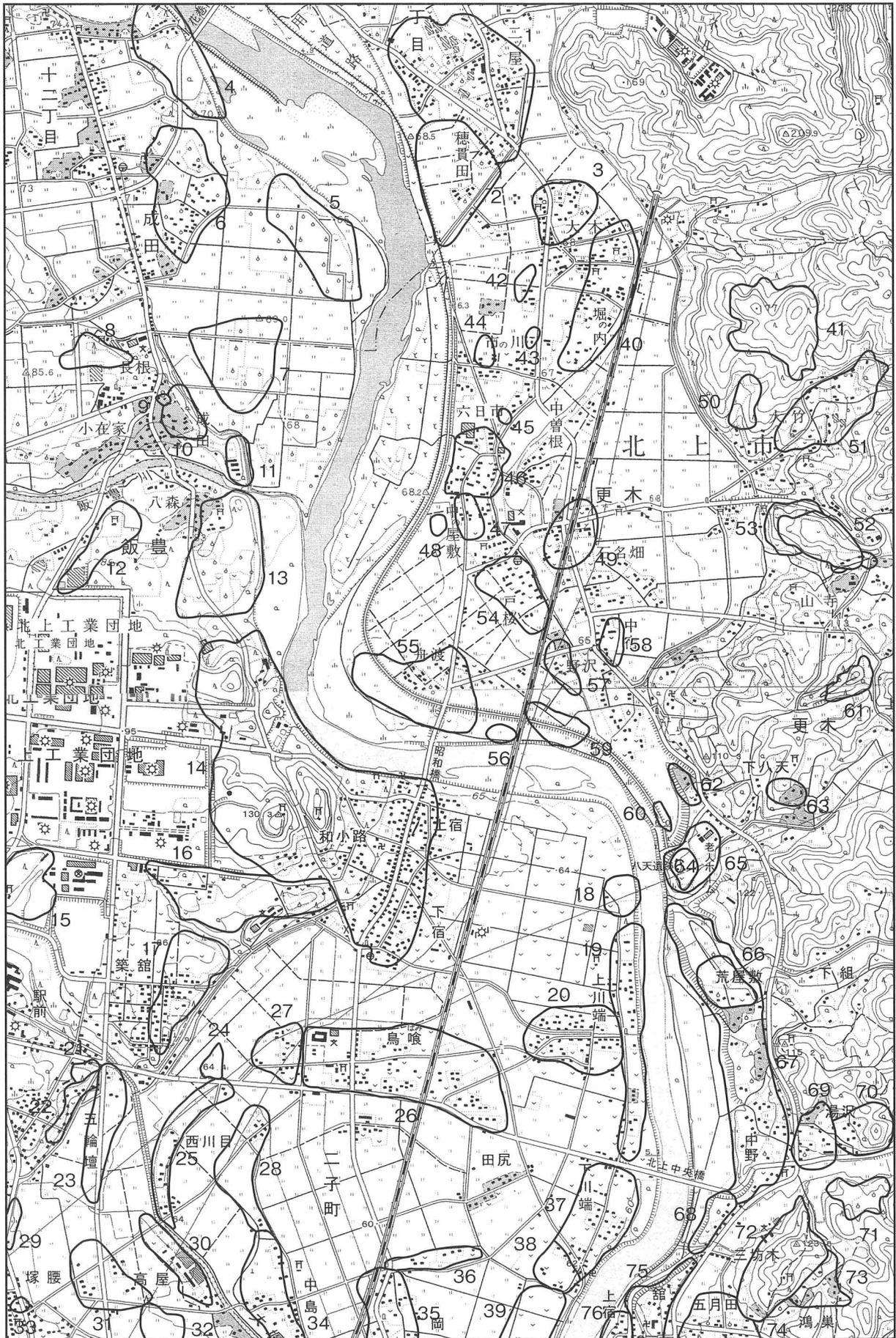
縄文時代の遺跡では国指定史跡になっている八天遺跡が代表的な遺跡である。八天遺跡は北上川中流域左岸の段丘上に形成された縄文時代中期後半から後期にかけての集落跡であり、巨大な円形の大形住居跡や500基を超える土坑群が見つまっている。特に円形大形住居跡は、円形住居としては縄文時代最大級の例である。土坑からは仮面に用いられたと思われる土製の耳・鼻・口といった土製品、大量の焼人骨が発見されている。更木地区周辺には、他にも童子洞遺跡、神行田遺跡、根岸遺跡など多くの縄文時代の遺跡が見つまっている。

弥生時代の遺跡では戸桜遺跡、六日市遺跡、黒岩宿遺跡などが遺物散布地として知られている程度であるが、今回調査を行った野沢Ⅱ遺跡、舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡でも弥生時代前期を中心とする遺物が少量ながら見つかった。また野沢Ⅱ遺跡では竪穴住居跡が1棟見つまっていることから、北上川流域の微高地に集落が点在していた可能性が考えられる。

古墳～奈良時代までは目立った遺跡はないが、律令国家の支配下に置かれる9世紀以降になると再び北上川流域を中心として多くの集落が営まれるようになる。平安時代の集落跡は9世紀から10世紀にかけてのものが多く、今回の事業に関連して調査が行われた遺跡では平成19年度に調査が行われた山口遺跡、小川屋敷遺跡、六日市遺跡、平成20・21年に調査を行った野沢Ⅱ遺跡、舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡で竪穴住居跡等が見つまっている。他にも今回調査が行われた更木地区の沖積地には未調査ではあるが、中の屋敷Ⅰ・Ⅱ遺跡、石名畑遺跡、大森遺跡などがある。また、11世紀には国見山廃寺を中核として寺院が建てられるが、更木地区周辺の古代寺院跡としては大竹廃寺跡と白山廃寺跡がある。大竹廃寺跡は更木地区大竹の標高180mの山頂付近に所在し、桁行5間、梁間4間の巨大な堂宇の跡が検出された。金堂跡と推定されているその堂宇からは、土師器や須恵器、須恵系土器などの遺物の他に鉄鐘も出土している。白山廃寺跡は、白山権現の十一面観音像を鎮守とした寺院である。移動されている礎石もあるが、桁行き約11間、梁行き約5間、礎石が径4尺という瓦葺きの経蔵をもった11世紀頃の寺院であることがわかっている。

中世になると更木地区には和賀郡を治めていた中世領主である和賀氏の本城であったとされる更木館があったが、開田工事によってその形状が失われているため詳細は不明である。和賀氏は黒岩城から更木館に移り、最後に二子の地に城を構えたといわれている。それが、和賀氏の最後にして最大の城館であった二子城跡（飛勢城跡）である。平成19年に調査が行われ、北上川右岸の成田地区で調査した成田岩田館遺跡のある地域も、二子城跡の搦手としての機能を果たしていたとされ、古くから馬場野という地名も残っている。また、和賀氏の家臣であった成田藤内の居館があったと伝えられており、建物跡も検出されている。二子城跡は、天正18年（1590年）の奥州仕置によって、和賀氏が追放されるまで本城としての役割を果たしていた。周辺には家臣屋敷や寺社、城下町も存在し、政治的・経済的にも重要な役割を担っていたと考えられている。県内最大の中世墓である五輪壇遺跡は、和賀領主の墓である可能性が高いとされている。土壇の上には五輪塔が建てられ、その土壇の中に何体もの火葬骨がおさめられている。そして、その土壇を囲むように二重の堀が巡るという大規模な墓である。中世の墳墓には、他にも上川端塚群、四十九里Ⅲ遺跡などがある。上川端塚群は、方形や円形の塚が8基以上現存しており、土葬墓で中世末～近世前半のものと推定されている。

近世においては、調査例が少なく、調査されていても遺跡内に散在する程度で詳細は不明な場合が多い。今回、調査を実施した野沢Ⅱ遺跡・舟渡Ⅰ遺跡・舟渡Ⅱ遺跡からは、近世の掘立柱建物跡や建物を構成していたと思われる柱穴や近世陶磁器がみつかり、近世以降も生活の場として利用さ



第4図 周辺の遺跡分布図

第1表 周辺の遺跡一覧

No	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物など
1	穂貫田	散布地・集落跡	縄文・古代	縄文土器、土師器、須恵器等
2	駒板	散布地・集落跡	縄文・古代	縄文土器、石器、陶磁器
3	大木	集落跡	縄文・古代	縄文土器、石器、土師器
4	沖Ⅱ	集落跡	古代	竪穴住居跡・土師器・鍋
5	成田Ⅰ	散布地	古代	土師器・須恵器
6	成田Ⅱ	散布地	古代	土師器・須恵器
7	成田Ⅲ	散布地	平安	土師器
8	小学校西	集落跡	平安	土師器・須恵器・方頭太刀残欠
9	成田一里塚	一里塚	近世	一里塚2基
10	下成田	散布地	平安	縄文土器・須恵器
11	成田館	城館跡	中世	-
12	成田	散布地	古代・縄文	縄文土器・土師器・須恵器・土坑
13	成田岩田堂館	散布地・城館跡	縄文・古代・中世	縄文土器・石器
14	二子城跡	城館跡・散布地	中世・縄文	堀・帯郭・縄文土器・陶磁器
15	伊勢	散布地	近世	-
16	秋子沢	集落跡	平安	竪穴住居跡・土師器・須恵器
17	築館	散布地	平安	土師器・竪穴住居跡
18	上川端塚群	墳墓	中世	墳丘
19	上川端Ⅰ	散布地	平安	土師器・須恵器
20	上川端Ⅱ	散布地	古代	土師器
21	五輪壇	墳墓	中世	土壇・周溝
22	南田Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器
23	南田Ⅰ	集落跡	縄文・平安	縄文土器・土師器・須恵器・竪穴住居跡
24	堰向Ⅰ	散布地	縄文・古代	土師器・須恵器・石匙
25	堰向Ⅱ	集落跡	古代	土師器・須恵器
26	鳥喰Ⅰ	集落跡	古代	土師器・須恵器
27	鳥喰Ⅱ	散布地	古代	土師器
28	西川目	集落跡	古代	土師器・須恵器
29	明神Ⅰ	散布地	古代	土師器
30	明神Ⅱ	散布地	古代	土師器
31	高屋Ⅰ	散布地	古代	須恵器
32	高屋Ⅱ	散布地	古代	須恵器
33	二子一里塚	一里塚	近世	一里塚2基
34	中島	散布地	古代	土師器
35	岡島	散布地	古代	土師器・須恵器
36	相野野	散布地	古代	土師器
37	下川端	集落跡	平安	土師器・須恵器
38	尻引	集落跡	平安	土師器・須恵器
39	中村	集落跡	平安	縄文土器・土師器・須恵器
40	大木堀の内	散布地	平安	土師器

No	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物など
41	大竹廃寺跡	寺院跡	平安	土師器・須恵器・鉄鐘
42	山口	散布地	平安	土師器
43	小川屋敷	散布地	平安	土師器・須恵器
44	市の川Ⅰ	散布地	平安	土師器・須恵器
45	市の川Ⅱ	散布地	平安・近世	土師器・陶磁器
46	六日市	散布地	平安・近世・弥生	土師器・陶磁器・弥生土器
47	中の屋敷Ⅰ	散布地	平安	土師器
48	中の屋敷Ⅱ	散布地	平安	土師器
49	石名畑	散布地	平安	須恵器
50	大森	散布地	平安	土師器・須恵器
51	童子洞	散布地	縄文	縄文土器（後期）、石器
52	館山	散布地	縄文	縄文土器、石器
53	更木館	城館跡	中世	腰郭・堀切
54	戸桜	散布地	平安・近世・弥生・縄文	土師器・陶磁器・弥生土器・縄文土器
55	舟渡Ⅰ	散布地	縄文・平安	土師器・石器
56	舟渡Ⅱ	散布地	近世	陶磁器（美濃産）・屋敷跡、墓があったとされる
57	野沢Ⅰ	散布地	縄文・平安	縄文土器（後期）・土師器・須恵器
58	中宿	散布地	縄文	縄文土器・石皿・石斧
59	野沢Ⅱ	散布地	平安	土師器
60	八天北	散布地	平安	土師器
61	梅ヶ沢館	城館跡	中世	-
62	羽久保館	城館跡	中世	-
63	天王館	城館跡	中世	空堀・主郭・腰郭
64	下欠野館	城館跡	中世	主郭・堀
65	八天	集落跡	縄文	縄文土器・石器・竪穴住居跡・土製品
66	平沢堀ノ内	城館跡	中世	堀
67	三坊木	散布地	平安・縄文	縄文土器・土師器・須恵器
68	三坊木館	城館跡・散布地	中世・縄文	縄文土器・土師器・須恵器
69	湯沢Ⅰ	散布地	古代	土師器・須恵器
70	湯沢館	散布地・城館跡	縄文・中世	縄文土器（中期）
71	神行田	散布地	縄文	縄文土器（中期・晩期）・石器
72	鴻巣Ⅰ	散布地	縄文・平安	縄文土器・かわらけ
73	鴻巣Ⅱ	散布地	古代	土師器・須恵器
74	白山廃寺跡	寺院跡	平安	布目瓦・かわらけ・礎石建物跡
75	黒岩城跡	散布地・城館跡	縄文・中世・平安	縄文土器（中期）・かわらけ・陶磁器・堀・主郭・外郭
76	黒岩宿	集落跡	縄文・弥生・平安	縄文土器・弥生土器・かわらけ・常滑

れていたことがわかった。

参考文献

北上市 1968『北上市史』第1巻 原始・古代（1）

（財）岩手県埋蔵文化財センター 2008『市の川遺跡・市の川Ⅱ遺跡・山口遺跡・小川屋敷遺跡・六日市遺跡・八天北遺跡』

岩手県埋蔵文化財調査報告書第543集

Ⅲ 調査の経過と方法

1 野外調査の経緯

野沢Ⅱ遺跡

- 4月10日 調査開始。現場設営・環境整備。
- 4月27日 基準点設置。
- 6月16日 航空写真撮影実施。
- 7月3日 調査終了確認。
- 8月5日 調査終了。

舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡

- 5月11日～15日 重機による表土除去を開始した。
- 6月22日～30日 重機による表土除去作業を再開した。
- 7月17日 人力による遺構検出作業を開始した。
- 9月25日 調査区東側の航空写真撮影実施。
- 9月29日 調査区東側の部分終了確認。
〃 現地公開を実施。
- 10月2日 調査区東側の調査終了。
- 11月6日 調査区西側の部分終了確認。
- 11月10日 航空写真撮影実施。
- 11月13日 調査終了。現場撤収。

(*終了確認はいずれも委託者・岩手県教育委員会・埋文センターの3者による)

2 野外調査の方法

(1) グリッドの設定

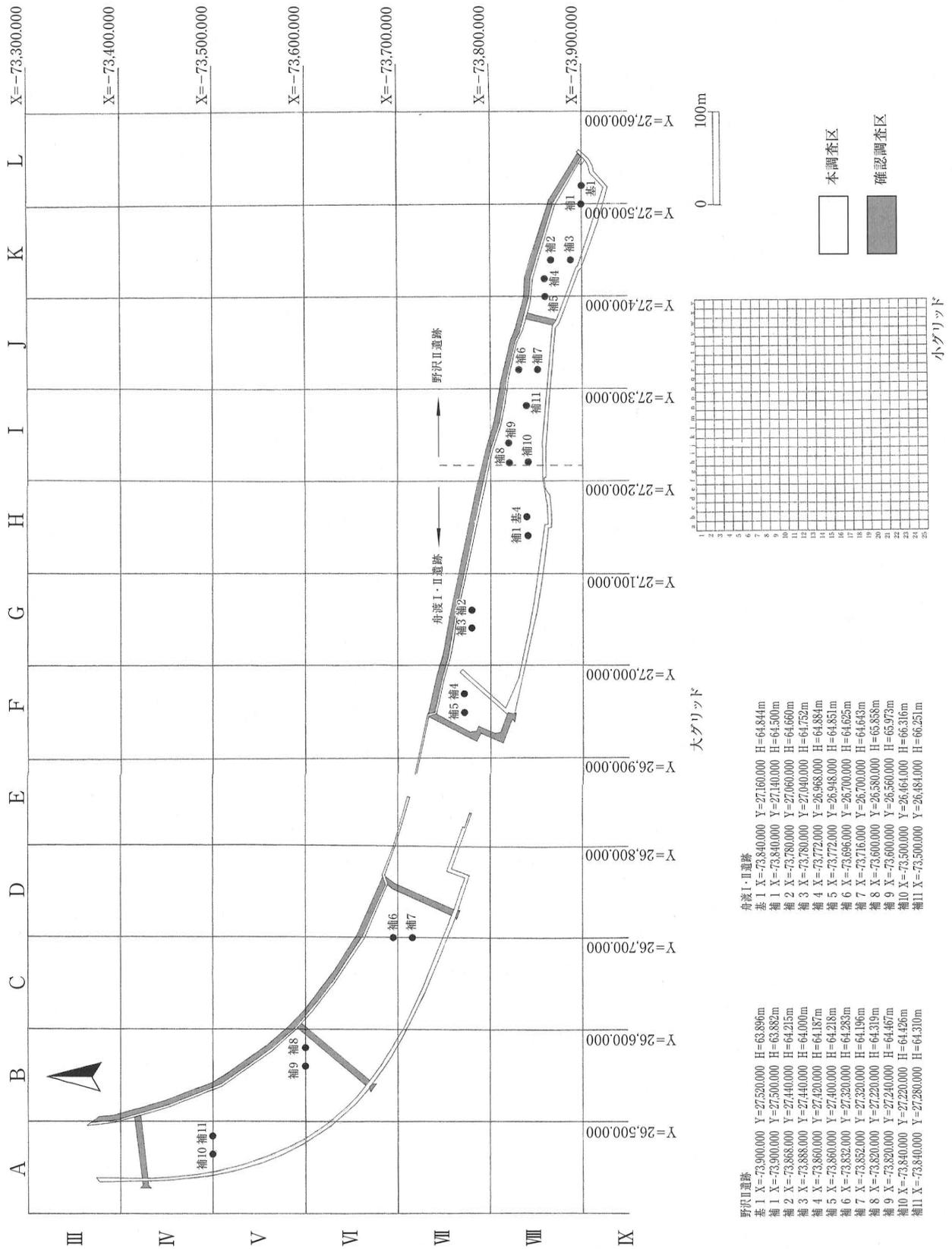
平面直角座標第X系の $X = -73,100.000$ 、 $Y = 26,400.000$ を原点として $100 \times 100\text{m}$ の大グリッドを設定し、これを25等分し、 $4 \times 4\text{m}$ の小グリッドとしている。調査原点は昨年度調査を行った野沢Ⅰ・野沢Ⅱ・舟渡Ⅰ・戸桜遺跡の原点より西に 100m の位置となっている。大グリッドの呼称は原点を起点に南方向へⅠ～Ⅸ、東方向へA～L、小グリッドの呼称は南方向へ1～25、東方向へa～yとしている。小グリッドの呼称はIA1aとなる。

(2) 基準点の設定

遺構の実測に利用するため調査区内に基準点および補助点を株式会社キタテックに委託して打設した。座標値はいずれも世界測地系によるもので、各遺跡の基準点および補助点の成果値と杭高は第5図に示したとおりである。

(3) 表土除去と遺構の検出

各遺跡の調査に先立って、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課による事前の試掘調査が実施されている。この試掘により調査対象区内の水田・畑・未舗装道路などに盛土・耕作土が厚く堆積し、



第5図 グリッド配置図

その下に古代の遺構・遺物が包蔵されている層が確認されたため、表土除去は重機で行い、その後人力による遺構検出を行った。また、古代の遺構・遺物がない箇所についてはさらに重機で下層まで掘り下げ、縄文時代の遺構・遺物の有無を確認した。

(4) 遺構の精査と実測

調査で検出された遺構は以下の手順で調査を進めた。

本調査区

竪穴住居跡・焼成遺構は4分法で土坑・焼土遺構は2分法で行い、埋土の堆積状況の確認を行いながら掘り下げた。柱穴状土坑については検出時に柱痕を確認し、光波トランシット使用による平面図に作成後、セクションベルトを設け、断面確認→完掘の順で作業を行った。

確認調査区

原則検出時の写真撮影および平面図作成後、最小限の断面確認を行ったが、柱穴状土坑については検出のみの調査である。

(5) 遺物の取り上げ方

遺物の取り上げは遺構内と遺構外に大別し、遺構内出土遺物については遺構名と相対的層位（検出面・上位・中位・下位・底面）を記し、遺構外出土遺物についてはグリッドおよび出土層位を記して取り上げたが、この際、グリッドを跨いで取り上げたものについてはグリッド名を複数記した。また、取り上げに際しては事前に必要に応じて平面図の作成および写真撮影を行っている。

(6) 写真撮影

調査記録用にデジタル一眼レフカメラ（Canon EOS50D）1台、モノクローム6×7cm判カメラ1台を使用した。撮影にあたって、整理時の混乱を防ぐため撮影内容を記入した撮影カードを対象遺構撮影前に撮影している。その他、調査期間中にセスナ機による航空写真撮影を3回実施した。

3 室内整理の手順と方法

(1) 作業経過

各遺跡の室内整理期間は前述の例言のとおりで、整理作業は出土遺物の洗浄と遺物の仕分けは野外調査と平行して現地および室内で行った。また、土器の接合・復元作業・実測図作成・拓影作成などの作業は室内で行った。整理担当者はこれらの作業の確認・点検と平行して、図面合成・原稿執筆・各種観察表の作成等の作業を実施した。

(2) 遺物

現場で洗浄した遺物の注記作業から開始し、続いて接合・復元を行った。その過程で本書に掲載するものを抽出し、それらの実測図を作成、トレースした。抽出にあたっては遺構内のものについては小破片でもなるべく掲載するようにした。遺構外のものについては出土地点・層位などを考慮して選別した。実測と平行して、これらを撮影し、合わせて登録作業を行った。

(3) 遺構

実測図を点検・合成しながら遺構の検討を行った。その後、第2原図を作成し、そのトレースを行った。また、野外調査で撮影した遺構の写真も整理し、台帳登録をしている。その後、掲載するものを抽出し、トリミングなどを行った後に写真図版とした。

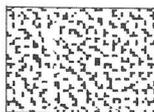
(4) 掲 載 図

掲載している遺構の縮尺は平面図・断面図ともに竪穴住居跡・掘立柱建物跡は1/50、住居内カマドの断面図は1/25、土坑・焼土・井戸跡は平面図・断面図ともに1/40、柱穴状土坑の平面図は1/100、溝跡は平面図は1/50・1/100、断面図は1/50とした。また、遺物掲載は土器・礫石器は1/3、剥片石器・土製品・石製品・金属遺物は1/2を基本とした。ただし、一部異なるものもあるため、各図にスケールおよび縮尺を付した。写真図版については縮尺不定である。また、図中において竪穴住居内の土坑・柱穴、掘立柱建物跡・柱穴列を含む柱穴状土坑は「PP」、土器は「P」、石器・礫は「S」、遺構内出土の掲載遺物は（ ）内に掲載番号を表記した。スクリーントーンの使用は凡例図（第6図）のとおりであるが、これ以外の使用については使用箇所にて用例を表記した。各遺構の計測値表記については土坑類は長軸×短軸、竪穴住居跡は同時期に使用されているカマドの主軸（煙道部）方向に平行する面×主軸と直交する垂線を有する面である。

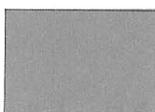
〔遺構〕



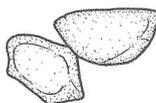
焼土



炭化物・材

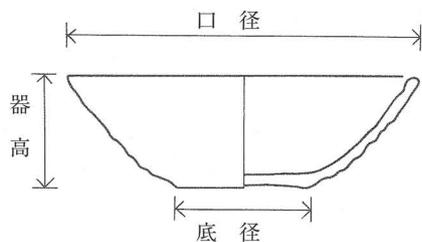


柱痕



礫

〔遺物〕



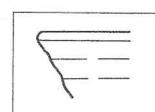
土器



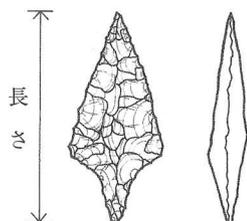
須恵器



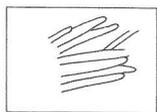
黒色処理



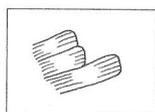
回転ナデ



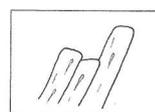
石器



ミガキ



ヘラナデ



ヘラケズリ

第6図 凡例図

IV 野沢Ⅱ遺跡

1 遺跡の立地

北上川によって形成された自然堤防上に立地する。遺跡の標高は64m前後で、調査前の現況は水田・畑等である。

2 基本土層

ⅧJ21uグリッドの南側壁面を基本土層とした。調査区内においては全体に地形の起伏により、後世の整地造成の影響で、遺構検出面であるⅢ層が削平され、なくなっている場所もあるが、元来の層序は北上川の洪水による影響を受けた堆積層で以下の順である。Ⅰ層は耕作土でⅡ層は黒褐色シルトが堆積するが、時期は不明である。Ⅲ層は暗褐色シルトで2層に分層され、上層(Ⅲa)が古代以降の堆積層、下層(Ⅲb)が主に弥生時代の遺物を含む堆積層である。Ⅳ層以下からは遺構・遺物は見つかっていない。

Ⅰ層：3層に分層される。いずれも灰黄褐色シルトで耕作土である。層厚は30cm前後である。

Ⅱ層：10YR3/2 黒褐色シルト 粘性あり しまりあり炭化物1%未満含む。層厚0～12cm。

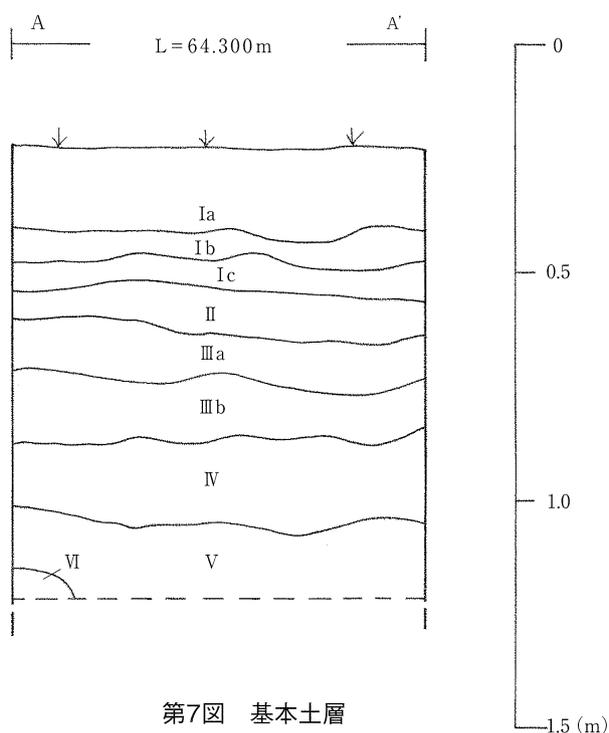
Ⅲa層：10YR3/3 暗褐色シルト 粘性あり しまりあり 明褐色焼土粒(7.5YR5/6 径3mm)を1%未満含む。古代面。

Ⅲb層：10YR3/4 暗褐色シルト 粘性ややあり しまりあり 縄文・弥生土器出土。

Ⅳ層：10YR4/4 褐色粘土質シルト 粘性あり しまりあり 層厚8～14cm。

Ⅴ層：10YR3/2 黒褐色シルト 粘性ややあり しまりあり 層厚12～24cm。

Ⅵ層：10YR4/3 にぶい黄褐色シルト やや砂質 粘性ややあり しまりあり



第7図 基本土層

3 調査の概要

本遺跡の調査は昨年にも実施されているが、今回の調査はその南側に隣接した箇所である。全体面積は4,500㎡のうち本調査区が2,210㎡、確認調査区が2,290㎡で確認調査区では遺構検出後に半裁のみを

行った。

4 検出した遺構

検出した遺構は竪穴住居跡5棟（弥生1棟、古代4棟のうち平安3棟・詳細不明1棟）、土坑3基（弥生1基、近世2基）、溝状遺構9条（平安1条、近世以降8条）、井戸跡1基（近世以降）、柱穴状土坑137個で、他に性格不明遺構が1基ある。

（1）竪穴住居跡

1号住居跡（第8・9図、写真図版4）

＜位置・検出・重複関係＞ VIII16u・16vグリッドに跨って位置する。検出はIV層であるが、III b層を掘り込んでいる。遺構の南側が調査区外へと延びている。

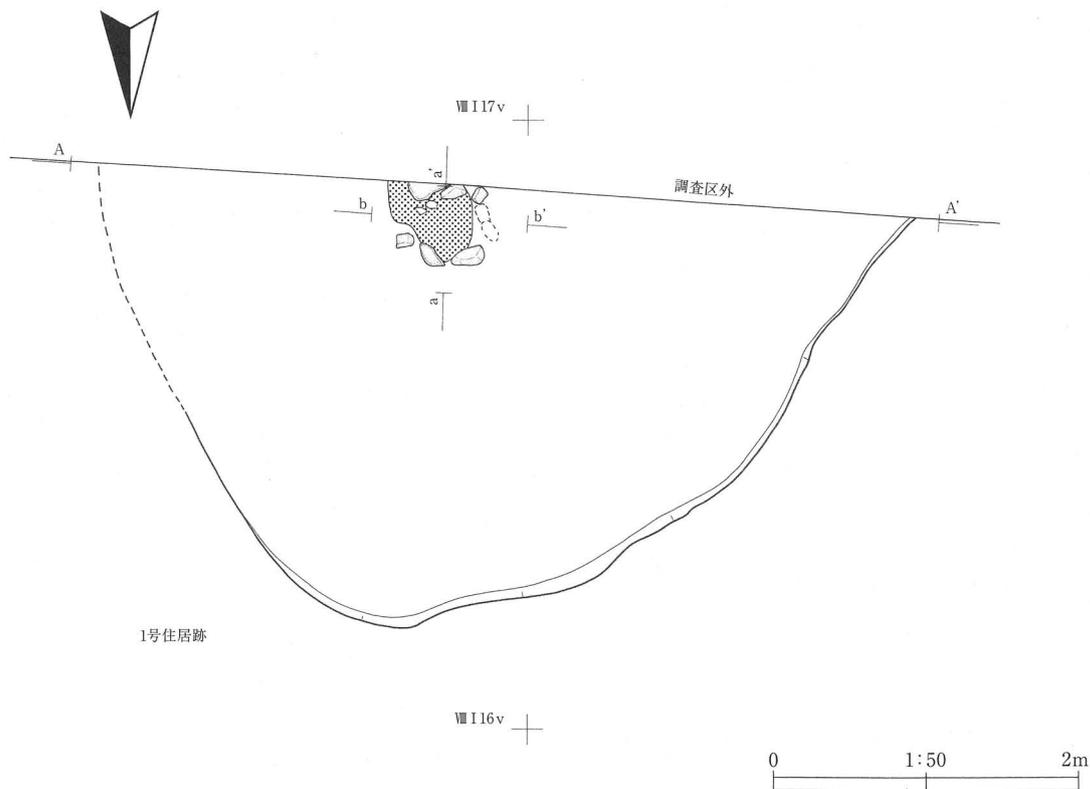
＜形状・規模＞ 遺構の南側が調査区外にあるため、形状・規模の詳細は不明であるが、調査した部分から形状は円形状であると推測される。

＜埋土＞ 埋土は自然堆積で上～中位は暗褐色シルト、下位は黒褐色シルトを主体とする。

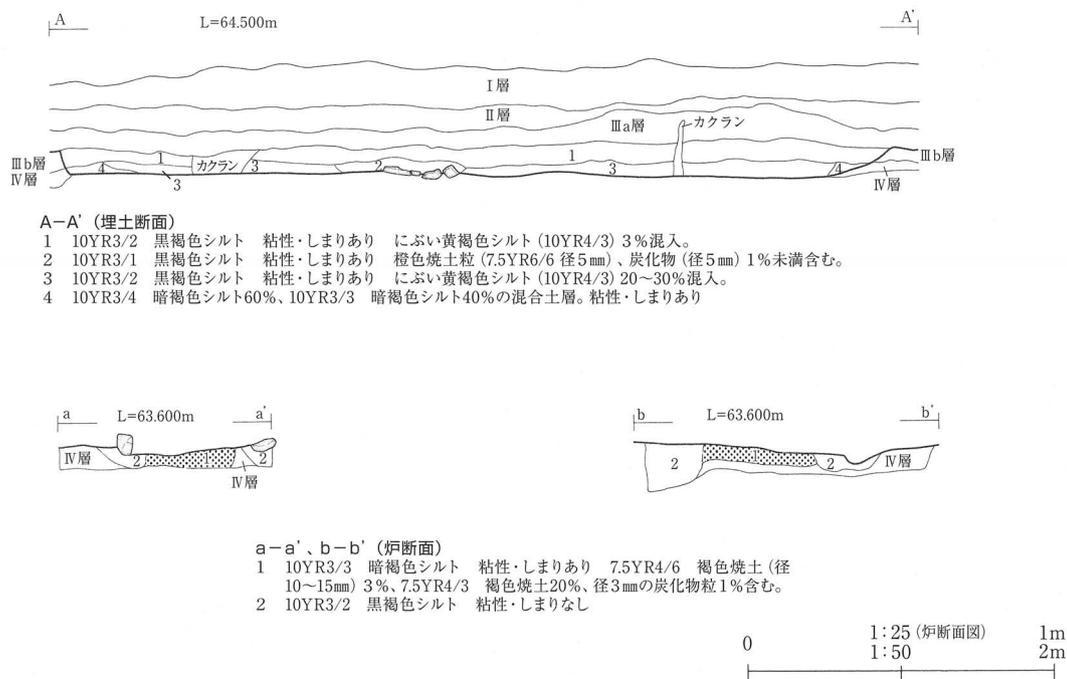
＜床面・壁面＞ 床面はほぼ平坦であるが、一部が攪乱を受けている。壁面は東壁・西壁ともに直立気味に立ち上がるが、西壁の方が緩く傾斜している。壁高は東壁16cm、西壁20cmである。

＜炉＞ 住居の中央部にあたる部分に構築されていると考えられ、大きさ6～22cmの自然礫を方形に配置した石囲炉である。構成礫を含む炉の規模は約60×56cmで囲みの内側に燃焼により褐色に変化した焼土粒や炭化物が散布している。

＜遺物＞ 遺構の認識が遅れたため、遺構内からの出土遺物は確認できなかったが、検出時に周辺か



第8図 1号住居跡(1)



第9図 1号住居跡(2)

らは弥生時代前期の土器片が出土している。

時期 遺構の検出状況から弥生時代前半に属する可能性が考えられる。

2号住居跡 (第10・32図、写真図版5・51)

<位置・検出・重複関係> VIII J21x・21y・22x・22yグリッドに跨って位置する。IV層で検出したが、遺構の延びる南側壁面の土層観察により、III b層を掘り込んでいることが確認された。遺構南半は調査区外へと延びている。

<形状・規模> 遺構の大半が調査区外のため、詳細な規模は不明であるが、調査した部分から形状は方形状と推定される。

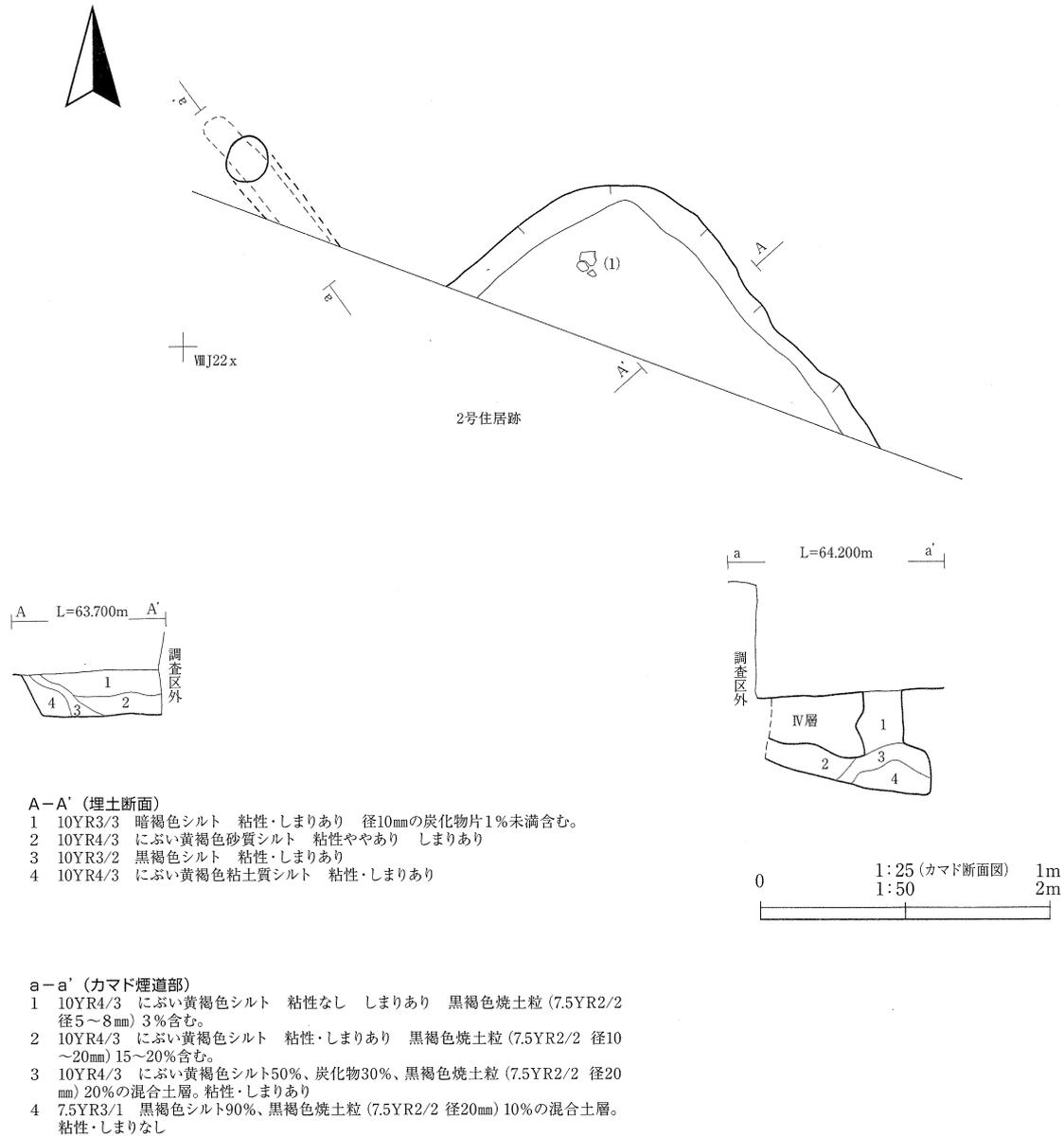
<埋土> 埋土の上~中位は暗褐色シルト、下位はにぶい黄褐色シルトを主体とし、壁面付近に黒褐色シルトが堆積する。

<カマド> 煙道~煙出部の一部のみ検出した。煙道部は削り貫き式の構造で調査した煙道部の規模は長さが約100cm、最大幅が約31cmで、住居北西壁面側からおおよそN-50°-Wの方向に延び、先端部に向かって約13度傾斜して下る。煙出部の開口部径は約31×30cmを測り、深さ44cmで煙道部上面にあたるが、煙道部はさらに20cm北西方向へと延びる。

<床面・壁面> 床面には黒褐色シルトと褐色シルトの混合土によって8~26cmの厚さで貼り床が施され、確認できた壁面は南東・北東壁で垂直~やや外傾気味に立ち上がる。壁残存値は南東壁が38cm、北東壁が32cmである。

<遺物> 1が北西壁付近の埋土中~下位付近で出土した。球胴甕の胴部下~底部の破片で、調整は外面はヘラケズリ、内面はハケメが施されている。

時期 調査した箇所が遺構全体の一部のため詳細時期は不明である。



第10図 2号住居跡

3号住居跡 (第11・12・32・33図、写真図版6~8・51・52)

<調査経過> 本遺構は確認調査区にあるため、検出のみの調査予定であったが、遺構確認面が表土直下であることや検出した際に遺物が土中に多く残った状態で出土したこともあり、精査を行うこととなった。精査の途中で住居の使用が新旧2時期あることが判明した。

古段階

<位置・検出・重複関係> ⅧK10e・10g・11e・11gグリッドに跨って位置し、表土下のIV層で検出した。重複している遺構はないが建て替えによる再構築の形跡が確認された。遺構の北側は調査区外へと延びる。

<形状・規模・主軸方向> 遺構北側が調査区外のため、全体は不明である。形状は方形状であると考えられるが東西側の壁面に対し、南壁面がやや歪んでいる。規模は遺構北側が調査区外のため調査

した部分のみであるが、東西3.54m、南北3.14mである。カマドに準じた主軸はS-78°-Eの方向である。

<埋土> 新住居の床面から旧住居床面（新住居貼床土）までは約8～14cmで、埋土は上～中位が暗褐色シルト、下位が黒褐色シルトを主体とする堆積である。

<床面・壁面> 床面はほぼ平坦で、4～14cmの厚さで貼り床が施されている。壁高は南壁28cm、西壁34cm、東壁34cmである。

<カマド> 東壁面の南側に構築されている。床面に明確な焼成痕は確認できないが、袖部を含めた約134×110cmの範囲に赤褐色焼土粒を含む炭化物の拡がりを確認した。カマドは袖部以外は崩壊した状態であったが、煙道部の構造は割り貫き式で長さは約130cm、最大幅が約30cmで、住居側から煙出部へ約12度傾斜して下る。煙出部は円形で規模は開口部が約36×32cm、深さは108cmである。

<土坑> 3基検出した。PP1・2は円形であるが、PP3は不整な形状を呈する。土坑内から出土した遺物はない。

<遺物> 2～10が出土した。2～9は土器で2・6はカマド煙道部、4はカマド内、3・5・7は住居床面、8・9は貼床土から主に出土した。すべて破損した状態である。2は土師器坏、3は須恵器坏でロクロ成形による。2の体部外面下端にはケズリ調整が施されている。4～7は土師器甕で器面調整は外面が口縁部はヨコナデ、胴部はヘラナデとヘラケズリ、内面には3・4・6・7がヘラナデ、5がハケメが施されている。また7の底部外面には木葉痕が確認できる。8は口縁部破片であるが器種は不明、9は須恵器甕の胴部破片である。10は磨石で床面から出土した。

時期 出土した遺物の特徴から9世紀後半～末葉頃と考えられる。

新段階

<位置・検出> VIIIK10e・10g・11e・11gグリッドに跨って位置し、表土下のIV層で検出した。旧住居を東側に拡張して構築されたものである。また、南壁の一部にも拡張したあとが認められる。

<形状・規模・主軸方向> 遺構の北側が調査区外のため、全体は不明であるが、形状は方形状であると考えられるが東西側の壁面に対し、南壁面がやや歪んでいる。規模は遺構の北側が調査区外へと延びるため調査部分のみであるが、東西4.30m、南北3.14mである。

<埋土> 埋土は暗褐色シルトをした堆積で、中位に黒褐色シルトが混入している。

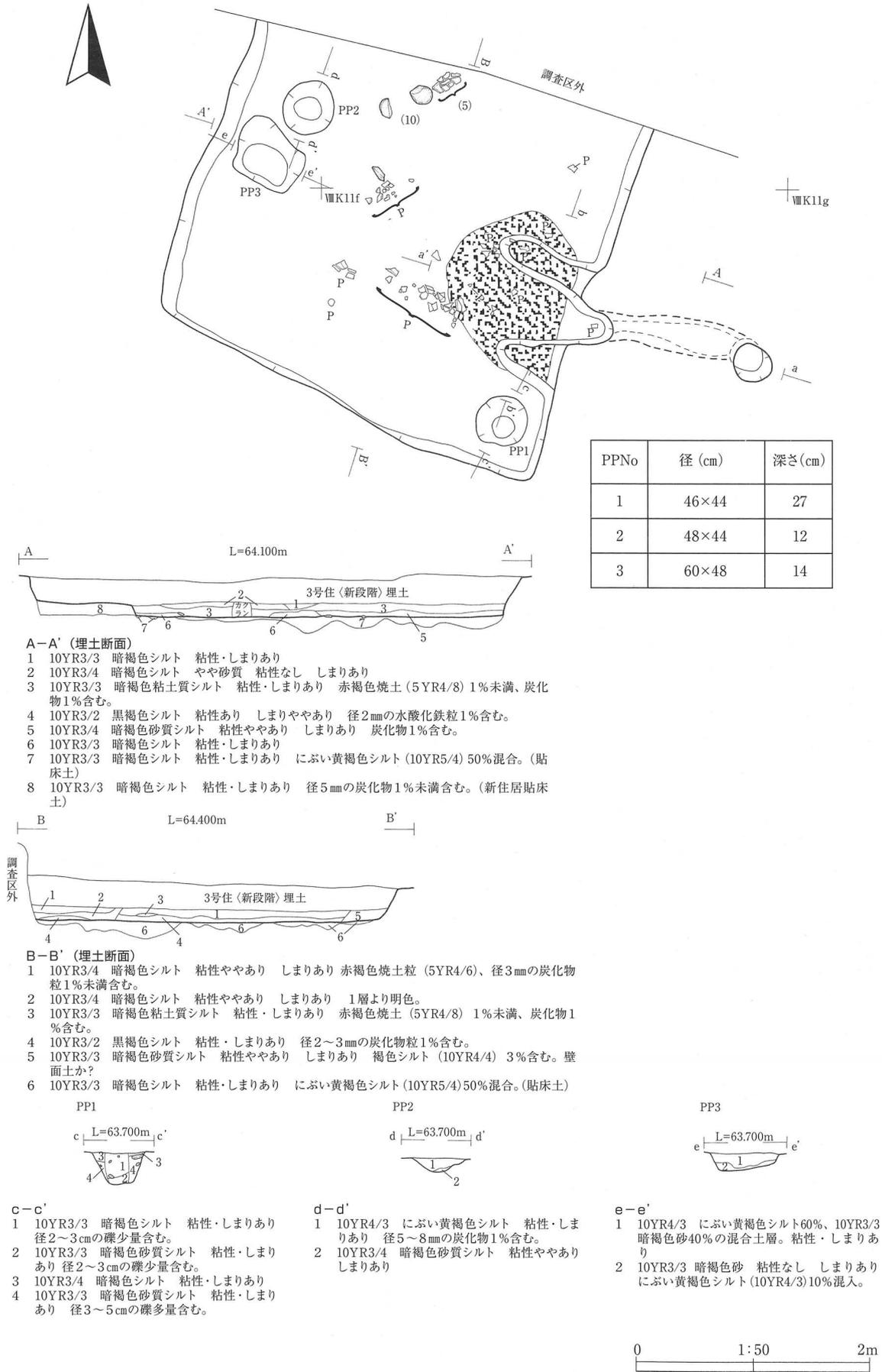
<床面・壁面> 床面はほぼ平坦で、暗褐色シルトを貼り床としている。壁高は南壁18cm、西壁22cm、東壁24cmで、いずれも外傾気味に立ち上がる。

<カマド> 調査した部分でカマドは見つかっていないが、遺物の出土状況から北側壁面に構築されていた可能性が高い。

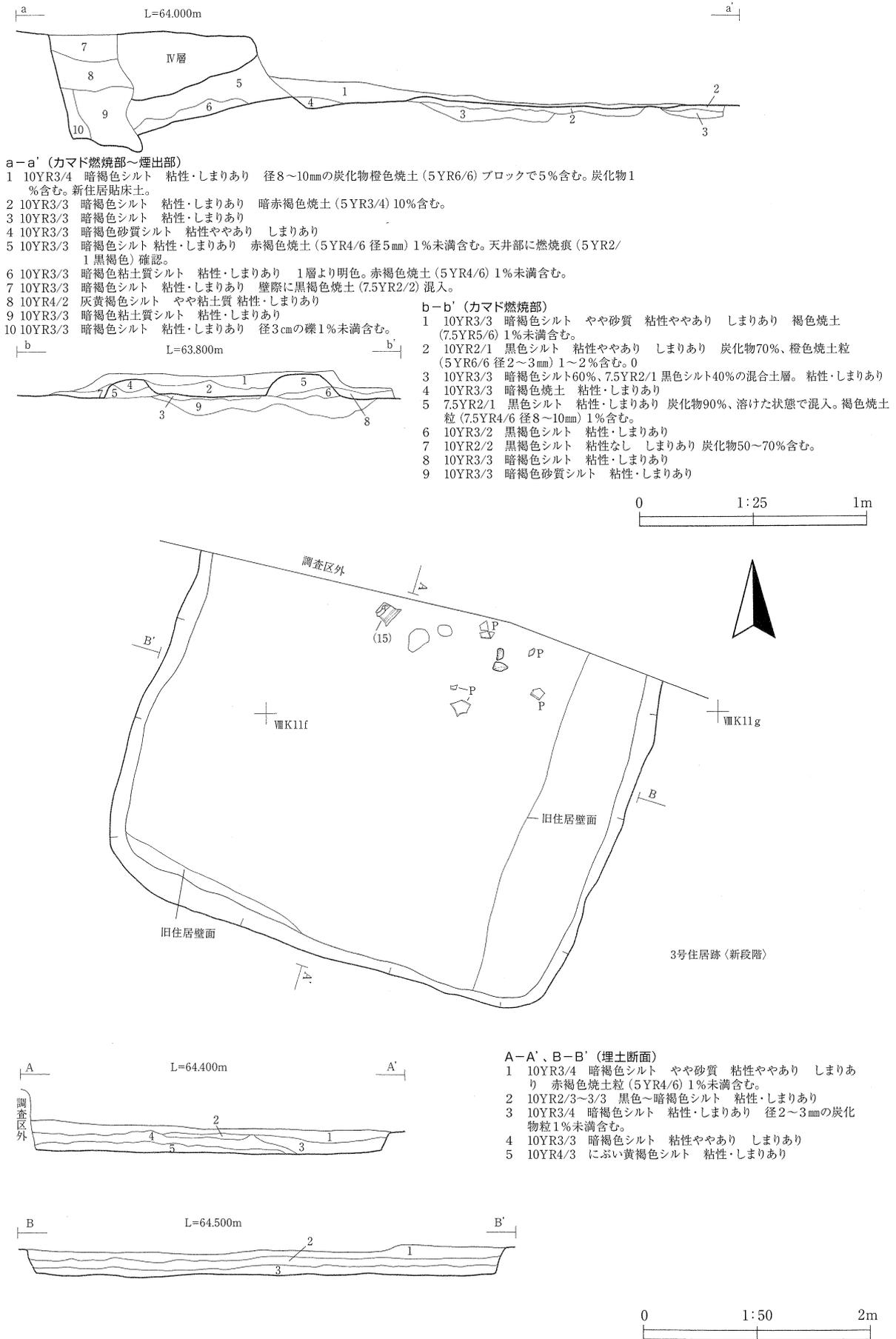
<遺物> 11～17が出土した。12・13・15が床面、他は埋土中からの出土である。また12・15はカマドと考えられる場所に近いところからの出土である。11～14は坏で11が土師器、12～14は須恵器である。いずれもロクロ成形によるもので11・12・14の底部外面には回転糸切り痕が認められる。また、14の底部外面には刻線が三叉状に施され、さらに接地面には赤色付着物が認められる。15・16は土師器甕で15はやや歪んだ器形をし、器面調整は口縁部内外がヨコナデ、胴部は外面がヘラナデ・ヘラケズリ、内面はヘラナデ、底部外面にはケズリが施されている。

時期 出土した遺物の特徴から9世紀後半～末葉頃と考えられる。

4 検出した遺構



第11図 3号住居跡(古段階)



第12図 3号住居跡(古段階・新段階)

4号住居跡（第13・14・33・34図、写真図版9・10・52・53）

＜位置・検出・重複関係＞ VIII16v・16wグリッドに跨って位置し、Ⅲb層で検出した。本遺構の南西壁面が1号住居跡と重複し、これを切っていた可能性があるが、1号住居のプランが炉を確認するまで気づかなかったこともあり、壁面の切り合いは明確ではない。

＜形状・規模・主軸方向＞ 遺構南側が調査区外のため、遺構全体の詳細は不明であるが、形状は方形状であると考えられる。規模は東西3.66m、南北3.20m（残存計測値）である。カマドに準じた主軸方向はS-76°-Eである。

＜埋土＞ 埋土は自然堆積で上位が暗褐色シルト、中～下位が灰黄褐色シルトを主体とし、壁際に明褐色焼土粒・炭化物粒を含む暗褐色シルト層が堆積している。

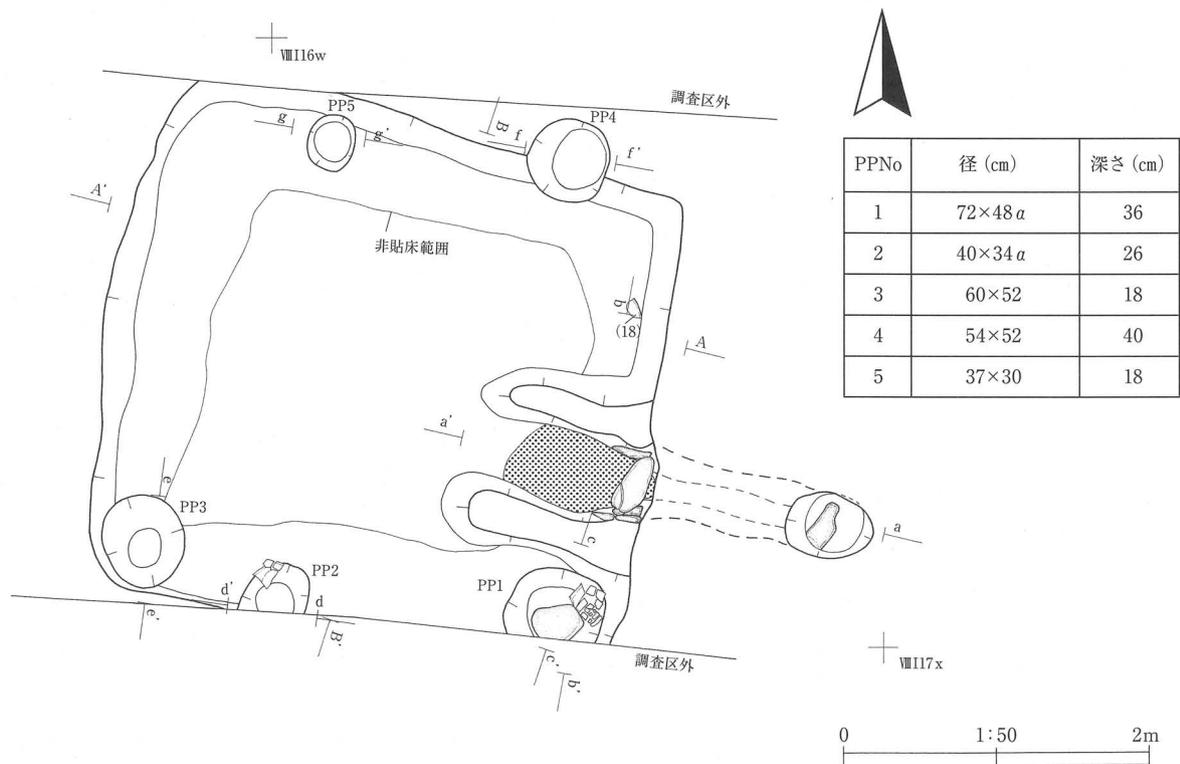
＜床面・壁面＞ 床面には緩い凹凸はあるがほぼ平坦で、中央部の貼り床が曖昧なのに対し、壁際は溝状の掘り込みになっており、深さ4～14cmで貼り床が施されている。壁はいずれも内湾気味に立ち上がり、壁高は北壁26cm、西壁30cm、東壁26cmである。

＜カマド＞ 遺構全体を確認していないが、東側壁面の中央～やや南寄りに構築されている。カマドの袖部・天井部には大きさ約18～28cmの細長い礫を用いて芯材とし、これに灰黄褐色・暗褐色のシルトを覆い貼り付けて構築されている。カマドの袖部内側の約98×54cmの範囲に赤褐色焼土の拡がり確認され、焼土の厚さは最大で5cmを測る。煙道部の構造はくり貫き式で、規模は長さが約80cm、最大幅が約20cm、高さが約10～14cm、焚き口側から煙出部に向かって、約4度傾斜して下る。煙出部はピット状を呈し、開口部の形状は楕円形で、規模は約56×42cm、深さは54cmである。底面に向かい北側にやや傾斜している。

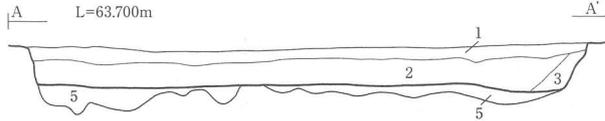
＜土坑類＞ 5基検出した。PP1・2の底面からは土器片が出土している。

＜遺物＞ 18～23が出土し、18は床面、19・20はカマド周辺、19・21～23はPP1の埋土からそれぞれ出土した。18はロクロ成形による土師器坏、19～23は土師器甕でいずれもロクロは使用されていない。

時期 出土した遺物の特徴から9世紀後半～末葉頃と考えられる。

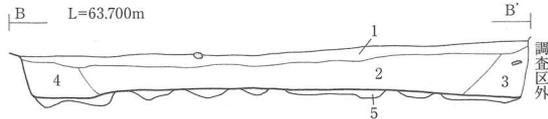


第13図 4号住居跡(1)



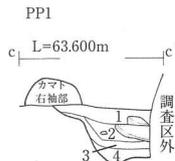
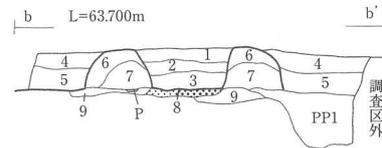
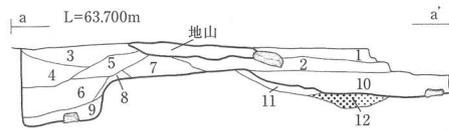
A-A'、B-B' (埋土断面)

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりあり 暗褐色シルト (10YR3/4) 20% 混合。明褐色焼土粒 (5YR5/6 径5~7mm) 1%未満含む。
- 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性・しまりあり
- 3 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりあり 明褐色焼土粒 (5YR5/6 径3~5mm) 1%含む。
- 4 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりあり 暗褐色シルト (10YR3/4 径2~3mm)、炭化物粒1%未満含む。
- 5 10YR4/2 灰黄褐色シルト70%、10YR4/3 にぶい黄褐色シルト30%の混合土層。粘性・しまりあり 貼床土。



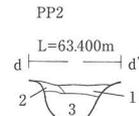
a-a' (カマド燃焼部~煙道部)

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりあり 黒褐色焼土粒 (10YR2/2 径10mm前後) 3%含む。
- 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりあり にぶい黄褐色シルト (10YR5/4) 1~2%含む。
- 3 10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性・しまりあり 黒褐色焼土 (10YR2/2 径5~7mm) 3%含む。
- 4 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまりあり 黒褐色焼土粒 (10YR2/2 径10mm) 1%含む。
- 5 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりあり 黒褐色焼土粒 (7.5YR2/2) 3%含む。
- 6 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまりややあり 黒褐色焼土 (10YR2/2) 30%含む。
- 7 10YR2/3 黒褐色シルト50%、10YR5/4 にぶい黄褐色シルト50%の混合土層。極褐色焼土1%含む。粘性・しまりあり
- 8 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまりあり 褐色焼土 (7.5YR4/4) 20%含む。
- 9 10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性・しまりあり
- 10 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまりあり
- 11 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまりあり 径7~10mmの炭化物片1~2%、径3~5mmの赤褐色焼土粒 (5YR4/8) 1~2%含む。
- 12 10YR4/2 灰黄褐色シルト30%、5YR4/8 赤褐色焼土70%の混合土。粘性・しまりあり



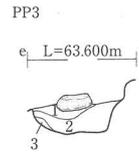
c-c'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト70%、10YR4/3 にぶい黄褐色シルト30%の混合土層。粘性・しまりあり 径2~3mmの炭化物1%未満含む。
- 2 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト 粘性あり しまりややあり 褐色焼土 (7.5YR4/3) 20%混入。径5~7mmの炭化物片1%含む。土器片多く含む。
- 3 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまりあり 褐色焼土 (7.5YR4/3) 1%、径5mmの炭化物1%含む。
- 4 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまりあり



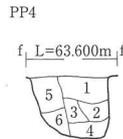
d-d'

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりあり 赤褐色焼土 (5YR4/6) 1%混入。
- 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりあり にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 10%混入。
- 3 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりあり にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 1%、赤褐色焼土 (5YR4/6) 1%未満含む。



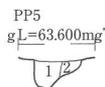
e-e'

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりあり 赤褐色焼土 (5YR4/6) 10%含む。
- 2 10YR3/3 暗褐色シルト50%、10YR4/3 にぶい黄褐色シルト50%の混合土層。粘性・しまりあり
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土質シルト 粘性・しまりあり



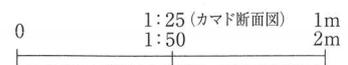
f-f'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまりあり にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 1~2%含む。
- 2 1とほぼ同じ
- 3 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまりあり
- 4 10YR3/2 黒褐色シルト60%、10YR4/3 にぶい黄褐色シルト40%の混合土層。粘性・しまりあり
- 5 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまりあり にぶい黄褐色シルト (10YR4/3 径5mm) 1%含む。
- 6 10YR3/2 黒褐色シルト70%、10YR4/3 にぶい黄褐色シルト30%の混合土層。粘性・しまりあり



g-g'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまりあり
- 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性・しまりあり 水酸化鉄3%混入。



5号住居跡（第15～17・34図、写真図版11・12・53）

＜位置・検出・重複関係＞ VIIIJ18q・18rグリッドに跨って位置し、Ⅲb層で検出した。重複する遺構はない。本遺構の検出にあたっては、煙出部検出後に半裁し、煙道部の方向を確認することで、住居のおおよその位置は把握できたが、煙出部と同レベルで住居本体のプランは確認できなかった。

＜形状・規模＞ 遺構の北壁東部が調査区外であるが、形状は隅丸方形を呈し、規模は東西3.92m、南北3.80mである。

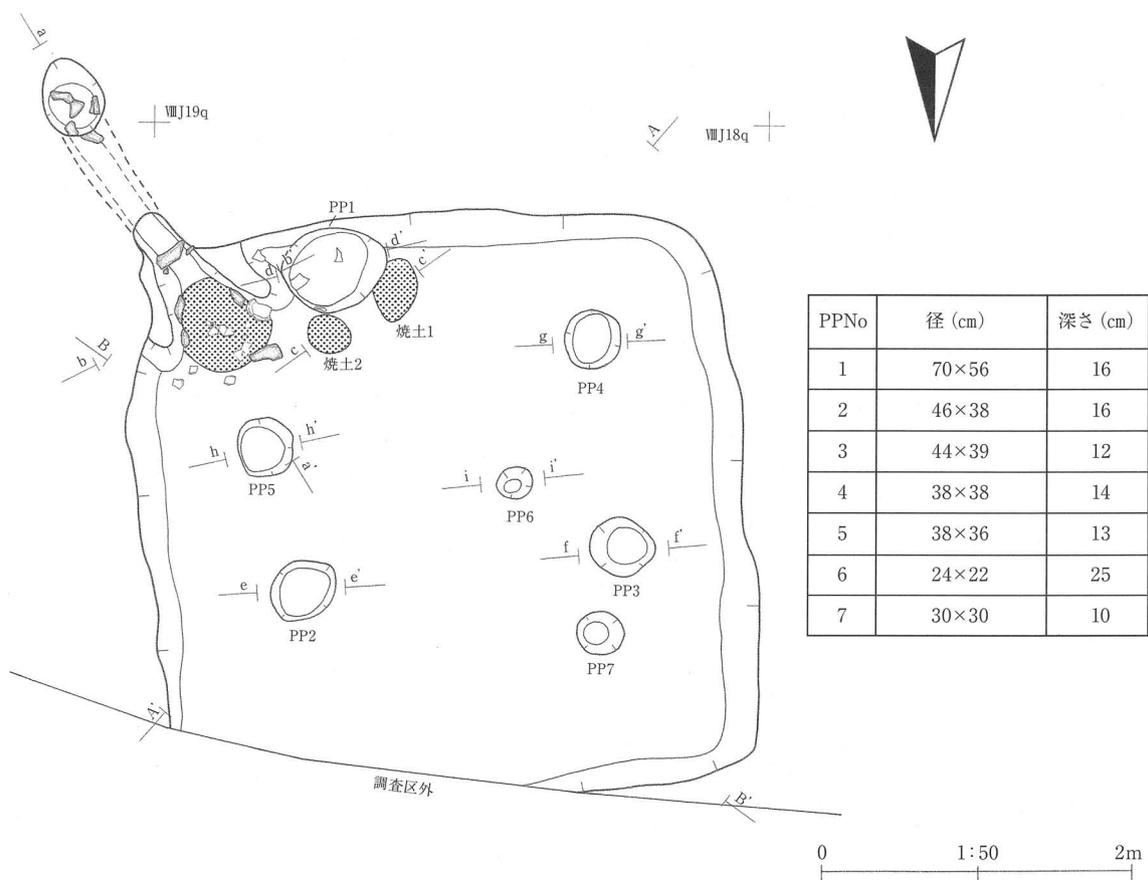
＜埋土＞ 埋土は自然堆積で上位が暗褐色シルト、中位が黄燈色火山灰（十和田a降下火山灰と考えられる）を含む暗褐色シルト、下位に明黄褐色粘土を多く含む暗褐色シルトが堆積している。

＜床面・壁面＞ 床面はほぼ平坦で、床面全体に厚さ4～18cmで貼り床が施されている。壁はいずれも内湾・外傾気味に立ち上がり、壁高は北壁31cm、南壁37cm、東壁29cm、西壁45cmである。

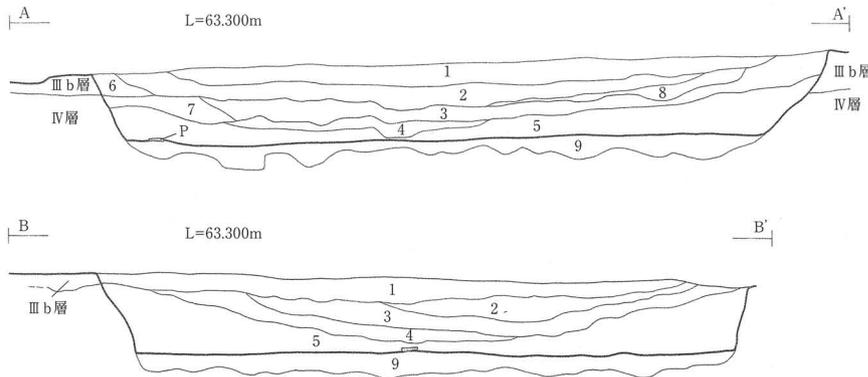
＜カマド＞ カマドは南東部壁面隅に構築されている。カマドの軸方向はS-31°-Eである。カマドには大きさ約20～30cmの礫を芯材として用い、黄褐色シルト混じりの暗褐色シルトを貼り付けて構築されている。カマド袖部内側の約60×60cmの範囲が赤褐色に焼け、焼土の厚さは最大で7cmある。煙道部の構造は割り貫き式で、規模は長さが約110cm、最大幅が約29cm、高さが約26～28cm、焚き口側から煙出部に向かって約19度傾斜して下る。煙出部の開口部は楕円形で規模は約52×40cm、深さは75cm、煙出部の底面には大きさ20～30cmの礫が混入し、煙道部も含め、底面にはにぶい赤褐色焼土、炭化物が多く混入している。

＜土坑類＞ 7基検出した。PP1は貯蔵穴、PP2～7は柱穴状土坑と考えられる。

遺物 24～29が出土した。26は埋土中からの出土であるが、他はカマドおよびその周辺の床面から出土した。24～26はロクロ成形の坏で24は土師器、25・26は須恵器で24の内面は黒色処理が施され

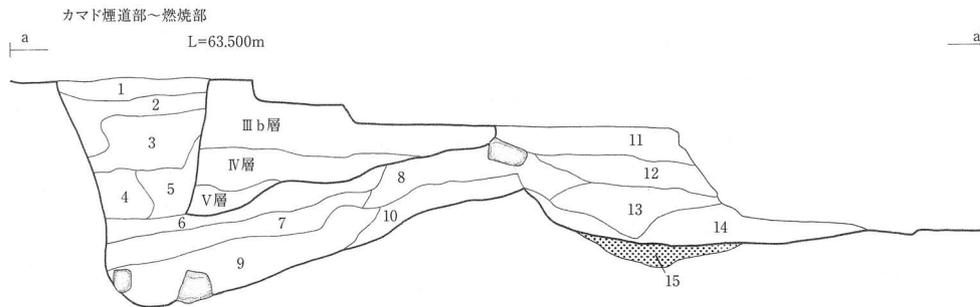
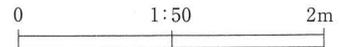


第15図 5号住居跡(1)



A-A', B-B' (埋土断面)

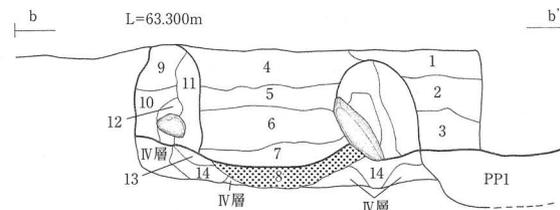
- 1 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性なし しまりあり
- 2 10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性ややあり しまりあり 黄橙色火山灰(10YR8/6)3%含む。
- 3 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまりあり 径5mmの炭化物粒1%未満含む。
- 4 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性ややあり しまりあり 径5~7mmの炭化物粒1%未満含む。
- 5 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりあり 明黄褐色粘土(10YR6/6)30%混合。
- 6 10YR3/2 黒褐色シルト30%、10YR3/3 暗褐色シルト70%の混合土層。粘性ややあり しまりあり
- 7 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性ややあり しまりあり 明黄褐色シルト(10YR6/6)5%含む。径5~7mmの炭化物粒1%未満含む。
- 8 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性ややあり しまりあり
- 9 10YR4/3 におい黄褐色シルト70%、10YR3/2 黒褐色シルト30%の混合土層。粘性ややあり しまりあり 径3mmの炭化物1%未満含む。



a-a' (カマド煙道部~燃焼部)

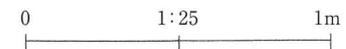
- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりあり 暗褐色焼土(7.5YR3/3)10%混入。
- 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりあり
- 3 10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性なし しまりあり 径3~5mmの炭化物粒1%未満含む。
- 4 7.5YR4/2 灰褐色焼土 粘性・しまりあり
- 5 10YR4/3 におい黄褐色粘土質シルト 粘性・しまりあり
- 6 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりあり 極暗褐色焼土(7.5YR2/3 径1~2cm)1%未満含む。
- 7 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまりあり 極暗褐色焼土(7.5YR2/3 径1~2cm)1~2%含む。
- 8 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまりあり 極暗褐色焼土(7.5YR2/3 径1~2cm)1~2%含む。
- 9 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまりあり におい赤褐色焼土(5YR4/4)10%含む。
- 10 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまりあり におい赤褐色焼土(5YR4/4)30%、炭化物5%混入。
- 11 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりあり におい黄褐色シルト(10YR4/3)20%混入。径8~10mmの炭化物1%未満含む。
- 12 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまりあり におい赤褐色焼土(5YR4/4)1%、径3mmの炭化物1%未満含む。
- 13 10YR3/4 暗褐色シルト60%、10YR3/3 暗褐色シルト40%の混合土層。粘性・しまりあり
- 14 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりあり 黒褐色焼土(7.5YR2/1)10%含む。
- 15 5YR4/6 赤褐色焼土 粘性ややあり しまりあり

カマド燃焼部



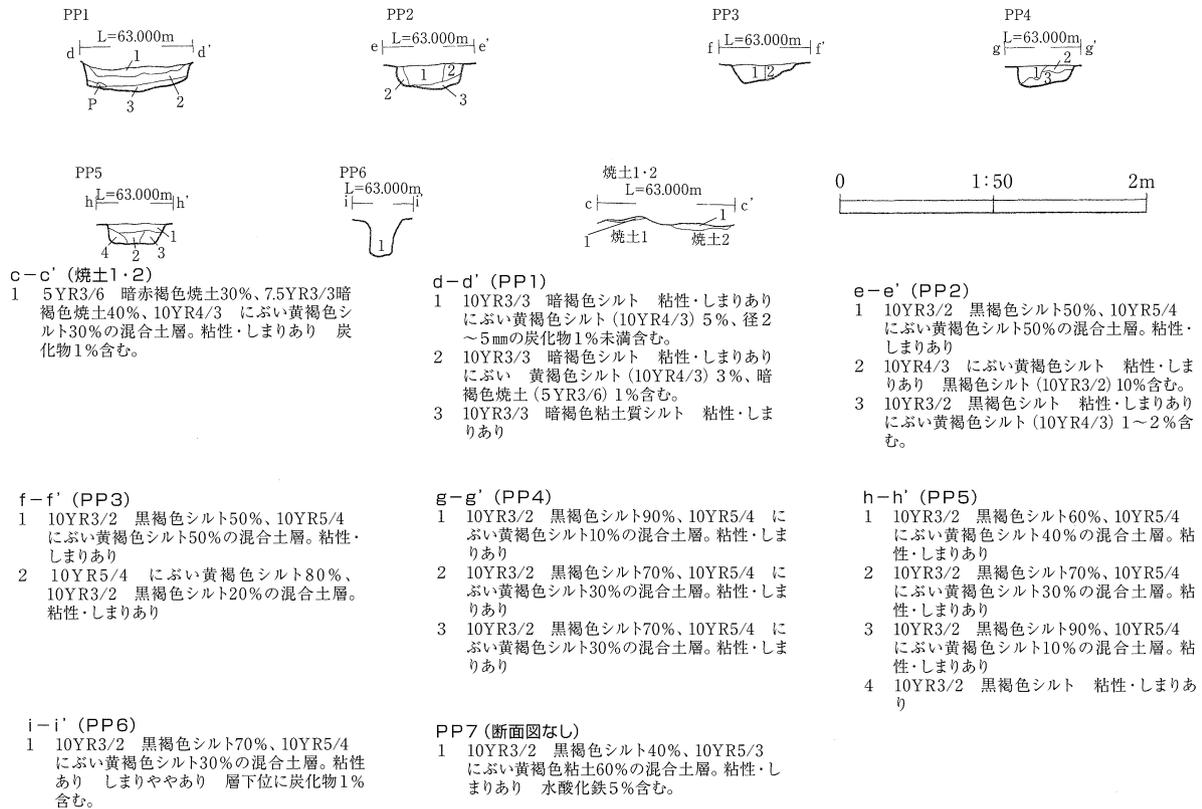
b-b' (カマド袖部・燃焼部)

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまりあり
- 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまりあり におい黄褐色シルト(10YR4/3)1~2%含む。
- 3 10YR3/3 暗褐色シルト90%、10YR4/3 におい黄褐色シルト10%の混合土層。粘性なししまりあり 径5mmの炭化物粒1%未満含む。
- 4 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまりあり におい黄褐色シルト(10YR4/3)10%混入。炭化物1%未満含む。
- 5 10YR3/3 暗褐色シルト70%、10YR4/3 におい黄褐色シルト30%の混合土層。粘性・しまりあり 径3mmの炭化物1%混入。
- 6 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりあり におい赤褐色焼土粒(5YR4/4)1~2%、径5mmの炭化物1%未満含む。
- 7 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なししまりあり 暗赤褐色焼土(5YR3/3)10%含む。
- 8 5YR4/6 赤褐色焼土 粘性ややあり しまりあり
- 9 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりあり 黄褐色シルト(10YR5/6)3%混入。
- 10 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまりあり 黄褐色シルト(10YR5/6)1~2%混入。暗赤褐色焼土(5YR3/3)1%含む。
- 11 5YR3/3 暗赤褐色焼土70%、10YR5/6 黄褐色シルト30%の混合土層。粘性なししまりあり
- 12 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまりあり 黄褐色シルト(10YR5/6)10%含む。
- 13 5YR3/3 暗赤褐色焼土60%、10YR5/6 黄褐色シルト40%の混合土層。粘性・しまりあり
- 14 10YR3/3 暗褐色シルト90%、10YR5/4 黄褐色シルト10%の混合土層。粘性・しまりややあり



第16図 5号住居跡(2)

4 検出した遺構



第17図 5号住居跡(3)

ている。27~29は土師器甕で28はロクロ成形で底部外面に回転糸切り痕が認められる。27・29は非ロクロ成形によるもので27は筒型で細長い器形である。

時期 出土した遺物の特徴から9世紀後半~末葉頃と考えられる。

(2) 掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡 (第18図、写真図版13)

<位置・検出・重複関係> VIII L19d・19e・20d・20eグリッドに跨って位置する。表土下のⅢ b層で検出し、周辺からは縄文土器が出土した。確認調査区に跨って位置するが、全て完掘した。

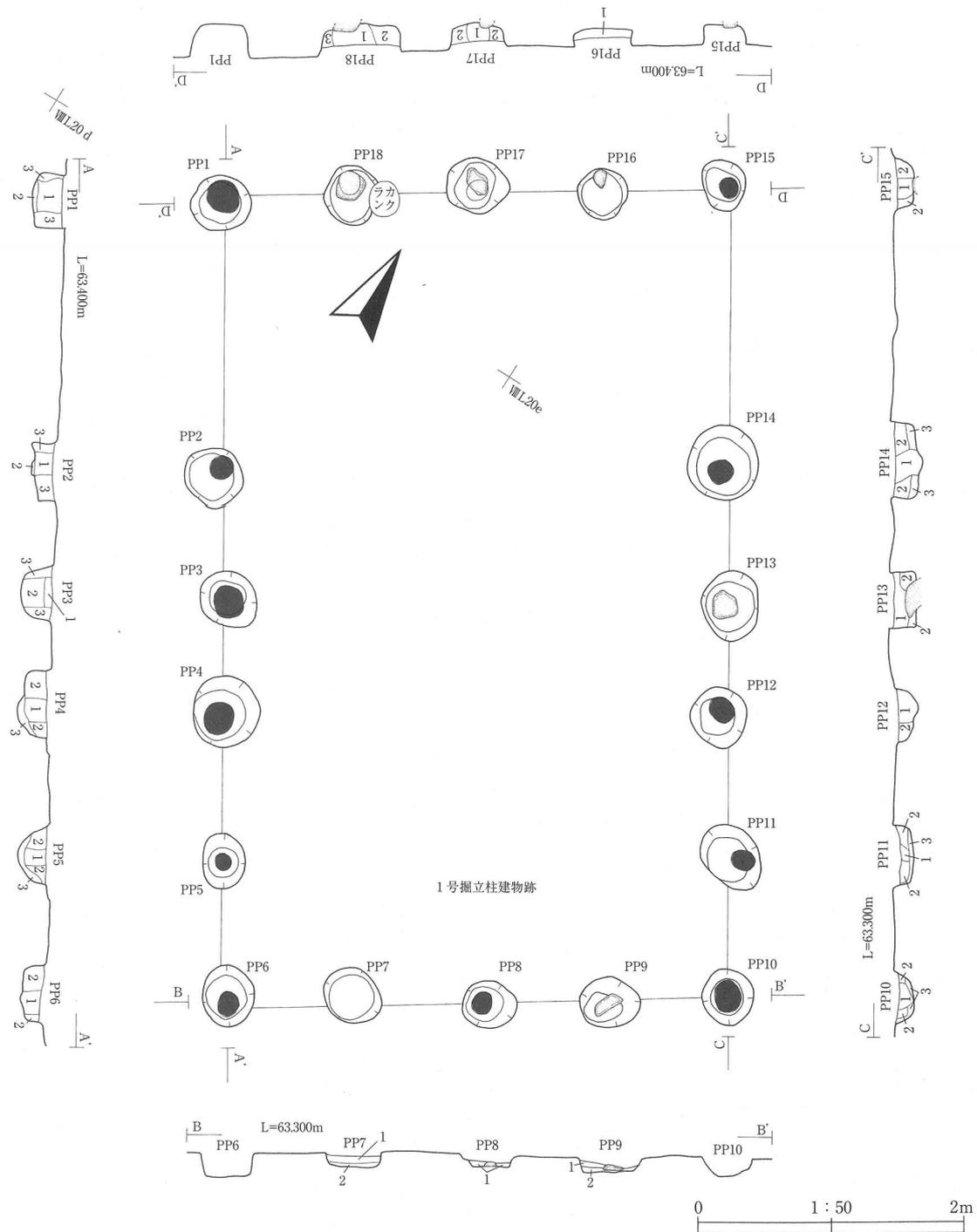
<平面形・規模> 4×5間で、建物の方向はN-32°-Wである。規模は桁行き6.10m、梁間3.80m前後である。

<柱穴> 18個検出した (P P1~18)。各柱穴の規模は下記の表のとおりである。

<遺物> なし。

時期 出土遺物がないので不明であるが、周辺から出土した遺物から近世の遺構と考えられる。

PPNo	径 (cm)	深さ (cm)	柱痕径 (cm)	PPNo	径 (cm)	深さ (cm)	柱痕径 (cm)
1	45 × 43	16	24	10	42 × 38	14	25
2	46 × 42	19	18	11	54 × 40	15	18
3	47 × 40	24	23	12	44 × 42	18	18
4	54 × 52	26	23	13	54 × 42	20	
5	42 × 32	25	12	14	58 × 54	24	18
6	56 × 40	18	18	15	36 × 34	16	16
7	46 × 40	12		16	38 × 36	14	
8	40 × 36	9	15	17	48 × 40	18	15
9	44 × 38	11		18	46 × 40	22	16



- | | |
|--|--|
| <p>PP1
 1 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト 粘性ややあり しまりあり 水酸化鉄15%含む。
 2 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト 粘性・しまりややあり 水酸化鉄50%含む。
 3 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト 粘性ややあり しまりあり 水酸化鉄15%含む。</p> <p>PP2
 1 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト 粘性・しまりあり 層下に水酸化鉄30%含む。
 2 10YR4/1 褐灰色粘土質シルト 粘性・しまりあり
 3 10YR3/4 暗褐色粘土質シルト 粘性ややあり しまりあり 層下にやや砂質土を含む。</p> <p>PP3
 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまりあり
 2 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト 粘性ややあり しまりあり 水酸化鉄25%含む。
 3 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト 粘性ややあり しまりあり 水酸化鉄15%含む。</p> <p>PP4
 1 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト 粘性ややあり しまりあり 層上～中に水酸化鉄30%含む。
 2 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト 粘性ややあり しまりあり 水酸化鉄20%含む。
 3 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性・しまりややあり 水酸化鉄20%含む。</p> | <p>PP5
 1 10YR4/1 褐灰色粘土質シルト 粘性あり しまりなし 層下に水酸化鉄10%含む。
 2 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト 粘性ややあり しまりあり 水酸化鉄7%含む。
 3 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性・しまりややあり 水酸化鉄15%含む。</p> <p>PP6
 1 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト 粘性ややあり しまりあり 層中～下に水酸化鉄25%含む。
 2 10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性ややあり しまりあり</p> <p>PP7
 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまりあり
 2 10YR3/3～3/4 暗褐色シルト 粘性ややあり しまりあり にぶい黄褐色シルト(10YR4/3)が30%混入。</p> <p>PP8
 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまりややあり</p> <p>PP9
 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまりあり
 2 10YR3/3～3/4 暗褐色シルト 粘性・しまりややあり にぶい黄褐色シルト(10YR4/3)が30%混入。</p> |
|--|--|

第18図 1号掘立柱建物跡

4 検出した遺構

- PP10
1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性ややあり しまりあり 灰黄褐色粘土質シルト
(10YR4/2)を20%含む。
2 10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性ややあり しまりあり 暗褐色シルト
(10YR3/4)が40%混入。
3 10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性・しまりややあり
- PP11
1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性ややあり しまりあり
2 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまりあり
3 10YR3/3~3/4 暗褐色砂質シルト 粘性・しまりあり
- PP12
1 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト 粘性・しまりややあり 水酸化鉄30%含む。
2 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまりあり 層中~下になんい黄褐色砂質シルト
(10YR4/3)が50%混入。
- PP13
1 10YR4/1~4/2 褐灰~灰黄褐色シルト 粘性なし しまりあり
2 10YR4/3 になんい黄褐色砂質シルト 粘性あり しまりややあり
- PP14
1 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト 粘性あり しまりなし 層上に褐色土ブロッ
ク(10YR4/4 径20~50mm)3%、中~下になんい黄褐(10YR4/3)を30%、層
下に水酸化鉄5%含む。
2 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト 粘性・しまりあり 褐色粘土質シルト(10YR4/4)
10%含む。
3 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまりややあり
- PP15
1 10YR4/1 褐灰色シルト 粘性ややあり しまりなし
2 10YR4/1 褐灰色シルト 粘性ややあり しまりあり 層下に10YR4/3になんい
黄褐色砂質シルト10%混入。
- PP16
1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまりあり
- PP17
1 10YR4/2~4/1 灰黄褐~褐灰色シルト 粘性あり しまりなし 水酸化鉄3%
含む。
2 10YR4/2~4/1 灰黄褐~褐灰色シルト 粘性ややあり しまりあり 水酸化
鉄1%含む。
- PP18
1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまりあり
2 10YR3/3~3/4 暗褐色シルト 粘性ややあり しまりあり
3 10YR3/3~3/4 暗褐色シルト 粘性ややあり しまりあり

(3) 土 坑

1号土坑(第19図、写真図版14)

<位置・検出・重複関係> VIII K24hグリッドに位置し、IV層で検出した。重複する遺構はない。

<平面形・規模> 形状は円形で、規模は約0.84×0.82mである。

<埋土> 埋土の中央部上~中位部分には明赤褐~褐色焼土があり、下位はになんい黄褐色シルト混じりの暗褐色シルトが堆積している。底面までの深さは16cmである。

遺物 なし。

時期 検出状況等から弥生時代前期の遺構である可能性が考えられる。

2号土坑(第19・35図、写真図版14・56)

<位置・検出・重複関係> VIII L25kグリッドに位置し、表土下のⅢ a層で検出した。重複する遺構はない。遺構の南側は調査区外へと延びる。

<平面形・規模> 規模は東西が約2.14m、南北は調査した部分で1.32mである。

<埋土> 埋土の大部分は礫混じりの暗褐色・黒褐色を主体とする層で、底面にグライ化した箇所が一部確認された。

遺物 埋土から陶磁器が3点出土した(30~32)。他に縄文土器、土師器の破片も少量出土した。

時期 近世に属する遺構である。

3号土坑(第19・35図、写真図版14・56)

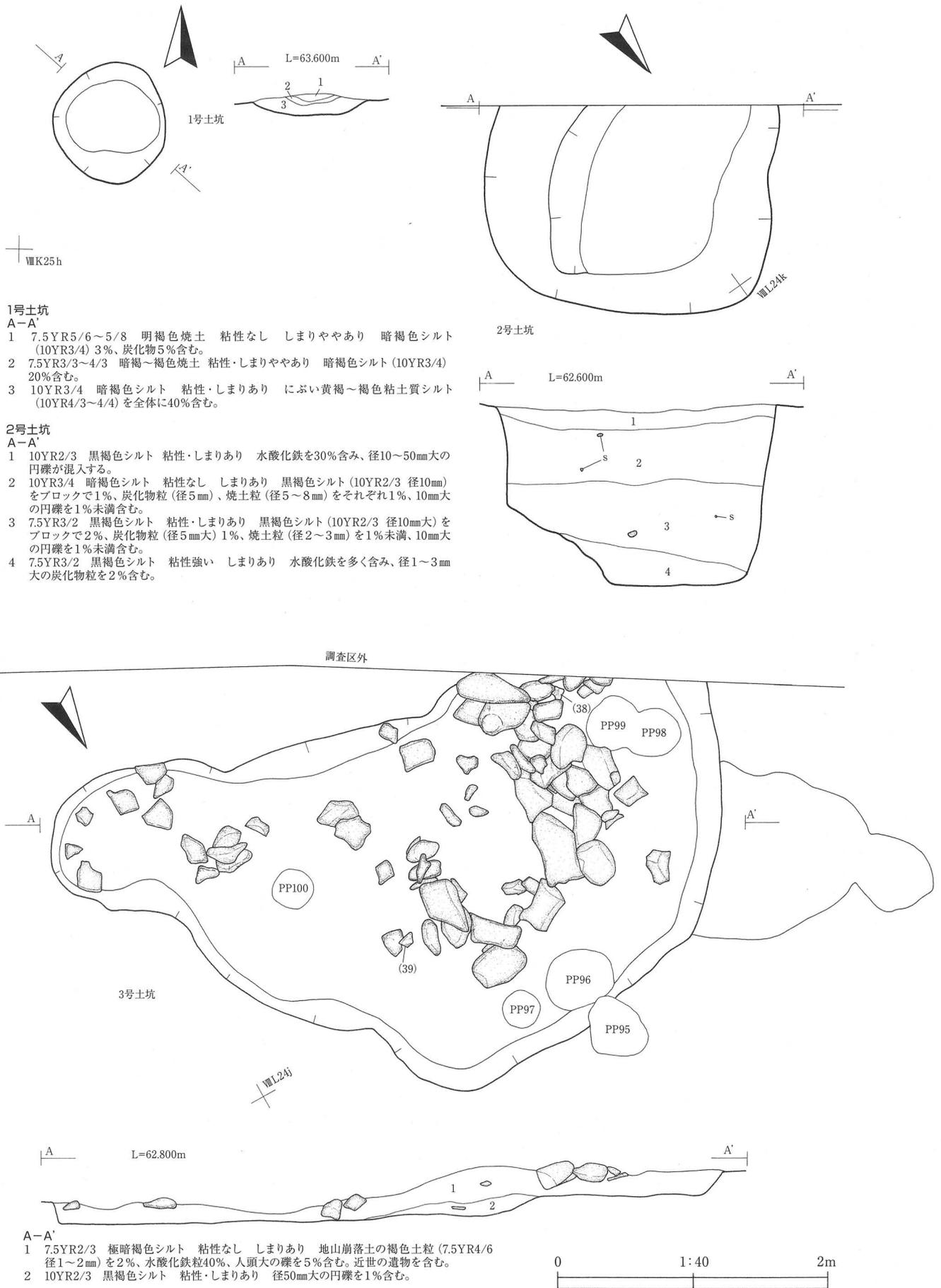
<位置・検出・重複関係> VIII L23j・24j・24kグリッドに跨って位置する。表土下のⅢ a層で検出した。柱穴状土坑P P95~100と重複し、これらを切る。遺構の南西側は調査区外へと延びる。検出時に大きさ10~20cmの扁平な形をした礫が多く混入しているのを確認した。

<平面形・規模> 平面形は瓢箪状の不整な形状を呈し、調査区内での計測値は北西-南東が4.92m、北東-南西が3.14mを測る。

<埋土・底面> 埋土の大部分が極暗褐色を主体とする層で、中央部の底面付近に一部黒褐色シルトが堆積している。また、層中には水酸化鉄粒と礫が多く含まれ、礫は最大で50cmを超えるものもある。底面は全体に凹凸があり、北西側が高く、礫が密集して出土する北西端-中央部分までは傾斜して下り、中央-南東端まではほぼ平坦である。

遺物 中央から西側に磨痕を確認できる扁平な礫が集中して出土し、砥石38~41もこれに含まれる。また埋土中から陶磁器の破片(33~37)も出土している。

時期 近世に属する遺構である。



第19図 1~3号土坑

(4) 溝 跡

調査区全体で9条検出した。時期は古代1条、近世以降7条、不明1条である。遺構から出土した遺物はない。

1号溝跡（第20図、写真図版16）

〈位置・検出・重複関係〉 VIII 2 m・3 m・2 n・3 nグリッドを跨いで位置し、表土下のⅢ a層で検出した。2号溝と重複し、これに切られる。遺構の南北端が調査区外へと延びる。確認・本調査区に跨っており、確認調査部分は検出のみの調査である。

〈規模・形態・方向〉 遺構の一部のため全体の規模は不明であるが、調査した部分での規模は長さ9.72m、上幅80～96cm、下幅42～64cm、方向は北西－南東方向で、底面の高低差はほとんどない。

〈埋土〉 埋土全体が暗褐色シルトを主体とした堆積である。層中には褐色シルトが粒状・ブロックで混入するが、下位に多い。

時期 検出状況などから近世以降に属すると考えられる。

2号溝跡（第20図、写真図版16）

〈位置・検出・重複関係〉 VIII 2 n・2 oグリッドを跨いで位置し、表土下のⅢ a層で検出した。1号溝と重複し、これを切る。遺構の北東端が調査区外へと延びる。確認・本調査区に跨っており、遺構の北西側約1.8mが本調査区である。

〈規模・形態・方向〉 遺構の一部のため詳細は不明であるが、調査した部分での規模は長さ9.20m、上幅28～50cm、下幅18～38cm、方向は南西－北東方向で、両端部底面の比高差は約8cmで、北東端が低い。

〈埋土〉 上位～中位は暗褐色シルト、下位は黒色シルトを主体とする層の堆積である。

時期 検出状況などから近世以降に属すると考えられる。

3号溝跡（第21図、写真図版17）

〈位置・検出・重複関係〉 VIII J 4 c・5 c・5 dグリッドを跨いで位置し、表土下のⅢ a層で検出した。重複する遺構はない。確認・本調査区に跨っており、遺構の南東端約30cmが本調査区である。

〈規模・形態・方向〉 規模は長さ6.84m、上幅22～42cm、下幅18cm、方向は北西－南東ではほぼ直線に延びる。両端部底面の比高差は約32cmで、南東端が低い。

〈埋土〉 層全体が褐色シルト混じりの黒褐色シルトである。

時期 検出状況などから近世以降に属すると考えられる。

4号溝跡（第21図、写真図版17）

〈位置・検出・重複関係〉 VIII J 7 n～p・8 p・8 q・9 q・9 r・10 r・10 sグリッドを跨いで位置し、表土下のⅢ a層で検出した。重複する遺構はない。確認・本調査区に跨っており、遺構の南東端約5mが本調査区である。

〈規模・形態・方向〉 遺構の両端が調査区へ延びるため、全体の規模は不明であるが、調査した部分の計測で長さ27.75m、上幅28～84cm、下幅28～44cm、方向は北西－南東ではほぼ直線に延びる。両端部底面の比高差は約10cmで、南東端が低い。

<埋土> 層全体が黒褐色シルト混じりの灰褐色シルトである。

時期 検出状況などから近世以降に属すると考えられる。

5号溝跡（第21図、写真図版18）

<位置・検出・重複関係> VIIIJ7n～p・8p・8q・9q・9r・10r・10sグリッドを跨いで位置し、表土下のⅢa層で検出した。重複する遺構はない。確認・本調査区に跨っており、遺構の南東側約半分が本調査区である。

<規模・形態・方向> 遺構の両端が攪乱および調査区外へ延びるため全体の規模は不明であるが、調査した部分で長さ17.80m、上幅16～36cm、下幅10～22cm、方向は北西－南東でほぼ直線に延びる。底面の比高差は約10cmで、南東側に向かって下がっている。

<埋土> 層全体が暗褐色シルト混じりの黒褐色シルトである。

時期 検出状況などから近世以降に属すると考えられる。

6号溝跡（第22図、写真図版18）

<位置・検出・重複関係> VIII L20g・21g・21h・22h・22iグリッドを跨いで位置し、表土下のⅢa層で検出した。重複する遺構はない。確認調査区のため、検出のみの調査である。

<規模・形態・方向> 規模は長さ5.80m、上幅28～40cm、下幅26～30cm、方向は北西－南東でほぼ直線に延びる。調査した部分での底面の比高差は約4cmで、南東側に向かって下がっている。

<埋土> 上～中位は褐色土がブロックで混入する黒褐色シルト層、下位は暗褐・黒褐色シルト混合層である。

時期 検出状況などから近世以降に属すると考えられる。

7号溝跡（第22図、写真図版19）

<位置・検出・重複関係> VIIIJ19sグリッドに位置し、Ⅲb層で検出した。重複する遺構はない。遺構の南端は調査区外へ延び、また北端は攪乱のため、切られている。

<規模・形態・方向> 調査した部分の規模は長さ3.98m、上端幅28～32cm、下端幅8～16cm、南端部から北北東におよそN-12°-Eの方向でほぼ直線上に延びる。両端の底面比高差は約6cmで、北北東端が低い。

<埋土> 上～中位は黒褐色シルトににぶい黄褐色シルトが混入する層。下位は黒褐色シルトと黄褐色シルトの混合土層である。

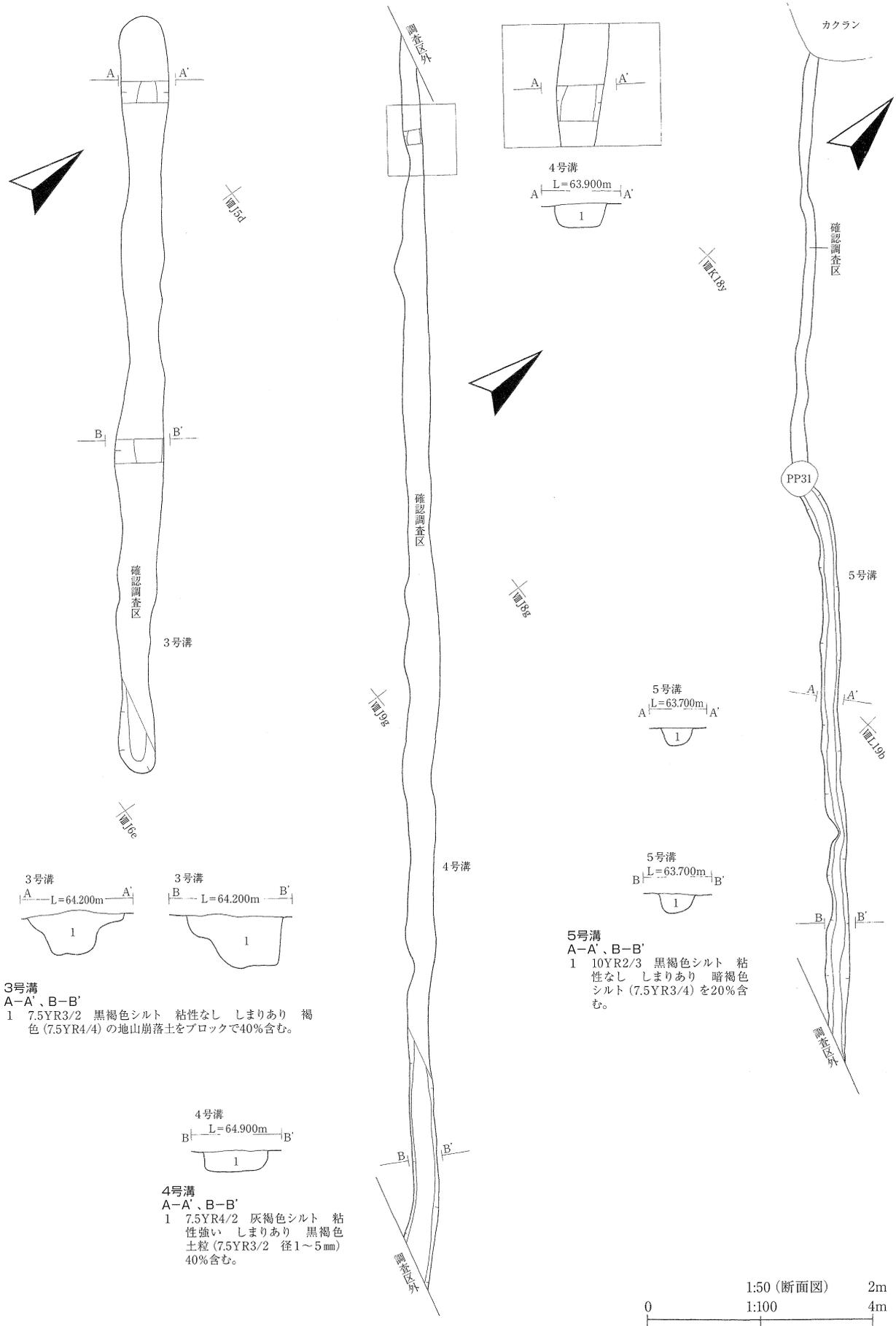
時期 検出状況などから古代に属する可能性がある。

8号溝跡（第22図、写真図版19）

<位置・検出・重複関係> VIII I16xグリッドに位置し、Ⅲa層で検出した。重複する遺構はない。遺構の両端が調査区外へ延びている。

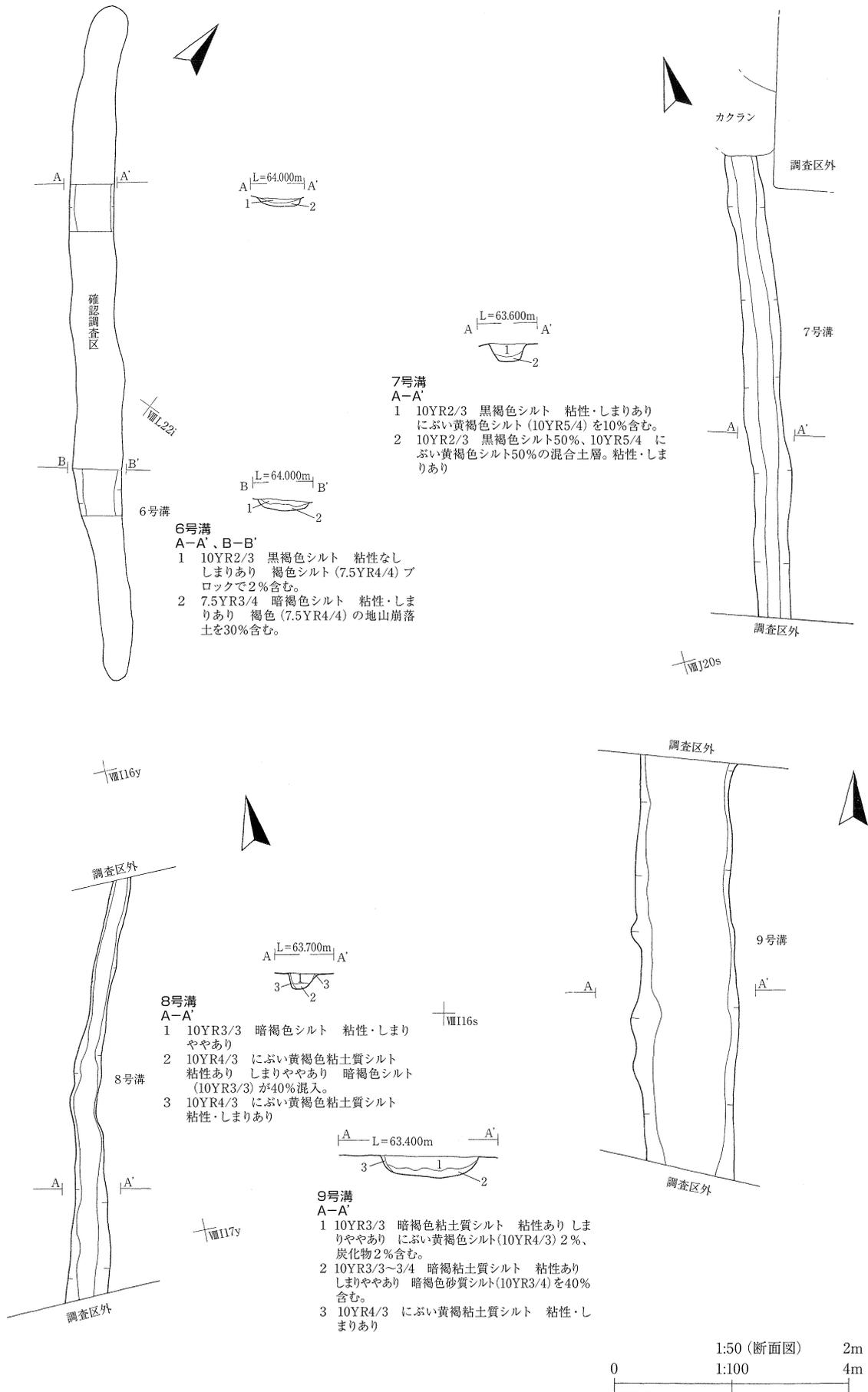
<規模・形態・方向> 調査した部分の規模は長さ3.58m、上端幅14～36cm、下端幅10～20cm、南端部から北北東にN-18°-Eの方向で小さく蛇行しながら延びる。両端部の底面比高差は約14cmで南端が低い。

<埋土> 上～中位は暗褐色シルト、下位はにぶい黄褐色粘土質シルトと暗褐色砂質シルトの混合土層である。



第21図 3~5号溝跡

4 検出した遺構



第22図 6～9号溝跡

(5) 井戸跡

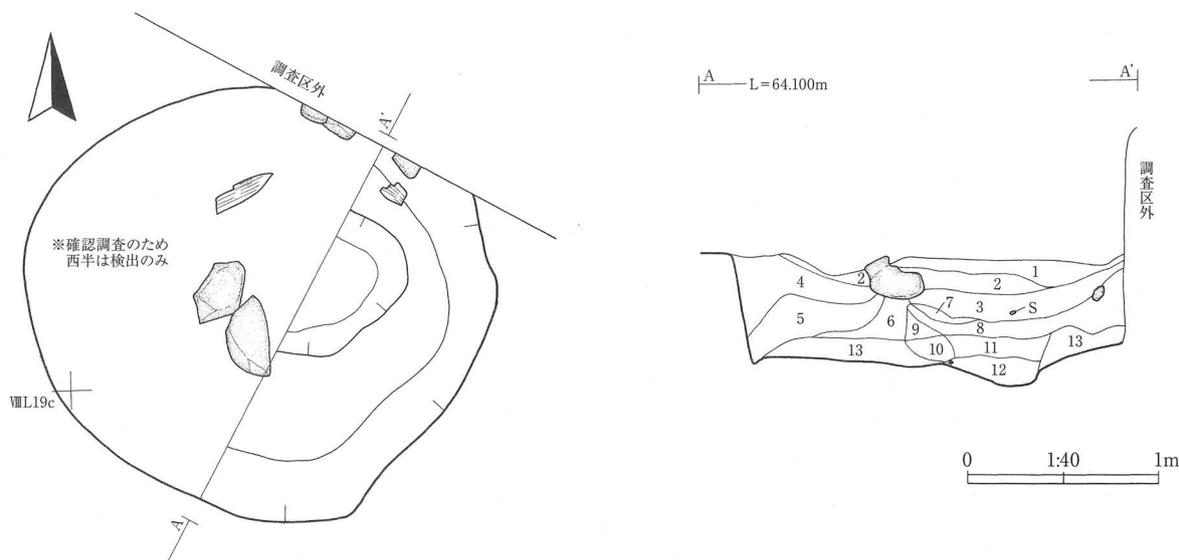
1号井戸跡 (第23図、写真図版15)

<位置・検出・重複関係> VIII L18d・19dグリッドを中心に位置し、表土下のⅢ a層で検出した。重複する遺構はない。遺構の北側一部が調査区外へと延びる。確認調査区に位置するため、調査手段は半裁のみである。

<平面形・規模> 形状は円形で、規模は径2.32×2.08mである。中央からやや北側の部分は径約0.8mほどのピット状の掘り込みになっており、その上部からは大きさ約40cmほどの礫や木片が出土している。

<埋土> 埋土の上位が暗褐色シルトで、それ以下は黒褐色シルトを主体とする堆積層である。遺構南側は水酸化鉄を多量に含む。底面までの深さは約54cmであるが、ピット状を呈する部分は68cmとやや深くなっている。

時期 時期を特定できる遺物が見つかっていないため詳細は不明であるが、検出状況等から近世以降と考えられる。



1号井戸跡

A-A'

- | | | | | | |
|----|----------|----------|------------|---------|---|
| 1 | 7.5YR3/3 | 暗褐色シルト | 粘性なし | しまりあり | 5~10mm大の礫1%、水酸化鉄粒30%含む。 |
| 2 | 10YR2/2 | 黒褐色シルト | 粘性なし | しまりあり | 5mm大の炭化物粒1%、水酸化鉄粒1%含む。 |
| 3 | 10YR3/1 | 黒褐色シルト | 粘性・しまりややあり | | 1mm大の焼土粒を1%未満、5cm大の礫を1%未満含む。近世以降の遺物を含む。 |
| 4 | 10YR2/2 | 黒褐色シルト | 粘性なし | しまりややあり | 2層より砂質。1mm大の炭化物粒を1%含む。水酸化鉄粒は2層より多く含む(2%)。 |
| 5 | 10YR3/3 | 暗褐色シルト | 粘性強い | しまりややあり | 2~5mm大の炭化物粒を2%含む。4層より水酸化鉄粒を多く含む(4%)。 |
| 6 | 10YR2/3 | 黒褐色シルト | 粘性強い | しまりあり | 黒褐色砂質シルトが40%混入。水酸化鉄粒を1%含む。 |
| 7 | 7.5YR3/2 | 黒褐色シルト | 粘性強い | しまりあり | |
| 8 | 10YR2/3 | 黒褐色シルト | 粘性・しまりややあり | | 1mm大の炭化物粒1%、水酸化鉄粒30%含む。 |
| 9 | 10YR2/3 | 黒褐色シルト | 粘性強い | しまりややあり | 砂50%混入。 |
| 10 | 10YR2/3 | 黒褐色砂質シルト | 粘性なし | しまりややあり | 20mm大の小礫を1%含む。 |
| 11 | 10YR3/2 | 黒褐色シルト | 粘性・しまりややあり | | 10mm大の小礫を1%含む。砂50%混入。 |
| 12 | 10YR2/2 | 黒褐色シルト | 粘性なし | しまりややあり | 20~50mm大の小礫50%混入。 |
| 13 | 10YR2/2 | 黒褐色砂質シルト | 粘性・しまりあり | | 黒褐色シルトが1%混じる。 |

第23図 1号井戸跡

(6) 柱穴状土坑 (第24~28・36図、写真図版13・56)

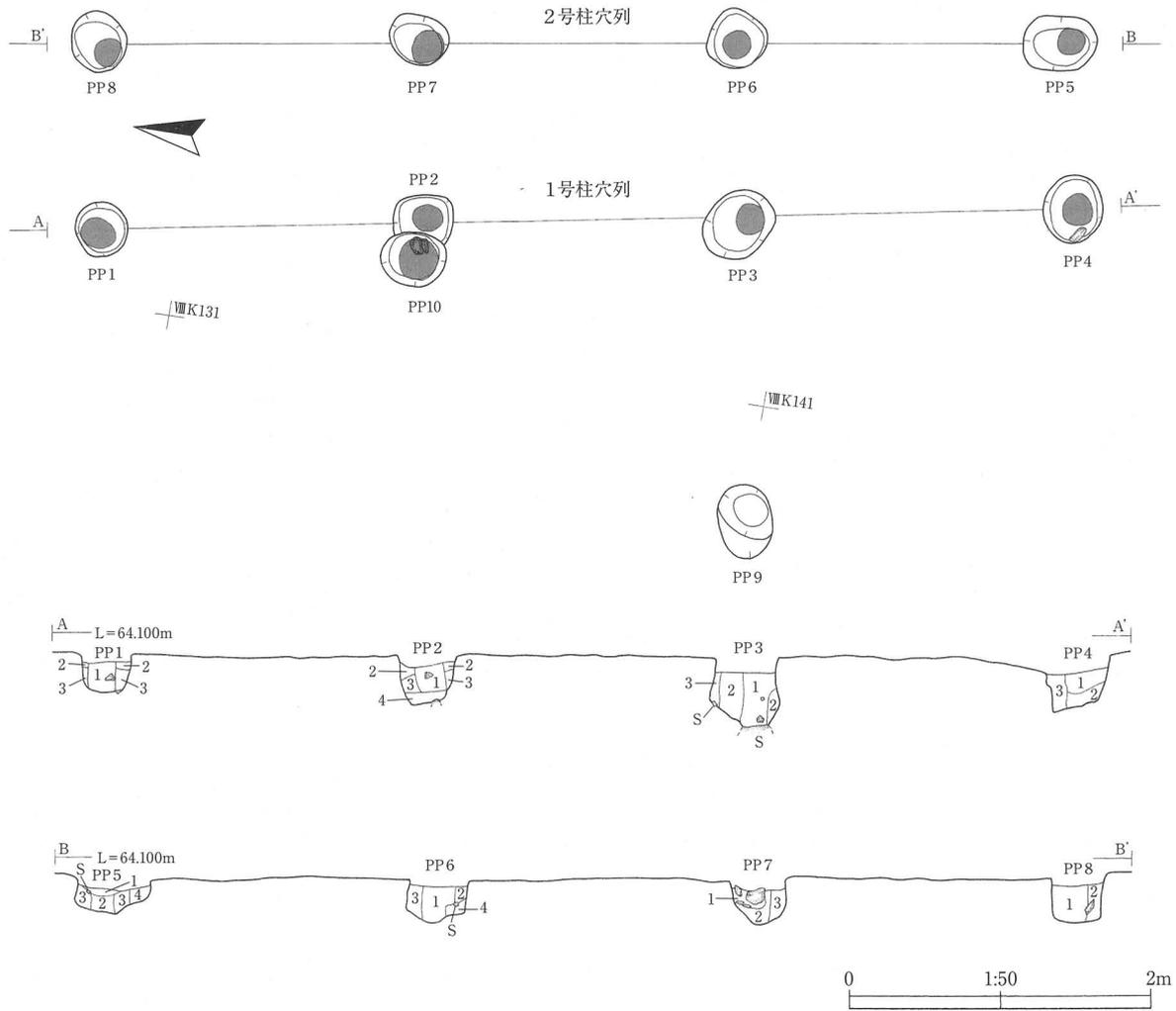
調査区北東部を中心に137個検出した。このうち91個は確認調査区のため検出のみで未掘削である。またPP 1~4 (1号柱穴列)、PP 5~8 (2号柱穴列)は規則的な配列をなし、柱間距離はPP 1~4が各2.16m、PP 5~8が各2.14mを測る。各柱穴の規模・埋土等は第2表のとおりである。

第2表 柱穴状土坑一覧

No	径 (cm)	深さ (cm)	検出面 標高 (m)	柱痕径 (cm)	備考	No	径 (cm)	深さ (cm)	検出面 標高 (m)	柱痕径 (cm)	備考
1	36 × 34	26	64.05	20	1号柱穴列	36	29 × 28		63.35	14	
2	40 × 32 a	33	63.91	18	1号柱穴列	37	37 × 35		63.38	23	
3	51 × 40	46	63.91	19	1号柱穴列	38	50 × 45		63.38	26	
4	46 × 40	38	63.92	20	1号柱穴列	39	39 × 36		63.36	20	
5	49 × 36	23	63.93	18	2号柱穴列	40	48 × 42		63.40		
6	38 × 36	29	63.92	20	2号柱穴列	41	42 × 37	26	63.52	16	
7	40 × 33	30	63.92	20	2号柱穴列	42	29 × 23	21	63.51	13	
8	41 × 37	31	63.95	18	2号柱穴列	43	62 × 62		63.47		
9	49 × 37	28	63.87			44	76 × 66		63.49	36	
10	44 × 34 a	14	63.88	26		45	40 × 33		63.42		
11	30 × 26		63.95	18		46	72 × 64		63.36	19	
12	32 × 26		63.96	16		47	51 × 43		63.31	18	
13	26 × 22		63.94	13		48	40 × 33	34	63.29	14	
14	38 × 34		63.98	24	42が出土	49	45 × 37	14	63.20	22	
15	26 × 26		63.95	14		50	36 × 33		63.22	16	
16	42 × 30 a	25	63.90		PP17と重複	51	37 × 31		63.23	12	
17	49 × 39	20	63.91		PP16と重複	52	38 × 34		63.19	13	
18	43 × 37		63.94			53	48 × 46		63.16	22	
19	30 × 27		63.95			54	37 × 35	14	63.16	12	
20	39 × 31		63.70	26		55	38 × 36		63.18	21	
21	42 × 36		63.71	29		56	28 × 26		63.14	18	
22	33 × 29		63.76	10		57	40 × 40	15	63.19	17	
23	24 × 23	14	63.50	14		58	38 × 34		63.11	14	
24	46 × 35		63.40	24		59	48 × 38		62.87	16	
25	43 × 34		63.43	20	43が出土	60	46 × 42		62.82		
26	46 × 30		63.46	23		61	48 × 39		62.73	23	
27	30 × 30	28	63.58	14		62	22 × 22		62.73	16	
28	38 × 36	38	63.57	14		63	44 × 34		63.72		
29	26 × 25		63.50	13		64	39 × 33		62.76		
30	63 × 60		63.51	27	44が出土	65	34 × 30		62.73		
31	65 × 58	52	63.49	18		66	42 × 39		62.75	18	
32	34 × 29		63.44	17		67	40 × 35		62.74	16	
33	51 × 44		63.37	22		68	36 × 34		62.76		
34	41 × 34		63.39	20		69	32 × 32		62.76	14	
35	33 × 32		63.37	14		70	30 × 27	19	62.82	14	

No	径 (cm)	深さ (cm)	検出面 標高 (m)	柱痕径 (cm)	備考	No	径 (cm)	深さ (cm)	検出面 標高 (m)	柱痕径 (cm)	備考
71	46 × 46	50	62.89	18		105	45 × 44		62.67	16	
72	44 × 38	24	62.84	16	PP73 と重複	106	36 × 30		62.42		
73	44 × 41	49	62.82	19	PP72 と重複	107	58 × 54		62.40		
74	48 × 39	20	62.81	17		108	36 × 34		62.21	21	
75	43 × 30		62.75			109	39 × 31		62.18	12	
76	38 × 34		62.76			110	29 × 28		62.18	16	
77	40 × 28 a		62.74		PP78 と重複	111	38 × 29		62.24	12	
78	34 × 34		62.74	17	PP77 と重複	112	40 × 37		62.33	15	
79	56 × 50		62.74			113	34 × 32		62.34	20	
80	31 × 27		62.55		45 が出土	114	44 × 34		62.36		
81	42 × 30		62.61			115	32 × 26		62.36	14	
82	31 × 30		62.64	20		116	40 × 28		62.38	18	
83	26 × 24		62.59	12		117	56 × 53		62.42		46 が出土
84	33 × 33		62.59	12		118	38 × 36	19	62.41	14	
85	39 × 31		62.63	20		119	48 × 42		62.24		
86	24 × 22		62.64	16		120	40 × 38		62.20		
87	30 × 28		62.70	16		121	44 × 34		62.20	21	
88	46 × 32	30	62.68	14		122	30 × 25		62.19	16	
89	36 × 32		62.69			123	36 × 36		62.30	22	
90	40 × 36	33	62.70		PP91 と重複	124	39 × 34		62.34	16	
91	49 × 39 a	18	62.69		PP90 と重複	125	34 × 34		62.37	15	
92	44 × 43	18	62.69	19		126	54 × 40		62.20		
93	64 × 52	13	62.65			127	56 × 40		62.19	27	
94	40 × 33	16	62.59			128	43 × 40		62.21		
95	50 × 42	15	62.68			129	46 × 42		62.36	20	
96	52 × 42	26	62.48			130	58 × 49		62.24	23	
97	28 × 28	15	62.46			131	46 × 36		62.51	28	
98	40 a × 36	26	62.60		PP99 と重複	132	38 × 37	38	63.36	17	
99	42 × 30 a	18	62.55		PP98 と重複	133	34 × 28	21	63.36	11	
100	30 × 29	16	62.29			134	34 × 28	24	63.35	12	
101	32 × 28		62.65			135	36 × 32	14	63.35	16	
102	36 × 35		62.66	18		136	32 × 28	18	63.34	18	
103	38 × 34		62.66			137	28 × 20	16	63.21	12	
104	29 × 29		62.50	16							

4 検出した遺構



1号柱穴列 (A-A')

PP1

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性あり しまりなし にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 20%混入。
- 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性あり しまりなし にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 40%混入。
- 3 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりあり

PP2

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性ややあり しまりなし
- 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性ややあり しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 5%混入。
- 3 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりややあり にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 10%混入。
- 4 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりあり

PP3

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりなし 径1~4cmの礫混入。
- 2 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性あり しまりややあり 層全体ににぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 10%含む。
- 3 10YR4/3~3/3 にぶい黄褐~暗褐色シルト 粘性ややあり しまりあり

PP4

- 1 10YR3/3~4/4 暗褐色シルト 粘性なし しまりややあり 炭化物1%含む
- 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性あり しまりややあり にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) を5%、炭化物を1%含む。
- 3 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまりあり

2号柱穴列 (B-B')

PP5

- 1 10YR4/2~4/3 灰黄褐~にぶい黄褐色シルト 粘性なし しまりややあり 暗褐色シルト (10YR3/3) 50%混入。
- 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性あり しまりややあり
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまりややあり
- 4 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性あり しまりややあり 暗褐色シルト (10YR3/3) 10%混入。

PP6

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性あり しまりややあり にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 5%混入。
- 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性あり しまりややあり にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 40%混入。
- 3 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性・しまりあり
- 4 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性ややあり 1層が30%混入。径2~4cmの礫30%混入。

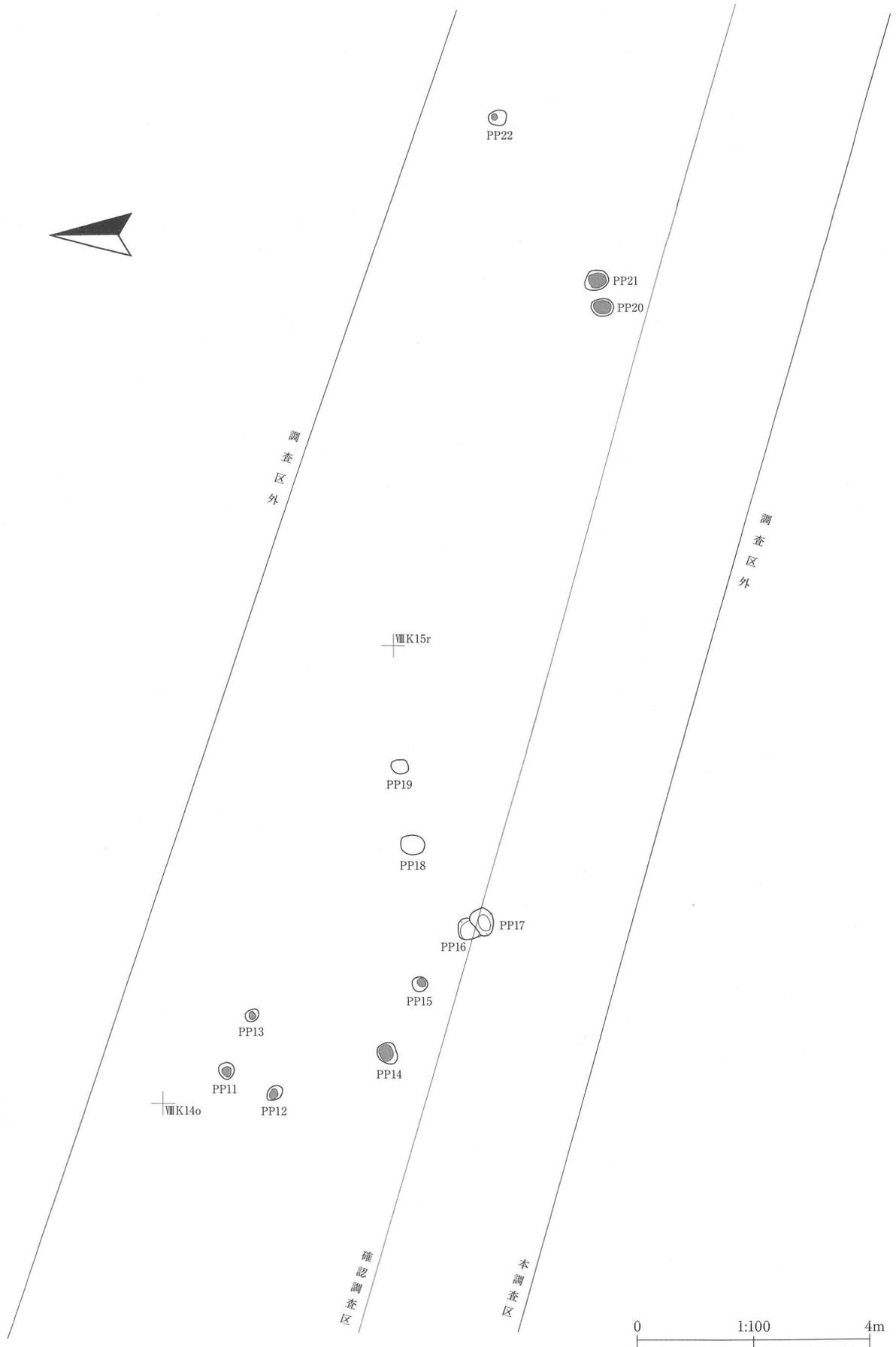
PP7

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりややあり
- 2 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性あり しまりややあり にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 10%含む。
- 3 10YR3/3~4 暗褐色粘土質シルト 粘性あり しまりややあり にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 40%含む。

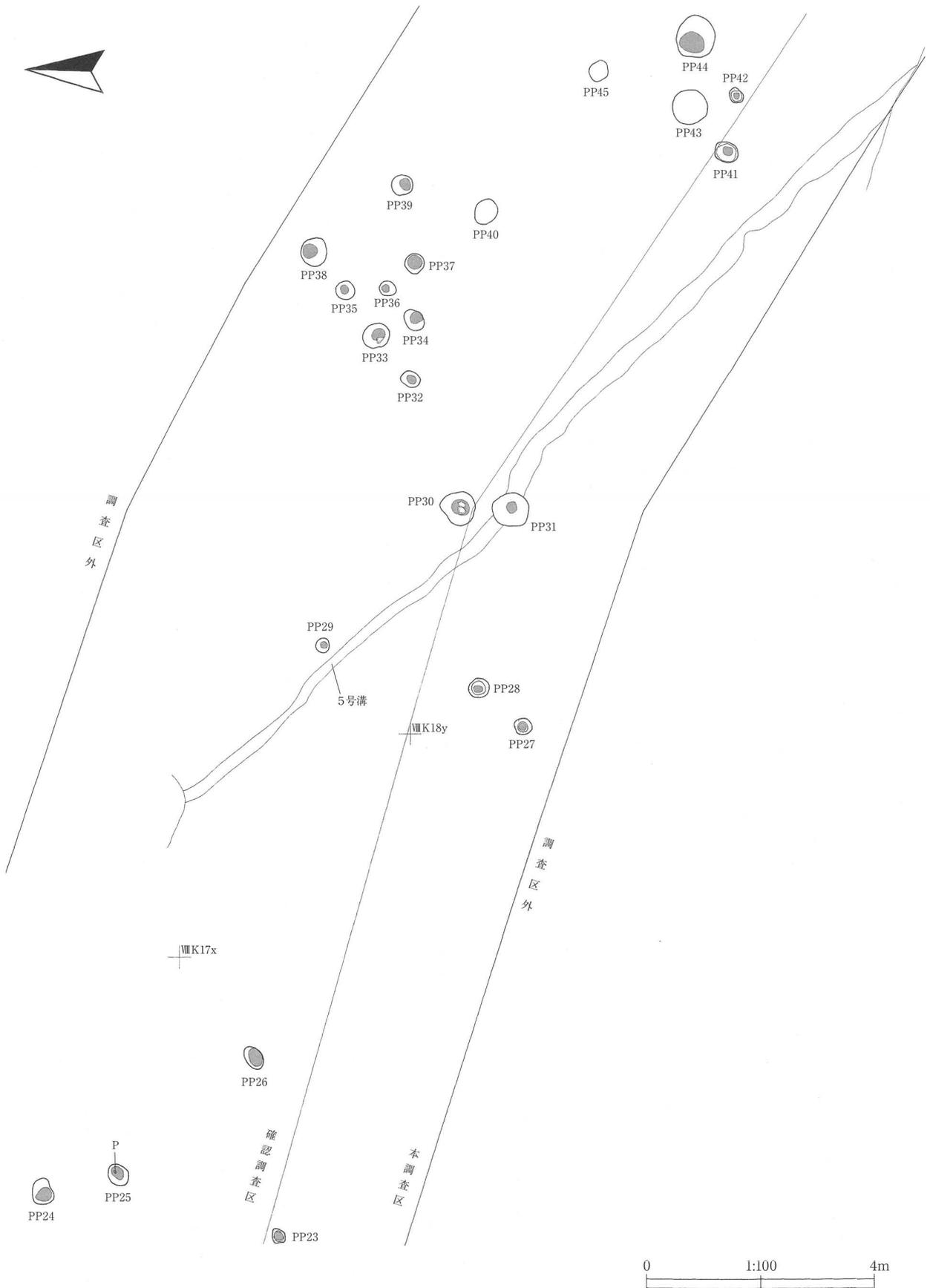
PP8

- 1 10YR3/3~4 暗褐色シルト 粘性・しまりややあり
- 2 10YR4/3~3/3 にぶい黄褐~暗褐色シルト 粘性なし しまりあり

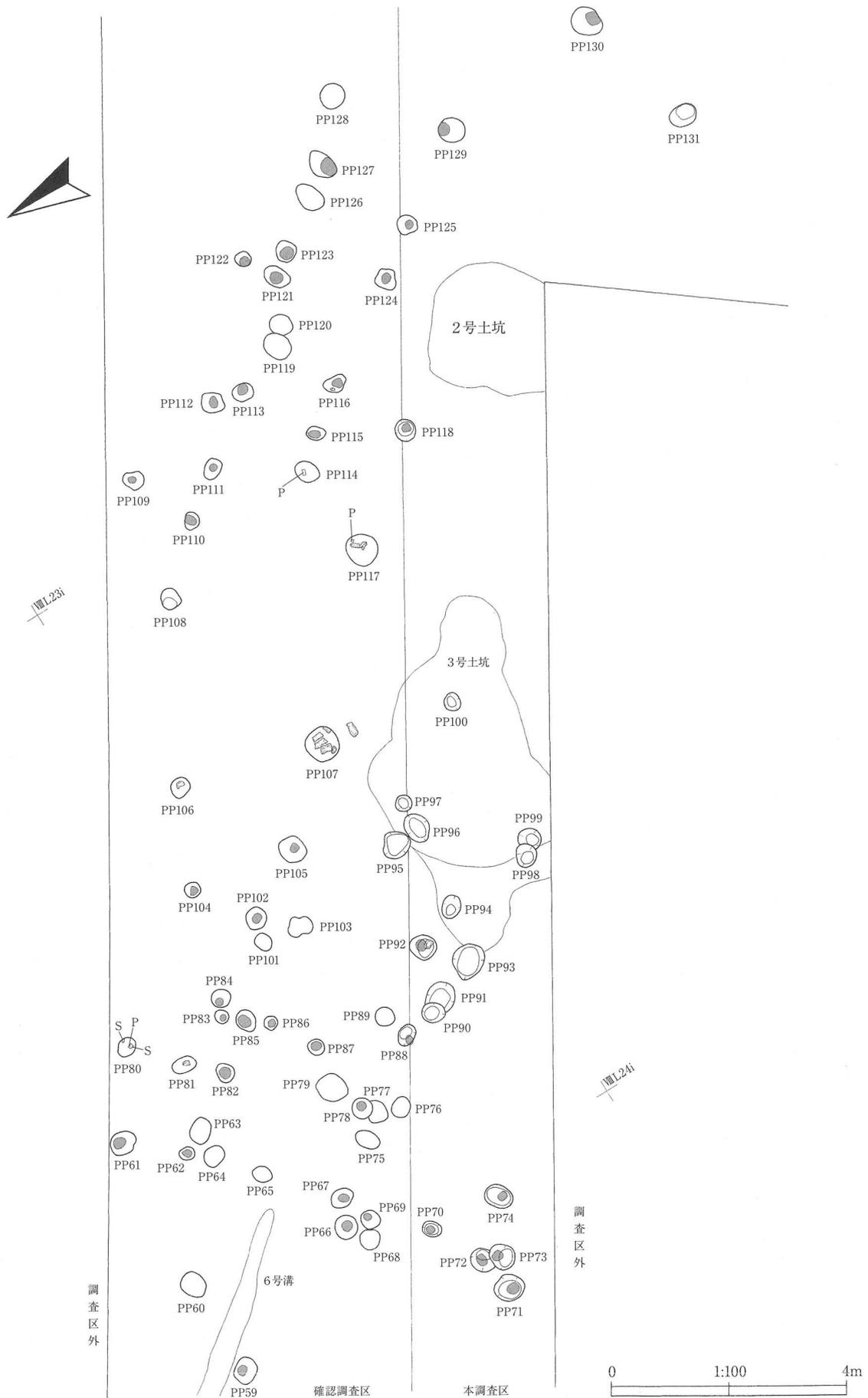
第24図 柱穴状土坑 (PP1~10)



第25図 柱穴状土坑(PP11~22)

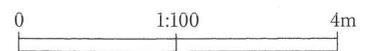
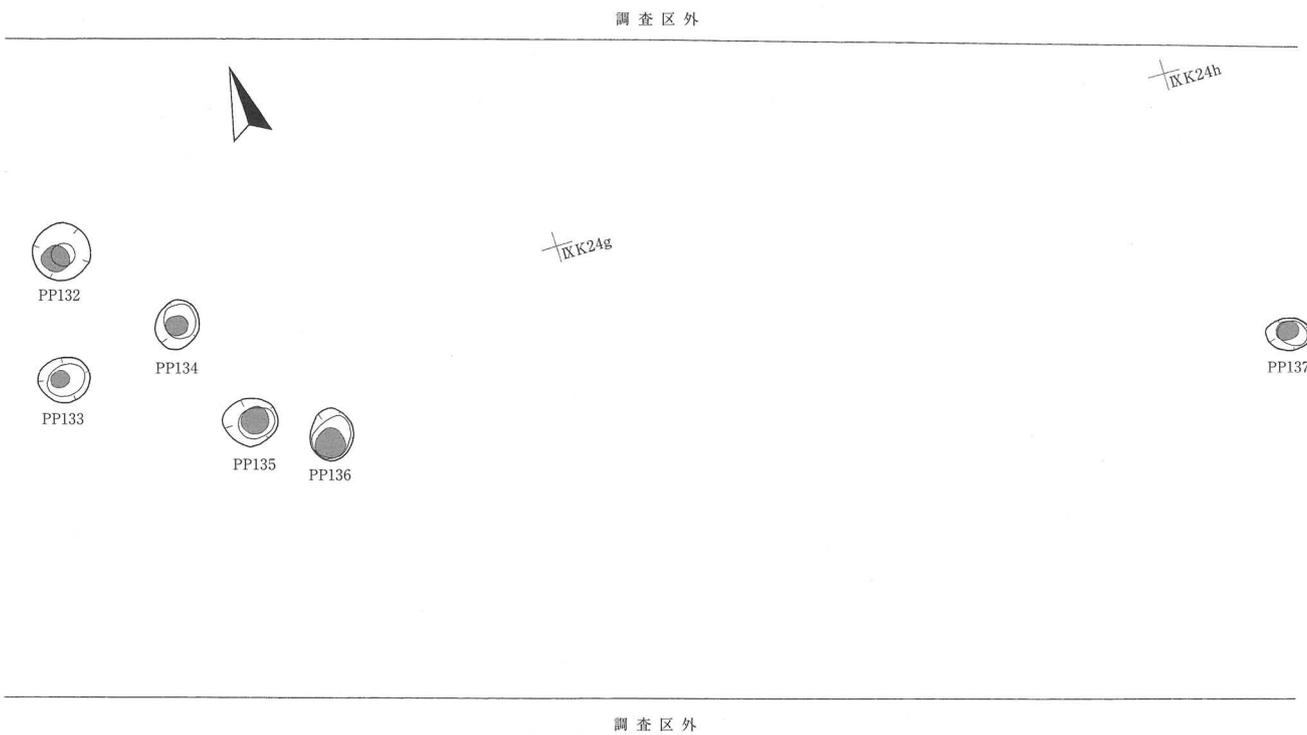
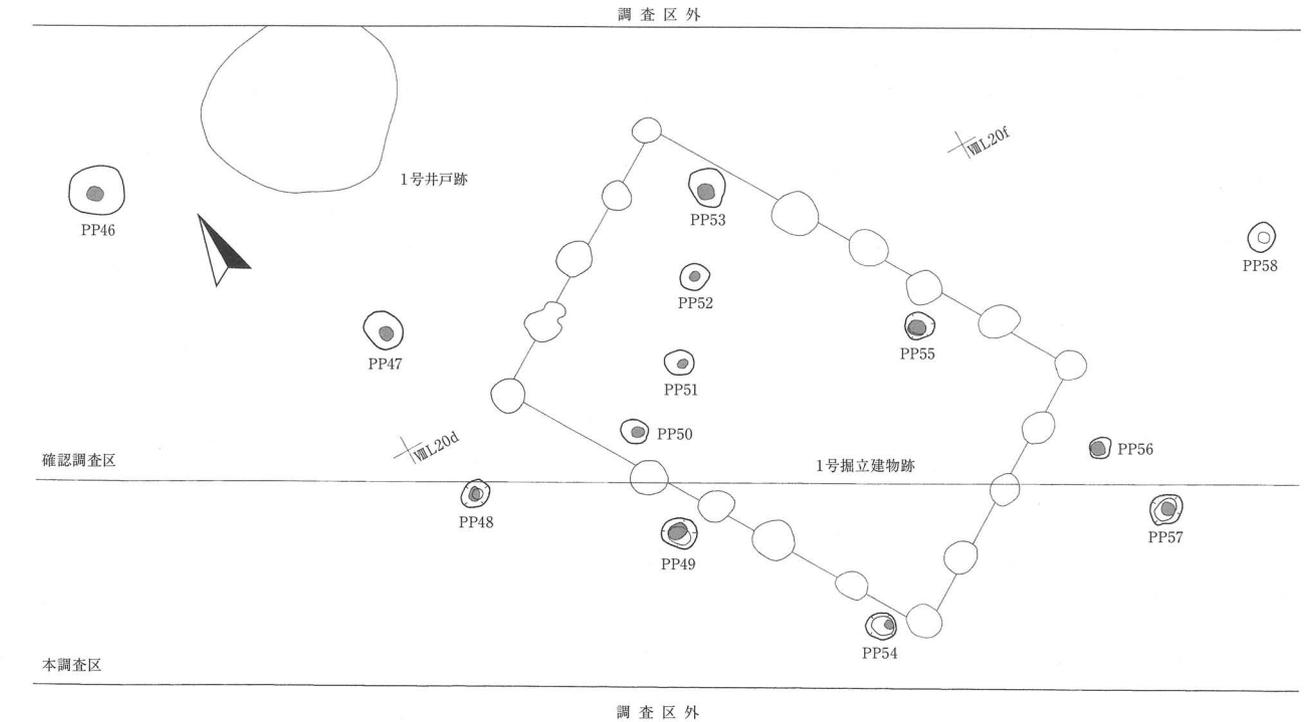


第26図 柱穴状土坑(PP23~45)



第27図 柱穴状土坑(PP59~131)

4 検出した遺構



第28図 柱穴状土坑(PP46~58・132~137)

(7) 性格不明遺構 (第29・30・36図、写真図版15・55・56)

<調査経過> 重機による表土除去時に暗褐色のプランが楕円状に確認され、検出面からは近世陶磁器が見つかったことから、近世遺構と推定し、精査を行った。遺構が調査区外へと広がることから、全体のプランは不明である。また、調査区内の遺構内部からは大きき10～30cmほどの礫が多量出土したが、壁面の立ち上がりが曖昧であったため、礫が出土する範囲をおおよそのプランと考えた。

<位置・検出・重複関係> IXL10・20グリッドを中心に位置し、Ⅲa層で検出した。重複する遺構はない。遺構東側の一部が調査区外へと延びる。

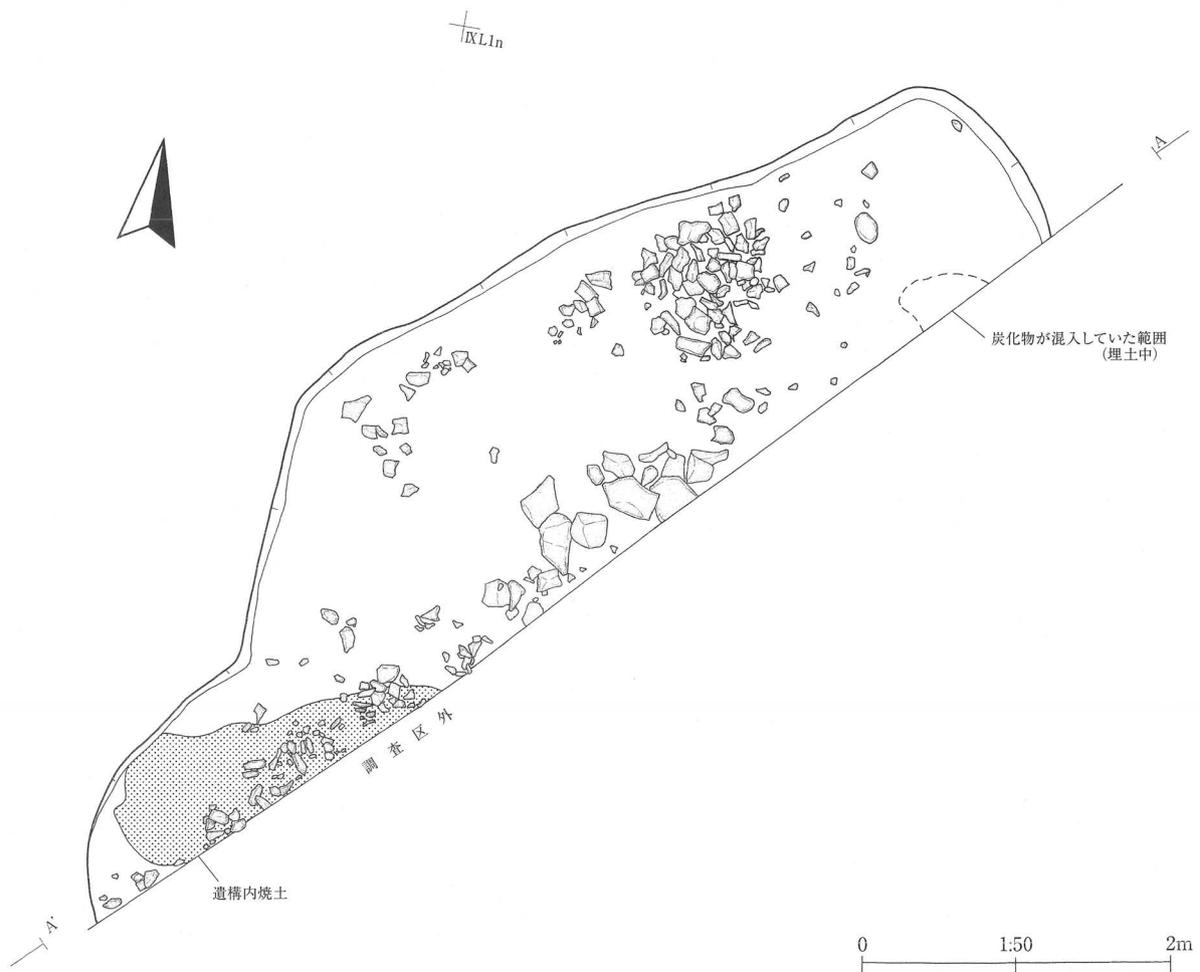
<平面形・規模> 不整な形状で、規模は調査した部分で約7.76×2.14mある。

<埋土> 1～4層は盛土および旧耕作土等で、5～9層が遺構埋土である。主体は暗褐色シルトである。北東側の5・6層中には炭化物が多く含まれるが、本遺構との関連は不明である。

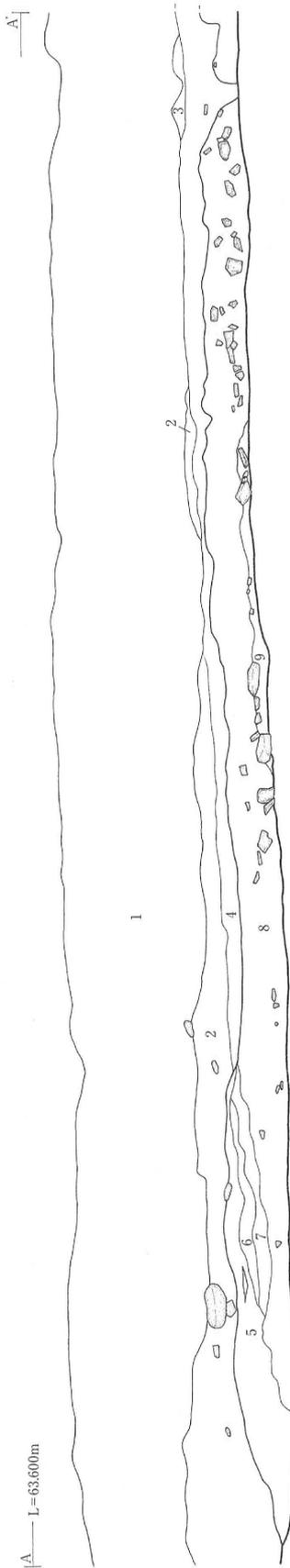
<焼土> 遺構の南西部において約2.20×0.82mの範囲で確認した。土坑状に掘り込まれ、最深部は20cmある。底面と南西側の壁面が強い焼成を受けた痕跡があり、焼土とともに径5～8cmの炭化物片も出土した。検出面には礫が多く、本遺構との関係は不明である。

遺物 陶磁器片(47～49)、石器(50～52)が出土した。石器はいずれも礫出土面と同じレベルからの出土で50・51は磨石、52は砥石である。陶磁器はいずれも埋土から出土した。

時期 出土した遺物から近世以降と考えられる。



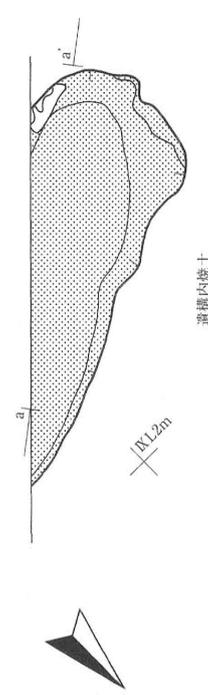
第29図 性格不明遺構(1)



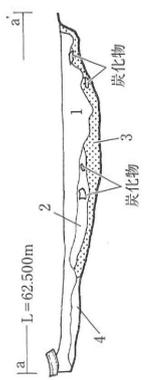
性格不明遺構

A-A' 盛土および田耕作土

- 1~4 粘性なし しまりあり 炭化物をブロック (径7mm厚) で20%含む。赤褐色焼土粒 (2.5YR4/6 径1~5mm大) を1%未満含む。
- 5 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまりあり 径5~30mm大の炭化物粒を60%、赤褐色焼土ブロック (2.5YR4/6 径10mm厚) を1%含む。
- 6 10YR3/3 黒褐色シルト 粘性なし しまりあり 水酸化鉄30%含む。
- 7 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまりあり 径20~30mm大の田礫を40%含む。近世以降の遺物を主に含む。
- 8 10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性なし しまりあり 水酸化鉄を20%含む。赤褐色焼土粒 (2.5YR4/6 径1mm大) を1%含む。
- 9 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまりあり



遺構内焼土

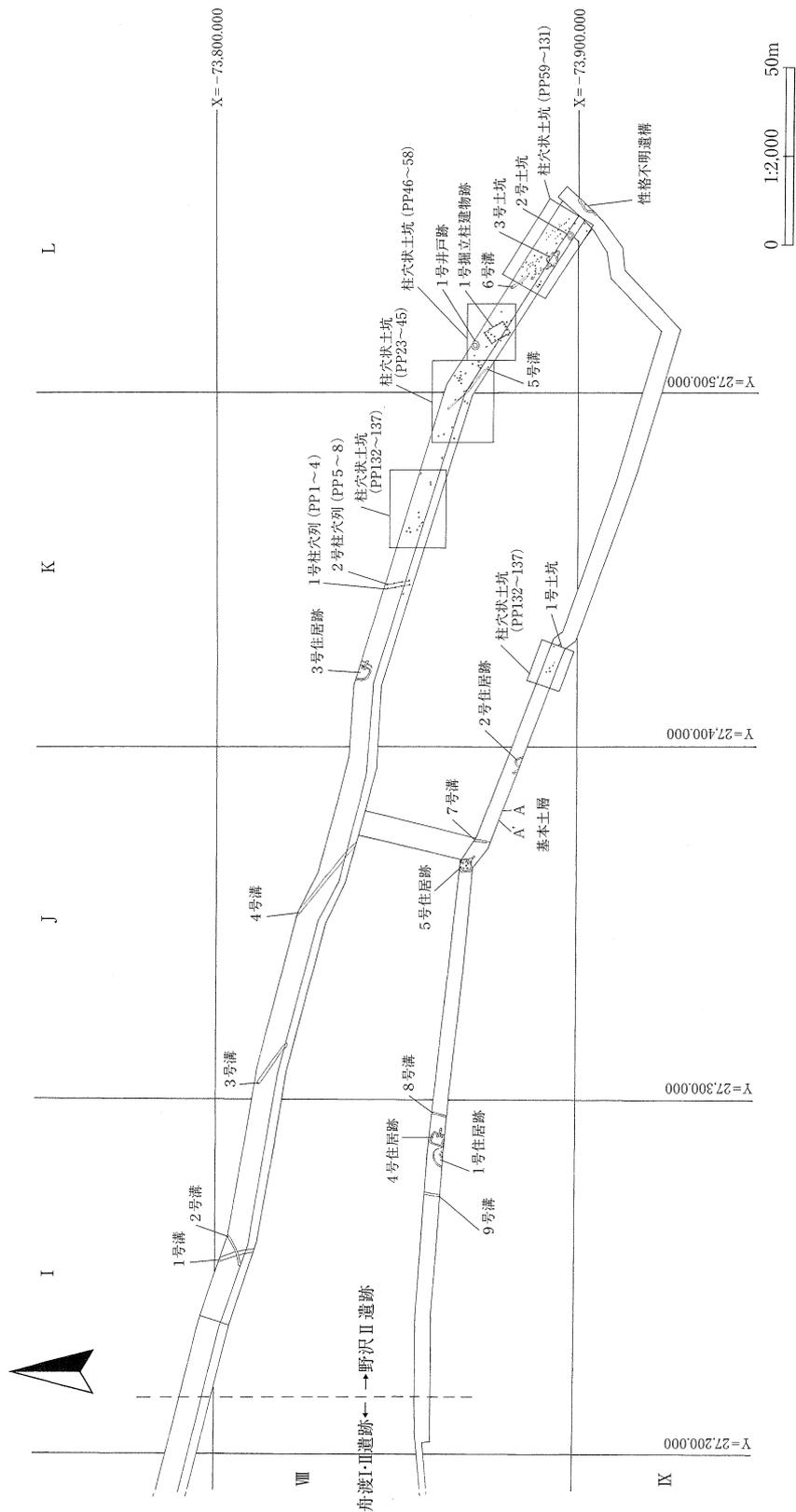


性格不明遺構内焼土

- a-a' 1 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまりあり 赤褐色焼土ブロック (2.5YR4/6 径10~20mm大) を1%未満含む。径5mm大の炭化物粒を7%含む。
- 2 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性ややあり しまりあり 径50mm大の炭化物を1%、赤褐色焼土ブロック (2.5YR4/6) を2%含む。
- 3 5YR3/2 暗褐色シルト 粘性強い しまりややあり 赤褐色焼土ブロック (2.5YR4/6 径30~40mm大) を40%、径30~40mm大の炭化物をブロックで40%含む。
- 4 5YR3/2 暗褐色シルト 粘性なし しまりややあり 赤褐色焼土ブロック (2.5YR4/6 径20mm大) を2%、径5~10mm大の炭化物粒を1%未満含む。



第30図 性格不明遺構(2)



第31图 遺構配置図

5 出土遺物 (第32～39図、写真図版51～56)

縄文・弥生土器

53・54は縄文時代中期の大木8b新式に比定される深鉢の胴部破片でⅧJ18mグリッドから出土した。55は縄文時代後期前半の波状口縁を有する深鉢形土器の口縁部破片である。56・57は縄文時代後期後半の深鉢形土器の口縁部破片で56は口縁上部に大小1個の突起を有し、口縁には平行沈線文間に連続する刻目文が施されている。58は晩期の鉢形土器の口縁部破片と考えられるが、沈線文が浅く、摩滅しており、文様がはっきりしない。59は鉢形土器の口縁部破片で、口縁外面に3条、内面に2条の沈線文が施されている。60は深鉢の胴部破片、61は壺形土器の口縁～胴部破片で62は蓋形台部破片で細い沈線により文様が施されている。63～75はⅨK2o・2p・3p・3qグリッドから集中して出土したもので弥生時代前半に属すると考えられる土器である。46以外は破片で器形全体がわかるものはないが、鉢・浅鉢・高坏・壺などの一部破片と考えられる。

古代土器

76・77以外はすべて遺構内から出土した。器種は土師器坏・甕、須恵器坏・甕・長頸瓶などで坏はすべてロクロ使用によるもので、底部が残存しているものには回転糸切り痕が確認できる。土師器と須恵器の割合は4：6で土師器坏で内面に黒色処理が施されているものは24と高台付坏の17のみである。甕は大半が土師器の長胴甕で、球胴甕は2号住居から出土した破片1点のみである。須恵器は坏が最も多く6点出土している。

石器

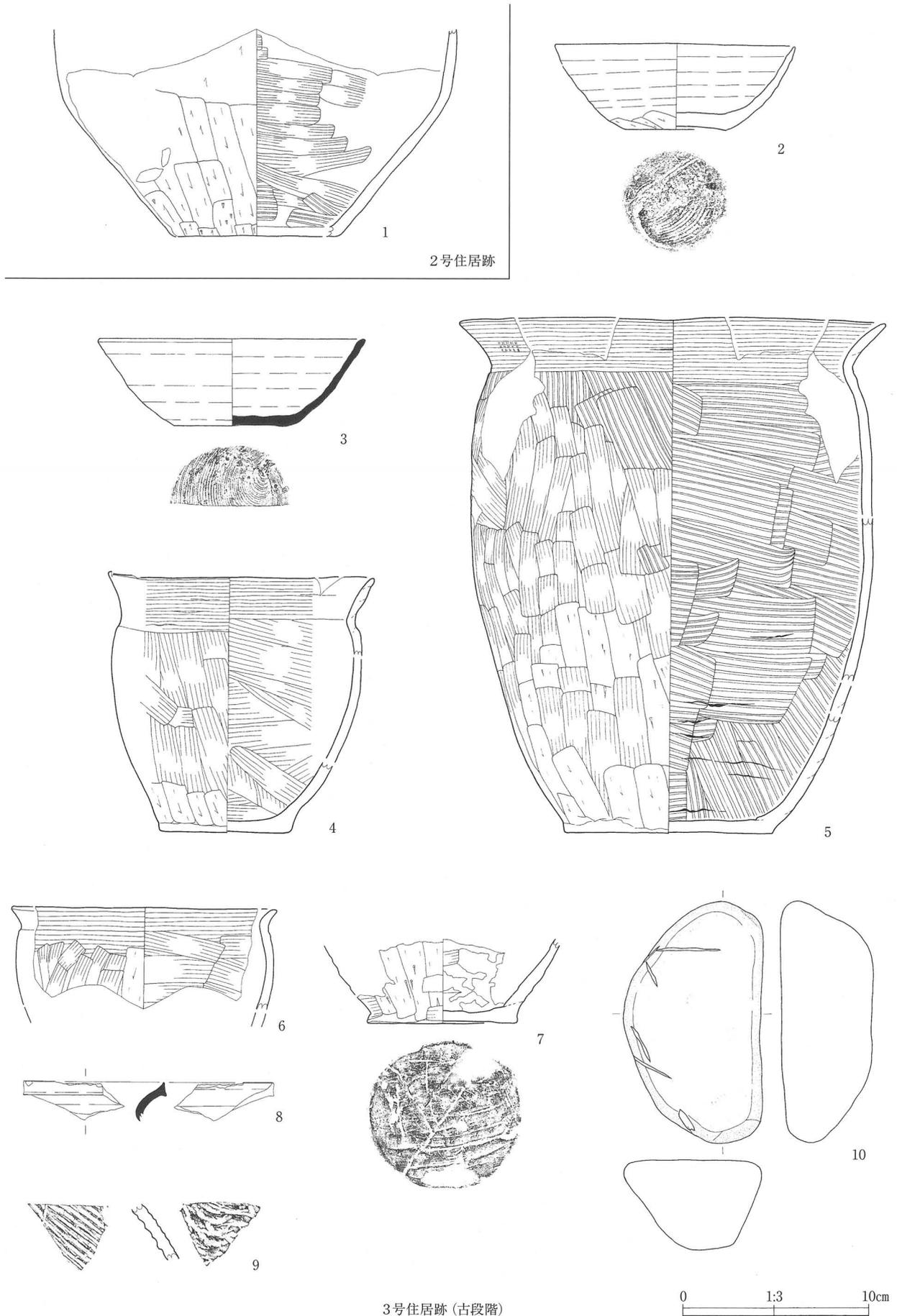
剥片石器はすべて遺構外からの出土で11点、礫石器は遺構内出土のものを中心に10点掲載した。このうち78～83、91・92は弥生土器が集中して出土したⅨK3p・3qグリッドからである。剥片石器の器種は石鏃8点、石匙3点で石材にはすべて奥羽山脈産の頁岩が使用されている。礫石器は砥石・磨石類であるが、石材は砥石がすべて奥羽山脈産のデイサイトで、磨石類は奥羽山脈産のデイサイト・斑岩、北上山地の閃緑岩が使用されている。

石製品

93の1点のみである。垂飾品で滑車状の形状で両側から穿孔した痕跡がある。石材には北上山地産の滑石が使用されている。

陶磁器

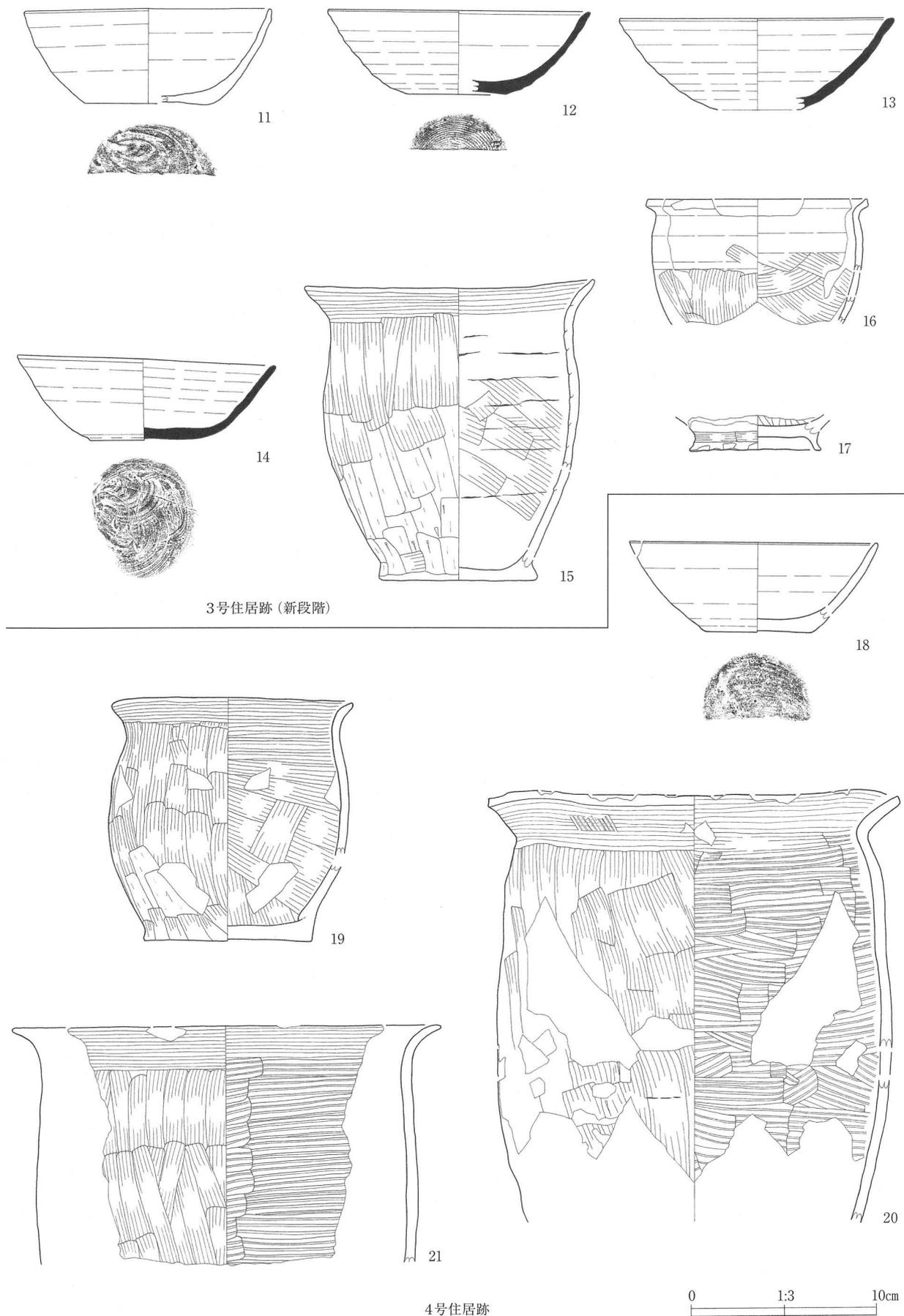
遺構内とその周辺から出土した19点を掲載した。磁器は36・43の2点で肥前産である。陶器は大堀相馬産のものももっとも多く(31～33・42・46～48・94～96)、瀬戸・美濃産や、肥前産のものは少ない傾向にある。45は肥前産の皿で見込みが蛇目釉剥ぎで釉薬には銅緑釉が施されている。



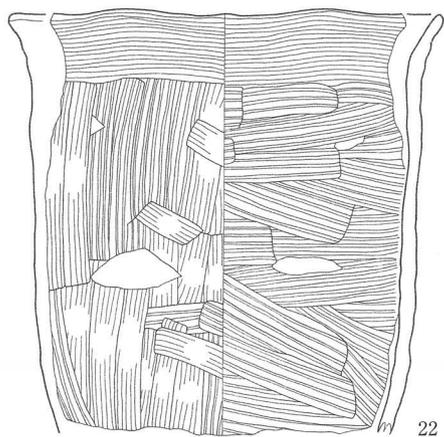
2号住居跡

3号住居跡 (古段階)

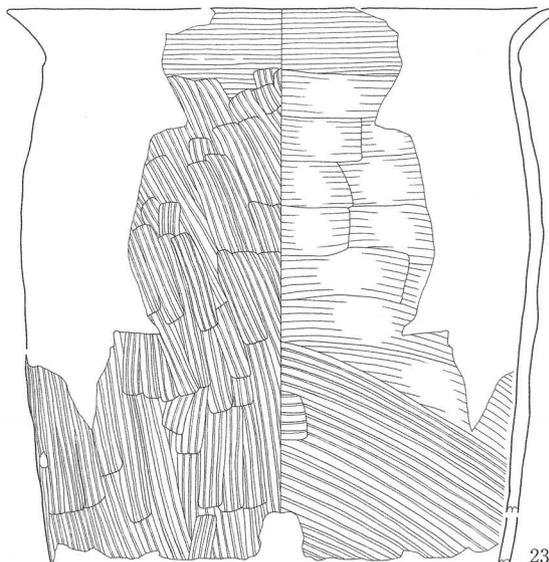
第32図 遺構内出土遺物(1)



第33図 遺構内出土遺物(2)

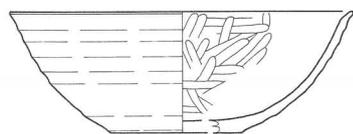


22

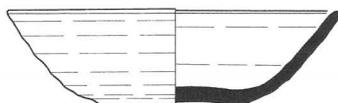


23

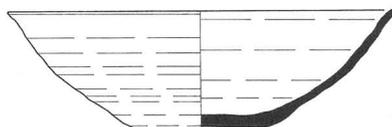
4号住居跡



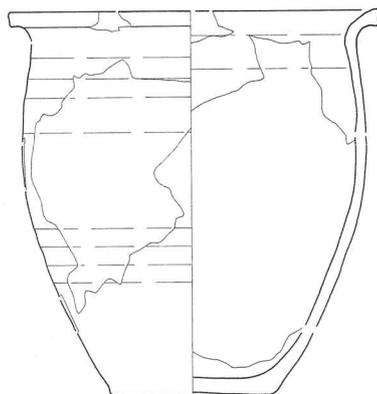
24



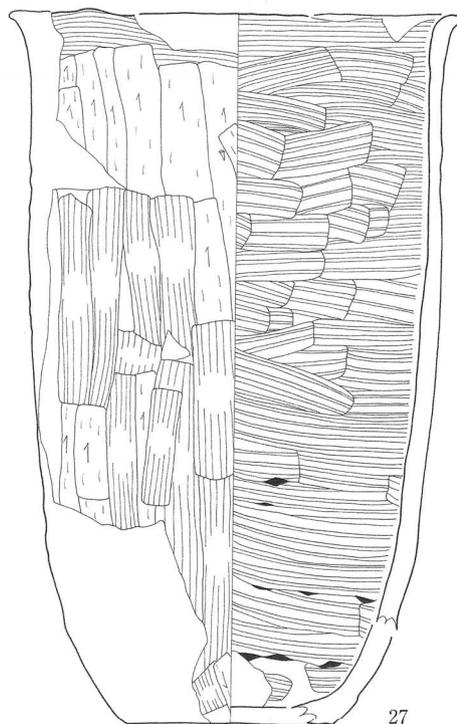
25



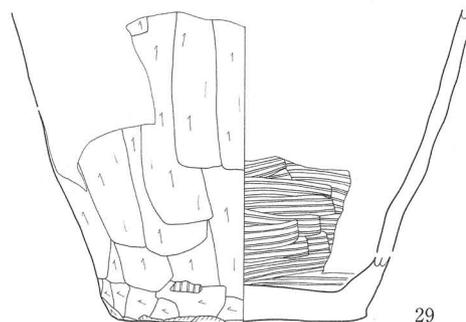
26



28



27

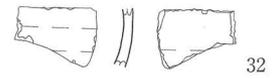
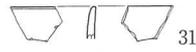
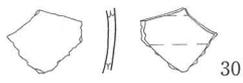


29

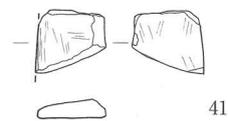
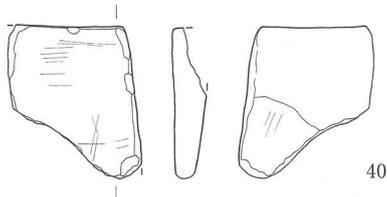
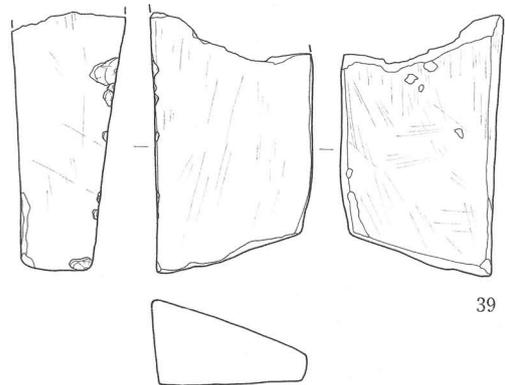
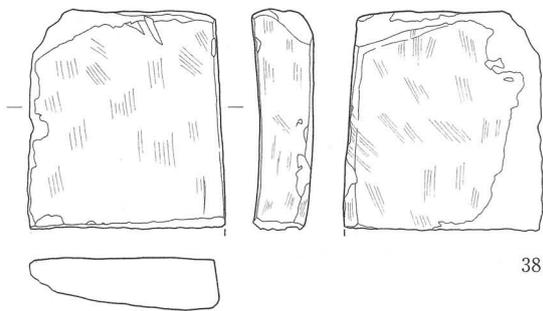
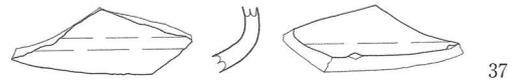
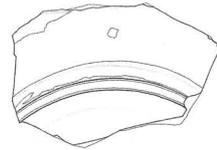
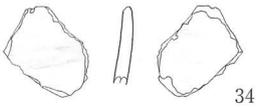
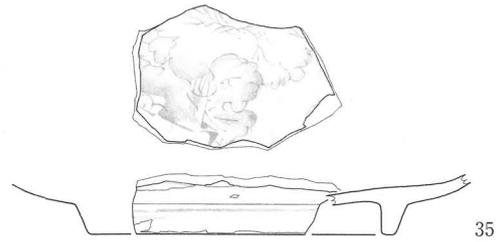
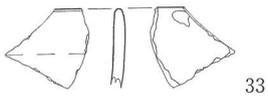
5号住居跡

0 1:3 10cm

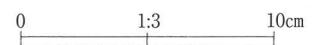
第34図 遺構内出土遺物(3)



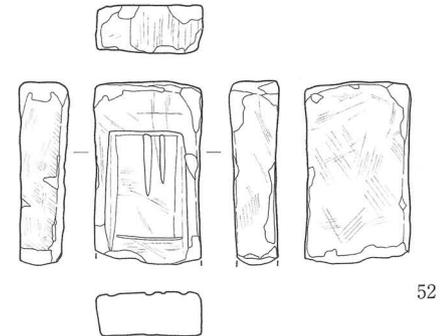
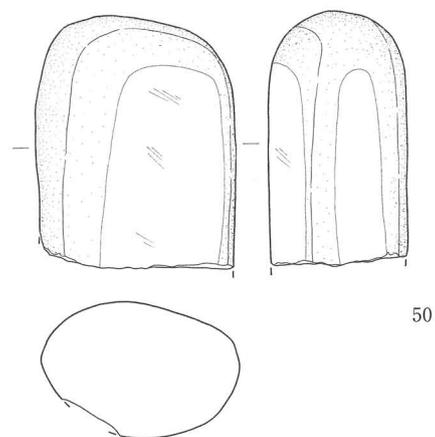
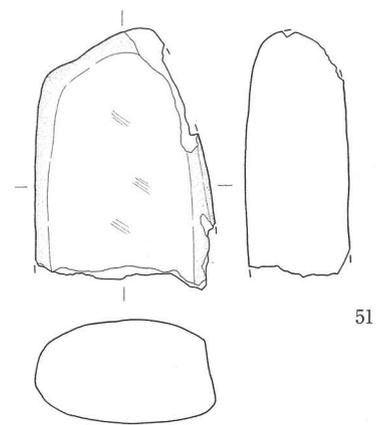
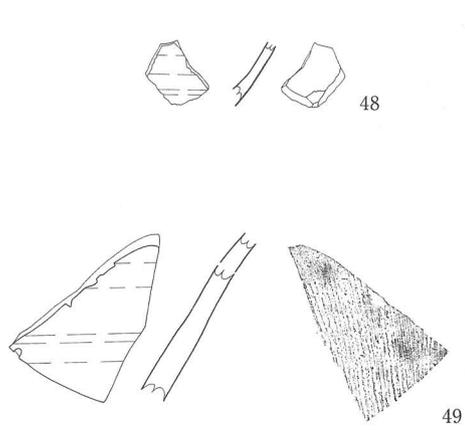
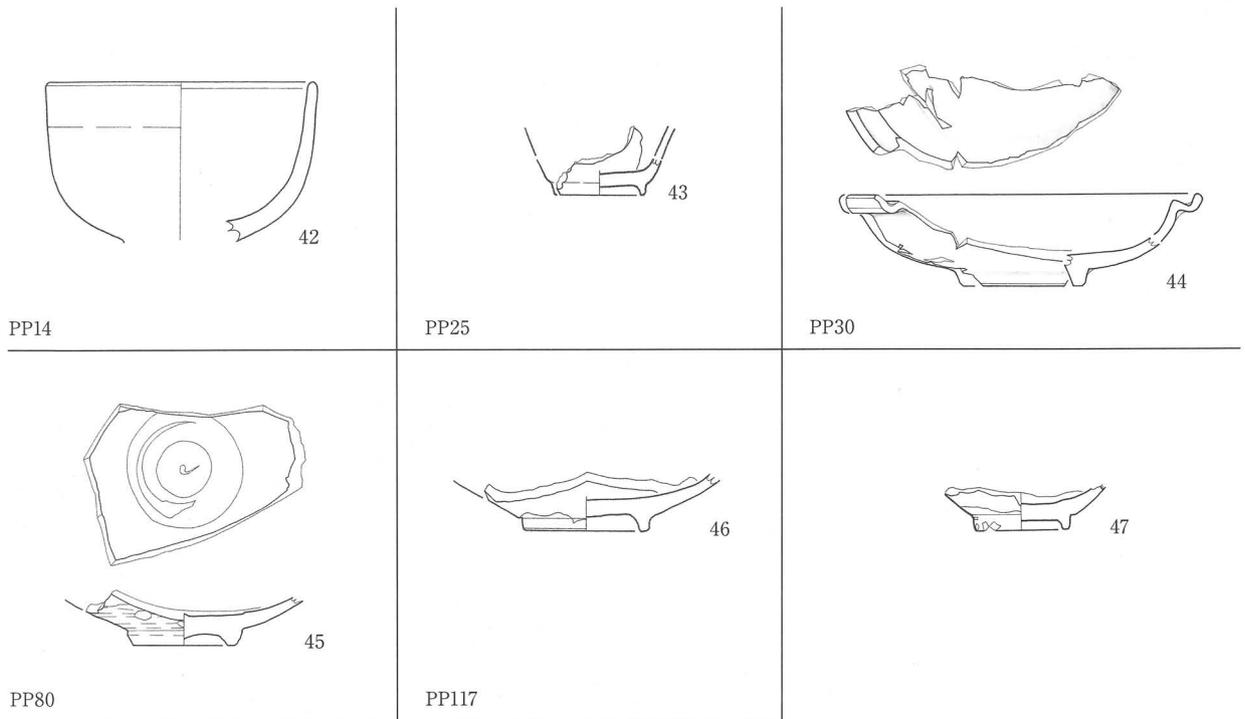
2号土坑



3号土坑



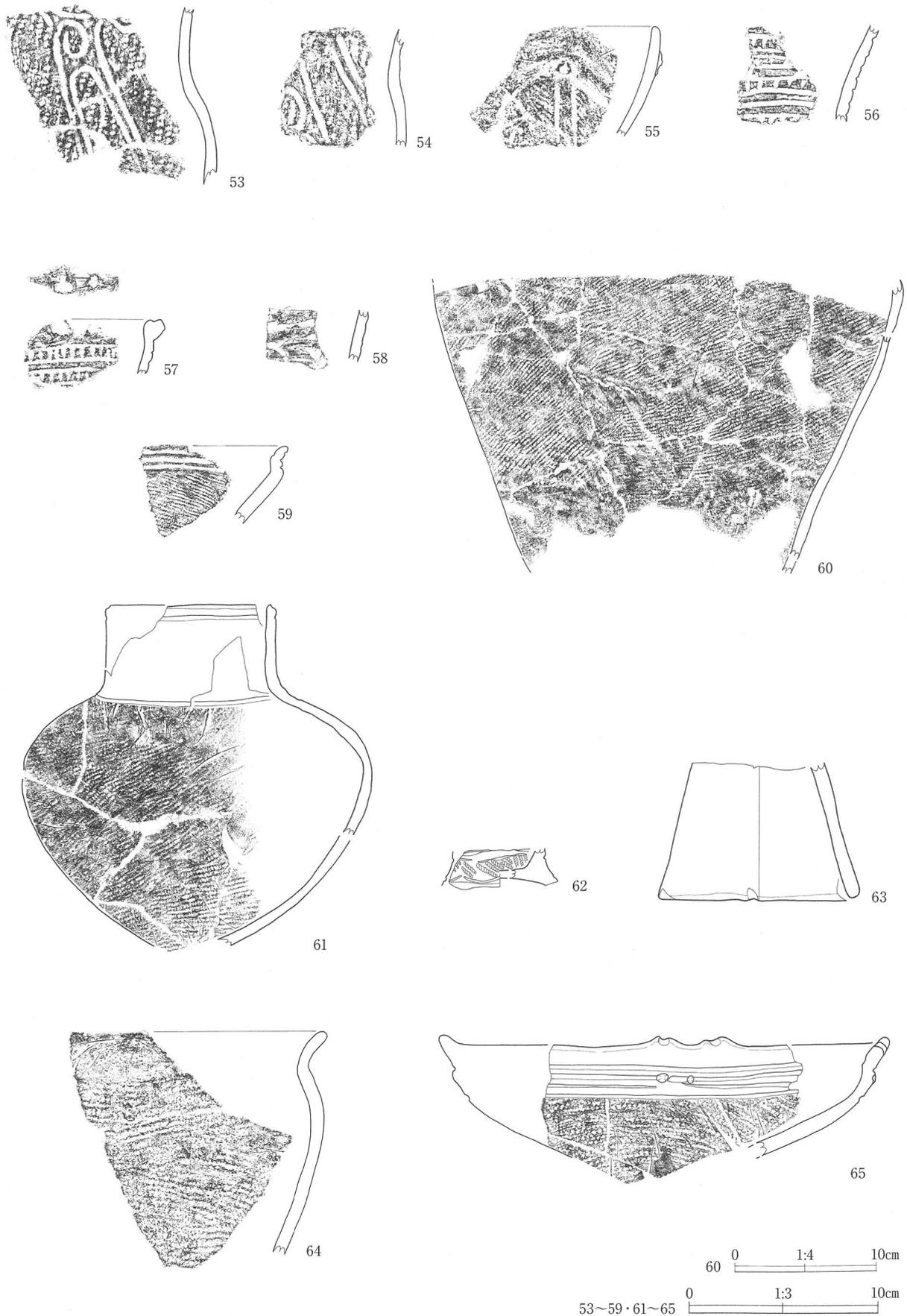
第35図 遺構内出土遺物(4)



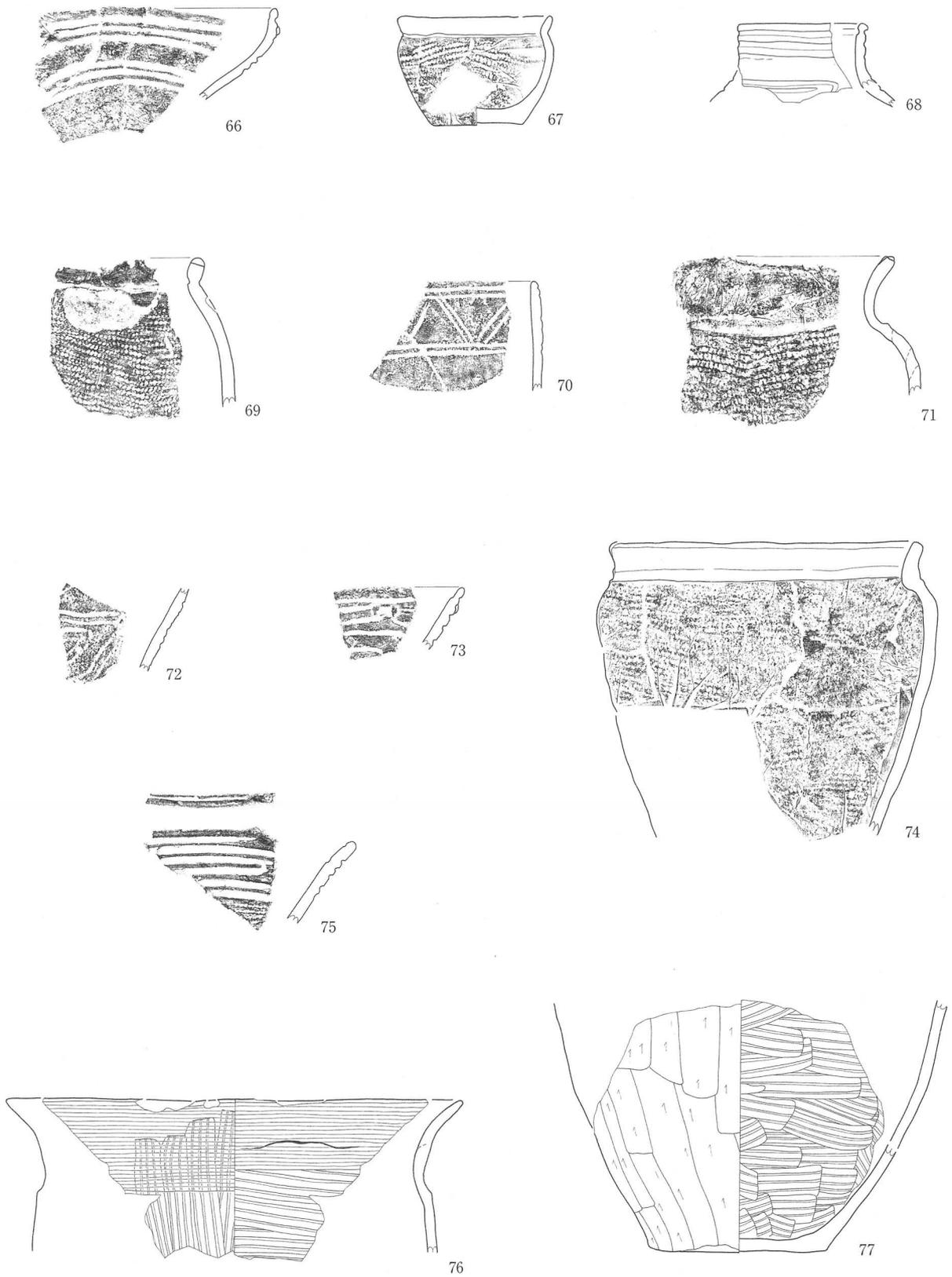
性格不明遺構

0 1:3 10cm

第36図 遺構内出土遺物(5)

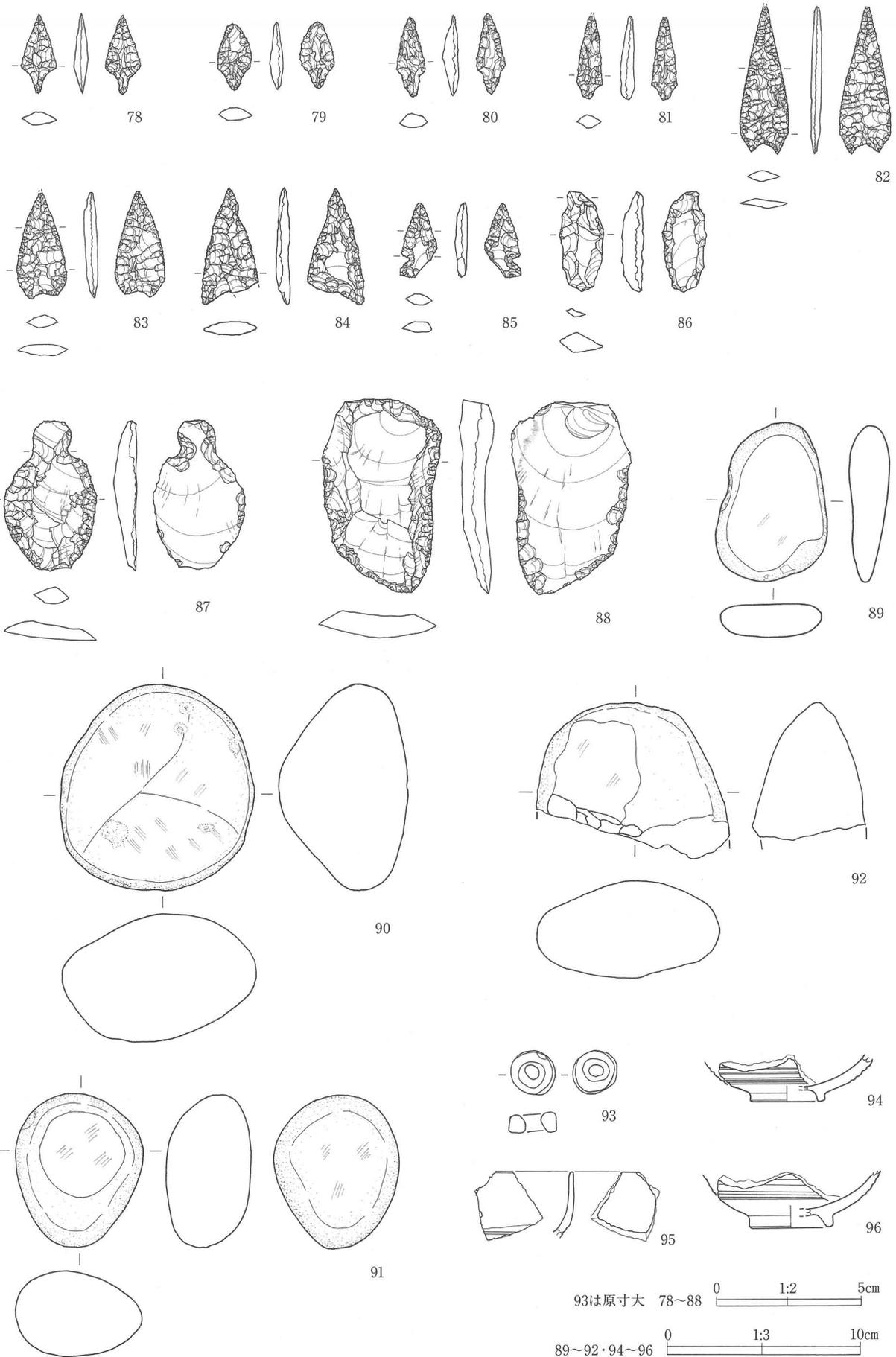


第37図 遺構外出土遺物(縄文・弥生土器)



0 1:3 10cm

第38図 遺構外出土遺物(弥生土器・土師器)



第39図 遺構外出土遺物(石器・石製品・陶器)

第3表 縄文・弥生土器観察表

No	出土地点	層位	器種	部位	外面(文様)	内面(文様・調整)	備考	図版	写真
53	VII J 18 s・18 m	IV層	深鉢	胴部	沈線文、複節斜縄文(RLR)	ミガキ	内面に煤付着	37	54
54	VII J 18 m	IV層	深鉢	胴部	沈線文	ミガキ		37	54
55	VII L 23 i	III層	深鉢	口縁部	波状口縁、沈線文、LR縄文	ナデ		37	54
56	VII J 12 t	III層	深鉢	口縁部	沈線文、刻目文	ミガキ		37	54
57	VII J 12 t	III層	深鉢	口縁部	口縁部突起、沈線文、刻目文	ミガキ		37	54
58	VII I 3 n	I層	鉢	口縁部	貼瘤、沈線文			37	54
59	VII J 17 d	III層	鉢	口縁部	沈線文3条、無節R	ミガキ、沈線2条		37	54
60	VII I 3 u	III層	深鉢	胴部	LR縄文	ミガキ		37	54
61	VII J 21 w	III層	壺	口縁～胴部	口縁頂部沈線文、頸部上端沈線文2条、LR縄文			37	54
62	VII J 18 q	III層	蓋	摘み部	沈線文、LR縄文	ナデ		37	54
63	IX K 2 o	III b層	高坏	台部	無文			37	54
64	IX K 2 p	III b層	深鉢	口縁～胴部	口縁部無文、胴部LR縄文	ナデ		37	54
65	IX K 2 p	III b層	浅鉢	口縁～胴部	頂部二股突起2個、口縁部沈線文、交叉部貼瘤、LR縄文	ミガキ、沈線1条		37	54
66	IX K 2 p	III b層	浅鉢	口縁～胴部	沈線文3単位	沈線1条		38	54
67	IX K 2 p	III b層	鉢	口縁～底部	沈線文、LR縄文	ナデ		38	54
68	IX K 3 p	III b層	壺	口縁部	沈線文	ナデ、沈線1条		38	54
69	IX K 3 p	III b層	鉢	口縁～胴部	口縁部二股の突起、口縁・胴部間に浅い沈線文、LR縄文	ミガキ、沈線1条	内面に煤付着	38	54
70	IX K 3 p	III b層	壺	口頸部	口縁部沈線2本単位	ミガキ		38	54
71	IX K 3 p	III b層	深鉢	口縁部	口縁部二股の突起、RL縄文	ナデ		38	54
72	IX K 3 p	III b層		口縁部	沈線文2単位	ナデ		38	54
73	IX K 3 q	III b層	浅鉢	口縁	沈線文、交叉部刺突	ミガキ、沈線1条		38	54
74	IX K 3 q	III b層	鉢	口縁～胴部	LR縄文	ミガキ		38	54
75	IX K 3 q	III b層	浅鉢	口縁部	頂部・口縁部沈線文、胴部LR縄文	ミガキ、沈線2条		38	54

第4表 古代土器観察表

No.	出土地点	層位	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整	内面調整	底部	備考	図版	写真
1	2号住	埋土中～下位	土師器	甕	胴～底部			(11.5)	胴:ケズリ	ハケメ、ナデ			32	51
2	3号住(古)	カマド煙道部底面	土師器	坏	口縁～底部	(13.2)	5.7	5.7	ロクロナデ、下端はケズリ	ロクロナデ	回転糸切痕		32	51
3	3号住(古)	床面	須恵器	坏	口縁～底部	(12.6)	(6.2)	4.8	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切痕		32	51
4	3号住(古)	カマド床面	土師器	甕	口縁～底部	14.3	7.1	14.3	口:ヨコナデ、胴:ナデ、ケズリ	口:ヨコナデ、胴:ナデ	ケズリ		32	51
5	3号住(古)	床面、カマド燃焼部・袖部	土師器	甕	口縁～底部	(23.0)	11.3	28.9	口:ハケメ→ヨコナデ、胴:ケズリ、ナデ	口:ヨコナデ、胴:ハケメ	ケズリ		32	51
6	3号住(古)	貼床、カマド煙道部底面	土師器	甕	口縁部	(14.3)		(6.4)	口:ヨコナデ、胴:ナデ、ケズリ	口:ヨコナデ、胴:ナデ			32	51
7	3号住(古)	床面、貼床土	土師器	甕	胴～底部		8.1	(4.7)	ケズリ、ナデ	ナデ	ケズリ	底部外面に木葉痕	32	51
8	3号住(古)	貼床土	須恵器	壺?	口縁部				ロクロナデ	ロクロナデ			32	51
9	3号住(古)	貼床土	須恵器	甕	胴部				タタキメ	アテダ			32	51
11	3号住(新)	埋土下部	土師器	坏	口縁～底部	(13.2)	(6.8)	5.2	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切痕		33	51
12	3号住(新)	北側カマド?付近一拵、床面	須恵器	坏	口縁～底部	(14.1)	(5.3)	4.5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切痕		33	52
13	3号住(新)	床面、埋土4層	須恵器	坏	口縁～胴部	(14.8)		(5.0)	ロクロナデ	ロクロナデ			33	52
14	3号住(新)	埋土1層	須恵器	坏	口縁～底部	13.9	5.8	4.7	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切痕、三又状の刻線	底部外面に赤色付着物	33	52
15	3号住(新)	北側カマド?付近一拵、床面	土師器	甕	口縁～底部	15.6	9.0	16.5	口:ヨコナデ、胴:ナデ、下半ケズリ	口:ヨコナデ、胴:ナデ	ケズリ		33	52
16	3号住(新)	埋土1層	土師器	甕	口縁～胴部	(12.2)		(7.0)	口:ロクロナデ、胴:ナデ	ナデ			33	52
17	3号住(新)	埋土1層	土師器	高台付坏	台部		7.1	(1.9)	ナデ	黒色処理/ミガキ			33	52
18	4号住	東壁際の床面	土師器	坏	口縁～底部	(13.4)	5.7	4.9	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切痕		33	52
19	4号住	カマド燃焼部、南側壁溝内、P1埋土	土師器	甕	口縁～底部	13.2	8.8	13.2	口:ヨコナデ、胴:ケズリ、ナデ	口:ヨコナデ、胴:ナデ	ケズリ		33	52
20	4号住	カマド燃焼部付近床面、カマド内、貼床土	土師器	甕	口縁～胴部	21.4		(24.6)	口:ハケメ→ヨコナデ、胴:ケズリ、ナデ	口:ヨコナデ、胴:ハケメ			33	52
21	4号住	P1埋土壁部	土師器	甕	口縁～胴部	(23.1)		(12.9)	口:ヨコナデ、胴:ナデ	口:ヨコナデ、胴:ハケメ			33	52
22	4号住	P1埋土壁部	土師器	甕	口縁～胴部	(17.0)		(17.0)	口:ヨコナデ、胴:ハケメ→ナデ	口:ヨコナデ、胴:ハケメ			34	53
23	4号住	P1埋土壁部、貼床	土師器	甕	口縁～胴部	(21.6)		(22.2)	口:ヨコナデ、胴:ハケメ	メ			34	53
24	5号住	カマド燃焼部、検出～埋土	土師器	坏	口縁～底部	(13.8)	(5.0)	4.9	ロクロナデ	黒色処理/ミガキ	回転糸切痕		34	53
25	5号住	カマド燃焼部、床面、焼土1、貼床土	須恵器	坏	口縁～底部	13.1	5.7	3.8	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切痕		34	53
26	5号住	埋土下位、検出～埋土	須恵器	坏	口縁～底部	(15.2)	(5.2)	4.6	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切痕		34	53
27	5号住	カマド燃焼部付近、床面、P1底面	土師器	甕	口縁～底部	(17.0)	(8.0)	28.4	口:ヨコナデ、胴:ケズリ→ナデ	口:ヨコナデ、胴:ハケメ			34	53
28	5号住	カマド燃焼部付近、底面、焼土2	土師器	甕	口縁～底部	14.5	6.4	15.3	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切痕		34	53

第4表 古代土器観察表

No	出土地点	層位	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整	内面調整	底部	備考	図版	写真
29	5号住	カマド燃焼部、カマド内、埋土下位～床面	土師器	甕	胴部～底部		10.0	(12.6)	ケズリ・ハケメ	ハケメ	ナデ		34	53
76	ⅧK23c	Ⅲ層	土師器	甕	口縁部	(23.0)		(8.2)	口：ハケメ→ヨコナデ、胴：ケズリ→ハケメ	ハケメ		77と同一個体か	38	54
77	ⅧK23c	Ⅲ層	土師器	甕	胴～底部		9.0	(12.8)	ケズリ	ハケメ		76と同一個体か	38	54

※()は口径・底径が推定値、器高は残存値

第5表 石器観察表

No	器種	出土地点	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質・産地・時代	備考	図版	写真
10	磨石	3号住(古)	床面	17.6	10.2	6.6	1592.73	斑岩 奥羽山脈 新生代新第三紀		32	55
38	砥石	3号土坑	埋土	8.9	7.9	2.4	261.53	デイサイト 奥羽山脈 新生代新第三紀		35	55
39	砥石	3号土坑	埋土	10.4	6.4	4.4	306.33	デイサイト 奥羽山脈 新生代新第三紀		35	55
40	砥石	3号土坑	埋土	6.1	5.3	1.3	45.07	デイサイト 奥羽山脈 新生代新第三紀		35	55
41	砥石	3号土坑	埋土	2.5	2.8	0.8	6.94	デイサイト 奥羽山脈 新生代新第三紀		35	55
50	磨石	性格不明遺構	埋土	10.2	7.9	5.5	626.98	デイサイト 奥羽山脈 新生代新第三紀		36	55
51	磨石	性格不明遺構	埋土	10.4	7.0	4.1	464.45	閃緑岩 北上山地 中生代白亜紀		36	55
52	砥石	性格不明遺構	埋土	7.3	4.2	2.0	107.08	デイサイト 奥羽山脈 新生代新第三紀		36	55
78	石鏃	IX K 3 p	Ⅲ層	2.73	1.27	0.47	1.01	頁岩 奥羽山脈 新生代新第三紀	弥生時代	39	55
79	石鏃	IX K 3 p	Ⅲ層	2.32	1.18	0.47	1.05	頁岩 奥羽山脈 新生代新第三紀	〃	39	55
80	石鏃	IX K 3 p	Ⅲ層	2.80	0.96	0.55	1.08	頁岩 奥羽山脈 新生代新第三紀	〃	39	55
81	石鏃	IX K 3 q	Ⅲ層	(2.89)	0.89	0.55	0.94	頁岩 奥羽山脈 新生代新第三紀	〃	39	55
82	石鏃	IX K 3 q	Ⅲ層	(5.17)	1.69	0.42	2.85	頁岩 奥羽山脈 新生代新第三紀	〃	39	55
83	石鏃	IX K 3 p	Ⅲ層	(3.73)	1.69	0.44	2.55	頁岩 奥羽山脈 新生代新第三紀	〃	39	55
84	石鏃	Ⅷ J 6 h	Ⅲ層	4.05	(2.06)	0.46	3.07	頁岩 奥羽山脈 新生代新第三紀	〃	39	55
85	石鏃	Ⅷ J 21 x	Ⅲ層	2.60	(1.34)	0.43	1.17	頁岩 奥羽山脈 新生代新第三紀	〃	39	55
86	石匙	Ⅷ H 16i	カクラン	3.52	1.50	0.76	4.12	頁岩 奥羽山脈 新生代新第三紀	〃	39	55
87	石匙	Ⅷ I 16 t	Ⅲ層下	5.27	3.19	0.79	10.20	頁岩 奥羽山脈 新生代新第三紀	〃	39	55
88	石匙	Ⅷ J 21 x	Ⅲ層	(6.88)	4.18	1.20	30.30	頁岩 奥羽山脈 新生代新第三紀	〃	39	55
89	磨石	Ⅷ J 17 j	Ⅲ層	8.4	5.9	2.1	133.78	デイサイト 奥羽山脈 新生代新第三紀	〃	39	55
90	磨石	Ⅷ L 23 j	Ⅲ層下	10.9	10.0	6.8	949.37	斑岩 奥羽山脈 新生代新第三紀	〃	39	55
91	磨石	IX K 3 p	Ⅲ層下	8.1	6.5	4.5	289.84	デイサイト 奥羽山脈 新生代新第三紀	弥生	39	55
92	磨石	IX K 3 p	Ⅲ層	8.2	10.1	5.8	505.38	斑岩 奥羽山脈 新生代新第三紀	〃	39	55

※()は残存値

第6表 石製品観察表

No	器種	出土地点	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	滑石	北上山地	石質・産地・時代	備考	図版	写図
93	石製品 (玉類)	IX K 3 p	Ⅲ b 層	0.80	0.79	0.35	0.33			中生代白亜紀		39	55

第7表 陶磁器観察表

No	出土地点	層位	器種	種類	胎土	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	釉薬	産地・時期	備考	図版	写図
30	2号土坑	2層		陶器	灰白色				灰釉	大堀相馬 18C		35	56
31	2号土坑	2層	碗	陶器	灰白色				灰釉	大堀相馬 18C		35	56
32	2号土坑	2層	碗	陶器	灰白色				灰釉	大堀相馬 18C		35	56
33	3号土坑	埋土	碗	陶器	淡黄色				灰釉	大堀相馬 18C		35	56
34	3号土坑	埋土	碗	陶器	浅黄澄色					不明		35	56
35	3号土坑	埋土	皿	陶器	灰色	(11.8)		(2.3)				35	56
36	3号土坑	埋土	碗	磁器	白色				染付	肥前		35	56
37	3号土坑	埋土下位	腰折形・碗	陶器	浅黄色				灰釉	瀬戸・美濃 18C 中～後葉		35	56
42	PP14	検出面	半球形・碗	陶器	浅黄澄～灰色				薬灰釉	大堀相馬?		36	56
43	PP25	検出面	猪口	磁器	灰白色	(3.5)		(2.8)		17C代?		36	56
44	PP30	検出面	皿	陶器	灰白色	(14.3)		3.6	透明釉	不明		36	56
45	PP80	検出面	皿	陶器	灰色	4.0		(2.2)	灰釉 / 銅緑釉	佐賀県野産 17C末～18C前	見込純目釉剥ぎ	36	56
46	PP117	検出面	皿	陶器	灰白色	5.0		2.3	透明釉	大堀相馬 18C		36	56
47	性格不明遺構	埋土上位	碗	陶器	浅黄澄色	3.6		(1.7)	透明釉	大堀相馬 18C		36	56
48	性格不明遺構	埋土上位	碗	陶器	灰白色							36	56
49	性格不明遺構	埋土上位	搦鉢	陶器	褐灰色							36	56
94	Ⅷ J16 q	Ⅲ層	碗	陶器	灰白色	(3.9)		(2.5)	灰釉 / 鉄釉	大堀相馬 18C		39	56
95	Ⅷ L25 n	Ⅲ層	碗	陶器	灰白色				灰釉 / 鉄釉	大堀相馬 18C		39	56
96	Ⅸ L 2 1	Ⅲ層	碗	陶器	灰白色				灰釉 / 鉄釉	大堀相馬 18C		39	56

※ () は口径・底径が推定値、器高は残存値

6 ま と め

本遺跡は北上市更木地内に所在し、北上川左岸の微高地に立地している。周知の遺跡の範囲は北西－南東に長く、約340×150mの範囲である。標高は63～64mで、現況は水田・畑を主とし、集落が散在する。

今回の調査で明らかになった事項を各時期ごとに本文中の補足も兼ねて述べていきたい。

縄文・弥生時代

縄文時代の遺物は中期～晩期のものが調査区全体に散見するものの、量は少ない。縄文時代の遺構は今回の調査では検出されていないが、昨年度の野沢Ⅱ遺跡や北側に隣接する戸桜遺跡の調査では土坑や陥し穴などが見つかり、遺跡周辺が生活に利用されていた場所であることは明らかであるが、今回の調査で集落は確認できなかった。弥生時代の遺構は竪穴住居跡1棟（1号住居跡）、土坑1基（1号土坑）が検出している。遺物は昨年度の調査や隣接する舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡でも見つかり、住居跡自体は本文中でも述べたとおり、炉が検出されるまで、プランを認識できなかったため、遺構のプラン自体は極めて曖昧となってしまったが、集落の存在を確認できたことは弥生時代の様相を知る上で貴重な発見となった。遺物については遺構のある南側から、量は多くはないが、1箇所に集中して出土する傾向にあり、これは順次調査を行った舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡の調査結果でも同様であり、遺物が出土する場所の周辺に集落が点在していた可能性が高い。また、弥生土器が出土する場所は旧河道（沢）の縁部やその周辺に多く、これらの場所が後世の造成工事で地形改変の影響を受けづかったために遺構や遺物が残存していたこともあるが、古代の竪穴住居が立地する場所も同様の傾向にあることから意図的にこれらの場所を選定し、活用していた可能性が考えられる。

古代

今回の調査で検出した遺構は竪穴住居跡4棟、溝跡1条であり、3号住居以外はいずれも調査区南側から検出されている。住居はいずれも方形で規模は3.5～4.5m、それぞれにカマドが1基付設されている。カマドが構築された場所は東壁が2棟、南東隅が1棟、北西壁が1棟で他に3号住居（新）では北壁に構築されていた痕跡があった（ただし、調査区外へと延びるため確認は行っていない）。カマドの構造はいずれの住居でも袖部は地山混じりの土を持ち込み貼りつけて作り、芯材に細長い形状をした礫を使用している。煙道部は先に掘った煙出の穴に向かって、くり貫き式（トンネル式）で掘られるが、煙出部に向かい傾斜して下っている。検出遺構数が少ないことから時期的な相違や法則性までは明らかにはできなかった。時期は2号住居は一部調査のためはっきりしないが、出土した遺物の特徴から8世紀代の可能性が考えられるが、3～5号住居は遺物の特徴から9世紀後半頃で、5号住居の埋土中位には十和田a降下火山灰が混入していた。また、3号住居には床が2面あり、建て替えによる使用が確認できた。住居以外では7号溝が遺物は出土していないが、検出状況から古代に属すると判断した。

総じて昨年度調査を行った遺跡の北側の調査成果と類似しており、昨年度調査で見つかったロクロピットや焼成遺構などの特徴的な遺構は見つからなかったものの、竪穴住居が点在して見つかる状況や時期などは同じ傾向にあるといえる。

近世（以降含む）

近世以降の遺構は掘立柱建物跡1棟、溝跡8条、井戸跡1基、土坑2基、柱穴状土坑137個、性格不明遺構1基が検出されている。溝は調査区全体に見られるが他の遺構は主に調査区北東部に集中している。掘立柱建物跡・土坑・性格不明遺構とその周辺にある柱穴状土坑は、出土した陶磁器から18～19世紀代に属すると考えられる。

総括

昨年から行った発掘調査では遺跡全体の約40%（ただし調査は遺跡隣接地も含む）にあたる15,813㎡の調査が実施され、その結果、遺跡の主体は古代（9世紀後半）にあり、遺跡範囲の東側半分は遺構や遺物が集中し、竪穴住居は北東縁部～南端部に点在し、周知の遺跡範囲より、さらに広がっていることが判明した。その他の時代については縄文時代は狩猟場および遺物散布地にとどまり、弥生時代は住居跡や遺物が見つかることから集落の存在が窺えるが、今回の調査でその全容は明らかにできなかった。中世は遺構・遺物はなく空白時期で、江戸時代に入り北上川の開発が進み、再びこの地が居住に利用されるようになったと考えられる。

参考文献

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

2010『野沢Ⅰ遺跡・野沢Ⅱ遺跡・戸桜遺跡・舟渡Ⅰ遺跡発掘調査報告書』（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第567集）

2008『市の川Ⅰ遺跡・市の川Ⅱ遺跡・山口遺跡・小川屋敷遺跡・六日市遺跡・八天北遺跡発掘調査報告書』（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第543集）

2006『金附遺跡発掘調査報告書』（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第482集）

V 舟渡 I・II 遺跡

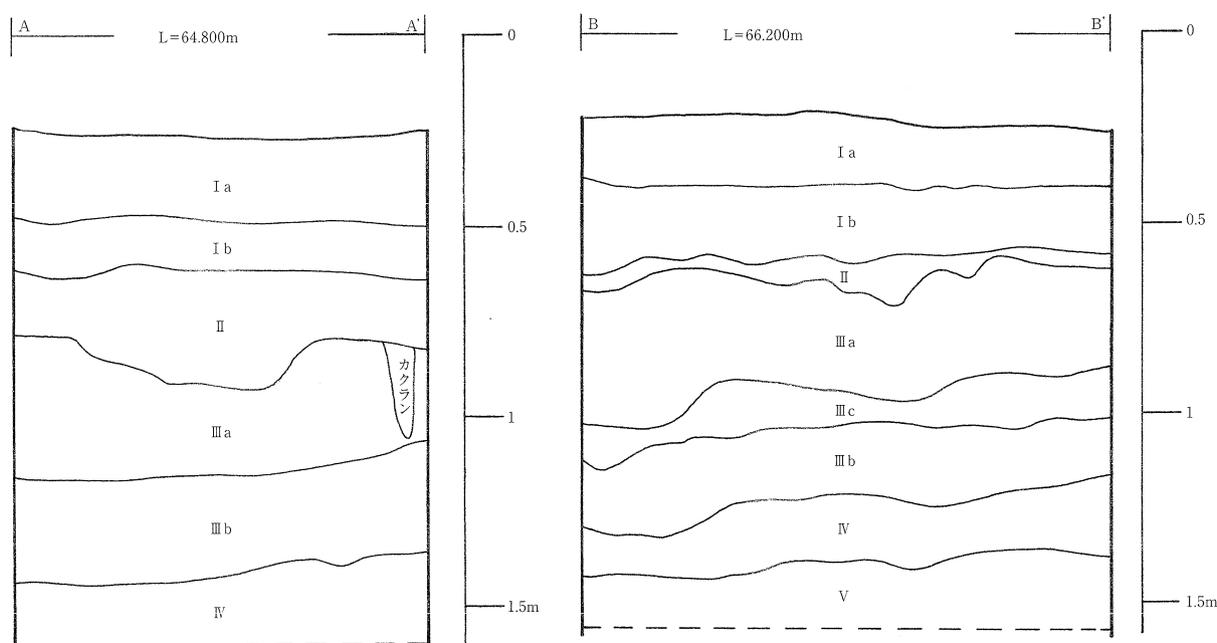
1 遺跡の立地

遺跡は、JR東北本線村崎野駅の北東方向約6.0km、北上市の北東部に位置し、北上川左岸に形成された自然堤防上に立地している。遺跡の標高は64～66mを測り、現況は主に水田と畑地である。

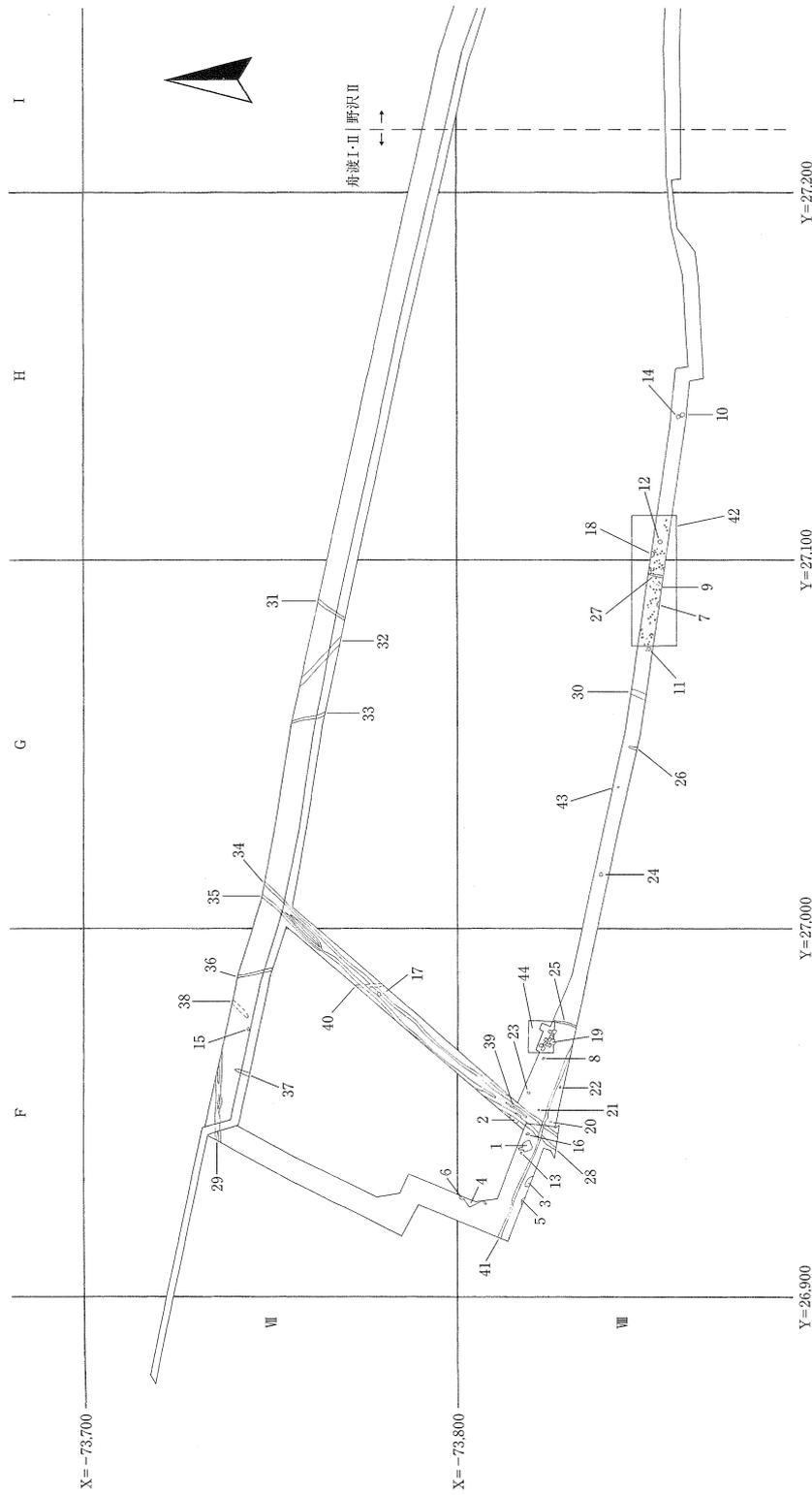
本稿では、従前、舟渡 I 遺跡、舟渡 II 遺跡に分けられていたものを、複数年に亘る発掘調査成果等から、地元北上市教育委員会及び県教育委員会の協議を受け、統合して扱うことにした。

2 基本土層

広範囲に及ぶ調査区の土層堆積状況は一様ではなく、水田造成時と思われる地形改変を受けている箇所も広く見受けられたが、旧地形が比較的良好に残存していた場所のうち、主要地方道北上東和線を挟んで東側調査区はⅧ H15 e グリッド北側壁面 (A-A')、西側調査区はⅤ A 3 k グリッド西側壁面 (B-B') を基本土層とした。耕作土直下の第Ⅱ層暗褐色土層の時期は、遺構及び遺物は確認されていないため不明である。第Ⅲ層の黒褐色土は、東側調査区においては2層に分けられる。上層であるⅢ a 層は主に古代の遺構及び遺物が、下層である黒褐色土層Ⅲ b 層では主に縄文時代・弥生時代の遺構及び遺物が確認された。西側調査区においては、第Ⅲ層は3層に分けられる。上層であるⅢ a 層と下層であるⅢ b 層の間層として暗褐色土のⅢ c 層が堆積している。このⅢ c 層には、縄文・弥生時代の遺物が含まれている。黒褐色土層第Ⅳ層上面からわずかに縄文・弥生時代の土器片が出土したが、第Ⅴ層以下からは遺構及び遺物は確認されていない。

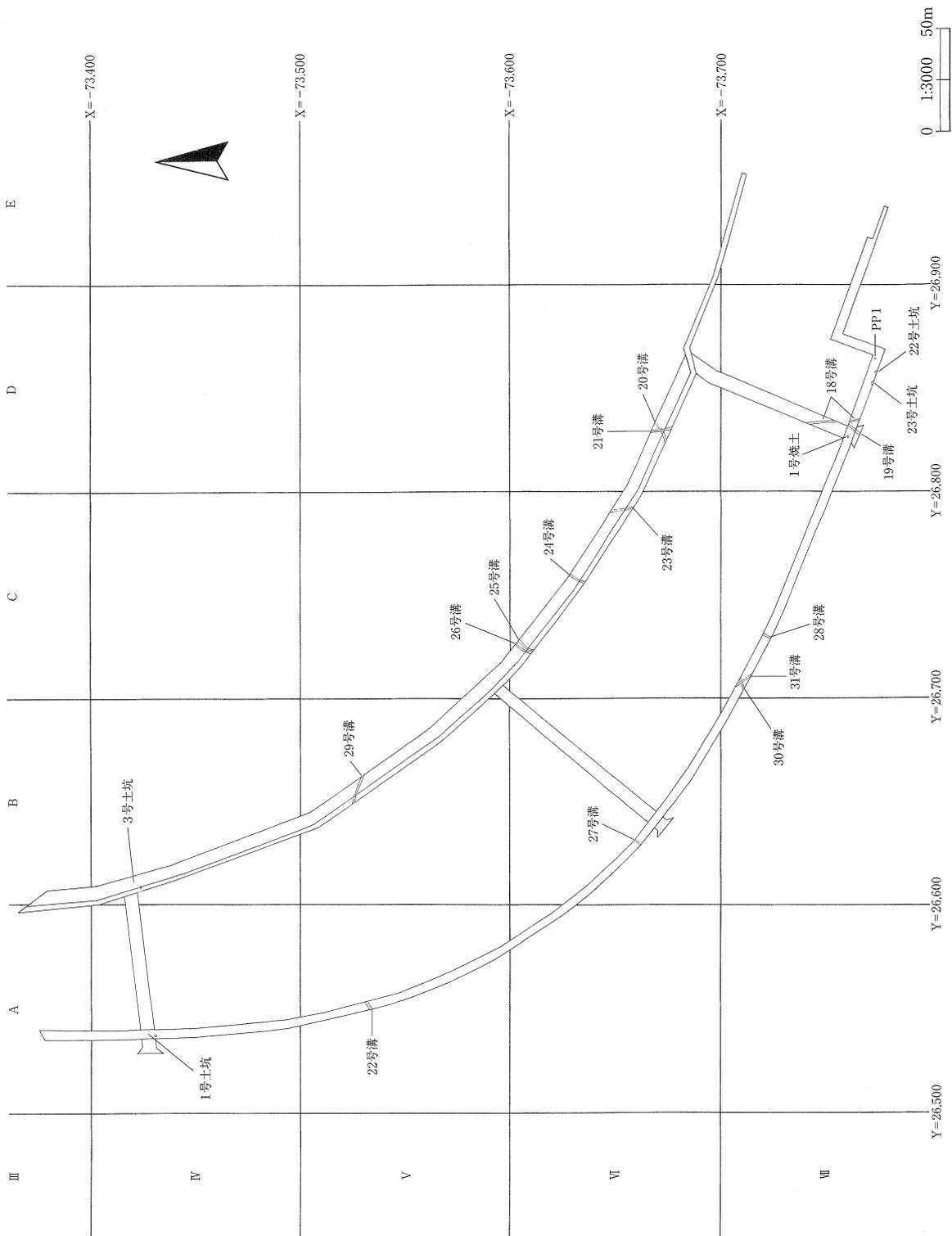


第40図 基本土層



- | | | | |
|----|--------|----|-------|
| 1 | 1号住 | 41 | 17号溝 |
| 2 | 2号住 | 42 | 柱状土坑群 |
| 3 | 3号住 | 43 | PP2 |
| 4 | 4号住 | 44 | 墓群 |
| 5 | 5号住 | | |
| 6 | 1号焼成遺構 | 31 | 7号溝 |
| 7 | 2号土坑 | 32 | 8号溝 |
| 8 | 4号土坑 | 33 | 9号溝 |
| 9 | 5号土坑 | 34 | 10号溝 |
| 10 | 6号土坑 | 35 | 11号溝 |
| | | 36 | 12号溝 |
| | | 37 | 13号溝 |
| | | 38 | 14号溝 |
| | | 39 | 15号溝 |
| | | 40 | 16号溝 |
| | | 21 | 17号土坑 |
| | | 22 | 18号土坑 |
| | | 23 | 19号土坑 |
| | | 24 | 21号土坑 |
| | | 25 | 1号溝 |
| | | 26 | 2号溝 |
| | | 27 | 3号溝 |
| | | 28 | 4号溝 |
| | | 29 | 5号溝 |
| | | 30 | 6号溝 |
| | | 1 | 1号土坑 |
| | | 2 | 2号土坑 |
| | | 3 | 3号土坑 |
| | | 4 | 4号土坑 |
| | | 5 | 5号土坑 |
| | | 6 | 6号土坑 |
| | | 7 | 7号土坑 |
| | | 8 | 8号土坑 |
| | | 9 | 9号土坑 |
| | | 10 | 10号土坑 |
| | | 11 | 11号土坑 |
| | | 12 | 12号土坑 |
| | | 13 | 13号土坑 |
| | | 14 | 14号土坑 |
| | | 15 | 15号土坑 |
| | | 16 | 16号土坑 |
| | | 17 | 17号土坑 |
| | | 18 | 18号土坑 |
| | | 19 | 19号土坑 |
| | | 20 | 20号土坑 |
| | | 21 | 21号土坑 |
| | | 22 | 22号土坑 |
| | | 23 | 23号土坑 |
| | | 24 | 24号土坑 |
| | | 25 | 25号土坑 |
| | | 26 | 26号土坑 |
| | | 27 | 27号土坑 |
| | | 28 | 28号土坑 |
| | | 29 | 29号土坑 |
| | | 30 | 30号土坑 |
| | | 31 | 31号土坑 |
| | | 32 | 32号土坑 |
| | | 33 | 33号土坑 |
| | | 34 | 34号土坑 |
| | | 35 | 35号土坑 |
| | | 36 | 36号土坑 |
| | | 37 | 37号土坑 |
| | | 38 | 38号土坑 |
| | | 39 | 39号土坑 |
| | | 40 | 40号土坑 |
| | | 41 | 41号土坑 |
| | | 42 | 42号土坑 |
| | | 43 | 43号土坑 |
| | | 44 | 44号土坑 |

第41図 遺構配置図(1)



第42図 遺構配置図(2)

- 第Ⅰa層：10YR4/1 褐灰色土 粘性なし しまりややあり。砂質。酸化鉄を30%含む。水田耕作土。
- 第Ⅰb層：10YR3/4 暗褐色土 粘性なし しまりあり。砂質。径5mm大の炭化物粒を1%未満含む。旧水田耕作土。
- 第Ⅱ層：10YR3/3 暗褐色土 粘性なし しまりあり。砂質。10YR2/3 黒褐色土ブロック（径10～40mm大）を3%含む。
- 第Ⅲa層：10YR2/3 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり。砂質。10YR3/3 暗褐色土ブロック（径10～50mm大）を15%含む。古代の遺物を含む。
- 第Ⅲc層：10YR3/4 暗褐色土 粘性ややあり しまりあり。径1～5mm大の炭化物粒を1%未満含む。縄文・弥生時代の遺物を含む。
- 第Ⅲb層：10YR2/3 黒褐色土 粘性あり しまりあり。10YR3/4 暗褐色土ブロック（径10～50mm大）を7%含む。縄文・弥生時代の遺物を含む。
- 第Ⅳ層：10YR3/4 暗褐色土 粘性あり しまりあり。径2mm大の炭化物粒を1%未満含む。
- 第Ⅴ層：7.5YR3/4 暗褐色土 粘性なし しまりあり。砂質。10YR3/4 暗褐色土粒子（径20mm大）を1%未満含む。

3 調査の概要

今回の調査は、今回の調査区を含む遺跡範囲内及びその周辺において、事業に先行して岩手県教育委員会生涯学習文化課が試掘調査を実施し、埋蔵文化財が確認された範囲のうち、取り扱いの協議を経て記録保存の対象となった区域の調査を実施したものである。今回の調査面積は、本発掘調査面積5,331㎡・確認調査面積6,516㎡の計11,847㎡であり、検出された遺構は、竪穴住居跡5棟、焼成遺構1基、焼土遺構1基、土坑23基、溝跡31条、柱穴状土坑65個、墓壙16基である。出土遺物は、縄文・弥生土器（大コンテナ3.5箱）、古代土器（大コンテナで3.5箱）、近世陶磁器12点、石器類18点、金属遺物（鎌1点、煙管5点、銅銭22点、鉄銭10点以上、その他2点）である。

4 検出遺構と出土遺物

(1) 竪穴住居跡

1号住居跡（第43・44・74・75図、写真図版23・24）

<調査方法・経過> 遺構は確認調査区域にあたっているのだが、遺構の北東壁側に大きな攪乱が及んでおり、遺構であるか否かを含め正確に把握するために、全てを掘り下げたものである。

<位置・検出・重複関係> VIII F 5 k グリッドに位置し、耕作土直下の第Ⅳ層で検出された。重複している遺構は検出されたなかったが、竪穴住居構築前であったと思われる風倒木痕の一部を壊して掘られていた。この風倒木痕埋土中からは、遺物は出土していない。

<形状・規模・主軸方向> 形状は隅丸方形の平面プランであり、検出面で北壁－南壁間、西壁－東壁ともほぼ2.50mの規模である。主軸方向はN-25°-Eである。

<埋土> 6層に分けられる。1～5層は住居埋土、6層は貼り床土である。上・下層（1～2層）とも暗褐色土を主体とした自然堆積である。2・3層には炭化物及び焼土粒を多く含んでいる。4層は地山崩落土を主体とした堆積土である。遺物は、1～3層に含まれている。

<カマド> カマドは北壁のほぼ中央に構築されており、カマド天井部は崩落し、袖部のみ残存した

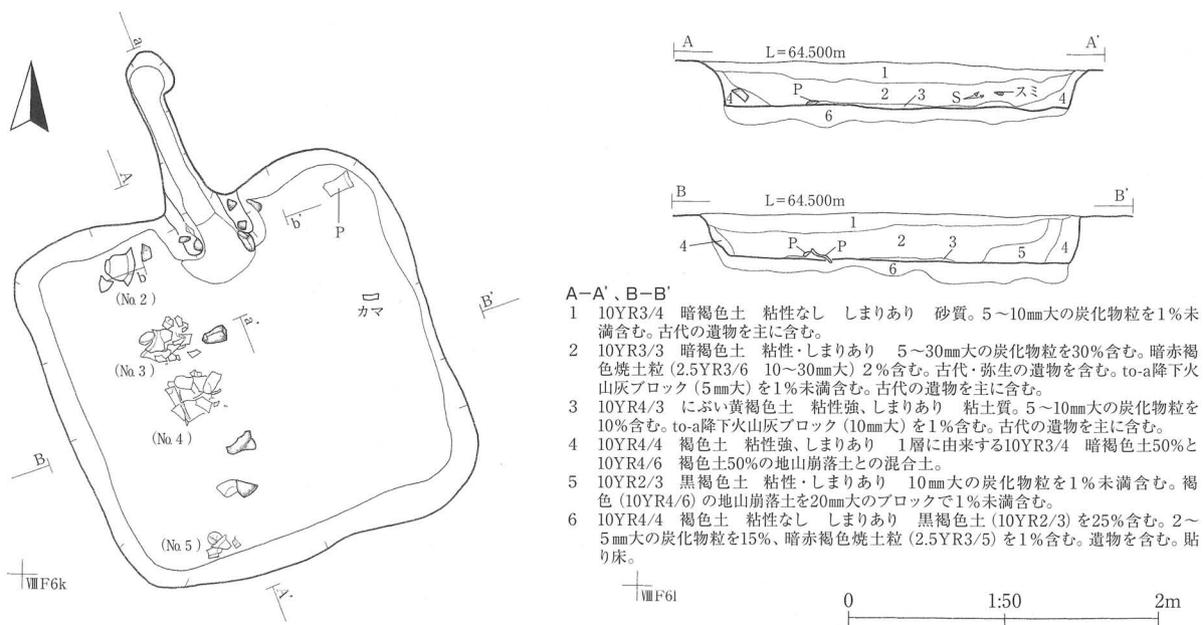
状態で検出された。袖は、径20～30cm大の扁平の自然礫を直立方向より僅かに内側に傾斜させ、芯材として設置した後、暗褐色～黒褐色土で構築したものと思われる。燃烧部は43×40cmの範囲で確認され、焼土の厚さは5～6cmである。煙道部は水平に構築されており、煙道部底面より5cm深く掘られた煙出部へと繋がっている。煙道部の長さは底面で90cm、検出面からの深さ30cmである。煙出部は40×40cmの円形の柱穴状で、検出面からの深さは35cmである。

<床面・壁面> 住居全体に貼り床が施されている。貼り床は褐色土と黒褐色土の混合土で施されており、わずかに焼土粒も含んでいる。貼り床を剥がした後の住居底面全体は、凹凸に富んでいる。壁面は四方とも外傾して立ち上がっており、床面から検出面までの壁高は、北壁27～29cm、西壁23～26cm、南壁24～28cm、東壁26～30cmである。壁溝は検出されなかった。

<土坑類> 確認されていない。

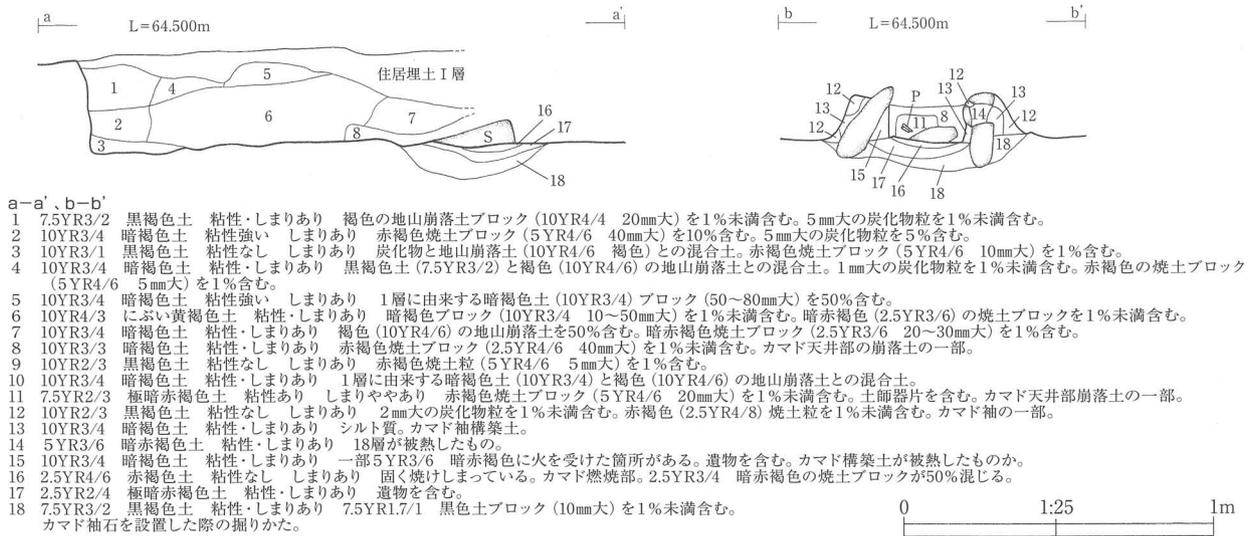
<遺物> 1～6（土器）、7・8（土製品）、9（金属器）が出土した。1～6はいずれも床面直上から出土し、そのほとんどが住居中央より西側から出土している。1・2は土師器坏である。1については、外面はヘラナデ後、ヘラケズリ調整が、内面はヘラケズリ調整が施されている。2については、外面はヘラナデ調整、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施されている。1・2とも非ロクロ成形である。3～6は土師器甕である。3・5は非ロクロ成形で、内外面とも口縁部はヨコナデ調整、外面はヘラナデ調整が施されている。3の内面には、胴部中央部から頸部にかけて煤が付着している。4も非ロクロ成形であり、輪積痕が明瞭である。4の口縁部については、内外面ともヨコナデ、胴部の外面はヘラケズリ、内面はヘラナデ調整が施されている。5について、出土した土器片に胴部下部分が含まれていなかったが、住居内の同一箇所からまとめて出土した状態から同一個体であると考えられるため、図面上で復元したものである。6はカマド左袖部の西脇から、横位ではあったもののほぼ完形で出土した。非ロクロ成形の球胴甕であるが、赤彩は施されていない。内外面とも口縁部についてはヨコナデ調整され、胴部については外面はヘラナデとヘラケズリ調整が、内面についてはヘラナデ調整が施されている。カマドの崩落土中から7が、燃烧部中から8が出土したが、形態及び用途は不明である。9は鎌の刃である。刃が二つに折れた状態で2層から出土したが、枝は残存していなかった。須恵器は出土していない。

時期 出土遺物の器種構成及び共伴関係から、8世紀に属すると考えられる。



第43図 1号住居跡(1)

4 検出遺構と出土遺物



第44図 1号住居跡(2)

2号住居跡(第45・75図、写真図版25・26)

<位置・検出・重複関係> VIII F 4m・4nグリッドに跨るように位置し、表土直下の第IV層で検出された。重複している遺構は4号溝である。4号溝は、南東方向から北西方向へ住居埋土上面の一部を抉るように掘られており、住居埋土1層及び11層の一部が失われている。

<形状・規模・主軸方向> 形状は方形である。規模は、検出面で北西壁-南東壁間、北東壁-南西壁間ともほぼ2.50mである。カマドを持たない住居であったため、主軸方向については不明である。

<埋土> 12層に分けられる。埋土上層から下層(1~5層、7~9層)まで黒褐色土が堆積し、壁際の6層、10・11層は地山崩落土を含んだ暗褐色土が堆積している。埋土上層~下層には炭化した木材、炭化物がそれぞれの層に含まれている。床面直上では、約10×50×3cm大の炭化材が3本まともに出て出土し、焼土も広がって検出された。出土した炭化材の樹種はクリである。貼り床(12層)は黒褐色土で、褐色土とにぶい黄褐色土との混合土で施されている。埋土の上面に炭化物粒、焼土粒を含んでいる。

<カマド> カマド、煙道部及び煙出部は検出されていない。

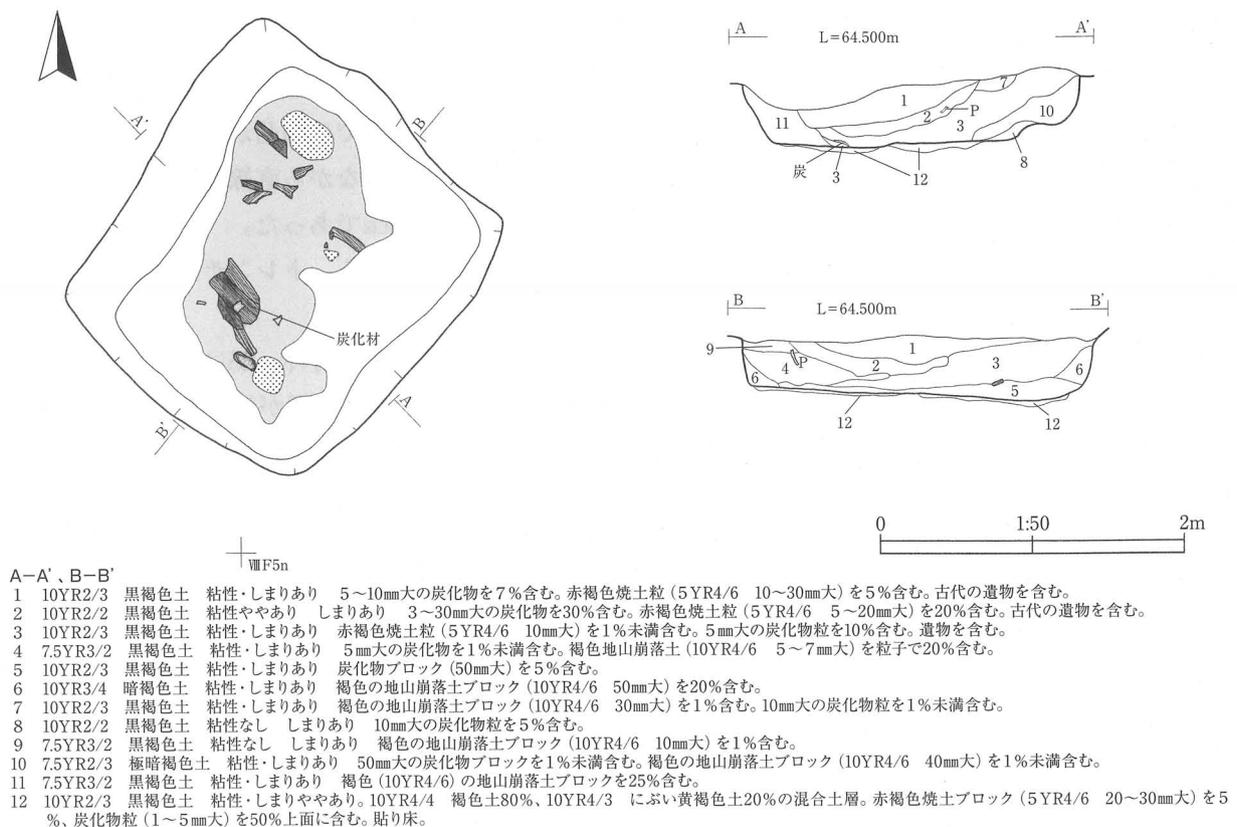
<床面・壁面> 黒褐色土を主体とした褐色土との混合土の貼り床が、ほぼ全面に2~5cmの厚さで施されている。貼り床を剥がした後の底面について、北東壁から中央部にかけては凹凸に富んでいるが、中央部から南西壁まではほぼ平坦であった。壁面は、北東壁・南西壁はほぼ垂直気味に立ち上がり、北西壁・南東壁は垂直よりやや外傾して立ち上がっている。床面からの壁高は、北東壁・南西壁は30cm、北西壁40cm、南東壁45cmである。

<土坑> 確認されていない。

<遺物> 10~19が出土している。10~13は土師器の坏、14~19は土師器の甕である。10は坏の口縁部から底部にかけての破片である。外面の調整は、ヨコナデ後にヘラナデが一部施された後に、

ヘラミガキが施されている。内面はヨコナデ後にヘラミガキが施され、その後内外面とも黒色処理されている。11は坏の口縁部から胴部にかけての破片である。外面はヨコナデ後にヘラナデが一部に施されており、内面はヘラミガキが施された後、黒色処理されている。12は坏胴部の破片である。内外面ともヘラミガキ調整後に、黒色処理が施されている。13は口縁から胴部にかけての破片である。外面はロクロナデ調整され、内面はヘラミガキ後に黒色処理されている。14は、口縁部外面はヨコナデを主体としているが、一部にハケメ調整を施し、胴部は縦方向にハケメ調整を施している。口縁部内面はヨコナデ、胴部内面は横方向にハケメ調整を施している。15の口唇部は輪積痕を境に剥離しているが、口縁部は内外面ともヨコナデ、胴部は内外面ともヘラナデ調整を施している。口縁部外面には、ヘラナデ調整の段階で意図せず付いたものと思われる工具痕が7カ所認められる。16は甕の口縁部片である。内外面ともヨコナデ調整が施されている。17の口唇部も剥離しているが、口縁部は内外面ともヨコナデ、胴部は内外面ともヘラナデ調整が施されている。18は口縁部から頸部にかけての破片である。焼成があまり良好ではなく、口縁部には焼歪みが生じている。口縁部の調整は、外面がヨコナデ、内面はヨコナデ調整後にヘラナデが一部で施されている。頸部の調整は、外面がヨコナデ調整後にハケメ調整が施され、内面はヨコナデ調整後にヘラナデ調整が施されている。19は口縁部から肩部にかけての破片である。内外面とも口縁部はヨコナデ、肩部はヘラナデ調整が施されている。その他、弥生時代の土器片も出土したが、検出遺構及び関連する出土遺物から、混入したものであると思われるため、遺構外出土土器として掲載した。

時期 出土遺物はいずれも破片であり、遺構の構築時期を想定することは困難であるが、出土遺物は非ロクロ成形であることに加え須恵器が共伴しないこと等から、1号住居跡と同時期の8世紀代であると考えられる。



第45図 2号住居跡

3号住居跡（第46・76・77図、写真図版27）

＜調査方法・経過＞ 遺構の2/3ほどは調査区外にある。検出された遺構が所在する区域は砂利敷農道新設予定箇所であり、埋蔵文化財への影響はあまり大きくない工法によるものであるから、遺構は現状に近い状態で保存されるため、確認調査対象である。従って、精査は、遺構に影響を極力与えずに遺構の性格を把握することを主眼とし、掘り下げはトレンチ内のみ実施した。調査区境界に幅40～50cmのトレンチを設定し、重複する遺構は確認されなかったことから、トレンチ内は貼り床を除去し、遺構底面まで掘り下げて精査を実施した。

＜位置・検出・重複関係＞ VIII F 4i・5iグリッドに跨って位置しているが、遺構の南側2/3ほどは調査区外に所在している。検出は、第IV層上面で行った。この付近の層序は、第I層耕作土、第III a層、第III b層、第IV層の順であった。調査区境界の土層断面の観察から、遺構は第III a層から掘り込まれていたことがわかったが、第III a層での平面プラン検出は、土質・色調のせい極めて困難であった。第IV層まで掘り下げて初めて平面プランが確認できたのである。重複している遺構は検出されていない。

＜形状・規模・主軸方向＞ 形状は方形である。規模は、検出面で北西壁－南東壁間でほぼ3.20mである。北東壁－南西壁については、調査区外にわたるため不明である。調査区内ではカマドは検出されなかったため、調査区外に所在しているものと推測される。そのため、主軸方向は不明である。

＜埋土＞ 7層に分けられる。前述したように、遺構平面プランは第IV層まで掘り下げて初めて確認できたため、住居埋土の堆積状況は調査区境界の土層断面で確認した。1～5層が住居埋土、6～7層は貼り床土である。上層から下層（1～4層）まで黒褐色土が自然に堆積している。遺物は1～5層まで含まれているが、焼土を主体とした5層上層の3層により多く含まれていた。貼り床は、2層に分けられ（6・7層）、黒褐色～極暗褐色土と褐色土との混合土で施されている。

＜カマド＞ カマド、煙道部及び煙出部は調査区内では検出されなかったため、調査区外に所在しているものと推測される。

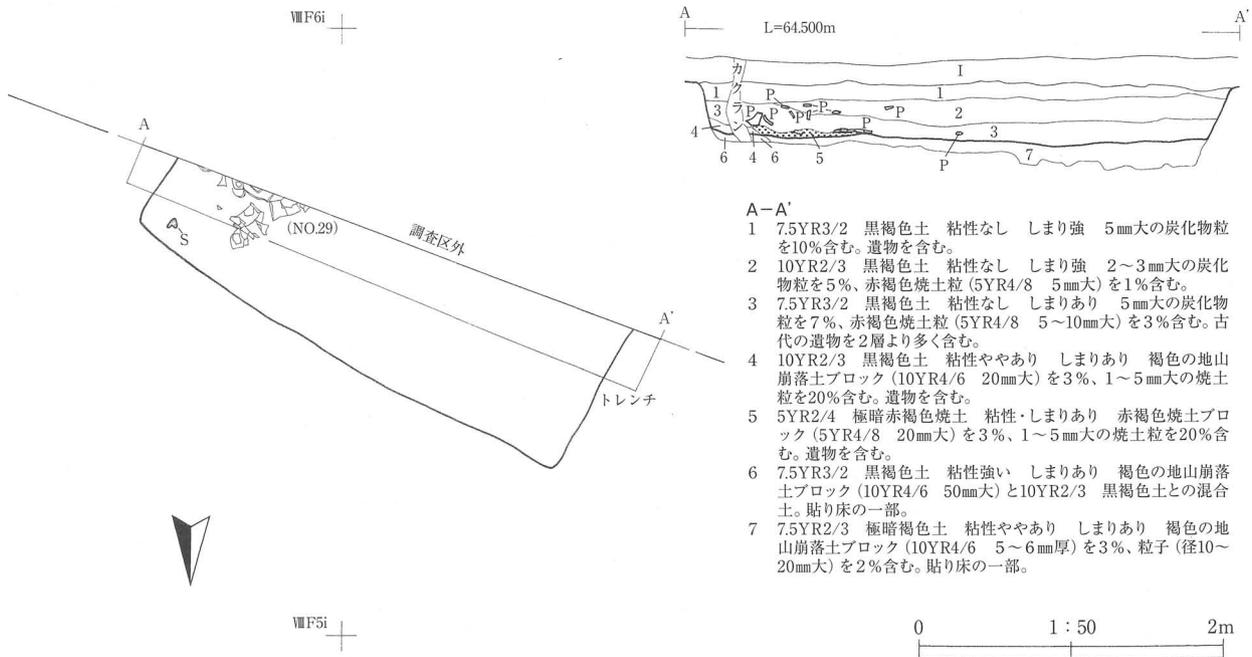
＜床面・壁面＞ トレンチのみの精査ではあったが、貼り床を剥がした後の底面は、住居南東側から北西側に向かって5%の勾配で傾斜し、住居中央部周辺から北西壁側までは凹凸が見られた。貼り床には、遺物は含まれていなかった。壁面は、南東壁・北西壁とも外傾しながら直線的に立ち上がり、土層断面の観察から、床面からの壁高は、南東壁で30cm、北西壁で35cmであった。

＜土坑＞ トレンチ内のみの精査であったため、所在の有無は不明である。トレンチ内では土坑等は検出されなかった。

＜遺物＞ 20～34が出土した。20～23は土師器の坏、24は土師器の高台付坏、25は須恵器の坏、26～34は土師器の甕である。20・21・24の内面はヘラミガキ調整後に黒色処理が施されている。25は須恵器坏の口縁部片である。内外面ともロクロナデ調整である。26・27・30・32は、内外面ともロクロナデ調整を施し、底部は糸切り後無調整である。28は甕の胴部片である。外面は縦方向のヘラケズリ調整が施され、胴部内面中央部付近にヘラナデ調整、胴部下は横方向のヘラナデ調整が施されている。32の外面には煤が付着している。28については、内外面ともロクロナデ調整を施し、外面胴部中央部から下部にかけてその後ヘラケズリ調整を施している。内面の一部に煤が付着している。29は口縁部から胴部にかけての破片である。内外面はロクロナデ調整後に胴部へヘラナデ調整を施しているが、一部にヘラケズリに近い調整箇所も見られた。31は内外面ともロクロナデ調整を施した後、外面は縦方向主体のヘラケズリ調整を、内面は胴部下にヘラナデ調整を施している。外面に煤が一部付着している。33は、胴部下から底部にかけての破片である。非ロクロ成形で、外面はヘラケズ

り調整が、内面はヘラナデ調整が施されている。34は非ロクロ成形である。外面はヘラケズリ調整、内面はヘラナデ調整を施している。

時期 遺構全体を掘り上げていないため、遺構内全体に含まれる遺物からの判断は出来かねるが、ロクロ成形した遺物の底部はいずれも糸切り後の再調整等は見られないこと等から、9世紀半ば以降であると推測される。



第46図 3号住居跡

4号住居跡 (第47・77図、写真図版28)

<調査方法・経過> 遺構が検出された区域は砂利敷農道新設予定箇所であり、埋蔵文化財への影響はあまり大きくない工法によるものであるから、遺構は現状に近い状態で保存されることになる。そのため、確認調査対象である。従って、精査は、遺構に影響を極力与えずに遺構の性格を把握することを主眼とし、掘り下げはトレンチのみとした。検出面において、重複している遺構の所在は確認できたものの、プラン及び新旧関係についても不明確であったため、住居跡の埋土1層目を全体的に掘り下げた後、トレンチ内の精査を実施した。トレンチは調査区境界に40cmの幅で設定した。4号住居跡は1号焼成遺構と重複しており、この1号焼成遺構も確認調査対象であり、遺構が保存可能であることから、精査はベルト部分のみとし全て掘りさげしていない。そのため、1号焼成遺構の遺構底面を掘り上げずに、4号住居跡の貼り床を剥がすことはできなかった。

<位置・検出・重複関係> VF1g・2gグリッドに位置しているが、遺構の約2/3は調査区外である。遺構は、表土(耕作土)直下の第V層で検出された。耕作土直下が第V層となっていることは、水田造成時等の地形改変の影響を受けたものと思われる。重複している他の遺構は、1号焼成遺構が、住居跡の北西壁の一部を壊して構築された状態で検出されている。

<形状・規模・主軸方向> 検出された西角部分周辺からの判断であるが、形状は方形であると思われる。規模については、検出された部分が狭く、正確に計測することは困難であるが、推定される北東壁と南西壁間でおおよそ5mであった。遺構を全て精査していないため、カマドを有するか否かについては不明であるが、住居跡南西部で検出された径0.52×0.50mの円形状の箇所は、確認調査区にあたるため掘り下げたはいるが、検出位置・埋土の状況等から煙出部の可能性が高いと思われ、主

軸方向はおそらくS-40°-Wであると思われる。写真図版で確認できる住居北西部で検出されたピット状の箇所は、柱穴あるいは煙出部の可能性があるかと推測し半裁したが、遺物及び焼土粒・炭化物等も出土せず、底面が不整形であったことなどから木根痕と思われる。

<埋土> 2層に分けられる。上層である1層はにぶい黄褐色土を主体とした褐色土との混合土層であり、下層である2層は暗褐色土を主体とした褐色土との混合土層である。2層の下層は住居床面である。貼り床を施しているか否かについては、トレンチ調査のため不明である。1号焼成遺構との重複箇所部分には、住居床面は残存していないものと思われる。

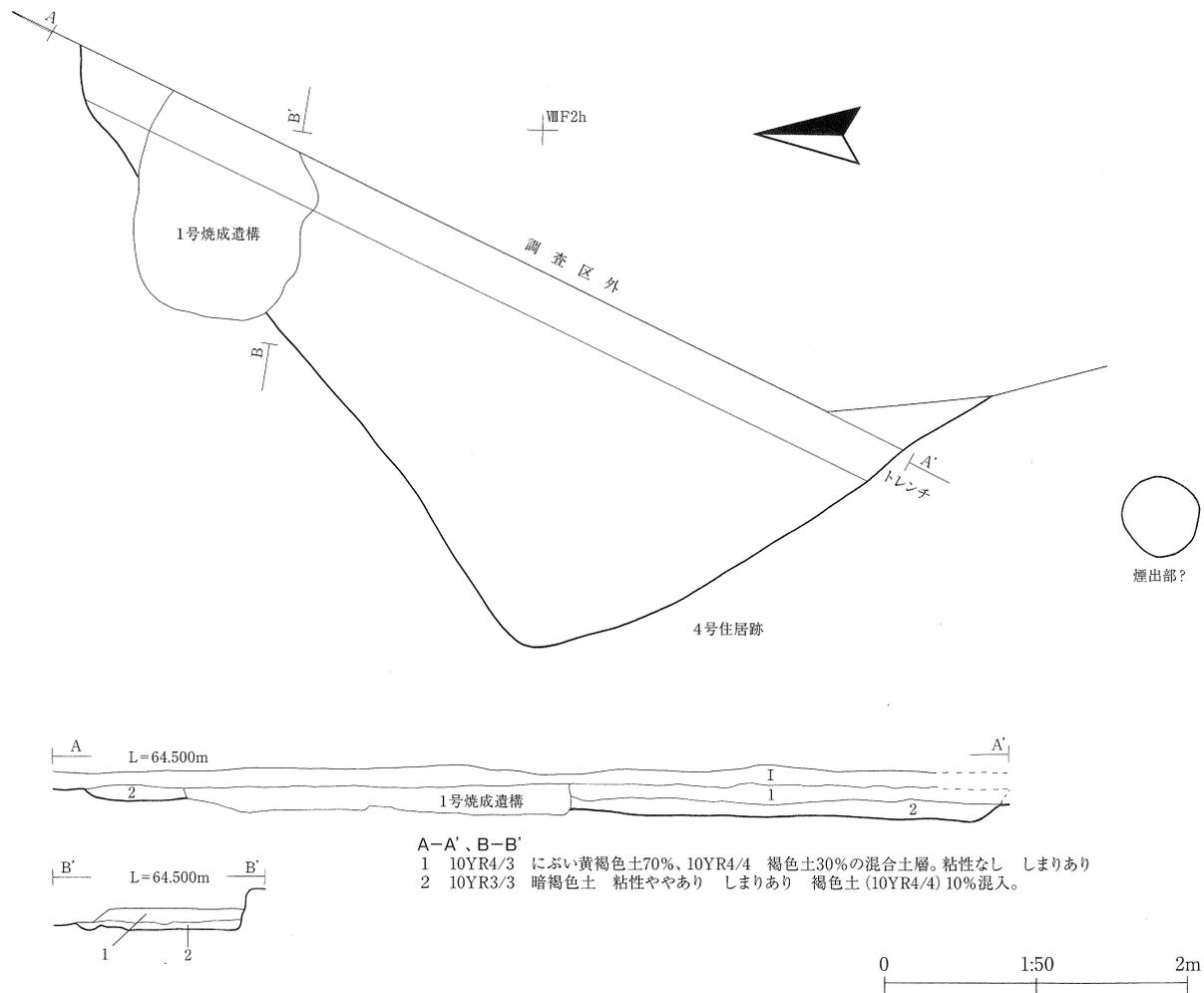
<カマド> 遺構を全て精査していないためカマドの詳細については不明であるが、南西方向で検出された円形状の箇所は遺構であると思われ、煙出部であると推測される。

<床面・壁面> 床面はほぼ平坦で色調は褐色である。検出面から住居床面までの深さは、北東壁で10cm、南西壁で20cm、北西壁は不明である。壁面は緩やかに外傾して立ち上がっている。

<土坑> トレンチ内でのみの精査であったため、竪穴住居跡に付帯する土坑等の所在については、不明である。トレンチ内では検出されなかった。

<遺物> 35が出土している。35は土師器甕の口縁部から肩部にかけての破片である。輪積痕が明瞭で、非ロクロ成形であると思われる。頸部下に沈線状の段を有する。内外面とも口縁部はヨコナデ調整が、肩部外面は縦方向のヘラナデ調整、内面は横方向のヘラナデ調整が行われている。また、口縁部外面には、ヨコナデ調整後に体部をヘラナデ調整した際に付いた工具痕が見られる。

<時期> 出土遺物から9世紀に属するものと思われる。



第47図 4号住居跡

5号住居跡 (第48・77図、写真図版28)

＜調査方法・経過＞ 検出された遺構が所在する区域は砂利敷農道新設予定箇所であり、埋蔵文化財への影響が比較的少ない工法によるものであるから、遺構は現状に近い状態で保存されるため、確認調査対象である。しかしながら、遺構の大半は調査区外にあり、遺構の性格を確認するためには、調査区内で検出された部分のみではあまりに狭小であるため、精査は、トレンチを設定せずに遺構埋土を床面まで掘り下げて実施した。

＜位置・検出・重複関係＞ 検出された部分はⅧF5gグリッドに位置している。検出は第Ⅳ層上面で行った。この付近の層序は、第Ⅰ層耕作土、第Ⅲa層、第Ⅲb層、第Ⅳ層の順であった。調査区境界の土層断面の観察から、遺構は第Ⅲa層の中程から掘り込まれている。第Ⅲa層での平面プラン検出は、土質・色調から極めて困難であったため、第Ⅳ層まで掘り下げて平面プランを確認した。重複している遺構はない。

＜形状・規模・主軸方向＞ 形状は方形であると思われる。規模については、遺構の大半が調査区外であるため不明である。遺構から出土した遺物の器種構成等から、本遺構を竪穴住居跡であると判断した。主軸方向については、調査区内でカマド等が検出されておらず不明である。

＜埋土＞ 埋土は自然堆積で、14層に分けられる。上層から下層まで黒褐色土を主体とし、上層である1層、中層にあたる6～8層にはにぶい黄褐色土粒が混入している。遺物は10層に含まれている。下層である11・12・14層には炭化物、焼土粒が含まれている。

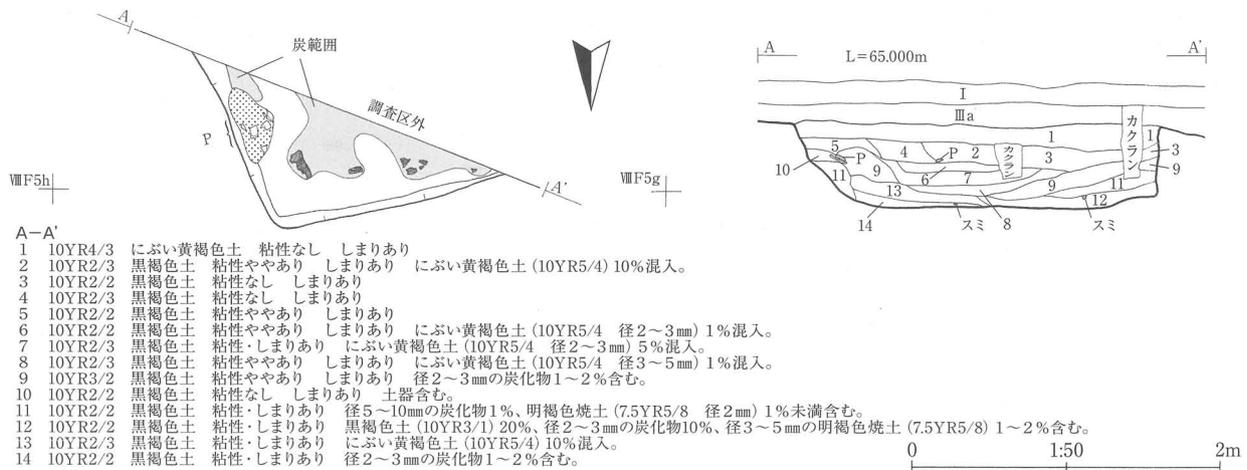
＜カマド＞ 調査区内ではカマドは検出されていないため、調査区外にあるものと思われる。

＜床面・壁面＞ 床面は褐色土である。床面直上に大量の炭化物及び炭化した木片が広がり、北東壁際には焼土が確認された。焼土の上面には須恵器片が含まれていた。床面直上で検出された炭化物の広がり及び焼土等の性格について調査区内だけで検討することは、検出された範囲が狭小であることから大変難しいと考え、当該調査区の遺構はほぼ現状で保存されることから、貼り床は剥がさずに床面直上までの検出とした。壁面についてであるが、北東壁、北西壁ともほぼ垂直に立ち上がり、土層断面から壁高は北東壁で50cm、北西壁で45cmであった。

＜土坑＞ 調査区内では土坑、柱穴状土坑は検出されていない。

＜遺物＞ 36が出土している。須恵器甕の肩部片である。外面はタタキ調整、内面は一部タタキメがあるが全体的にヨコナデ調整されている。土師器胴部片も少量出土したが、器面が摩滅しており図化しなかった。弥生土器も出土したが、混入したものであるため、遺構外出土遺物として掲載した。

時期 出土した遺物から、8世紀末から9世紀前半に属するものと思われる。



第48図 5号住居跡

(2) 焼成遺構

1号焼成遺構 (第49・78図、写真図版29)

〈調査方法・経過〉 確認調査区において、4号住居跡と重複して検出された。4号住居跡との新旧関係を明らかにする目的でトレンチを設定したが、トレンチ内では確認できなかったため、1号焼成遺構の平面プランを確認後、改めてトレンチを設定し精査したものである。平面プランは、4号住居跡の埋土1層に酷似した土が1号焼成遺構の上層に堆積していたことから、これを掘り下げてから確認したものである。遺構は確認調査区にあたっていたが、遺構の特質を把握するため、埋土の全てを掘り上げたものである。

〈位置・検出・重複関係〉 VIII F1g・2g・1h・2hグリッドに跨って位置している。検出は、表土(耕作土)直下の第V層で行った。耕作土直下が第V層となっていることは、地形改変を受けたものと思われる。4号住居跡の一部に重複して、1号焼成遺構が構築されている。

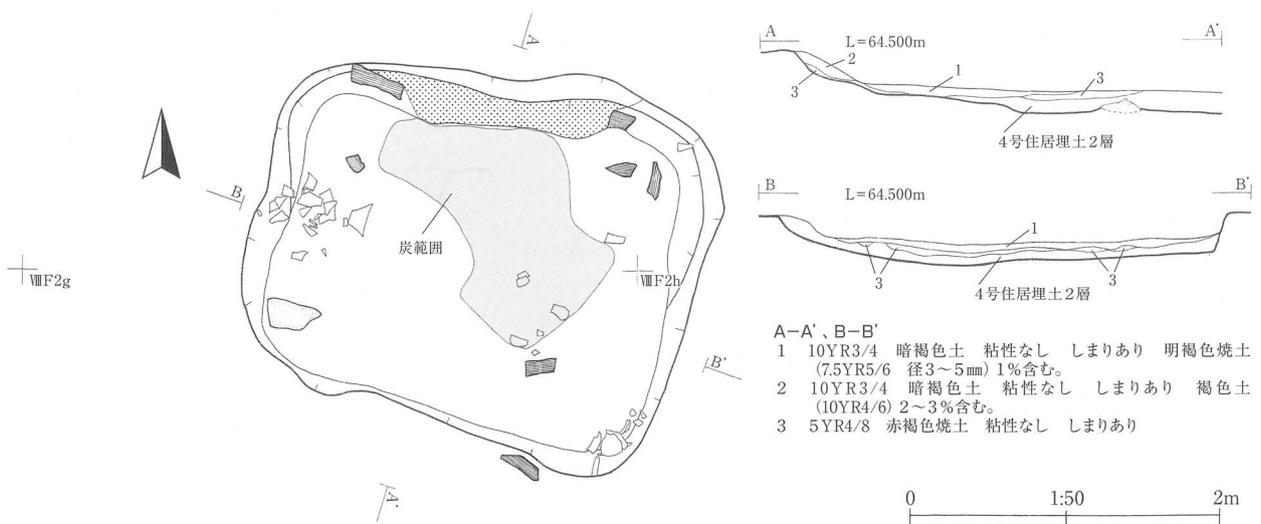
〈形状・規模〉 平面形は隅丸の台形であり、長軸2.80～2.90m、短軸2.00～2.50mを測る。

〈埋土〉 埋土は自然堆積で、3層に分けられる。1層～2層は暗褐色土主体であるが、1層には明褐色焼土粒及び炭化物が含まれ、上面では遺物が含まれていた。2層には褐色土が含まれている。その下層である3層は、被熱し固くしまった焼土である。

〈床面・壁面〉 床面は平凹レンズ状に凹んでおり、床面から傾斜角20度で北壁が外傾して立ち上がり、傾斜角10度で東壁が外傾しながら立ち上がっている。北壁中央部に東西185cm×南北35cm×厚さ5cmの範囲で焼土(3層)が確認されたほか、炭化材もこの焼土の周辺から出土した。炭化材の樹種はナラである。検出面からの深さは北壁32cm、東壁20cm、西壁14cmで、南壁は推定で約30cmである。床面下は4号住居跡埋土2層である。

〈遺物〉 37～39が出土した。いずれも土師器である。37は甕の胴部から底部までの破片である。外面は縦方向のヘラケズリ調整、内面は横方向のヘラナデ調整が施されている。38はロクロ成形の甕底部片である。底部は糸切り後は無調整である。内面は剥落しており調整は不明である。39は坏口縁部片である。外面は口縁部はヨコナデ、胴部下部はヘラケズリ調整が施され(一部にヘラナデ調整あり)、内面はヘラミガキ後に、黒色処理されている。胴部外面に明瞭な段が見られる。

時期 出土遺物から9世紀に属するものと思われる。



第49図 1号焼成遺構

(3) 焼土遺構

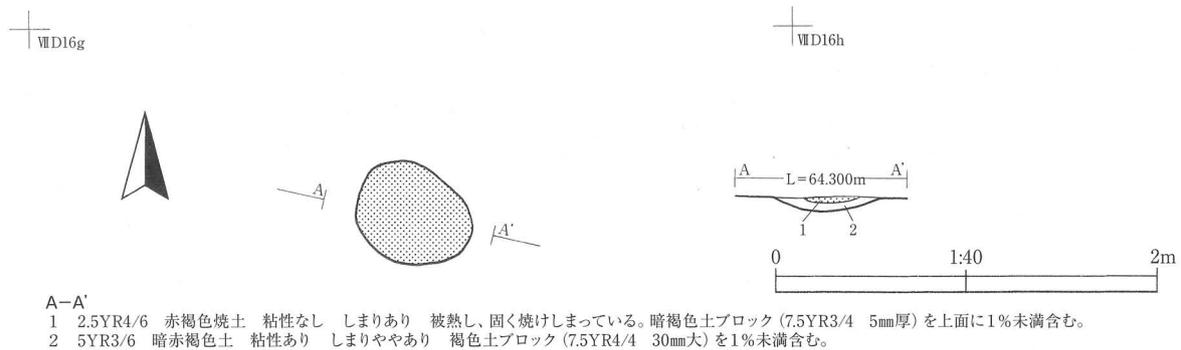
1号焼土 (第50図、写真図版29)

<位置・検出・重複関係> WD16gグリッドに位置し、第IV層で検出した。重複した遺構あるいは関連する遺構は、周囲から検出されていない。1号焼土遺構が検出された周辺の層序は、耕作土、盛土、第IV層であったことから、地形改変をすでに受けていると思われる。

<形状・規模> 焼土の広がりはおおよそ卵形状であり、その規模は長軸0.61×短軸0.50mの範囲であった。

<堆積土> 2層に分かれ、赤褐色の第1層は火を受けたためか固くしまっていた。下層の2層は暗赤褐色の色調で、1層に由来する焼土ブロックが1%混入していた。焼土の最大厚は8cmである。

時期 第IV層で検出されたものの、時期は不明である。



第50図 1号焼土

(4) 土坑

1号土坑 (第51・78図、写真図版30)

<位置・検出・重複関係> IVA8i・8jグリッドに位置しており、第IV層で検出した。重複する遺構はない。

<平面形・規模> 遺構上面及び底面の形状はおおよそ円形であり、規模は上面が1.40×1.30m、底面は0.84×0.84mある。検出面から底面までの深さは最深部で60cmである。

<埋土> 埋土は5層に分けられる。上層である1層は暗褐色の砂質土であり、下層である2層は黒褐色土である。2層には十和田b火山灰らしき灰白色の粒子が微量に含まれている。

<遺物> 40～46が出土している。40～42は弥生土器の深鉢、43は浅鉢、44は高坏の台、45は焼粘土塊、46は敲打石である。42は埋土1層から、40・41・43・45は埋土2層の遺構底面から出土している。40は口縁部から胴部にかけての破片で出土し、内面にはススが付着している。41は底部のみの出土であった。42は小波状口縁を有する深鉢の口縁部片、43は突起内面に沈線を有する二股突起4単位を持つ浅鉢である。45の粘土塊には指押圧痕が見られる。46は礫先端部に敲打痕が見られる。

時期 出土遺物から弥生時代前期に構築されたものと思われる。

2号土坑（第52・78図、写真図版30）

<位置・検出・重複関係> VIII G14v・14wグリッドに跨って位置し、遺構のおよそ半分は調査区外である。この付近の土層は、耕作土、第IV層の順であり、水田造成等による地形改変が行われたことが伺えた。第IV層で検出したが、遺構の一部にカクラン箇所があったため、IV層を少し掘り下げて検出した。重複する遺構はPP11で、土坑の一部を壊して構築されていた。

<平面形・規模> 遺構全体が検出されていないが、遺構プランは楕円形であると推測される。検出された部分における規模は、長軸1.8×短軸0.69mで、検出面から遺構底面までの深さは最深部で72cmである。

<埋土> 6層に分けられる。1～3・5層は黒褐色土主体の土層で、これらの層に弥生時代の遺物が含まれていた。4層は地山に由来するものと思われるにぶい黄褐色土主体の土層である。また、2層の一部にカクランを受けた箇所があった。

<遺物> 47・48が出土している。47は弥生土器の浅鉢、48は甕の口縁部である。47の頸部には沈線が施され、その下部には縄文が施されている。48の頸部には、細竹管による刺突列が一例見られ、おそらく頸部をめぐるように施されているものと思われる。

時期 出土遺物から弥生時代中期に構築されたものと思われる。

3号土坑（第51図、写真図版30）

<位置・検出・重複関係> IV B 6 b・6 cグリッドに跨って位置し、第IV層で検出した。重複する遺構はないが、検出段階で第IV層上面に斑状に第III b層が入り込んでいたため、一部を掘りすぎてしまった。

<平面形・規模> 平面形は円形を呈し、規模は直径1.40mである。遺構底面も円形で、直径1.10mである。検出面から遺構底面までの深さは80cmである。遺構の断面形は「フラスコ状」である。

<埋土> 埋土は10層に分けられ、黒色～黒褐色土主体である。

<遺物> 出土していない。

時期 遺構に伴う遺物は出土していないものの、遺構の形状等から弥生時代に構築されたものと思われる。

4号土坑（第51図、写真図版30）

<位置・検出・重複関係> VIII F 6 qグリッドに位置している。第IV層で検出したが、この付近の土層は、耕作土直下、第IV層であった。重複している遺構はない。

<平面形・規模> 平面形は方形であり、規模は1.18×1.18mであるが、遺構南西部にも前庭部状の凹みがある。検出面から遺構底面までの深さは最深部で12cmである。

<埋土> 単層である。黒褐色土と暗褐色土との混合土。炭化物粒を含む。

<遺物> 出土していない。

時期 構築時期は不明である。

5号土坑（第52図、写真図版31）

<位置・検出・重複関係> VIII G14xグリッドに位置している。第IV層で検出した。重複している遺構はない。

<平面形・規模> 平面形は卵形であり、その規模は長軸0.62×短軸0.48m、検出面から遺構底面ま

での深さは最深部で24cmである。

<埋土> 3層に分けられる。1層は黒褐色砂質土、2・3層は暗褐色土の自然堆積である。

<遺物> 出土していない。

時期 構築時期は不明である。

6号土坑（第52・78図、写真図版31）

<位置・検出・重複関係> VIIIH16j・16kグリッドに位置している。第IV層で検出した。10号土坑と重複し、これを切る。

<平面形・規模> 遺構上面の平面形は北西側にややはみ出した楕円形ではあるが、土層の堆積状況等から遺構本体は円形に掘られたものであると思われ、はみ出した部分は、重複している遺構及びその周辺を掘り過ぎたものである。残存部の規模は径1.62m、底面の規模は径1.25m、検出面から底面までの深さは最深部で64cmである。

<埋土> 5層に分けられる。1～3・5層は黒褐色土を主体とし、4層は地山崩落土の混じった暗褐色土である。上層である1層から3層ともに近世から近代の遺物が含まれていた。遺構底面はグライ化した青灰色であった。

<遺物> 49～54が出土した。49は肥前系磁器の皿底部片で、時期は18世紀である。50は在地産の皿口縁部片で、時期は19世紀である。51は大堀相馬産の陶器碗口縁部片で、時期は18世紀である。52は在地産の播鉢口縁部片で、19世紀であると思われる。53は肥前系磁器の紅皿片で、時期は19世紀である。54はガラス製おはじきで、産地・時期とも不明である。

時期 出土遺物から18世紀から19世紀前半に構築されたものと思われる。

7号土坑（第52図、写真図版31）

<位置・検出・重複関係> VIIIG13s・13t・14s・14tグリッドに跨って位置している。第IV層で検出した。重複している遺構はないが、遺構東側にカクランを受けた箇所がある。

<平面形・規模> 平面形はほぼ円形で、1.20×1.12mの規模である。遺構底面はやや不整形な円形で、0.92×0.88mの規模である。検出面から遺構底面までの深さは最深部で22cmである。

<埋土> 3層に分けられる。1層黒褐色土、2・3層暗褐色土の自然堆積である。

<遺物> 摩滅の激しい土器細片が出土したが、時期・器種とも不明であり図化しなかった。

時期 構築時期は不明である。

8号土坑（第52図、写真図版31）

<位置・検出・重複関係> VIIIH14bグリッドに位置し、第IV層で検出した。重複している遺構はない。

<平面形・規模> 平面形はほぼ円形、断面形は播鉢状で、遺構上面の規模が1.50×1.40mである。遺構底面は60×50cmの楕円形で、検出面から遺構底面までの深さは42cmである。

<埋土> 3層に分けられる。1層暗褐色土、2・3層にぶい黄褐色土の自然堆積である。

<遺物> 出土していない。

時期 構築時期は不明である。

9号土坑（第52図、写真図版32）

<位置・検出・重複関係> VIIIF51グリッドに位置している。第IV層で検出したが、9号土坑が検出

された周辺の土層は、耕作土直下第Ⅳ層であった。重複している遺構はないが、一部カクランを受けた箇所がある。

＜平面形・規模＞ 遺構上面は楕円形で、長軸0.90×短軸0.72mの規模であり、遺構底面は長軸0.76×0.56mの楕円形である。遺構検出面から遺構底面までの深さは最深部で14cmであった。

＜埋土＞ 3層に分けられ、上層である1層には5YR3/4 暗赤褐色の焼土粒を、下層である3層には5YR3/2 暗赤褐色の焼土ブロックを含んでいる。2層には炭化物粒が含まれていた。

＜遺物＞ 1層から土器小片が1点出土したが、摩滅が激しく時期・器種等は不明であり、図化しなかった。

時期 遺物は出土したものの、構築時期は不明である。

10号土坑（第53図、写真図版32）

＜位置・検出・重複関係＞ VIII15j・15kグリッドに跨って位置し、第Ⅳ層で検出した。遺構上面に20cm大の円礫が遺構中央部付近に集中して置かれた状態で検出された。これらの礫は、人為的に散布されたものであると思われるが、その目的等については不明である。検出時には遺構プランが一部不明瞭であったため、トレンチを設定した後に精査を行った。重複している遺構は6号土坑で、これに切られている。

＜平面形・規模＞ 平面形は遺構上面及び底面とも円形である。規模は、遺構上面で径1.32m、底面で径1m、検出面から遺構底面までの深さは最深部で24cmである。

＜埋土＞ 暗褐色粘土質シルトを主体とした堆積土で2層に分けられる。上層である1層には20cm大の礫が含まれていたが、下層である2層には礫は含まれていない。1・2層ともに酸化鉄が含まれていた。

＜遺物＞ 出土していない。

時期 重複している6号土坑が出土遺物から18～19世紀前半に構築されたものであることから、それ以前に構築されたものである。

11号土坑（第53図、写真図版32）

＜位置・検出・重複関係＞ VII F11s・12sグリッドに跨って位置し、第Ⅳ層で検出した。重複している遺構はない。

＜平面形・規模＞ 平面形はほぼ円形で径0.92mである。底面は楕円形で長軸0.65×短軸0.50mであり、検出面から遺構底面までの深さは最深部で24cmである。

＜埋土＞ 2層に分かれる。上層である1層は暗褐色土で、下層である2層はにぶい黄褐色～褐色土である。

＜遺物＞ 出土していない。

時期 構築時期は不明である。

12号土坑（第53図、写真図版32）

＜位置・検出・重複関係＞ VIII F5jグリッドに位置する。第Ⅳ層で検出したが、12号土坑が検出された周囲の土層は、耕作土直下第Ⅳ層であった。この区域は砂利敷農道新設予定箇所であり、埋蔵文化財への影響が比較的少ない工法によるものであるから、確認調査対象区域である。従って、遺構の半分を記録保存したものである。重複している遺構はない。

<平面形・規模> 遺構上面及び底面の平面形は楕円形である。遺構上面の規模は、長軸0.80×短軸0.74mであり、底面の規模は検出された部分で計測すると長軸0.60×短軸0.24mである。検出面から遺構底面までの深さは最深部で18cmである。

<埋土> 単層で、炭化物を1%含む暗褐色土である。

<遺物> 出土していない。

時期 構築時期は不明である。

13号土坑（第53・78図、写真図版33）

<位置・検出・重複関係> VIII F20u・20vグリッドに跨って位置し、第IV層で検出した。重複している遺構は11号溝で、土坑北西部側の埋土を削平しながら11号溝が構築されており、新旧関係は11号溝が13号土坑より古い。

<平面形・規模> 遺構上面及び底面とも楕円形を示し、その規模は上面では長軸1.42×短軸1.24m、底面では長軸0.74×0.52mである。検出面から遺構底面までの深さは最深部で46cmである。

<埋土> 5層に分けられる。黒褐色～暗褐色土を主体とした埋土で、上層である1層、中層である2・3層、下層である5層には地山に由来するものと思われるにぶい黄褐色土粒が混入している。

<遺物> 55が出土している。55は縄文土器の深鉢胴部片であり、縄文が施されている。埋土の堆積状況から、混入したものと思われる。

時期 検出状況等から、構築時期は近世以降である。

14号土坑（第53・79図、写真図版33）

<位置・検出・重複関係> VIII H14aグリッドに位置し、遺構の一部は調査区外に所在している。第IV層で検出した。重複している遺構はない。

<平面形・規模> 検出された部分で判断すると、遺構上面及び底面とも平面形は楕円形であると思われる。遺構上面の規模は1.0×0.72m、底面は長軸0.38×短軸0.38mであり、検出面から遺構底面までの深さは最深部で46cmである。

<埋土> 2層に分けられる。上層である1層、下層である2層とも黒褐色土で酸化鉄を含んでおり、1層が2層より多く含んでいる。1層にはウルシ塗りの木器のものと思われる赤い色素がまとまって見られたが、木器は残存していなかった。

<遺物> 56が出土している。56は砥石であり、磨面が片面しか見られないため、片面のみ砥石として利用されていたものと思われる。

時期 出土遺物等から、構築時期は近世である。

15号土坑（第53図、写真図版33）

<位置・検出・重複関係> VIII F7rグリッドに位置し、第IV層で検出した。重複している遺構は2・7～9号墓壙であり、15号土坑はこれらの墓壙より新しい。

<平面形・規模> 遺構上面及び底面とも円形であり、遺構上面の規模は径2.42～2.32m、遺構底面の規模は径2.1m、検出面から遺構底面までの深さは最深部で28cmである。

<埋土> 2層に分けられ、粘土質の暗褐色～黒褐色粘土質シルトが堆積している。上層である1層には酸化鉄、グライ化した粘土質シルトが含まれ、下層である2層には灰黄褐色土、黒褐色土が含まれている。

<遺物> 出土していない。

時期 墓壙の詳細については後述するが、墓壙の大半は近世末に構築されたものと思われ、これらの墓壙の一部を改変して15号土坑は構築されていることから、本遺構の時期は近世末以降に構築されたものと思われる。

16号土坑（第54図、写真図版33）

<位置・検出・重複関係> VIII F 7 mグリッドに位置し、第IV層で検出した。重複している遺構はない。

<平面形・規模> 遺構上面の平面形は楕円形で長軸1.12×短軸0.92mの規模であり、遺構底面はほぼ方形で0.7×0.6mの規模である。検出面から遺構底面までの深さは最深部で26cmである。

<埋土> 3層に分けられる。暗褐色～褐色土を主体とし、上層である1層には暗褐色砂質土、褐灰色粘土質シルトを含んでいる。2層は1層を50%、3層は1層を10%含む暗褐色～褐色土である。

<遺物> 出土していない。

時期 構築時期は不明である。

17号土坑（第54図、写真図版34）

<位置・検出・重複関係> VIII F 6 mグリッドに位置し、第IV層で検出した。重複している遺構はない。

<平面形・規模> 遺構上面及び底面とも平面形は楕円形で、遺構上面の規模は長軸0.54×短軸0.42m、遺構底面の規模は長軸0.38×短軸0.28mである。検出面から遺構底面までの深さは最深部で24cmである。

<埋土> 2層に分けられる。1層は暗褐色土、2層は褐色土である。

<遺物> 出土していない。

時期 構築時期は不明である。

18号土坑（第54図、写真図版34）

<位置・検出・重複関係> VIII F 7 oグリッドに位置し、第IV層で検出した。重複している遺構はないが、遺構の一部に攪乱を受けた箇所がある。

<平面形・規模> 攪乱を受けた箇所があるものの、遺構上面及び底面とも楕円形で、遺構上面の規模は長軸0.62×短軸0.52m、遺構底面の規模は長軸0.42×短軸0.32mであり、検出面から遺構底面までの深さは最深部で18cmである。

<埋土> 単層である。暗褐色土を主体とした埋土である。

<遺物> 出土していない。

時期 構築時期は不明である。

19号土坑（第54図、写真図版34）

<位置・検出・重複関係> VIII F 5 oグリッドに位置し、第IV層で検出した。重複している遺構はない。

<平面形・規模> 遺構上面及び底面とも方形である。遺構上面の規模は0.84×0.84m、遺構底面の規模は0.58×0.58m、検出面から遺構底面までの深さは92cmである。遺構の断面形は箱形である。

<埋土> 3層に分けられる。暗褐色土を主体とした埋土で、各層とも褐色土を含んだ自然堆積である。

<遺物> 出土していない。

時期 遺物は出土していないものの、遺構の平・断面形、規模及び検出位置等、後述する近世に構築さ

れた墓壇に類似していることから墓壇であったと推測され、近世に属するものと思われる。

20号土坑（第54・79図、写真図版34）

<位置・検出・重複関係> VIIIH14cグリッドに位置し、第IV層で検出した。重複している遺構はないが、遺構の北端は調査区外である。

<平面形・規模> 遺構北端部が調査区外に所在しているが、平面形は円形あるいは楕円形であると推測され、その規模は上面が長軸1.14×短軸0.9m、底面が長軸0.9×短軸0.7mであり、遺構検出面から底面までの深さは最深部で34cmである。

<埋土> 3層に分けられる。上層である1層・下層である2層とも暗褐色土で、遺構壁際に堆積している3層は、地山が崩落した褐色土である。

<遺物> 57が出土している。57は縄文時代の深鉢胴部片であるが、属する時期については不明である。時期 遺物が出土したものの、埋土及び検出状況等から近世に構築されたものと思われる。

21号土坑（第54・79図、写真図版35）

<位置・検出・重複関係> VIII G10fグリッドに位置し、第IV層で検出した。重複している遺構はない。

<平面形・規模> 遺構の平面形は上面及び底面とも円形である。その規模は上面で径1.86m、底面では径0.78～0.82mであり、検出面から遺構底面までの深さは最深部で18cmである。

<埋土> 単層である。暗褐色土が堆積し、褐色の地山崩落土ブロック、礫が含まれている。

<遺物> 58が出土している。58は無茎の石鏃である。58の他に土師器細片が埋土上面から出土したが、器面の摩滅が激しく、器種等が不明であったため図化しなかった。

時期 遺物は出土したが混入したものと思われるため、構築時期は不明である。

22号土坑（第55図、写真図版35）

<位置・検出・重複関係> VII D19oグリッドに位置し、第IV層で検出した。重複した遺構はないが、遺構の南端部は調査区外に所在している。

<平面形・規模> 遺構南端部は調査区外ではあるが、遺構上面の平面形はほぼ円形で、径1.0mの規模であり、底面は楕円形で長軸0.74×短軸0.60mである。検出面から遺構底面までの深さは最深部で44cmである。

<埋土> 3層に分けられ、1・2層とも暗褐色土主体の埋土で、3層は地山崩落土である。

<遺物> 1層上面から土師器細片が3点出土したが、いずれも摩滅が激しく、時期・器種等不明であるため、図化しなかった。

時期 遺物は出土したが混入したものと思われるため、構築時期は不明である。

23号土坑（第55図、写真図版35）

<位置・検出・重複関係> VII D18mグリッドに位置し、第IV層で検出した。重複した遺構はないが、遺構の南半分は調査区外に所在している。

<平面形・規模> 遺構の半分は調査区外に所在しているが、平面形は、遺構上面及び底面とも楕円形で、検出された部分で上面が1.76×0.96m、底面が1.16×0.90mの規模で、検出面から遺構底面までの深さは最深部で26cmである。

<埋土> 4層に分けられ、黒褐色土を主体とした1・2層、遺構壁際の3・4層は暗褐色土である。

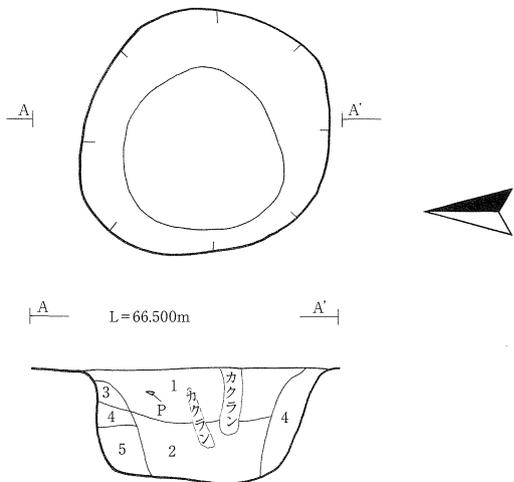
4 検出遺構と出土遺物

上層である1層、下層である2層とも炭化物粒を含むが、3・4層には含まれない。

<遺物> 出土していない。

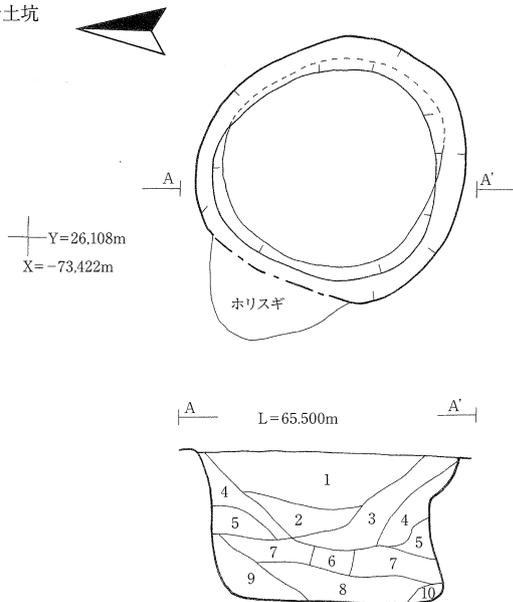
時期 構築時期は不明である。

1号土坑



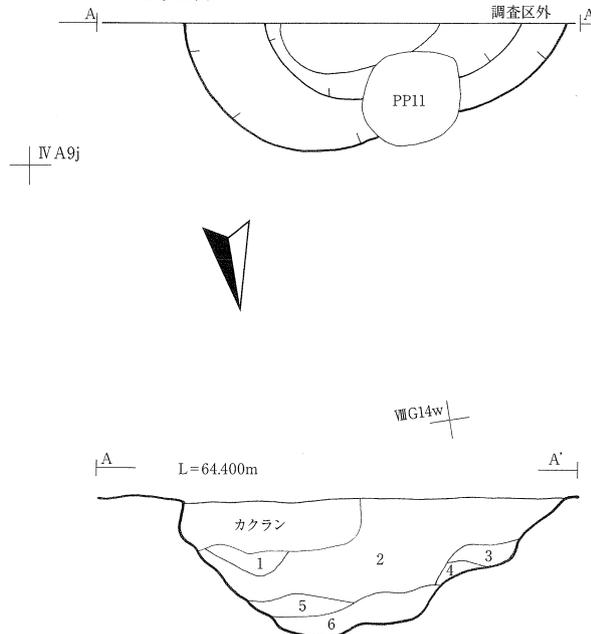
- A-A'
- 10YR3/3 暗褐色土 やや砂質 粘性ややあり しまりあり 径5mmの炭化物1%未満含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性・しまりあり 径10~15mmの炭化物1~2%含む。灰白色(10YR8/2)を径7~10mmの粒状で1%未満含む(to-b?)。
 - 10YR4/4 褐色砂 粘性なし しまりあり 暗褐色土(10YR3/3)5%含む。
 - 10YR4/4 褐色砂質土50%、10YR3/3 暗褐色土50%の混合土層。粘性ややあり しまりあり 径7~10mmの炭化物1%未満含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土90%、10YR4/4 褐色土10%の混合土層。粘性ややあり しまりあり 径5mmの炭化物1%未満含む。

3号土坑



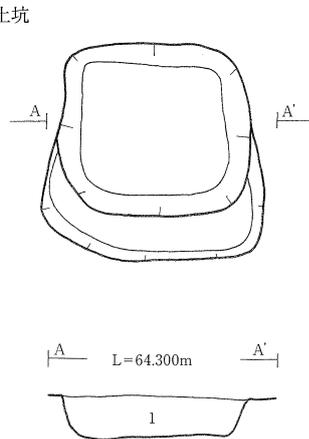
- A-A'
- 10YR2/1 黒色土 粘性・しまりあり 暗褐色土(10YR3/4)10%混入。
 - 10YR2/1 黒色土 粘性・しまりあり
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性・しまりあり 暗褐色土(10YR3/4)5%含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性・しまりあり 暗褐色土(10YR3/4)10%含む。
 - 10YR2/2 黒褐色砂質土 粘性ややあり しまりあり 暗褐色土(10YR3/4)2~3%含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土60%、10YR3/4 暗褐色土40%の混合土層。粘性・しまりあり
 - 10YR2/1 黒色土 粘性・しまりあり 暗褐色砂質土(10YR3/4)1~2%含む。
 - 10YR2/1 黒色土 粘性・しまりあり 径3mmの炭化物1%含む。
 - 10YR3/2 黒褐色土 やや砂質 粘性・しまりあり
 - 10YR4/4 褐色土 粘性・しまりあり 地山崩落土か。

2号土坑

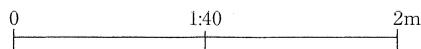


- A-A'
- 10YR3/1 黒褐色土 粘性・しまりややあり 黒褐色土(10YR3/2)30%、にぶい黄褐色土(10YR4/3)5%含む。
 - 10YR3/1 黒褐色土 粘性・しまりややあり 黒褐色土(10YR3/2)50%含む。
 - 10YR3/1 黒褐色土 粘性・しまりややあり 黒褐色土(10YR3/2)20%含む。
 - 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性ややあり しまりあり 黒褐色土(10YR3/1)20%、黒褐色土(10YR3/2)20%含む。
 - 10YR3/2 黒褐色土 にぶい黄褐色土(10YR4/3)5%含む。
 - 10YR4/2 にぶい灰黄褐色砂質土 粘性あり しまりややあり 黒色粘土(10YR2/1)50%、黒褐色土(10YR3/2)10%含む。

4号土坑

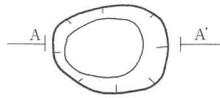


- A-A'
- 7.5YR3/2 黒褐色土 粘性・しまりあり 暗褐色土ブロック(10YR3/4 20~40mm大)を25%含む。5~10mm大の炭化物粒を1%含む。



第51図 1~4号土坑

5号土坑



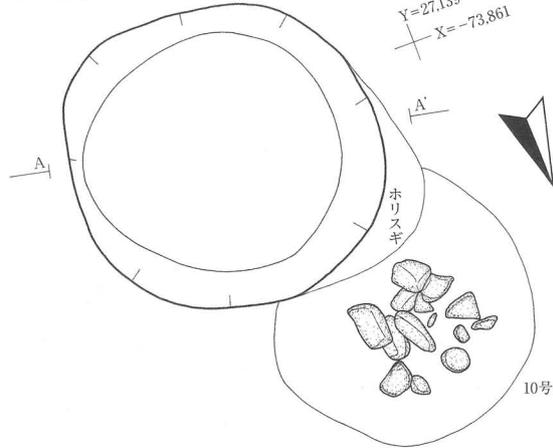
L=64.300m



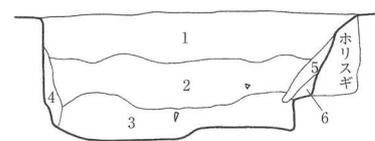
A-A'

- 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりあり 砂質。水酸化鉄粒を20%含む。5mm大の炭化物粒を1%含む。
- 2 10YR3/4 暗褐色土 粘性・しまりあり 水酸化鉄粒を3%含む。
- 3 10YR3/3 暗褐色土 粘性・しまりあり 水酸化鉄粒を5%含む。5mm大の炭化物粒を1%含む。

6号土坑



L=63.800m



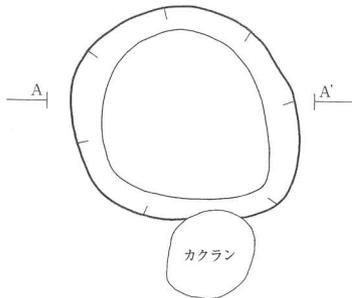
A-A'

- 1 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土(10YR4/4 径5mm)、径5mmの炭化物1%未満、水酸化鉄3%含む。
- 2 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 暗褐色砂(10YR3/3) 5%筋状に含む。径5mmの炭化物1%未満含む。
- 3 5Y3/1 オリーブ黒色土 粘性・しまりあり
- 4 10YR3/3 暗褐色土 粘性・しまりあり にぶい黄褐色土(10YR4/3) 10%混合。
- 5 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性ややあり しまりなし 暗褐色砂(10YR3/3) 3%含む。
- 6 10YR3/3 暗褐色土90%、10YR4/3 にぶい黄褐色土10%の混合土層。粘性あり しまりややあり

7号土坑

X=-73.852
Y=27.075

Y=27.075
X=-73.850



L=64.300m

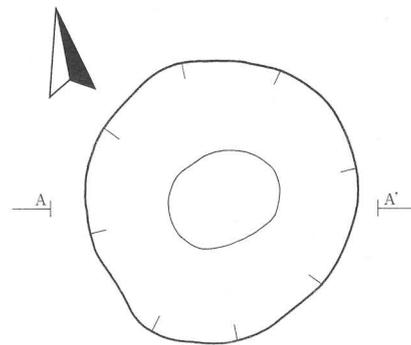


A-A'

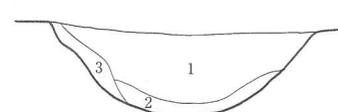
- 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性・しまりあり 2~10mm大の炭化物粒を25%含む。10YR3/4 暗褐色土ブロック(20mm厚)を3%含む。
- 2 10YR3/4 暗褐色土 粘性・しまりあり 黒褐色土ブロック(10YR2/3 20mm厚)を1%未満含む。
- 3 10YR3/4 暗褐色土 粘性強い しまりあり 黒褐色土ブロック(10YR2/3 40mm厚)を1%未満含む。

8号土坑

X=-73.853
Y=27.106



L=64.000m

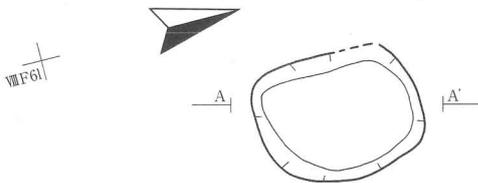


A-A'

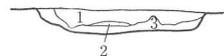
- 1 10YR3/3 暗褐色粘土 粘性あり しまりややあり にぶい黄褐色粘土(10YR4/3) 5%、炭化物粒(1~2mm) 3%含む。
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土質シルト 粘性・しまりあり 褐色砂質土(10YR4/4) 10%、暗褐色粘土質シルト(10YR3/3) 50%含む。
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土質シルト 粘性・しまりあり 褐色砂質土(10YR4/4) 10%、暗褐色粘土質シルト(10YR3/3) 15%含む。

9号土坑

Y=25.944
X=-73.818

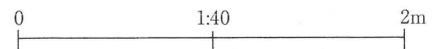


L=64.500m



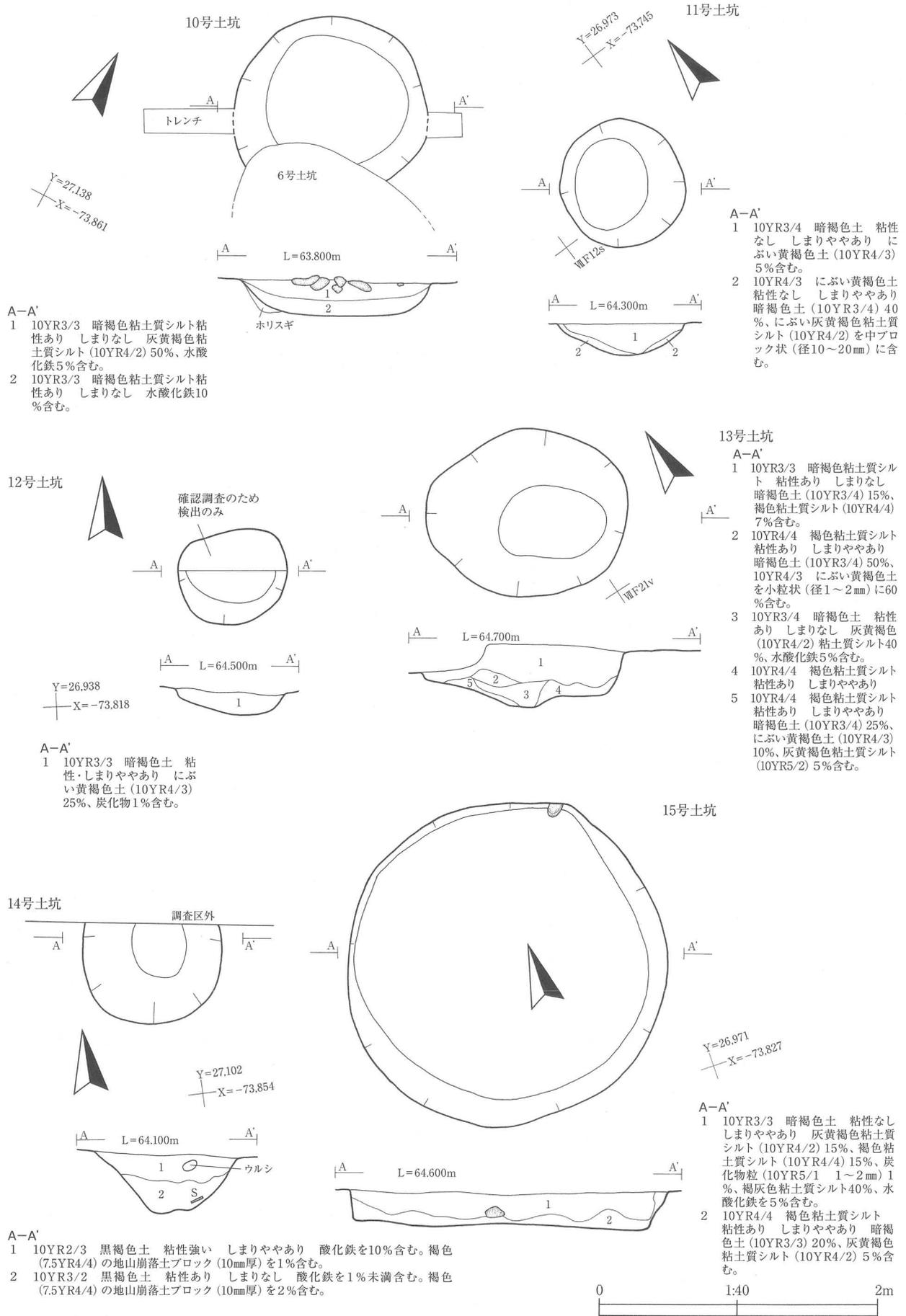
A-A'

- 1 5YR3/2 暗赤褐色焼土 粘性・しまりあり 褐色の地山崩落土(10YR4/4 径5~10mm大)の粒子で20%含む。暗赤褐色焼土粒(5YR3/4 5~20mm大)を2%含む。遺物を含む。
- 2 2.5YR4/6 赤褐色焼土 粘性・しまりあり 2mm大の炭化物粒を1%未満含む。
- 3 7.5YR4/4 褐色土 粘性・しまりあり 暗赤褐色焼土ブロック(5YR3/2 20mm大)を1%含む。



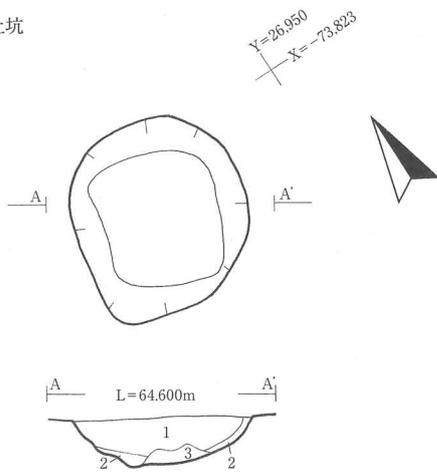
第52図 5~9号土坑

4 検出遺構と出土遺物



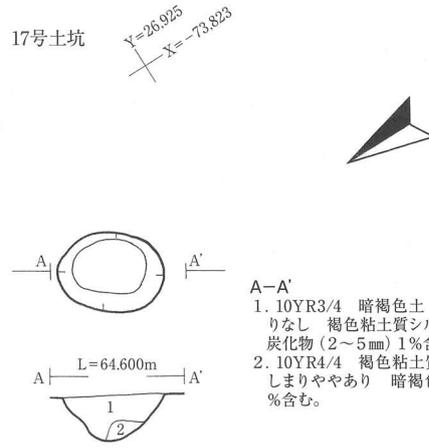
第53図 10~15号土坑

16号土坑



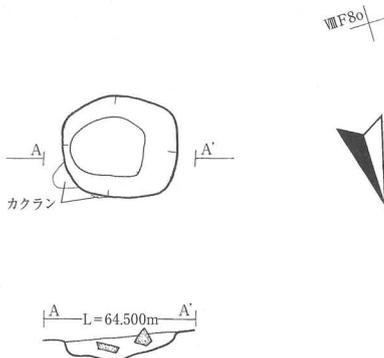
- A-A'
- 10YR3/3 暗褐色土 粘性・しまりややあり 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 7%、褐灰色粘土質シルト (10YR4/1) 2%、炭化物粒 (2~5mm) 1%含む。
 - 10YR3/4 暗褐色砂質土 粘性ややあり しまりなし 暗褐色土 (10YR3/3) を50%含む。
 - 10YR3/4 暗褐色砂質土 粘性なし しまりあり 暗褐色土 (10YR3/3) を10%含む。

17号土坑



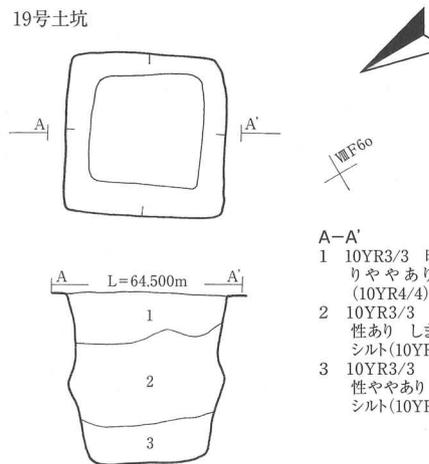
- A-A'
- 10YR3/4 暗褐色土 粘性ややあり しまりなし 褐色粘土質シルト (10YR4/4) 10%、炭化物 (2~5mm) 1%含む。
 - 10YR4/4 褐色粘土質シルト 粘性あり しまりややあり 暗褐色土 (10YR3/4) を25%含む。

18号土坑



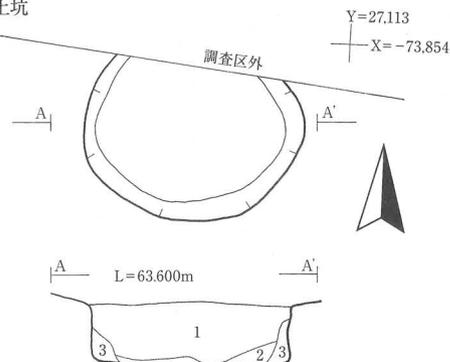
- A-A'
- 10YR3/4 暗褐色粘土質シルト 粘性ややあり しまりあり 褐色砂質土 (10YR4/4) 10%含む。

19号土坑



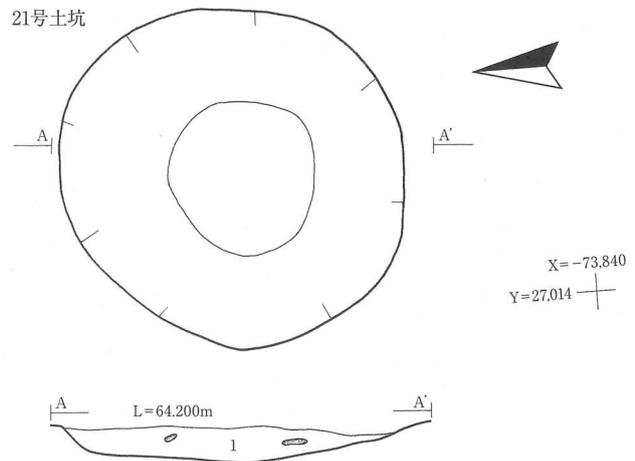
- A-A'
- 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし しまりややあり 褐色粘土質シルト (10YR4/4) を50%含む。
 - 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性あり しまりややあり 褐色粘土質シルト (10YR4/4) を5%含む。
 - 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性ややあり しまりなし 褐色粘土質シルト (10YR4/4) を20%含む。

20号土坑

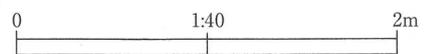


- A-A'
- 10YR3/3 暗褐色土 粘性・しまりややあり におい黄褐色粘土質シルト (10YR4/3) 2%含む。
 - 10YR3/3 暗褐色土 粘性・しまりややあり におい黄褐色粘土質シルト (10YR4/3) 50%含む。
 - 10YR4/3 におい黄褐色粘土質シルト 粘性・しまりややあり 暗褐色土 (10YR3/3) 25%含む。

21号土坑

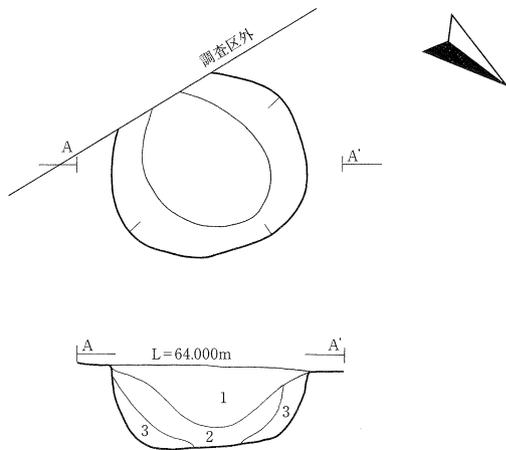


- A-A'
- 10YR3/3 暗褐色土 粘性強い しまりあり 褐色の地山崩落土ブロック (7.5YR4/4 30mm大) を1%、10~100mm大の礫を1%含む。酸化鉄を1%、5mm大の炭化物粒を1%含む。遺物混入。



第54図 16~21号土坑

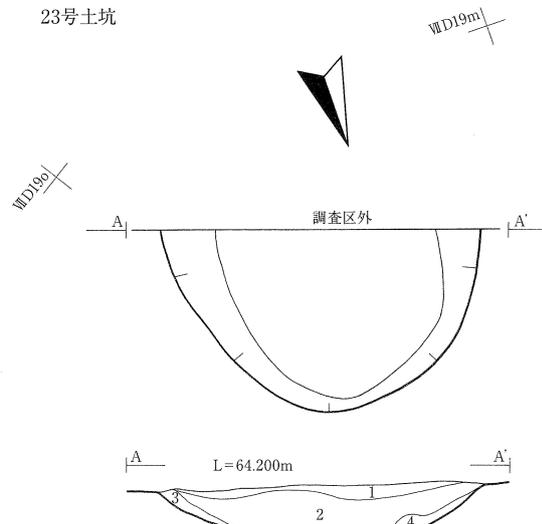
22号土坑



A-A'

- 1 10YR3/3 暗褐色土 粘性強い しまりあり 5mm大の炭化物粒を1%未満含む。褐色粘土ブロック(10YR4/6 30mm大)を1%未満含む。遺物を含む。
- 2 10YR3/4 暗褐色土 粘性・しまりあり 3mm大の炭化物粒を1%未満含む。
- 3 10YR4/4 褐色土 粘性強い しまりあり 褐色(10YR4/6)の地山崩落土を主体とし、暗褐色土ブロック(10YR3/3 50mm大)を7%含む。

23号土坑



A-A'

- 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性・しまりあり 5~10mm大の炭化物粒を1%未満含む。
- 2 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりあり 5~20mm大の炭化物粒を1%未満含む。褐色の地山崩落土ブロック(10YR4/4 10~50mm)を20%含む。
- 3 10YR3/4 暗褐色土 粘性・しまりあり 黒褐色土ブロック(10YR2/3 60mm大)を1%含む。
- 4 10YR3/4 暗褐色土 粘性・しまりあり 黒褐色土ブロック(10YR2/3 20~50mm大)を2%含む。

第55図 22・23号土坑

(5) 溝 跡

調査区内で31条の溝跡を検出した。本調査区では完掘し、確認調査区では土層断面等確認のため、一部掘り下げた。各遺構の詳細は以下のとおりである。

1号溝跡(第56・79図、写真図版36)

<位置・検出・重複関係> VIII F7s~9sグリッドに位置し、表土下の第IV層で検出した。遺構は調査区外まで延びるが、重複する遺構はない。遺構東壁の一部が攪乱を受けており、土層断面は攪乱の影響を受けていない箇所を確認した。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は長さ6.34m、上幅30~45cm、下幅13~25cmで、南南西から北北東方向にかけて直線状に延びる。検出面から遺構底面までの深さは最深部で29cm、断面形は逆台形状である。底面両端部の高低差は3cmで、北北東端側にわずかに傾斜する。

<埋土> 単層である。地山に由来する微量の褐色土が含まれた黒褐色土主体の自然堆積である。断面図にはないが、弥生時代の土器片が含まれていた層は遺構底面に堆積していた黒色土であった。

<遺物> 底面から59が出土した。59は高坏の台である。沈線で鋸歯文が描かれ、竹管による刺突文が施されている。弥生時代中期に属すると思われる。その他弥生時代の土器片が出土したが、図化に至らなかった。

時期 一部攪乱を受けてはいるが、遺物の出土状況等から弥生時代に構築されたものと思われる。

2号溝跡(第56図、写真図版36)

<位置・検出・重複関係> VIII G12mグリッドに位置し、表土下の第IV層で検出した。遺構の東南端が調査区外まで延びる。重複する遺構はない。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は、長さ2.46m、上幅26~37cm、下幅14~21cmで、南南

西から北北東方向へほぼ直線を描いて延びている。検出面から遺構底面までの深さは最深部で9cmで、断面形は半円状である。底面両端部の高低差は1cmとほぼ平坦である。

<埋土> 上層は暗褐色粘土質シルト、下層は黄褐色粘土質シルトの自然堆積の2層である。

<遺物> 埋土から土器細片が出土したが、時期・器種等不明であり図化に至らなかった。

時期 検出状況等から近世以降であると思われる。

3号溝跡（第56図、写真図版36）

<位置・検出・重複関係> VIII G13x・13y・14x・14yグリッドに位置し、表土下の第IV層で検出した。遺構は調査区外まで延びる。P P13・14と重複している。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は、長さ3.64m、上幅38～42cm、下幅23～27cmで、ほぼ南北方向へ直線状に延びている。検出面から遺構底面までの深さは最深部で15cmで、断面は皿状である。底面両端部の高低差は9cmで北端側が低い。

<埋土> 2層に分けられる。上層は暗褐色と黄褐色粘土質シルトの混合土層、下層は黄褐色粘土質シルトに微量の暗褐色粘土質シルトが混じる層である。自然堆積である。

<遺物> 土器細片が出土したが、時期・器種等不明であり図化に至らなかった。

時期 検出状況等から近世以降であると思われる。

4号溝跡（第57図、写真図版37）

<位置・検出・重複関係> VIII F1p・2o・2p・3n・3o・4m・4n・5l・5m・6l・6m・7k・7lグリッドに位置し、表土下の第IV層で検出した。2号住居跡と重複し、これを切る。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は、長さ27.8m、上幅56～104cm、下幅28～52cmで、北東方向から南西方向にほぼ直線状に延びる。検出面から遺構底面までの深さは10～21cmで、断面形はやや不整形の皿状である。底面両端部の高低差は18cmで南西端側に傾斜する。

<埋土> 暗褐色粘土質シルト主体の単層で、自然堆積である。

<遺物> 埋土から土器細片が出土したが、器面の摩滅が激しく図化に至らなかった。

時期 検出状況等から近世以降であると思われる。

5号溝跡（第57図、写真図版37）

<位置・検出・重複関係> VII F10k～10qグリッドにかけて位置し、第IV層で検出した。遺構は調査区外まで延びる。重複する遺構はない。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は、長さ23.1m、上幅31～85cm、下幅12～37cmで、東西方向へ直線状に延びる。一部が新旧二重の溝であるが、新旧関係は南側の溝が新しい。検出面から遺構底面までの深さは最深部で39cm、断面形は逆台形である。東端側にわずかに傾斜する。

<埋土> 旧溝跡の上層は、褐色土がわずかに混じった灰黄褐色土、下層は褐色土と灰黄褐色土の混合土が主に堆積しており、新溝跡の上層は黒褐色土、中層は灰黄褐色土、下層は褐色土に黒褐色土あるいは灰黄褐色土が混じった層である。自然堆積である。

<遺物> 出土していない。

時期 埋土の状況から近代以降であると思われる。

6号溝跡（第58・79図、写真図版38）

<位置・検出・重複関係> VIIIG12f・12g・13f・13gグリッドに位置し、表土下の第IV層で検出した。重複する遺構はない。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は、長さ3.44m、上幅184～198cm、下幅40～86cmで、直線を描いて南西から北東方向に延びる。検出面から遺構底面までの深さは70cm前後で、断面形は半円状である。底面両端部の高低差は15cmで、北東端側に傾斜する。

<埋土> 5層に分けられるが、2層の暗褐色土が最も厚く堆積している。自然堆積である。

<遺物> 60・61が出土した。60は須恵器甕の頸部片、61は打製石斧である。

時期 遺物が出土したが流れ込みであり、検出状況等から近世以降であると思われる。

7号溝跡（第59図、写真図版38）

<位置・検出・重複関係> VIIIG16w・17v・17w・18vグリッドに位置し、表土下の第IV層で検出した。確認調査区と本調査区に跨り、調査区外まで延びる。重複する遺構はない。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は、長さ8.40m、上幅30～38cm、下幅12～20cmで、南西から北東方向へ直線状に延びる。検出面から遺構底面までの深さは最深部で12cm、断面形は皿状である。底面の高低差は4cmで南西端側へ傾斜する。

<埋土> 暗褐色土と褐色土の混合土層で、混入割合から2層に分けた。自然堆積である。

<遺物> 出土していない。

時期 検出状況等から近世以降であると思われる。

8号溝跡（第58・79図、写真図版39）

<位置・検出・重複関係> VIIIG15q・15r・16r・16s・17s・17t・18tグリッドに位置し、表土下の第IV層で検出した。確認調査区と本調査区に跨り、調査区外まで延びる。重複する遺構はない。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は、長さ15.48m、上幅86～136cm、下幅24～32cmで、南東から北西方向へ直線状に延びている。検出面から遺構底面までの深さは最深部で65cm、断面形は逆台形である。底面の高低差は4cmで、南東端側へ傾斜する。

<埋土> 4～5層に分けられる。暗褐色粘土質シルトに黄褐色粘土質シルトが混入し、下層ほど混入割合が高い自然堆積である。

<遺物> 62が出土した。62は磨石類で、磨面が各面とも見られる上に、表面及び裏面に敲打痕が見られる。62の他に土器細片が出土したが、時期・器種等不明で図化に至らなかった。

時期 遺物は出土したが流れ込みであると思われる。検出状況等から近世以降であると思われる。

9号溝跡（第59図、写真図版39）

<位置・検出・重複関係> VIIIG15o・16oグリッドに位置し、第IV層で検出した。確認調査区と本調査区に跨り、調査区外まで延びる。重複する遺構はない。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は、長さ7.78m、上幅28～44cm、下幅14～22cmで、北北西から南南東方向に直線的に延びる。検出面から遺構底面までの深さは最深部で7cm、断面形は皿状である。底面の高低差は20cmで、南東端側へ傾斜する。

<埋土> 黒褐色土と黄褐色土の混合土の単層である。自然堆積である。

<遺物> 出土していない。

時期 検出状況等から近世以降であると思われる。

10号溝跡（第60・79図、写真図版40）

<位置・検出・重複関係> 大グリッド VII F、VII G、VIII Fに位置し（北東端 VII G13c、南西端 VIII F71グリッド）、第IV層で検出した。確認調査区と本調査区に跨り、調査区外まで延びている。16号溝、13号土坑と重複し、これらに切られている。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は、長さ101.90m、上幅30～85cm、下幅15～38cmで、南西から北東方向にほぼ直線状に延びる。検出面から遺構底面までの深さは13～23cmを測り、断面形は皿状である。底面は北東端側に緩やかに傾斜する。遺構南西側の一部は削平を受けていた。

<埋土> 上層は黒褐色土、下層は黒褐色土と褐色土あるいは黄褐色粘土との混合土である。

<遺物> 63～66が出土した。63～66とも弥生時代の浅鉢口縁部片であると思われる。63・65・66とも口唇部に沈線1条を有し、65は頂部にキザミ目が施された突起を有している。内面には、63～66いずれにも口縁部に沈線1条が施されている。いずれも弥生時代前期に属するものと思われる。これら以外にも弥生時代の土器片は出土したが、摩滅が激しく図化に至らなかった。

時期 弥生土器のみ出土したが流れ込みであると思われる。検出状況等から近世以降であると思われる。

11号溝跡（第60・79図、写真図版40）

<位置・検出・重複関係> 大グリッド VII F、VII G、VIII Fに位置し（北東端 VII G13b・13c、南西端 VIII F30グリッド）、第IV層で検出した。北東端付近では3条に分岐しているが、3条のうち中央の溝が連続しており、その他2条の溝は中央の溝より古い。確認調査区と本調査区に跨り、一部調査区外まで延びる。16号溝、13号土坑と重複し、これらを切っている。

<規模・形態・方向> 調査区での規模は、長さ78.70m、上幅51～122cm、下幅29～67cmで、南西から北東方向に直線状に延びる。検出面から底面までの深さは8～24cmを測り、断面形は皿状である。底面は北東端側に緩やかに傾斜する。遺構南西側の一部は削平を受けていた。

<埋土> 2層に分けられる。暗褐色土主体の埋土で、上層は褐色土が微量に混入した層、下層は暗褐色土と褐色土の混合土層である。自然堆積である。

<遺物> 67が埋土下位から出土した。67は灰釉が施された陶器皿口縁部片で、推定製作地は瀬戸・美濃で、16世紀に属すると思われる。

時期 遺物の出土状況から近世であると思われる。

12号溝跡（第59図、写真図版40）

<位置・検出・重複関係> VII F11v・12v・12w・13wグリッドに位置し、第IV層で検出した。表土下の第III層からの掘り込みは確認できなかった。確認調査区と本調査区に跨り、調査区外まで延びる。重複する遺構はない。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は、長さ8.16m、上幅47～58cm、下幅22～31cmで、南東から北北西方向にわずかに蛇行する。遺構検出面から底面までの深さは最深部で14cm、断面形は皿状である。遺構底面の高低差は19cmで、北北西端側に傾斜する。

<埋土> 暗褐色シルトに黄褐色粘土質シルトが混入した層が主体で、下層ほど黄褐色の混入割合が高く、4層に分けられる。自然堆積である。

<遺物> 出土していない。

時期 構築時期は不明である。

13号溝跡（第61図、写真図版39）

<位置・検出・重複関係> VII F11pグリッドに位置し、表土下の第IV層で検出した。南端が調査区外まで延びる。重複する遺構はない。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は、長さ3.38m、上幅49～68cm、下幅24～45cmで、南南西から北北東方向に直線状に延びる。検出面から遺構底面までの深さは16cm、断面形は逆台形である。北北東側に向かって緩やかに傾斜する。

<埋土> 3層に分けられる。上層は暗褐色土と灰黄褐色粘土との混合土で、下層は黄褐色土と暗褐色土の混合土の自然堆積である。1～3層とも炭化物粒が含まれ、1層には酸化鉄も含まれている。

<遺物> 出土していない。

時期 検出状況等から近世以降であると思われる。

14号溝跡（第61図、写真図版41）

<位置・検出・重複関係> VII F11t・12tグリッドに位置し、第IV層で検出した。第III b層から掘り込まれていることを調査区北側壁断面で確認したが、遺構の大半以上が攪乱を受けており、平面プランは南端部のみの検出であったため、平面図は推定線で遺構を表現した。北東端が調査区外に延びている。重複する遺構はない。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は、長さ5.64m、上幅48～64cm、下幅43～58cmで、北東から南西方向へ直線状に延びる。検出面から遺構底面までの深さは14cm、断面形は皿状である。底面両端部の高低差は16cmで、南西側に傾斜する。

<埋土> 単層である。暗褐色土に微量の黄褐色土を含む層である。

<遺物> 出土していない。

時期 構築時期は不明である。

15号溝跡（第61図、写真図版41）

<位置・検出・重複関係> VIII F4n・4o・5m・5nグリッドに位置し、表土下のIV層で検出したが、一部削平を受けていたため、平面図では推定線で表現した。重複する遺構はない。

<規模・形態・方向> 長さ9.05m、上幅26～48cm、下幅12～32cmの規模で、南西から北東方向に直線状に延びる。検出面から遺構底面までの深さは最深部で8cmと浅く、断面形は皿状である。底面両端部の高低差は7cmで、北東側に向かって緩やかに傾斜する。

<埋土> 自然堆積である。暗褐色粘土質シルトに微量の黄褐色粘土質シルトを含む単層である。

<遺物> 出土していない。

時期 検出状況等から近世以降であると思われる。

16号溝跡（第61・79図、写真図版41）

<位置・検出・重複関係> VII F18v～20vグリッドに位置し、第IV層で検出したが、攪乱のため、遺構が掘り込まれた土層は不明である。遺構北側は調査区外まで延びるが、南側は攪乱土を除去しても、調査区外まで延びていることは確認できなかった。水田造成等によって削平されたものと思われる。

る。10・11号溝と重複し、10号溝を切り、11号溝に切られている。

＜規模・形態・方向＞ 調査区内での規模は、長さ2.24m、上幅34～58cm、下幅18～30cmで、南北方向に直線状に延びる。検出面から遺構底面までの深さは最深部で16cm、断面形はやや不整形の半円状である。遺構底面は北に向かって傾斜する。

＜埋土＞ 暗褐色粘土質シルトを主体とし、黄褐色粘土質シルトが混じる単層で、自然堆積である。

＜遺物＞ 68が出土した。68は弥生時代の深鉢胴部片であると思われる。

時期 弥生土器が出土したが流れ込みであると思われる。検出状況等から近世以降であると思われる。

17号溝跡（第62・80図、写真図版42）

＜位置・検出・重複関係＞ VIII F4e～4h・5h～5j・6j～6m・7m～7p・8p～8rグリッドに位置し、第Ⅳ層で検出した。一部が削平されており、検出できなかった。4号溝、10号溝と重複し、これらに切られる。

＜規模・形態・方向＞ 調査区での規模は、長さ40.50m（削平部分も含む。）、上幅33～76cm、下幅22～43cmで、南東から北西方向に、わずかに蛇行しながらほぼ直線状に延びている。検出面から遺構底面までの深さは最深部で24cmで、断面形はU字状である。遺構底面は北西側に向かって傾斜している。

＜埋土＞ 3層に分けられる。上～中層は暗褐色粘土質シルト主体の層で、下層はにぶい黄褐色粘土質シルト主体の層である。自然堆積である。

＜遺物＞ 69・70が埋土中から、71が埋土上面から出土した。69は弥生時代の壺の口縁部片で、口縁部内面に沈線1条が施されている。70は弥生時代の浅鉢の口縁部片である。71は土師器杯の口縁部片で、内面が黒色処理されている。

時期 出土状況等から古代以降に属するものと思われる。

18号溝跡（第62図、写真図版42）

＜位置・検出・重複関係＞ VII D11i～17iグリッドに位置し、確認調査区と本調査区に跨り、調査区外まで延びている。第Ⅳ層で検出したが、遺構はⅢ層から掘り込まれている。重複する遺構はない。

＜規模・形態・方向＞ 調査区内での規模は、長さ17.25m、上幅66～86cm、下幅22～38cmで、ほぼ南北方向に直線状に延びる。検出面から遺構底面までの深さは最深部で39cmで、断面形は逆台形である。底面両端部の高低差は47cmで、北端側に向かって傾斜している。

＜埋土＞ 黒褐色土主体の埋土で、褐色土との混入割合から3層に分けた。自然堆積である。

＜遺物＞ 出土していない。

時期 構築時期は不明である。

19号溝跡（第62図、写真図版44）

＜位置・検出・重複関係＞ VII D16h・16i・17g・17hグリッドに位置し、表土下の第Ⅳ層で検出した。遺構は調査区外へ延びている。重複する遺構はない。

＜規模・形態・方向＞ 調査区内の規模は、長さ5.25m、上幅38～50cm、下幅16～28cmで、北東から南西方向にほぼ直線状に延びる。検出面から遺構底面までの深さは最深部で14cmで、断面形は皿状である。両端部底面の高低差は8cmで、南西端側に傾斜している。

＜埋土＞ 黒褐色土主体の埋土で、褐色土との混入割合から2層に分けた。自然堆積である。

<遺物> 出土していない。

時期 検出状況等から近世以降であると思われる。

20号溝跡（第63図、写真図版43）

<位置・検出・重複関係> VID18h・18i・19f～19hグリッドに位置し、第IV層で検出したが、遺構は表土下のⅢ層から掘り込まれている。遺構は確認調査区と本調査区に跨り、調査区外まで延びている。21号溝と重複し、これに切られる。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は、長さ10.08m、上幅54～70cm、下幅25～38cmで、西南西端からほぼ直線を描いて、重複箇所を境に東方向に屈曲しながら延びている。検出面から遺構底面までの深さは最深部で26cmで、断面形は半円状である。遺構底面の高低差は15cmで、東側に傾斜している。

<埋土> 自然堆積である。上層は暗褐色土を主体とし、下層は暗褐色土と黄褐色土・黒褐色土との混合土層の2層に分けられる。

<遺物> 出土していない。

時期 検出状況等から古代以降であると思われる。

21号溝跡（第63・80図、写真図版43）

<位置・検出・重複関係> VID18h～20hグリッドに位置し、第IV層で検出したが、遺構は表土下のⅢ層から掘り込まれている。遺構は確認調査区と本調査区に跨り、調査区外まで延びている。20号溝と重複し、これを切る。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は、長さ7.36m、上幅76～94cm、下幅28～36cmで、南北方向に直線的に延びている。検出面から遺構底面までの深さは最深部で49cmで、断面形は逆台形である。遺構底面の高低差は14cmで、南端側に傾斜している。

<埋土> 自然堆積である。暗褐色粘土質シルトに黄褐色粘土質シルトが混入した埋土で、黄褐色粘土質シルトの混入割合で3層に分けられる。

<遺物> 72・73が出土した。72は弥生時代の浅鉢の口縁部片で、口唇部に頂部に刻み目のある突起を有し、内面口縁部には沈線状の段が見られる。73は弥生時代の深鉢の頸部片である。その他土師器細片が出土したが、器種等不明で図化に至らなかった。

時期 検出状況等から古代以降であると思われる。

22号溝跡（第63図、写真図版44）

<位置・検出・重複関係> VA8m・8n・9m・9nグリッドに位置し、第IV層で検出した。遺構は調査区外へ延びる。重複する遺構はない。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は、長さ2.84m、上幅46～62cm、下幅33～45cmで、ほぼ東西方向に直線状に延びる。検出面から遺構底面までの深さは最深部で9cmで、断面形は皿状である。遺構底面の高低差は6cmで、西端側にわずかに傾斜している。

<埋土> 暗褐色粘土質シルトに黄褐色粘土質シルトをわずかに含む層である。

<遺物> 出土していない。

時期 検出状況等から近世以降であると思われる。

23号溝跡（第64図、写真図版44）

＜位置・検出・重複関係＞ VIC13w～15wグリッドに位置し、第IV層で検出したが、検出時にプランが明瞭ではなかったために掘り下げ過ぎてしまい、大部分は遺構底面での検出となった。遺構は表土下の第III層から掘り込まれていた。確認調査区と本調査区に跨り、調査区外まで延びる。重複する遺構はない。

＜規模・形態・方向＞ 調査区内での規模は、長さ8.82m、上幅23～44cm、下幅17～22cmで、南南東から北方向へ緩やかな弧を描いて延びている。残存部分ではあるが、検出面から遺構底面までの深さは最深部で41cmで、断面形はU字状である。遺構底面は南南東に向かって傾斜している。

＜埋土＞ 自然堆積である。暗褐色土に褐色土が混入した土層で、混入割合から4層に分けられる。下層ほど褐色土の混入割合が高い。

＜遺物＞ 出土していない。

時期 構築時期は不明である。

24号溝跡（第64図、写真図版45）

＜位置・検出・重複関係＞ VIC8o～10oグリッドに位置し、第IV層で検出したが、検出時にプランが明瞭ではなかったために掘り下げ過ぎてしまったため、平面図では推定線で表現した。遺構は表土下の第III層から掘り込まれていた。確認調査区と本調査区に跨り、調査区外まで延びる。重複する遺構はない。

＜規模・形態・方向＞ 調査区内での規模は、長さ6.72m、上幅28～84cm、下幅28～44cmで、南西から北東方向にほぼ直線状に延びている。残存部分ではあるが、検出面から遺構底面までの深さは最深部で46cmで、断面形はU字状である。遺構は北東側に向かって緩やかに傾斜している。

＜埋土＞ 自然堆積である。暗褐色土に褐色砂質土が混入した土層で、混入割合から4層に分けられる。最下層はさらに灰黄褐色粘土質土がわずかに混じる。

＜遺物＞ 出土していない。

時期 構築時期は不明である。

25号溝跡（第65図、写真図版45）

＜位置・検出・重複関係＞ VIC2f・2g・3fグリッドに位置し、第IV層で検出した。表土下の第III層からの掘り込みについては不明瞭で確認できなかった。遺構は確認調査区と本調査区に跨り、調査区外まで延びる。重複する遺構はないが、26号溝と並行している。

＜規模・形態・方向＞ 調査区内での規模は、長さ6.94m、上端幅28～37cm、下端幅15～28cmで、南西から北北東方向に緩やかなS字カーブを描いている。検出面から遺構底面までの深さは最深部で26cmで、断面形はU字状である。遺構底面の高低差は25cmで、北北東側に傾斜している。

＜埋土＞ 自然堆積の2層で、上層が暗褐色土主体、下層が暗褐色土と黄褐色土の混合土である。

＜遺物＞ 出土していない。

時期 構築時期は不明である。

26号溝跡（第65図、写真図版45）

＜位置・検出・重複関係＞ VIC1g・2f・2g・3fグリッドに位置し、第IV層で検出した。表土下の第III層からの掘り込みについては不明瞭で確認できなかった。遺構は確認調査区と本調査区に

跨り、調査区外まで延びる。重複する遺構はないが、25号溝と並行している。

＜規模・形態・方向＞ 調査区内での規模は、長さ7.02m、上幅17～27cm、下幅9～14cmで、南西から北北東方向に緩やかなS字カーブを描いている。検出面から遺構底面までの深さは最深部で17cmで、断面形は半円状である。遺構底面の高低差は17cmで、北北東側に傾斜している。

＜埋土＞ 自然堆積の2層で、上層が暗褐色土主体、下層が暗褐色土と黄褐色土の混合土である。

＜遺物＞ 出土していない。

時期 構築時期は不明である。

27号溝跡（第65図、写真図版46）

＜位置・検出・重複関係＞ VI B 16 h グリッドに位置し、第Ⅲ b 層で検出したが、遺構は表土下の第Ⅲ a 層から掘り込まれ、調査区外まで延びる。重複する遺構はない。

＜規模・形態・方向＞ 調査区内での規模は、長さ2.96m、上幅21～28cm、下幅10～17cmで、北東から南西方向へ緩やかな弧を描いている。検出面から遺構底面までの深さは最深部で6cmで、断面は浅く、箱状の断面形である。遺構底面両端部の高低差は3cmで、南西端側にわずかに傾斜している。

＜埋土＞ 自然堆積である。微量の黄褐色土を含む黒褐色土の単層である。

＜遺物＞ 出土していない。

時期 構築時期は不明である。

28号溝跡（第65図、写真図版46）

＜位置・検出・重複関係＞ VII C 6 h グリッドに位置し、表土下の第Ⅳ層で検出した。遺構は調査区外まで延びる。重複する遺構はない。

＜規模・形態・方向＞ 調査区内での規模は、長さ2.98m、上幅34～49cm、下幅19～27cmで、南南西から北北東方向に直線状に延びる。検出面から遺構底面までの深さは最深部で6cmで、断面は浅く、皿状の断面形である。遺構底面両端部の高低差は17cmで、南南西端側に傾斜している。

＜埋土＞ 自然堆積である。暗褐色土とにぶい黄褐色土との混合土層である。

＜遺物＞ 出土していない。

時期 検出状況等から近世以降であると思われる。

29号溝跡（第66図、写真図版46）

＜位置・検出・重複関係＞ V B 7 m～7 o・8 n～8 p グリッドに位置し、第Ⅳ層で検出した。表土下の第Ⅲ a 層からの掘り込みについては不明瞭で確認できなかった。確認調査区と本調査区に跨り、調査区外まで延びる。重複する遺構はない。

＜規模・形態・方向＞ 調査区内での規模は、長さ14.08m、上幅34～40cm、下幅12～20cmで、西北西から東南東方向に、一部わずかに蛇行しながら全体的には直線状に延びる。検出面から遺構底面までの深さは最深部で18cmで、断面形は半円状である。遺構底面の高低差は21cmで、東南東側に傾斜している。

＜埋土＞ 暗褐色土に微量の黄褐色土が混入した単層である。自然堆積である。

＜遺物＞ 出土していない。

時期 不明である。

30号溝跡（第66図、写真図版47）

<位置・検出・重複関係> VII C 2 b・3 b・3 c・4 c・4 dグリッドに位置し、第IV層で検出した。表土下の第Ⅲ a層からの掘り込みについては不明瞭で確認できなかった。遺構は調査区外まで延び、31号溝と重複し、これを切る。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は、長さ7.66m、上幅32～43cm、下幅17～29cmで、南東から北西方向にほぼ直線状に延びる。検出面から遺構底面までの深さは最深部で28cmで、断面形は箱状である。遺構底面は北西に向かって傾斜している。

<埋土> 暗褐色土と褐色土の混合土を主体とし、下層ほど褐色土の混入割合が高い。混入割合で5層に分けた。自然堆積である。

<遺物> 土器細片が出土したが、時期・器種等不明で図化に至らなかった。

時期 構築時期は不明である。

31号溝跡（第66図、写真図版47）

<位置・検出・重複関係> VII C 3 b・3 cグリッドに位置し、第IV層で検出した。表土下の第Ⅲ a層からの掘り込みについては確認できなかった。遺構は調査区外まで延び、30号溝と重複し、これに切られる。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は長さ4.44m、上幅27～41cm、下幅14～27cmで、北東から南西方向に直線状に延びる。検出面から遺構底面までの深さは最深部で15cmで、断面形は皿状である。底面両端部の高低差は16cmで、南西端側に傾斜している。

<埋土> 黒褐色土に黄褐色土が混入した単層である。自然堆積である。

<遺物> 出土していない。

時期 構築時期は不明である。

(6) 柱穴状土坑（第8表、第67・68・80図）

<調査方法・経過> 65個を検出した。検出された柱穴状土坑は、すべて本調査対象区域にあたっていたため、完掘した。P P 3～65は特定の区域に集中して検出されたが、掘立柱建物跡等を構成するような柱穴の並びは、今回の調査区内では確認できなかったため、すべて柱穴状土坑として報告することとした。柱痕の有無及び規模、他遺構との重複関係については、第8表に記述している。柱痕が確認された柱穴状土坑は18個であるが、検出面で柱痕が確認できない状態で、掘り下げて柱痕が判明した遺構については、同表備考欄に「柱痕、図なし。」と記述してある。

<位置・検出> P P 1はVII D 19pグリッド、P P 2はVII G 11jグリッド、P P 3～55はVIII G 13t・14t～14yとVIII H 14a・15aグリッド、P P 56～65はVIII H 14c・14d・15c・15dグリッドにそれぞれ位置し、いずれも第IV層で検出された。

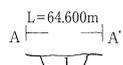
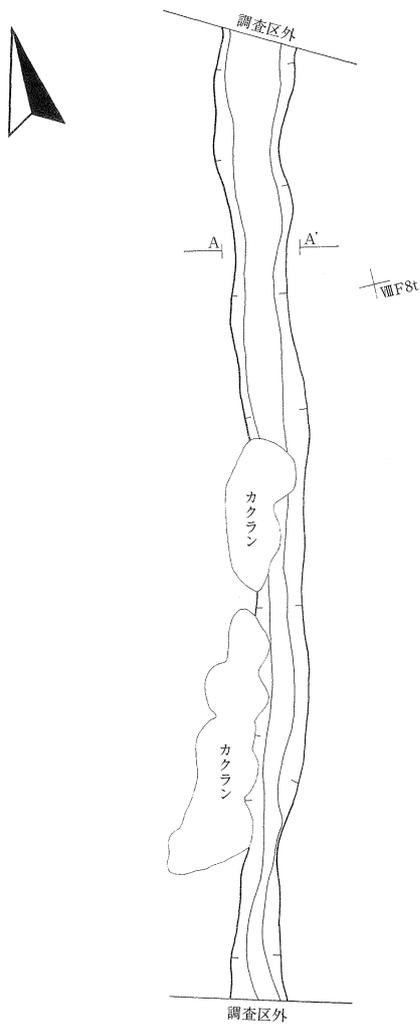
<遺物> P P 1・P P 38・P P 46の3個から遺物が出土した。P P 1から74が出土した。74は土製品であるが、用途不明である。表面は型押しで成形され、裏面は調整せずに指圧痕そのままである。製作方法等から近世以降に属するものと思われる。P P 38から75が出土した。75は弥生時代前期に属する浅鉢の口縁部片であるが、出土状況から流れ込みであると思われる。なお、P P 46出土の土器片については、器面の摩滅が激しく器種及び時代は不明確であったため、掲載しなかった。

時期 柱穴状土坑は、埋土の状況等からいずれも近世以降に構築されたものであると考えられる。

第8表 柱穴状土坑観察表

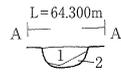
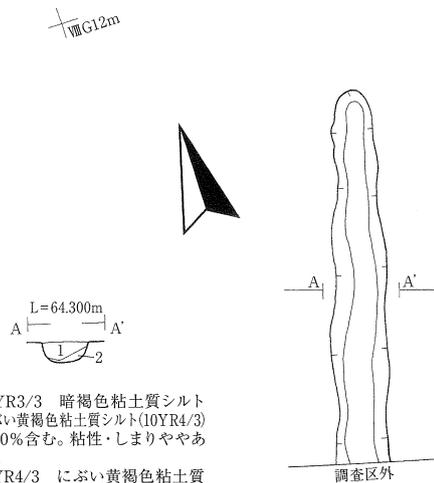
PP No	径 (cm)	深さ (cm)	検出面標高 (m)	柱痕径 (cm)	備考	PP No	径 (cm)	深さ (cm)	検出面標高 (m)	柱痕径 (cm)	備考
1	29 × 28	37	63.836			34	38 × 31	28	64.058		
2	47 × 46	50	64.005	28	柱痕、図なし	35	54 × 49	41	64.003		3号溝と重複
3	42 × 24	21	63.982			36	29 × 28	14	64.046		3号溝と重複
4	36 × 25	21	64.097			37	29 × (20)	18	64.089		
5	52 × 33	21	64.142			38	29 × (36)	36	64.086		
6	34 × 26	25	64.103	27		39	35 × 34	18	64.093		
7	28 × 25	23	64.082			40	36 × 31	21	64.070		
8	49 × 43	38	64.153	16	柱痕、図なし	41	40 × 31	20	64.068	18	柱痕、図なし
9	41 × 41	34	64.117			42	39 × 37	21	64.069		
10	30 × 27	16	64.075			43	37 × 36	60	64.040		
11	38 × 36	56	64.123			44	38 × 33	22	64.040		
12	43 × 34	23	64.113			45	59 × 53	61	64.023	19	柱痕、図なし
13	35 × (26)	31	64.089	15	柱痕、図なし	46	47 × 45	52	64.042	18	
14	39 × 35	19	63.954	23	柱痕、図なし	47	37 × 35	40	64.052		
15	36 × 30	16	64.068	12	柱痕、図なし	48	33 × 31	25	64.119		
16	26 × 25	16	63.902			49	36 × 34	18	64.048	21	柱痕、図なし
17	53 × 52	41	63.972	20	柱痕、図なし	50	52 × 43	75	64.105		
18	52 × 46	26	64.075	17	柱痕、図なし	51	34 × 32	49	63.985		
19	33 × 30	23	64.034			52	39 × 33	26	63.963		
20	50 × 48	29	64.137		2号土坑と重複	53	40 × 28	40	64.020		
21	25 × 25	19	64.064			54	46 × 36	24	63.953		
22	57 × 53	37	64.095			55	41 × 41	7	63.938		
23	34 × 32	21	64.094			56	37 × 33	21	63.974		
24	38 × 33	45	64.137			57	29 × 28	23	63.817		
25	46 × 44	38	64.112	18		58	46 × 41	37	63.804		
26	31 × 27	18	64.135			59	48 × 46	23	63.643	22	柱痕、図なし
27	31 × 28	25	64.108	20	柱痕、図なし	60	27 × 26	59	63.872		
28	42 × 39	19	64.079			61	26 × 25	14	63.709		PP62と重複
29	59 × 56	33	64.100	24		62	57 × 56	18	63.648		PP61と重複
30	34 × 33	16	64.032			63	34 × 26	26	64.545		20号土坑と重複
31	51 × 49	33	64.035	21		64	48 × 41	18	63.616		
32	55 × 48	47	64.083	18	柱痕、図なし	65	36 × 36	29	63.700		
33	34 × 32	54	64.077								

1号溝



- A-A'
- 1 7.5YR3/2 黒褐色土 粘性ややあり
しまりあり 褐色の地山崩落土プロ
ック(7.5YR4/4 20mm厚)を1%含
む。

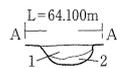
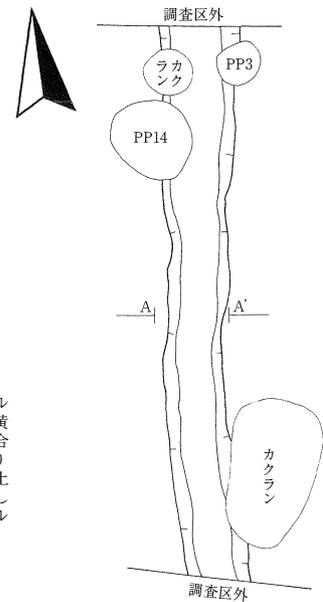
2号溝



- A-A'
- 1 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト
にふい黄褐色粘土質シルト(10YR4/3)
を20%含む。粘性・しまりややあ
り
 - 2 10YR4/3 にふい黄褐色粘土質
シルト 暗褐色土(10YR3/3)
を10%含む。粘性・しまりや
やあり

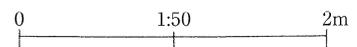
G13m

3号溝



- A-A'
- 1 10YR3/3 暗褐色粘土質シル
ト60%、10YR4/3 にふい黄
褐色粘土質シルト40%の混合
土層。粘性・しまりややあり
 - 2 10YR4/3 にふい黄褐色粘土
質シルト 粘性ややありし
まりあり 暗褐色粘土質シル
ト(10YR3/3) 5%含む。

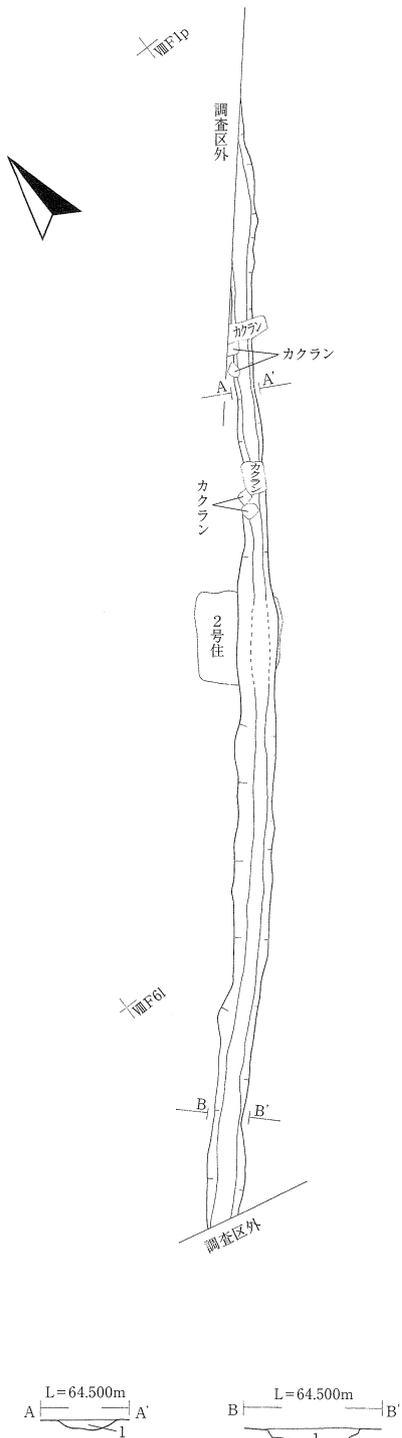
G15y



第56図 1～3号溝

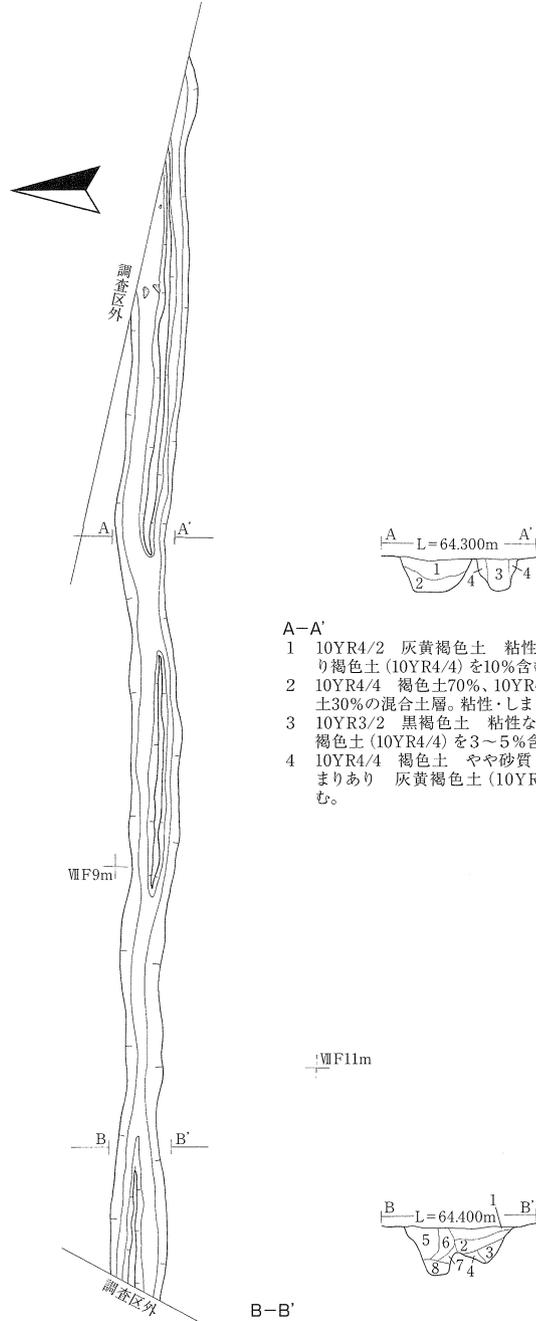
4 検出遺構と出土遺物

4号溝



A-A'、B-B'
 1 10YR3/4 暗褐色粘土質シルト 粘性なし しまりあり にぶい黄褐色粘土質シルト (10YR4/3) を10%含む。

5号溝

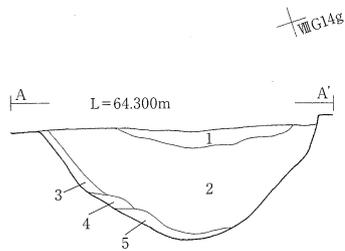
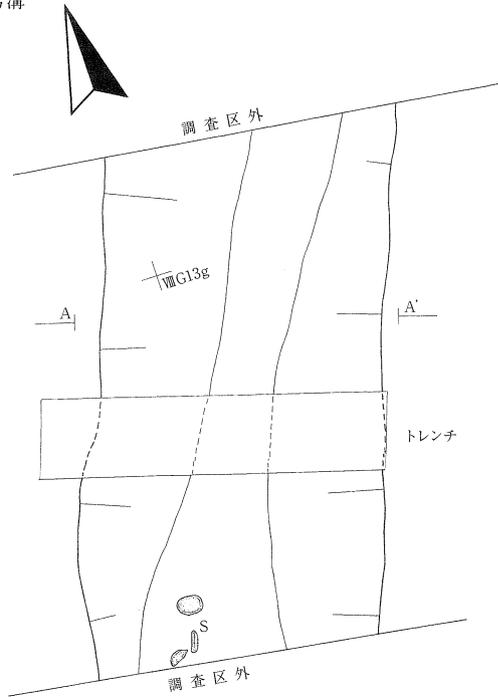


A-A'
 1 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土 (10YR4/4) を10%含む。
 2 10YR4/4 褐色土70%、10YR4/2 灰黄褐色土30%の混合土層。粘性・しまりあり
 3 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土 (10YR4/4) を3~5%含む。
 4 10YR4/4 褐色土 やや砂質 粘性なし しまりあり 灰黄褐色土 (10YR4/2) を3%含む。

B-B'
 1 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土 (10YR4/4 径1~2mm) を1~2%含む。
 2 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土 (10YR4/4) を10~15%含む。
 3 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性あり しまりややあり 褐色土 (10YR4/4) を10%含む。
 4 10YR4/4 褐色土50%、10YR3/2 黒褐色土50%の混合土。粘性・しまりあり
 5 10YR4/2 灰黄褐色土50%、10YR4/4 褐色土50%の混合土。粘性なし しまりあり
 6 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土 (10YR4/4) を2~3%含む。
 7 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土 (10YR4/4) を5%含む。
 8 10YR4/4 褐色土60%、10YR3/2 黒褐色土40%の混合土。粘性ややあり しまりあり

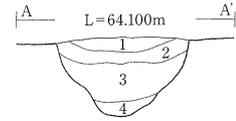
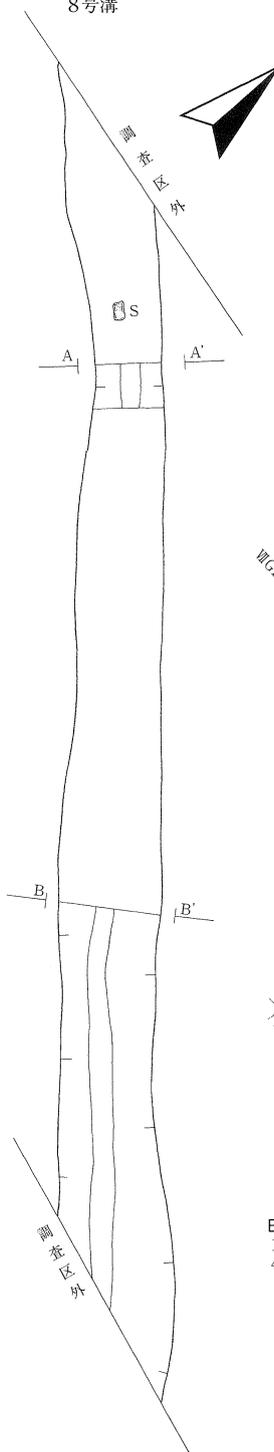
第57図 4・5号溝

6号溝

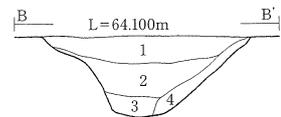


- A-A'
- 1 10YR3/4 暗褐色土50%、10YR4/4 褐色土50%の混合土。粘性なし しまりあり
 - 2 10YR3/4 暗褐色土 粘性なし しまりややあり
 - 3 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性なし しまりややあり 暗褐色土 (10YR3/4) を10%含む。
 - 4 10YR3/3 暗褐色土 粘性あり しまりなし
 - 5 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性・しまりややあり 暗褐色土 (10YR3/4) を20%含む。

8号溝

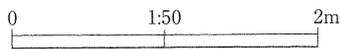


- A-A'
- 1 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性なし しまりあり にぶい黄褐色粘土質シルト (10YR4/3) を1%含む。
 - 2 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性ややあり しまりなし にぶい黄褐色粘土質シルト (10YR4/3) を5%含む。
 - 3 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性・しまりややあり にぶい黄褐色粘土質シルト (10YR4/3) を15%含む。
 - 4 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性・しまりややあり にぶい黄褐色粘土質シルト (10YR4/3) を25%含む。
 - 5 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト 粘性・しまりややあり 暗褐色土 (10YR3/3) を30%含む。

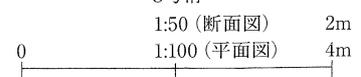


- B-B'
- 1~3 A-A'に同じ。
 - 4 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト 粘性・しまりややあり 暗褐色粘土質シルト (10YR3/3) を30%含む。

6号溝



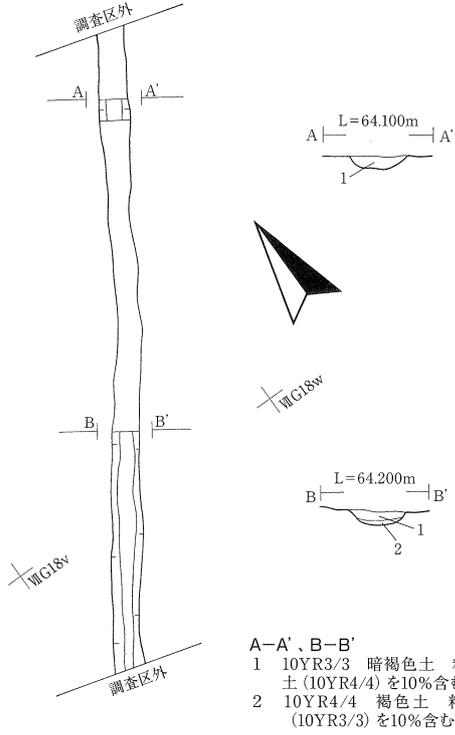
8号溝



第58図 6・8号溝

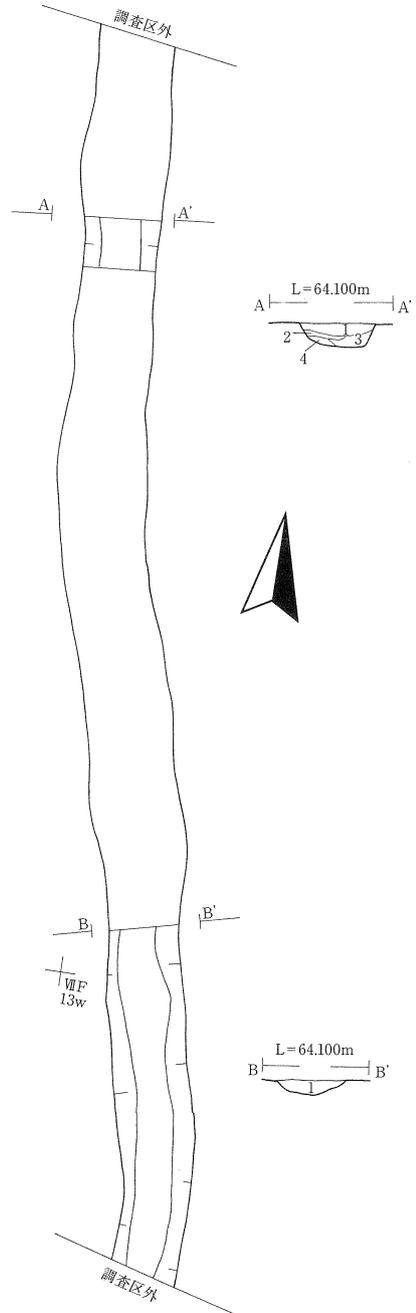
4 検出遺構と出土遺物

7号溝



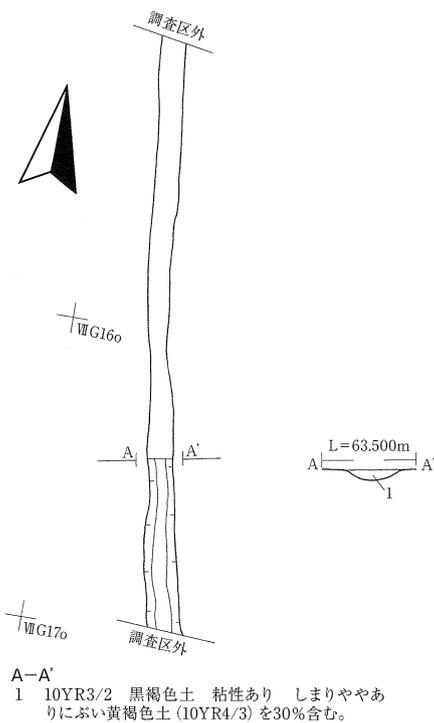
- A-A'、B-B'
- 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土(10YR4/4)を10%含む。
 - 10YR4/4 褐色土 粘性・しまりあり 暗褐色土(10YR3/3)を10%含む。

12号溝

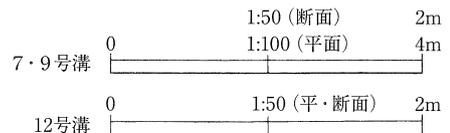


- A-A'、B-B'
- 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまりなし にぶい黄褐色粘土質シルト(10YR4/3)を5%含む。
 - 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりややあり にぶい黄褐色粘土質シルト(10YR4/3)を15%含む。
 - 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりややあり にぶい黄褐色粘土質シルト(10YR4/3)を30%含む。
 - 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土質シルト 粘性あり しまりややあり 暗褐色シルト(10YR3/3)を10%含む。

9号溝

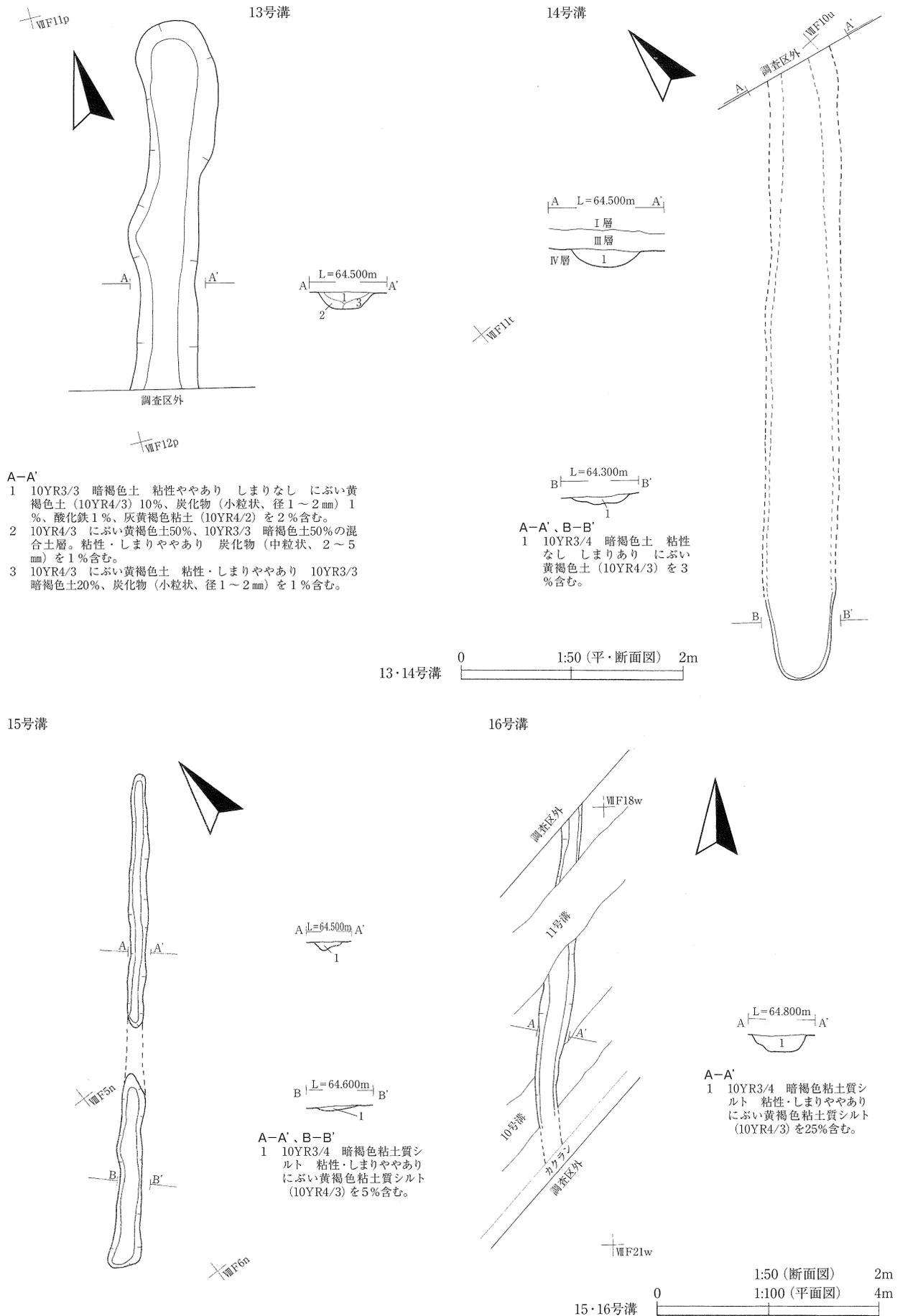


- A-A'
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり しまりややあり にぶい黄褐色土(10YR4/3)を30%含む。

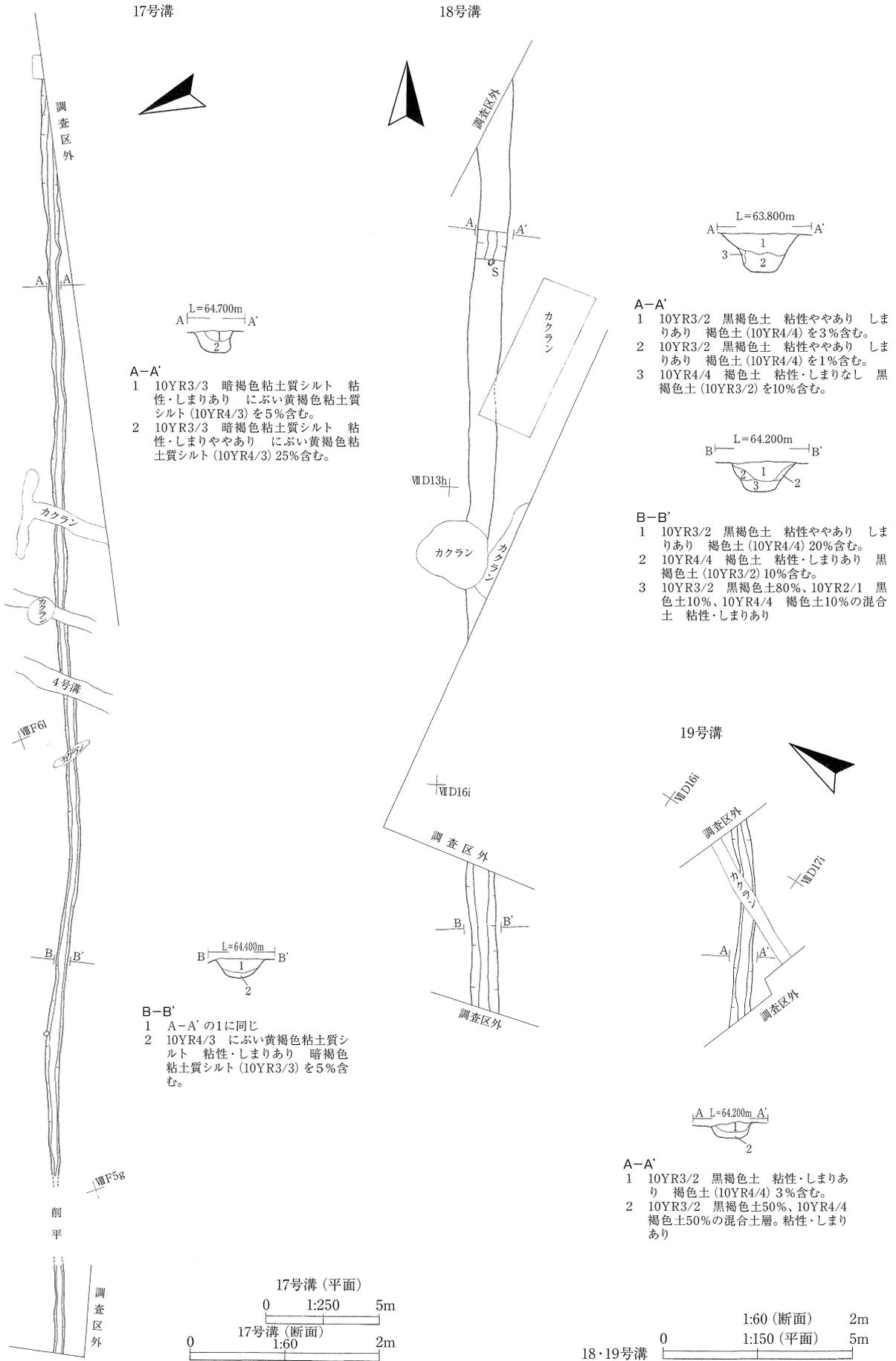


第59図 7・9・12号溝

4 検出遺構と出土遺物



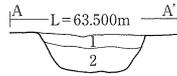
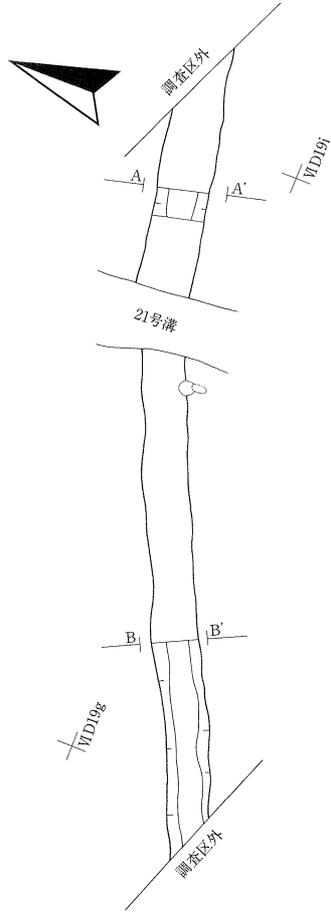
第61図 13~16号溝



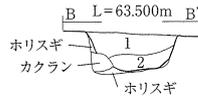
第62図 17~19号溝

4 検出遺構と出土遺物

20号溝

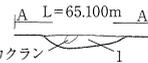
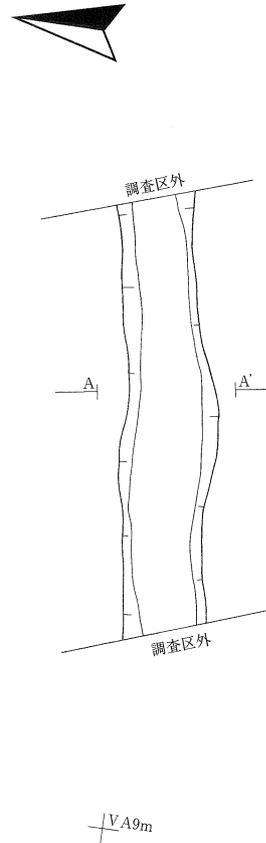


- A-A'
- 1 10YR3/4 暗褐色土 粘性なし しまりあり
 - 2 10YR3/3 暗褐色土50%、10YR4/3 にぶい黄褐色土40%、10YR3/2 黒褐色土10%の混合土層。粘性・しまりややあり



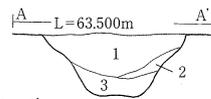
- B-B'
- 1 10YR3/4 暗褐色土 粘性ややあり しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR4/3) を25%含む。
 - 2 A-A' の2に同じ

22号溝

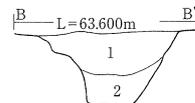


- A-A'
- 1 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性・しまりややあり にぶい黄褐色粘土質シルト (10YR4/3) を10%含む。

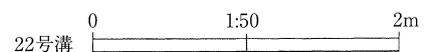
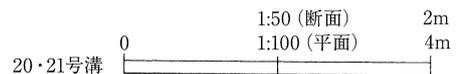
21号溝



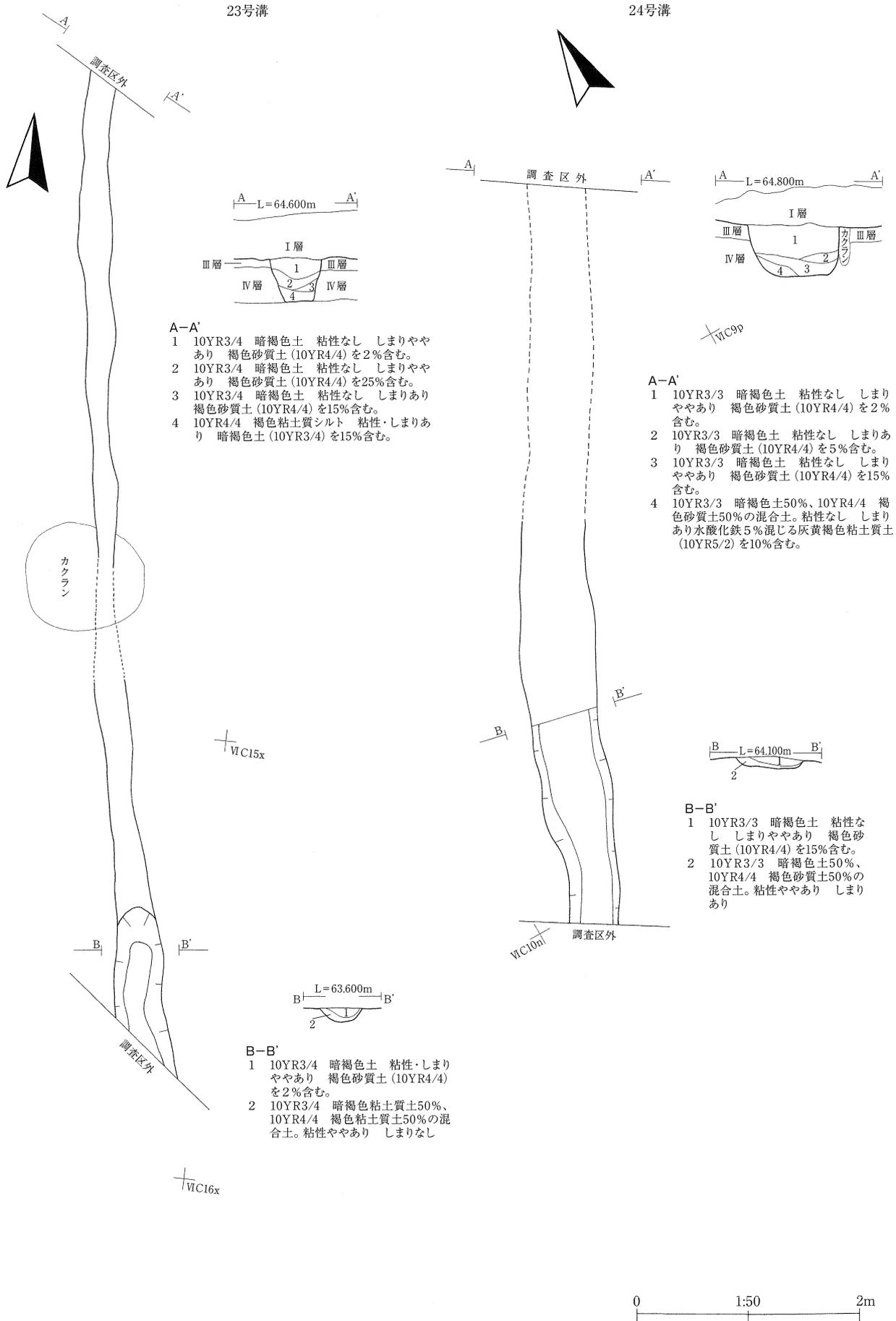
- A-A'
- 1 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性なし しまりややあり 褐色粘土質シルト (10YR4/4) を2%含む。
 - 2 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性なし しまりあり 褐色粘土質シルト (10YR4/4) を5%含む。
 - 3 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性・しまりややあり 褐色粘土質シルト (10YR4/4) を10%含む。



- B-B'
- 1 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性なし しまりややあり 褐色粘土質シルト (10YR4/4) を2%含む。
 - 2 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性・しまりややあり 褐色粘土質シルト (10YR4/4) を10%含む。

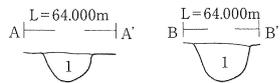
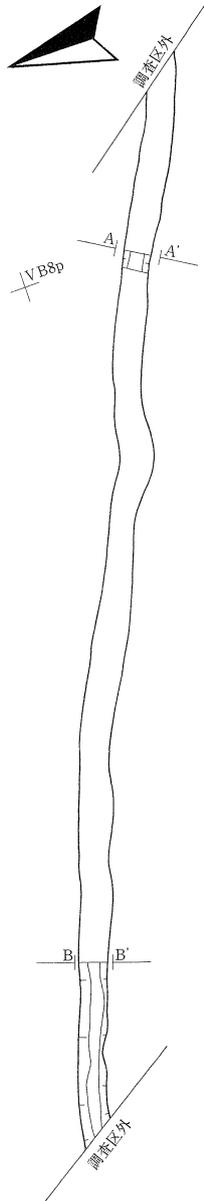


第63図 20~22号溝



第64図 23・24号溝

29号溝

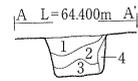


29号溝

A-A'、B-B'

- 1 10YR3/3 暗褐色土 粘性・しまりややあり 黄褐色土 (10YR4/3) を5%含む。

30号溝

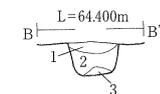


30号溝

A-A'

- 1 10YR3/4 暗褐色土 粘性・しまりややあり 褐色土 (10YR4/6) 5%、黒褐色土 (10YR2/2) 2%を含む。
- 2 10YR3/4 暗褐色土 粘性・しまりややあり 褐色土 (10YR4/6) を15%含む。
- 3 10YR3/4 暗褐色土50%、10YR4/6 褐色土50%の混合土。粘性あり しまりややあり
- 4 10YR4/6 褐色土 粘性・しまりあり 暗褐色土 (10YR3/4) を2%含む。

調査区外

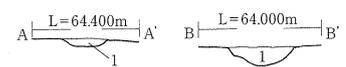
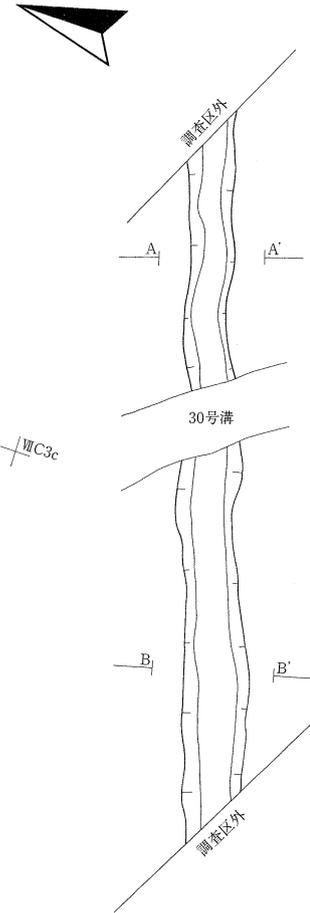


30号溝

B-B'

A-A' の1~3に同じ。

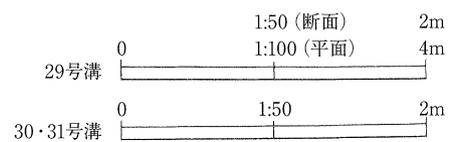
31号溝



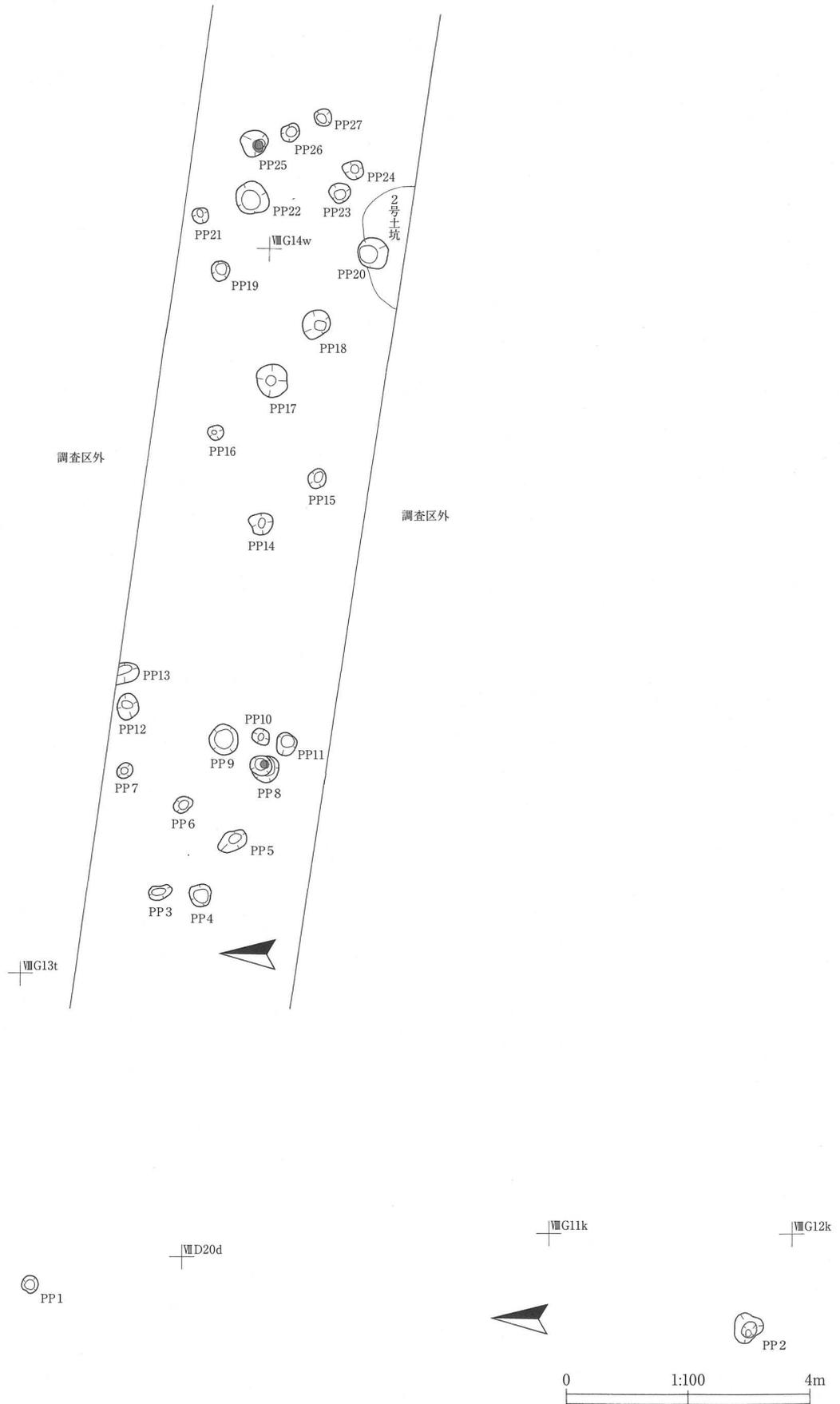
31号溝

A-A'、B-B'

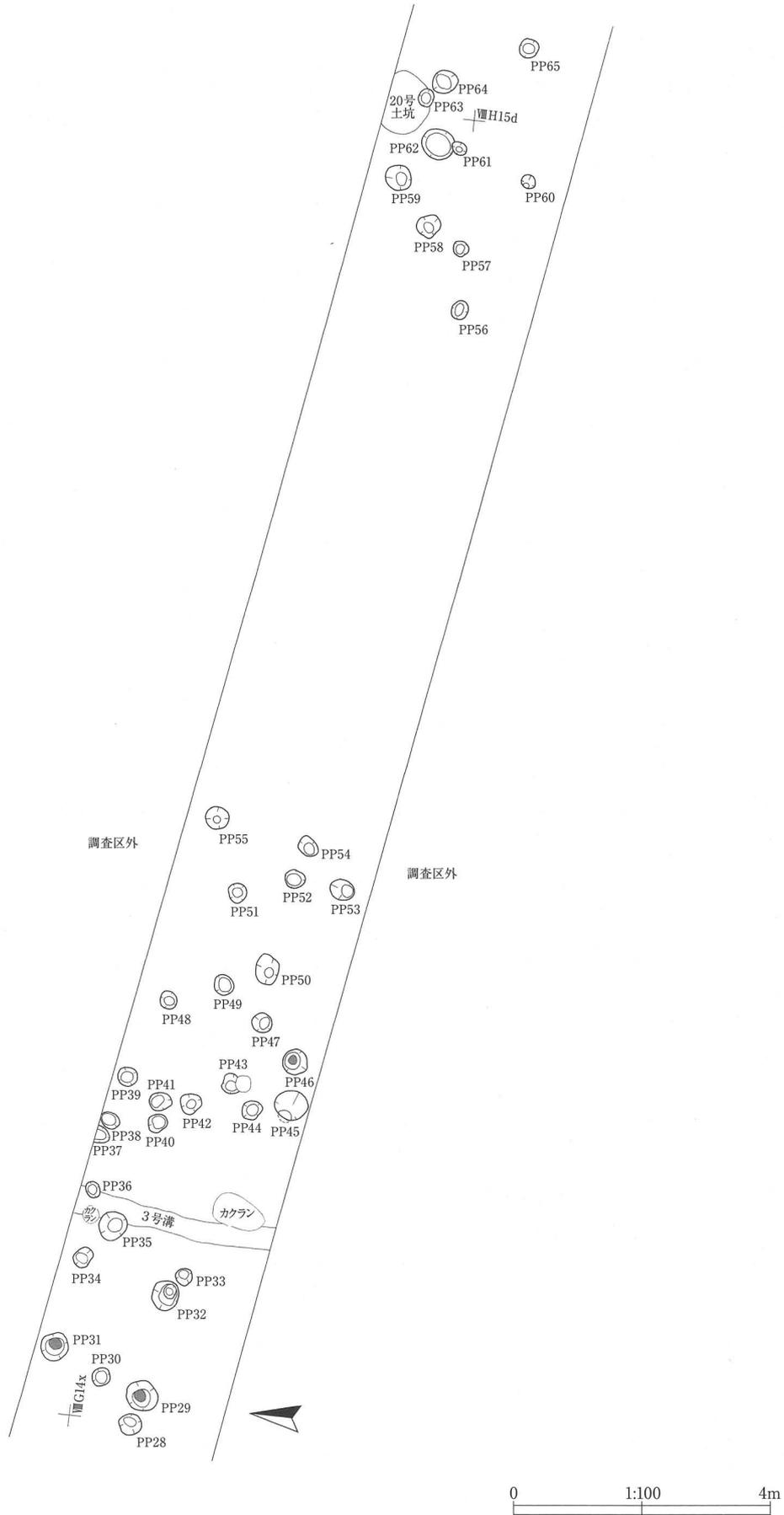
- 1 10YR3/2 黒褐色土 粘性・しまりあり 黄褐色土 (10YR4/3) 10%含む。



第66図 29~31号溝



第67図 柱穴状土坑(PP1~27)



第68図 柱穴状土坑(PP28~65)

(7) 墓 壙

ⅧF6r・7r・7sグリッドで16基検出した。当該区域は、排水路敷設及び切土予定田面にあたり、発掘調査対象区域である。遺構検出後に掘り下げたところ、近世に属する遺物を伴った人骨が埋められているのを確認したこと、似たような平面プランを持つ遺構が複数検出されたことなどから、当該区域は墓域として使われた場所であると推測し、調査を行った。墓壙が検出された区域の土層は、耕作土直下が第Ⅳ層であることから、水田造成等による地形改変を大きく受けたものと思われ、墓壙の残存状況は良好ではなかった。この区域において、人骨及び遺物が出土した墓壙と同様の平面形及び規模を有する遺構は、墓壙と見なし報告することとした。墓壙から出土した遺物の一覧は、第9表に記している。

1号墓壙（第69・80図、写真図版48）

＜位置・検出・重複関係＞ ⅧF6rグリッドに位置する。4・15号墓壙と重複し、切られている。

＜規模・形態・方向＞ 開口部径1.10×0.88m、深さ34cmの規模である。平面形はやや平行四辺形ぎみの長方形で、長軸方向は北西－南東である。

＜人骨・埋葬状況＞ 頭蓋骨、四肢骨らしき部位が出土した。検出状況から、頭部を北に横臥姿勢で埋葬されたと考えられる。

時期 出土遺物から18世紀前半に属するものと思われる。

2号墓壙（第70図、写真図版48）

＜位置・検出・重複関係＞ ⅧF7rグリッドに位置する。15号土坑・7号墓壙と重複し、7号墓壙を切り、15号土坑に切られている。7号墓壙との新旧関係を確認する目的で重複箇所を掘り下げ過ぎたため、上端線は推定線で表現した。

＜規模・形態・方向＞ 開口部径1.22×0.91m、深さ34cmの規模である。平面形は長方形で、長軸方向は北西－南東である。

＜人骨・埋葬状況＞ 頭蓋骨の一部と四肢骨が出土した。四肢骨の遺存状態は良好であった。検出状況から、頭部を南東に、横臥姿勢で埋葬されたと考えられる。

時期 重複する墓壙の出土遺物から18世紀後半以降に属するものと思われる。

3号墓壙（第70・80図、写真図版48）

＜位置・検出・重複関係＞ ⅧF7sグリッドに位置する。16号墓壙と重複し、これを切る。

＜規模・形態・方向＞ 開口部径1.04×0.83m、深さ28cmの規模である。平面形は長方形で、長軸方向は北北東－南南西である。

＜人骨・埋葬状況＞ 歯数本、小骨片が出土した。歯の検出位置から、頭部を北に向けて埋葬されたと考えられる。

時期 出土遺物から18世紀前半～19世紀後半に属するものと思われる。

4号墓壙（第70図、写真図版48）

＜位置・検出・重複関係＞ ⅧF6q・6rグリッドに跨って位置する。墓壙の大半が1号墓壙と重複し、切られている。

<規模・形態・方向> 開口部径1.12×1.06m、深さ28cmである。長軸方向は北西－南東である。墓壙の残存部分から、長方形状であると思われる。

時期 人骨・遺物は出土しておらず明確な時期は不明であるが、重複する墓壙の出土遺物から18世紀前半以前であると思われる。

5号墓壙（第71図、写真図版48）

<位置・検出・重複関係> VIII F 7 r・8 rグリッドに跨って位置する。重複する遺構はない。

<規模・形態・方向> 開口部径0.88×0.64m、深さ11cmの規模である。墓壙の残存状況は良好ではなく、大部分が削平されている。長軸方向は北西－南東で、平面形は長方形状である。

時期 重複する墓壙はなく、人骨・遺物も出土していないため、不明である。

6号墓壙（第71図、写真図版48）

<位置・検出・重複関係> VIII F 6 r・7 rグリッドに跨って位置する。11・13号墓壙と重複し、これらを切る。検出の際、11号墓壙との新旧関係を確認する目的で重複箇所を掘り下げ過ぎてしまったため、上端線は推定線で表現した。

<規模・形態・方向> 開口部径1.08×0.70m、深さ15cmの規模である。残存状況は良好ではなく、墓壙の大部分が削平されている。長軸方向は北西－南東で、平面形は長方形状である。

時期 人骨・遺物は出土しておらず明確な時期は不明であるが、重複する墓壙の出土遺物から19世紀以降に属するものと思われる。

7号墓壙（第71・80図、写真図版49）

<位置・検出・重複関係> VIII F 7 rグリッドに位置する。15号土坑・2号墓壙と重複し、切られている。

<規模・形態・方向> 開口部径1.10×0.92m、深さ28cmの規模である。長軸方向は北北東－南南西で、墓壙の残存部分から平面形は長方形状であると思われる。

<出土人骨・埋葬状況> 頭蓋骨、四肢骨が比較的良好に出土し、顔面を西に向けながら、頭部を北東方向にした横臥姿勢で屈葬されている。

時期 出土遺物から17世紀前半以前に属するものと思われる。

8号墓壙（第71・80図、写真図版49）

<位置・検出・重複関係> VIII F 7 rグリッドに位置する。15号土坑、9・10号墓壙と重複し、15号土坑に切られ、9・10号墓壙を切っている。

<規模・形態・方向> 開口部径1.10×0.90m、深さ38cmの規模である。平面形はやや丸みを帯びた方形で、長軸方向は北北東－南南西である。

<出土人骨・埋葬状況> 座位屈葬されたものと思われ、中央部から出土した頭蓋骨の顔面側は下を向き、四肢骨がこれを囲むような形で出土した。

時期 出土遺物から17世紀前半～19世紀に属するものと思われる。

9号墓壙（第72図、写真図版49）

<位置・検出・重複関係> VIII F 7 rグリッドに位置する。墓壙の北東側は8・10号墓壙に切られ、東南側は15号墓壙に切られている。

<規模・形態・方向> 開口部径1.35×0.98m、深さ26cmの規模である。平面形は残存している部分から、平面形は長方形であると思われる、長軸方向は北東－南西である。

<出土人骨・埋葬状況> 西向きで埋葬された頭蓋骨のみ出土した。頭蓋骨以外の人骨が出土しなかったのは、8号墓壙を掘削した際に9号墓壙の骨が失われたものと思われる。

時期 重複する墓壙の出土遺物から17世紀前半以前に属すると思われる。

10号墓壙（第72・80図、写真図版49）

<位置・検出・重複関係> VIII F 6・7rグリッドに跨って位置する。重複関係は複雑で、8号墓壙に切られ、9・11・12・15号墓壙を切っている。

<規模・形態・方向> 開口部径1.04×0.66m、深さ16cmの規模である。平面形は長方形で、長軸方向は北東－南西である。

<出土人骨> 北東方向を向いた頭蓋骨と部位不明の骨が出土した。

時期 出土遺物から17世紀後半に属すると思われる。

11号墓壙（第72・80図、写真図版49）

<位置・検出・重複関係> VIII F 6r・7rグリッドに跨って位置する。重複関係は複雑で、6・10号墓壙に切られ、12～14号墓壙を切っている。

<規模・形態・方向> 開口部径0.82×0.66m、深さ44cmの規模である。開口部はやや不整な方形状であるが、底面は方形である。

<人骨> 人骨片が少量出土したが、小片であるため部位は不明である。

時期 出土遺物から17世紀前半～19世紀に属するものと思われる。

12号墓壙（第72・80図、写真図版50）

<位置・検出・重複関係> VIII F 6rグリッドに位置する。10・11・13～15号墓壙と重複しているが、10・11・13・14号墓壙との切合については、検出段階でのプランが不明瞭で、新旧関係は不明であるため、平面図では完掘時のプランを表現した。13・15号墓壙との重複部分を掘り下げ過ぎたため、上端を推定線で表現している。15号墓壙との新旧関係は、15号墓壙より新しい。

<規模・形態・方向> 残存部分の規模は0.78×0.27m、深さ23cmである。墓壙底面の形状から平面形は方形あるいは長方形状で、長軸方向は北東－南西であると思われる。

<人骨・埋葬状況> 歯数本、四肢骨の一部らしき骨が出土した。歯の検出位置から、頭部を南東に向けて埋葬されたと思われる。

時期 出土遺物から17～19世紀に属するものと思われる。

13号墓壙（第73図、写真図版50）

<位置・検出・重複関係> VIII F 6rグリッドに位置する。6・11・12号墓壙と重複しているが、11・12号墓壙との切合については、検出段階でのプランが不明瞭で、新旧関係は不明であるため、平面図では完掘時のプランで表現した。6号墓壙に切られている。残存範囲が狭く底面に近い部分での検出であった。

<規模・形態・方向> 残存部の計測値は0.66×0.64m、深さ25cmである。平面形、軸方向等の詳細は不明である。

時期 重複した墓壙との新旧関係から19世紀以降に属するものと思われる。

14号墓壙（第73図、写真図版50）

<位置・検出・重複関係> VIII F 6 r・7 rグリッドに跨って位置し、10・12号墓壙底面下から14号墓壙は底面のみ検出された。8・10～12号墓壙と重複しているが、10・11号墓壙との切合については、検出段階でのプランが不明瞭で、新旧関係は不明であるため、平面図では完掘時のプランで表現した。

<規模・形態・方向> 残存部の計測値は0.78×0.38mで、平面形、軸方向等の詳細は不明である。

時期 重複した墓壙との新旧関係から17～19世紀に属するものと思われる。

15号墓壙（第73・80図、写真図版50）

<位置・検出・重複関係> VIII F 6 rグリッドに位置する。1・10・12号墓壙と重複し、切られている。

<規模・形態・方向> 開口部径1.40×0.90m、深さ42cmの規模である。平面形は長方形で、長軸方向は北東-南西である。

<人骨> 歯数本、下肢骨の一部が出土した。歯の出土位置から、頭部を北西に向けて埋葬されたと考えられる。

時期 出土遺物から17世紀前半～18世紀前半に属するものと思われる。

16号墓壙（第73図、写真図版50）

<位置・検出・重複関係> VIII F 7 sグリッドに位置する。3号墓壙と重複し、切られている。

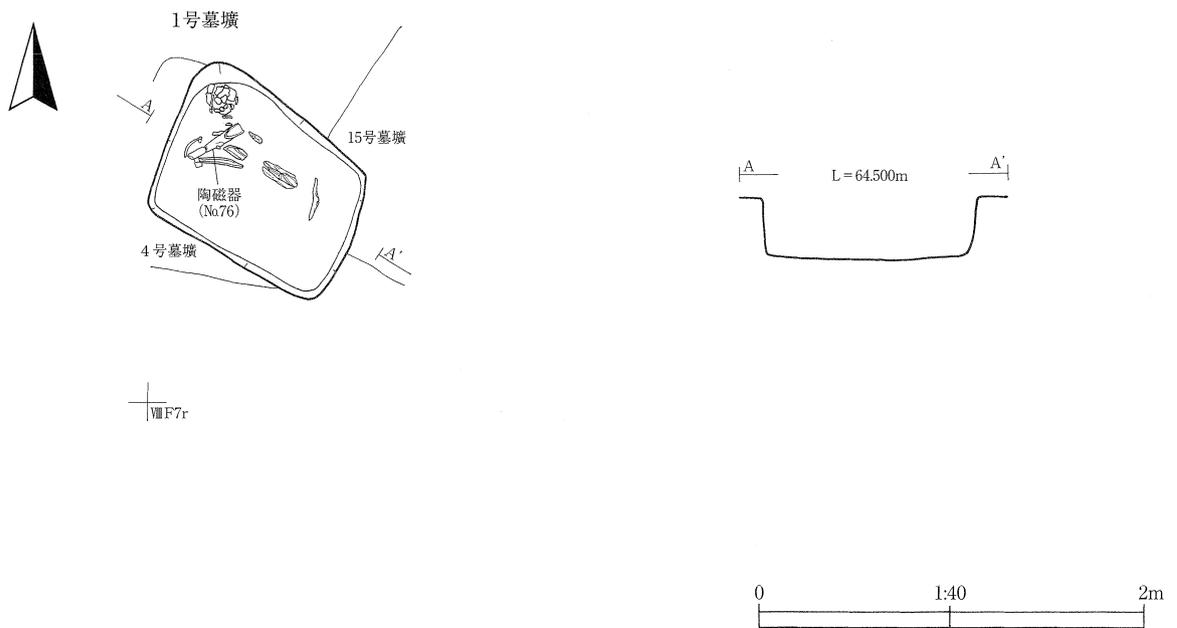
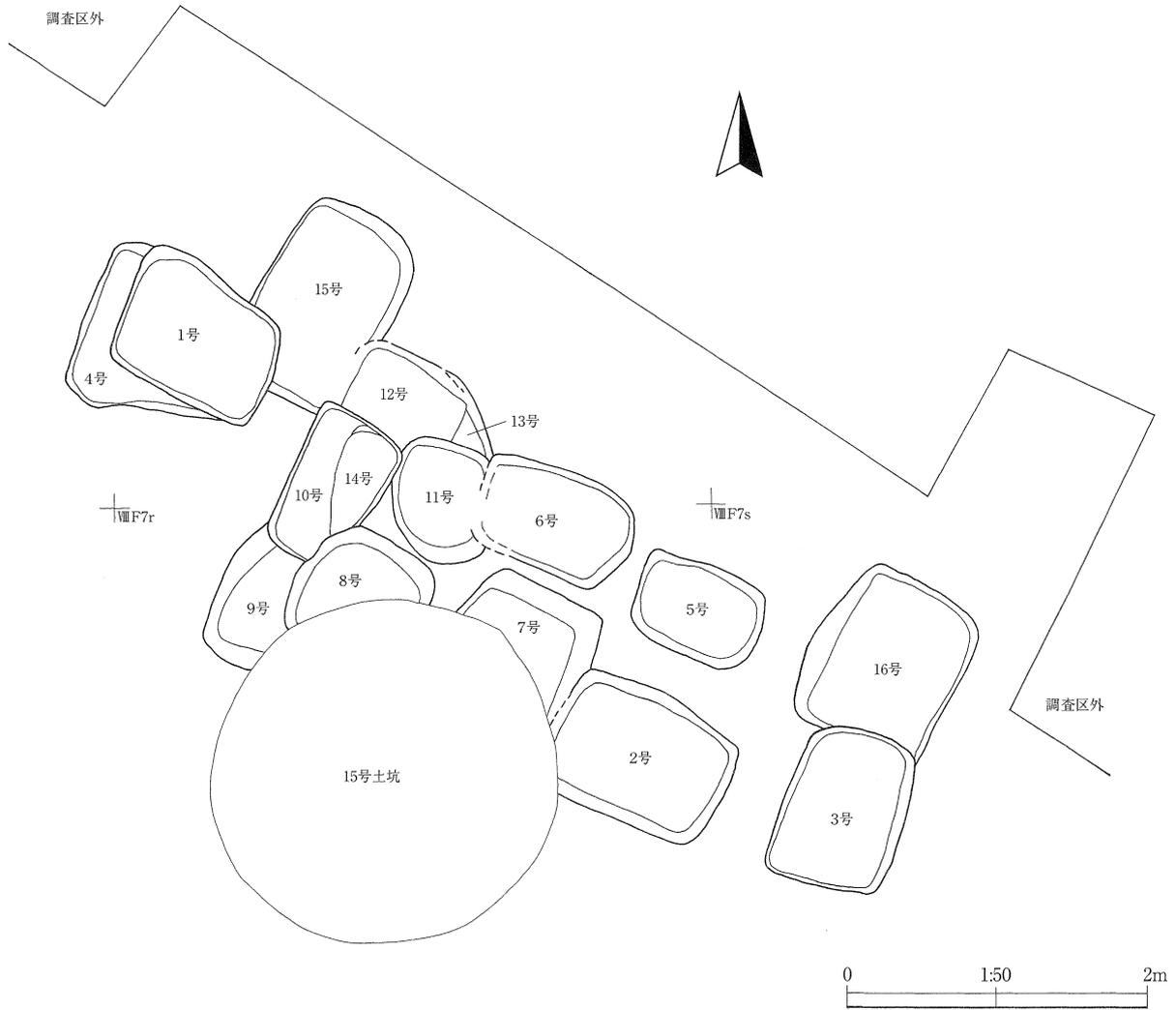
<規模・形態・方向> 開口部径1.16×1.01m、深さ28cmの規模である。平面形は長方形で、長軸方向は北東-南西方向である。

時期 重複した墓壙の出土遺物から18世紀前半以前に属するものと思われる。

第9表 墓壙出土遺物一覧表

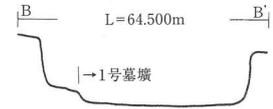
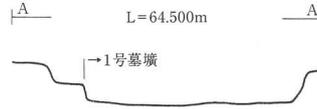
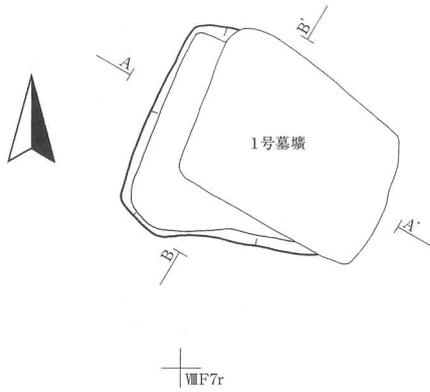
墓壙名	人骨	陶磁器類	貨幣		煙管		鉄釘	その他	備考
			銅銭	鉄銭	吸口	雁首			
1号墓壙	○	○					○		
2号墓壙	○						○		
3号墓壙	○		4						
4号墓壙									
5号墓壙									
6号墓壙									
7号墓壙	○	○		○	○	○	○		
8号墓壙	○		4			○	○		
9号墓壙	○						○		
10号墓壙	○				○	○	○	板状鉄製品1、蝶番?1	
11号墓壙	○	○	6				○		
12号墓壙	○			○			○		
13号墓壙									
14号墓壙									
15号墓壙	○		8		○		○		
16号墓壙									

4 検出遺構と出土遺物

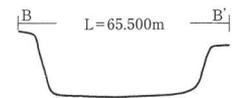
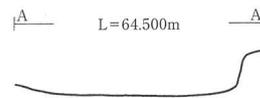
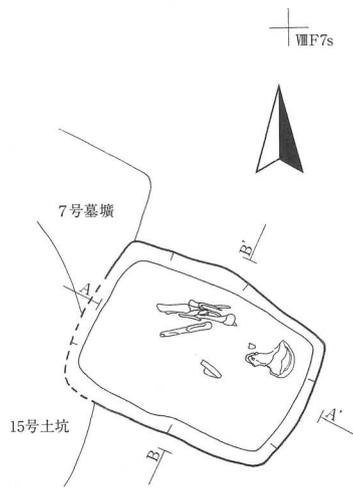


第69図 墓域・1号墓壙

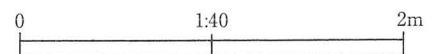
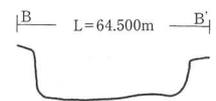
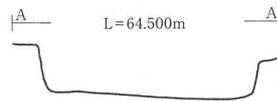
4号墓壙



2号墓壙



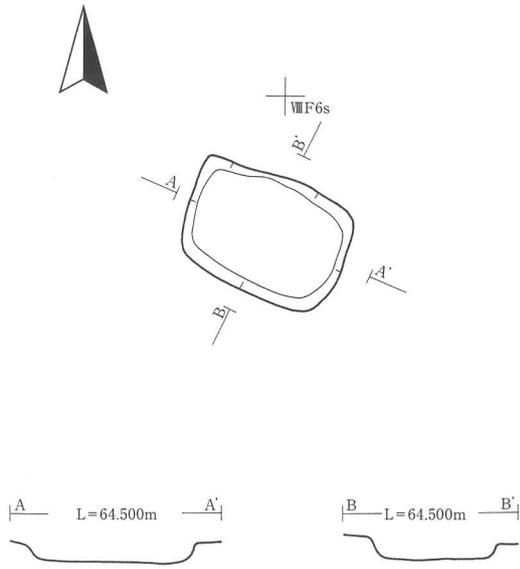
3号墓壙



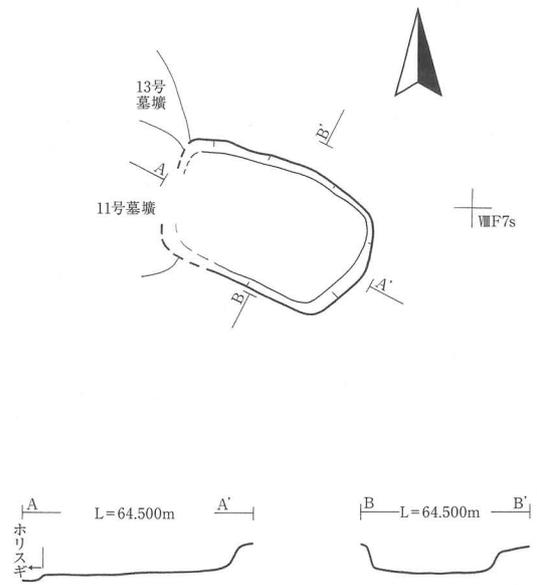
第70図 2~4号墓壙

4 検出遺構と出土遺物

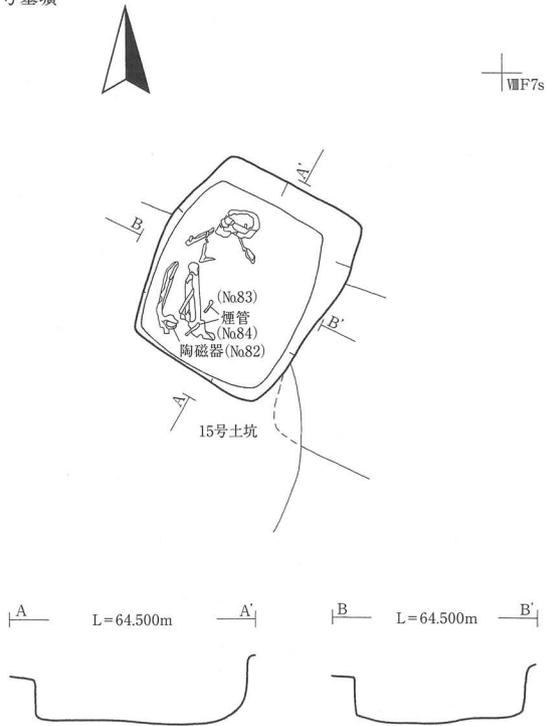
5号墓壙



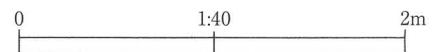
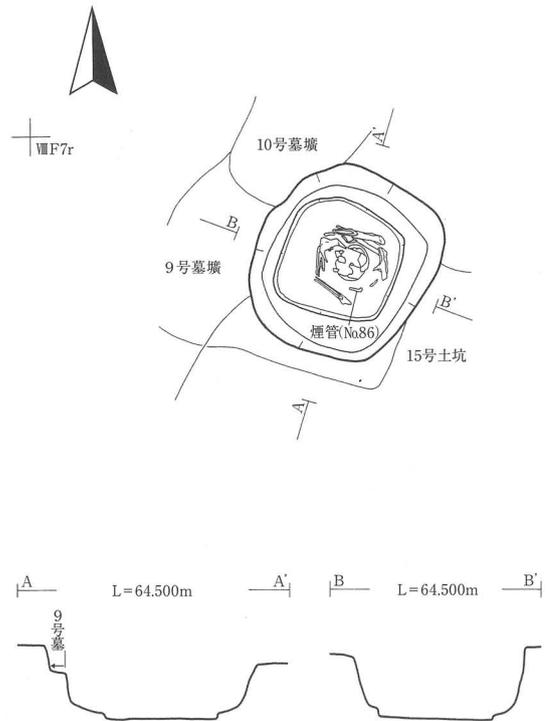
6号墓壙



7号墓壙

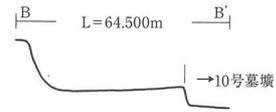
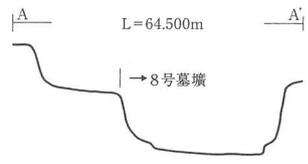
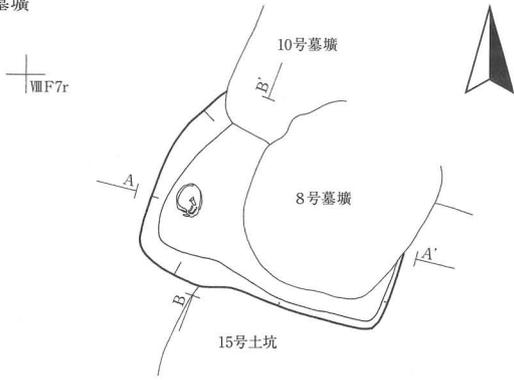


8号墓壙

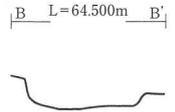
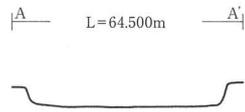
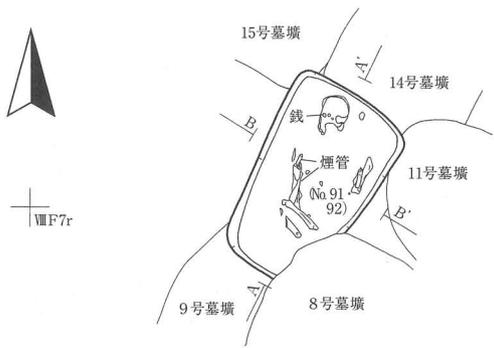


第71図 5～8号墓壙

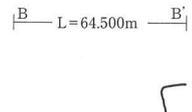
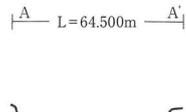
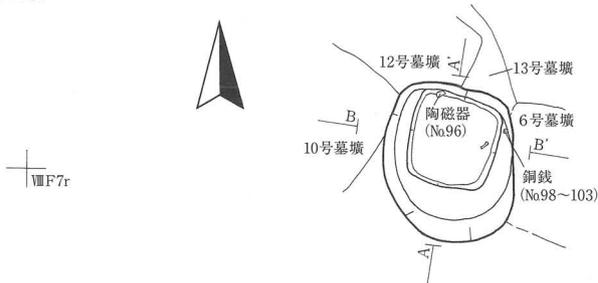
9号墓壙



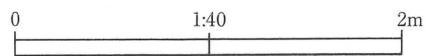
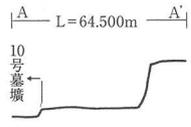
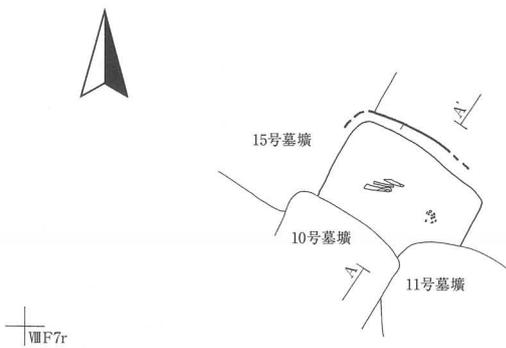
10号墓壙



11号墓壙



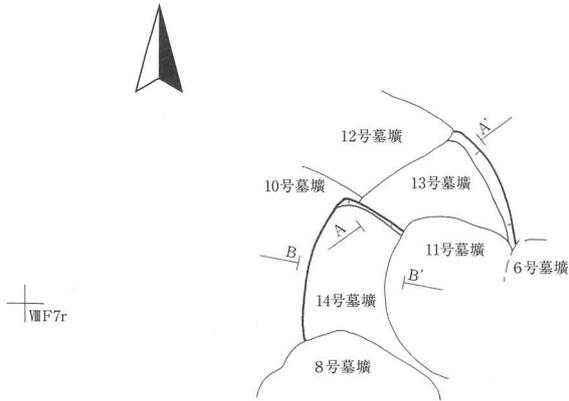
12号墓壙



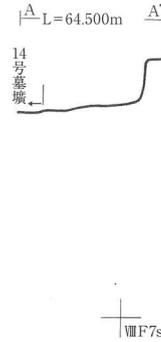
第72図 9~12号墓壙

4 検出遺構と出土遺物

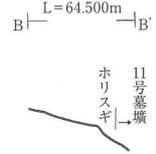
13・14号墓墳



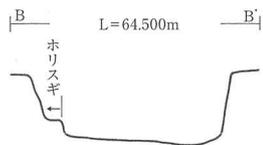
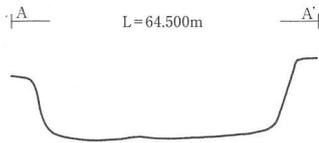
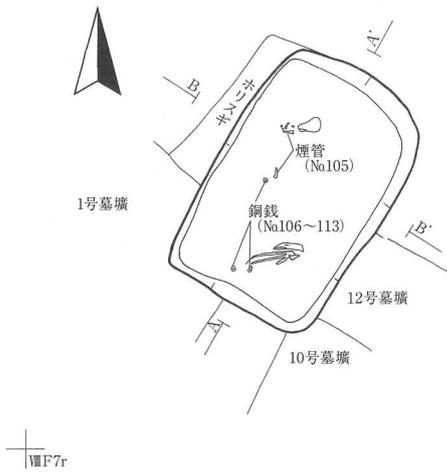
13号墓墳



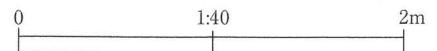
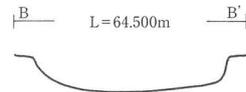
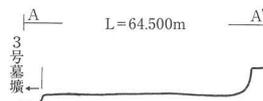
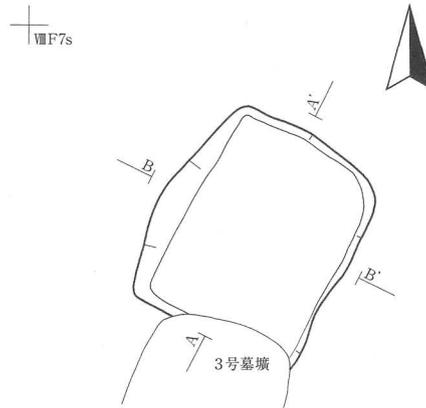
14号墓墳



15号墓墳



16号墓墳



第73図 13~16号墓墳

5 遺構外出土遺物（第81～86図、写真図版60～66）

遺構外から出土した縄文・弥生土器、古代土器、陶磁器、石器・石製品、金属遺物について、詳細を以下に述べる。

（1）縄文・弥生土器

114～187の74点を図化し、次の3群に分類した。第1群は縄文時代中期末葉（大木10式）に属すると思われる141・157・158・164・170、第2群は後期中葉～後葉（十腰内5式相当型式）に属すると思われる146、縄文時代晩期～弥生時代前期までの土器を第3群としたが、個々の詳細な時期決定については破片が多く不明確であったため、一括して扱った。縄文・弥生土器とも出土は第Ⅲ層からであった。広い範囲で出土したが、ⅢA・ⅣA大グリッド、ⅧF～ⅧH大グリッドから多く出土した。器種については、深鉢が最も多く、次いで浅鉢、壺、鉢、甕、四脚付浅鉢、高坏、脚付皿が出土した。

（2）古代土器

188～196の8点を図化した。188は須恵器坏、189・190は土師器坏、191・192は土師器甕、193～196はミニチュア土器である。188はⅥB9aグリッドの第Ⅲb層から、その他はⅧF・ⅧH大グリッドの第Ⅲ層から出土している。ⅧF大グリッドは古代の集落跡が検出された区域である。破片が多く詳細は不明であるが、時期は8～9世紀に属すると思われる。

（3）土製品

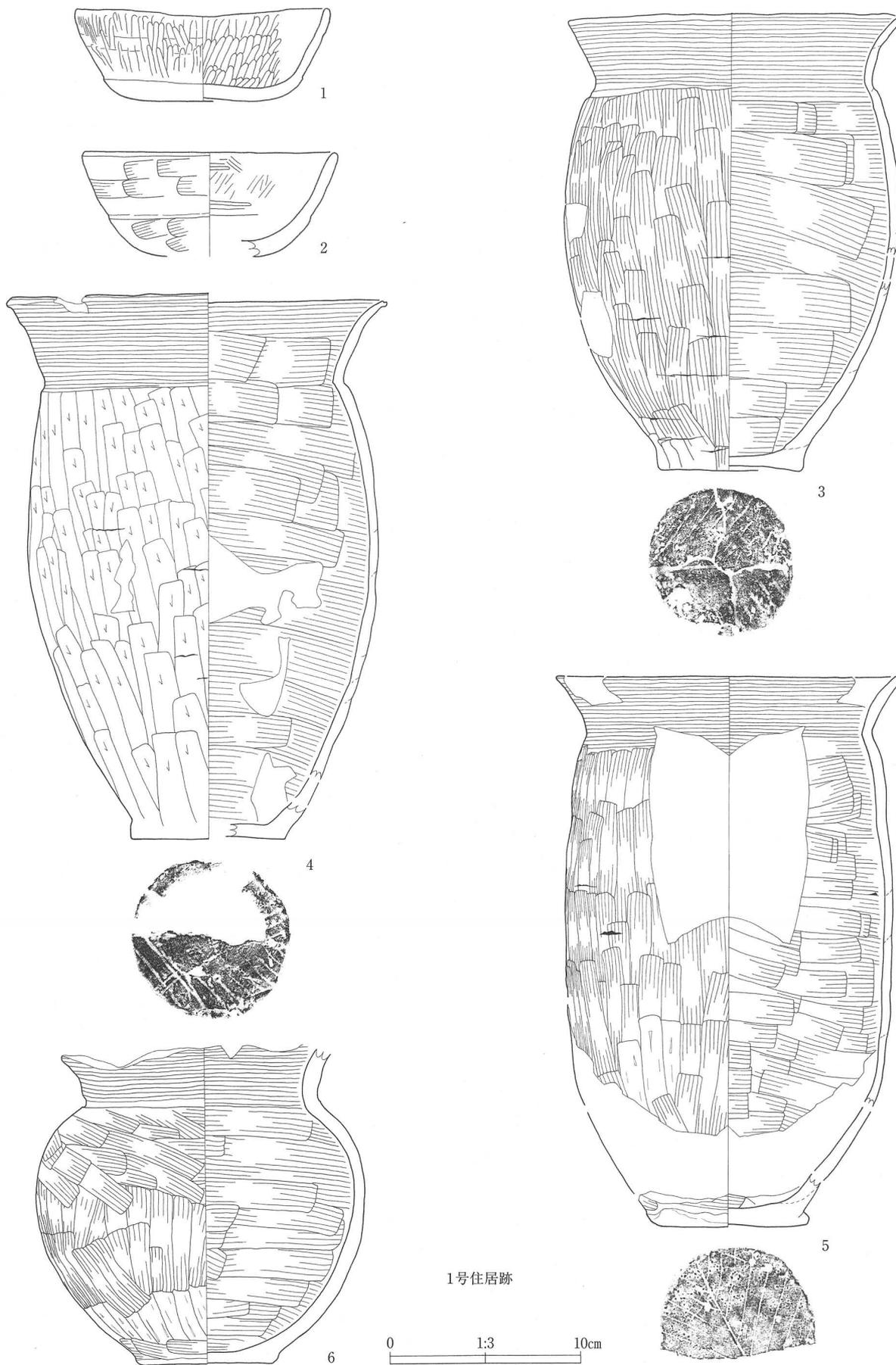
197～201の5点がⅧF・ⅧH大グリッドの第Ⅲ層から出土した。197は垂れ飾り、198・199は円盤状土製品であり、縄文土器の深鉢口縁部片（198）、深鉢胴部片（199）を打ち欠いて再加工したものである。200は土錘である。201の用途は不明である。外面は縄文（RL縦）が、内面及び脚部はミガキ調整されている。脚付浅鉢等の一部かと想定したが、脚は体部の中央に位置している。

（4）陶磁器

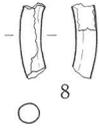
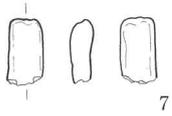
196が出土した。ⅧH14cグリッドの攪乱箇所からであるが、この区域からは近世に属する遺構（土坑、柱穴状土坑）が多く検出されている。196は肥前系磁器の皿底部片である。青色釉で染付が施されているが、文様は不明である。高台に砂目が見られることから、17世紀前半に属するものと思われる。

（5）石器、石製品

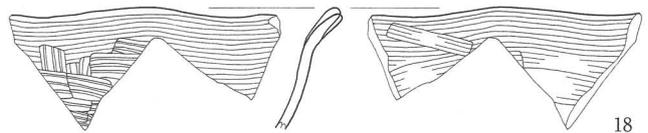
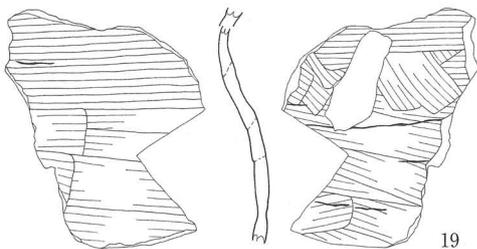
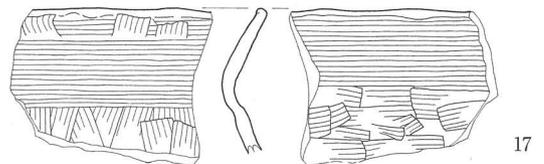
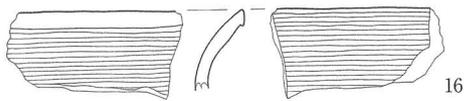
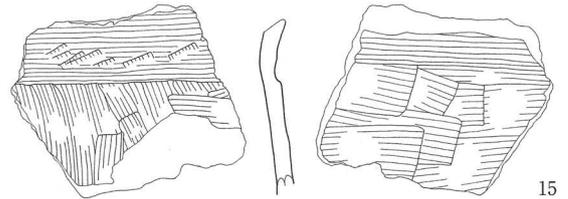
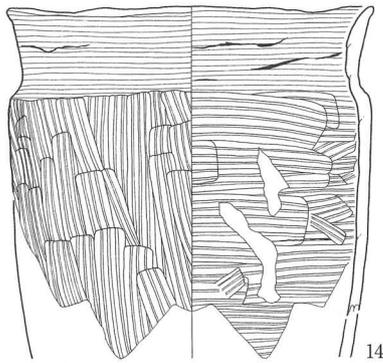
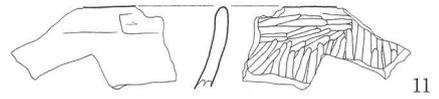
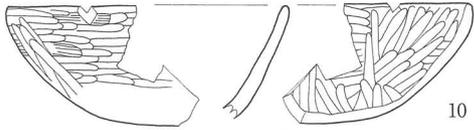
石器11点、石製品2点の計13点出土した。出土石器は、202～207が石鏃、208が石篋、209～212が打製石斧である。石鏃、石篋、209の打製石斧はⅢ層及びⅣ層上面から出土し、出土位置に法則性は見あたらない。210～212の打製石斧は、ⅥB21nグリッドの第Ⅳ層上面からまとまって出土した。遺構に伴うものと推測し、周辺を精査したが遺構は検出できなかった。調査区外に関連する遺構が存在しているものと思われる。213・214が石製品である。213は礫を打ち欠き、破損した（切断させた？）後、左側面及び右側面を研磨しているが、右側面は途中で止めている。切断面に近いところを打ち欠いていることから、独鈷石の製作途中に破損し、別の石器を製作しようとしたものであると推測した。214は、表裏面及び両側面に擦痕が見られる。形状及び加工痕から石刀の未製品であると推測される。



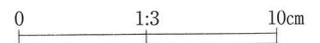
第74図 遺構内出土遺物(1)



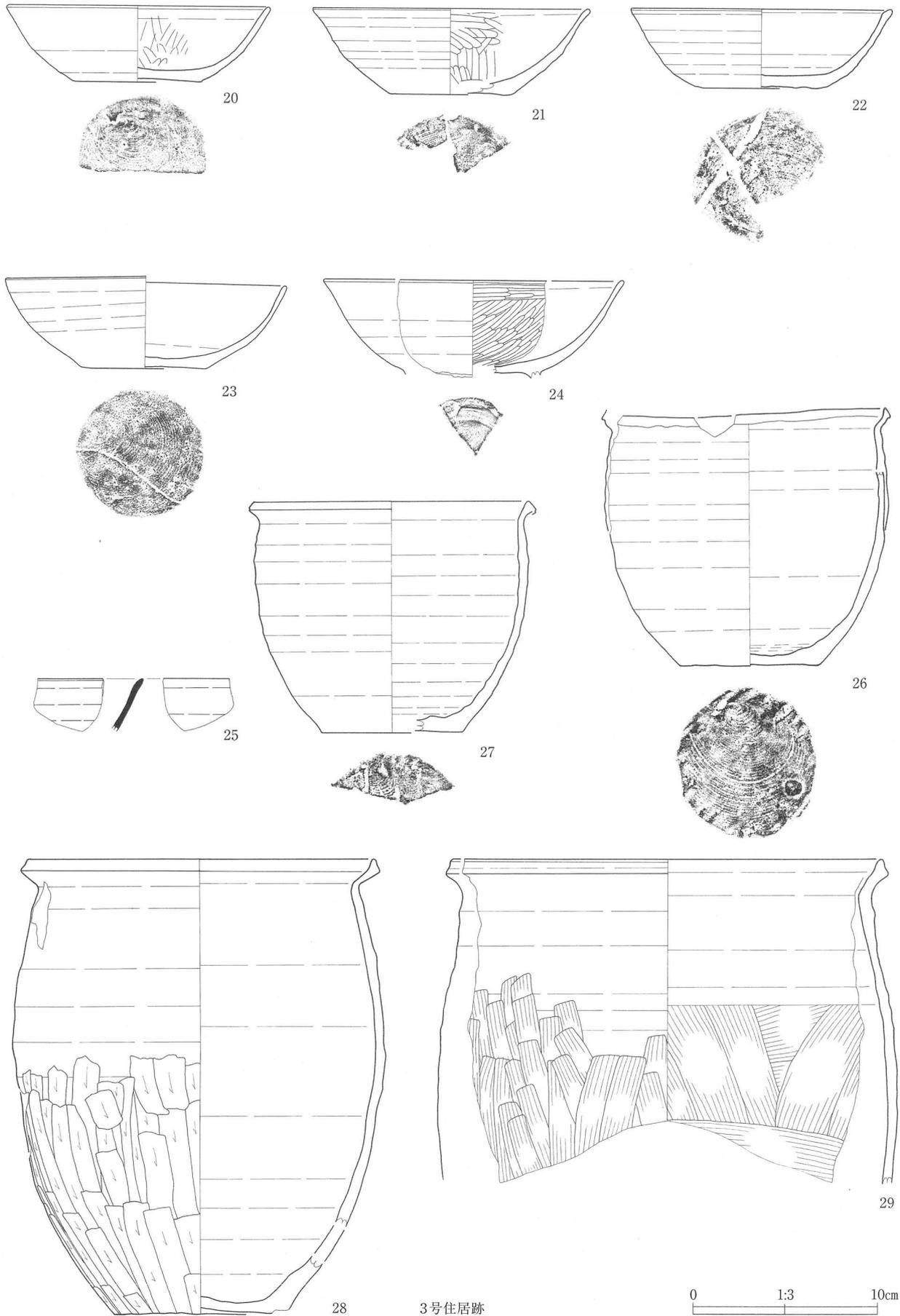
1号住居跡



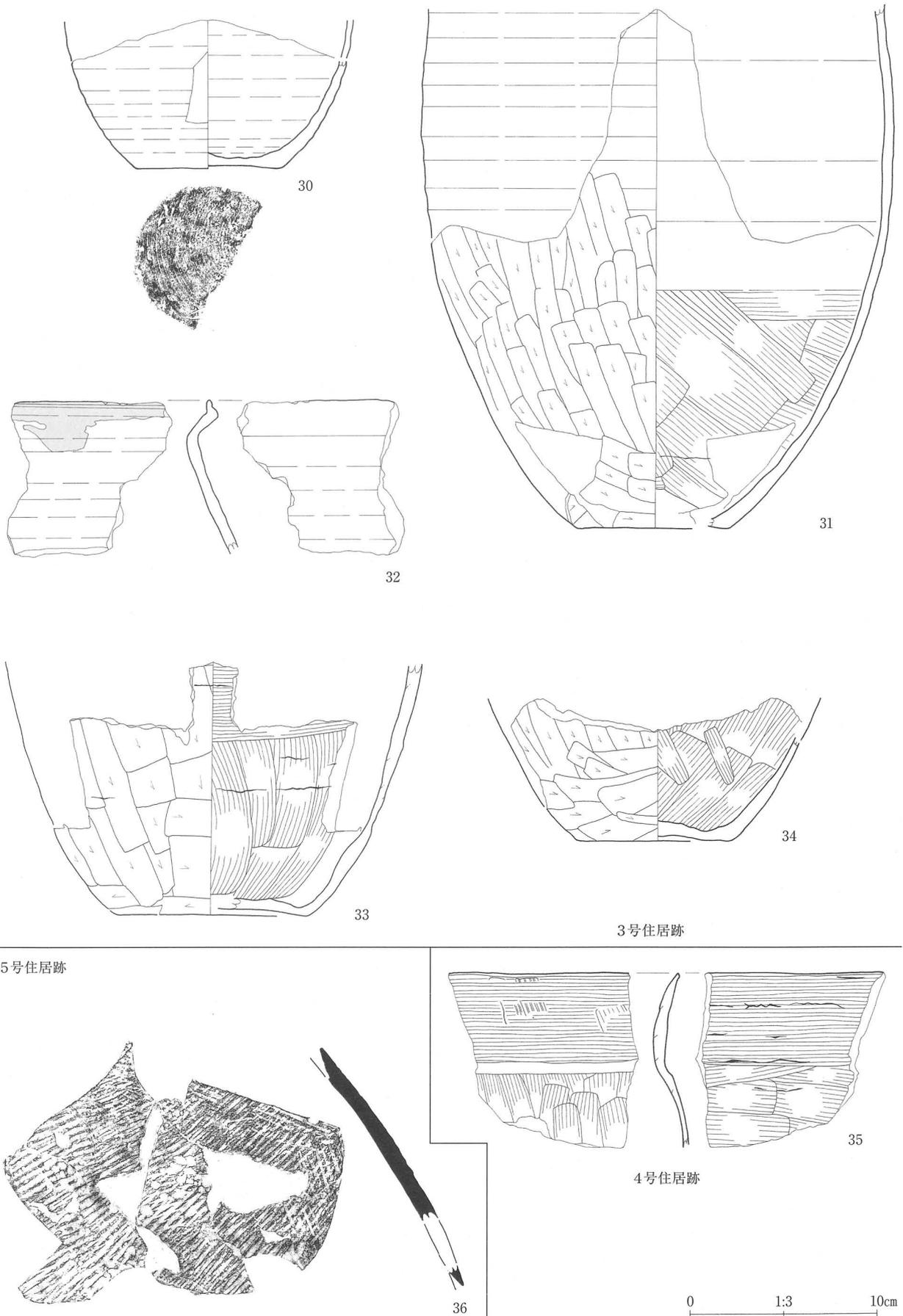
2号住居跡



第75図 遺構内出土遺物(2)



第76図 遺構内出土遺物(3)



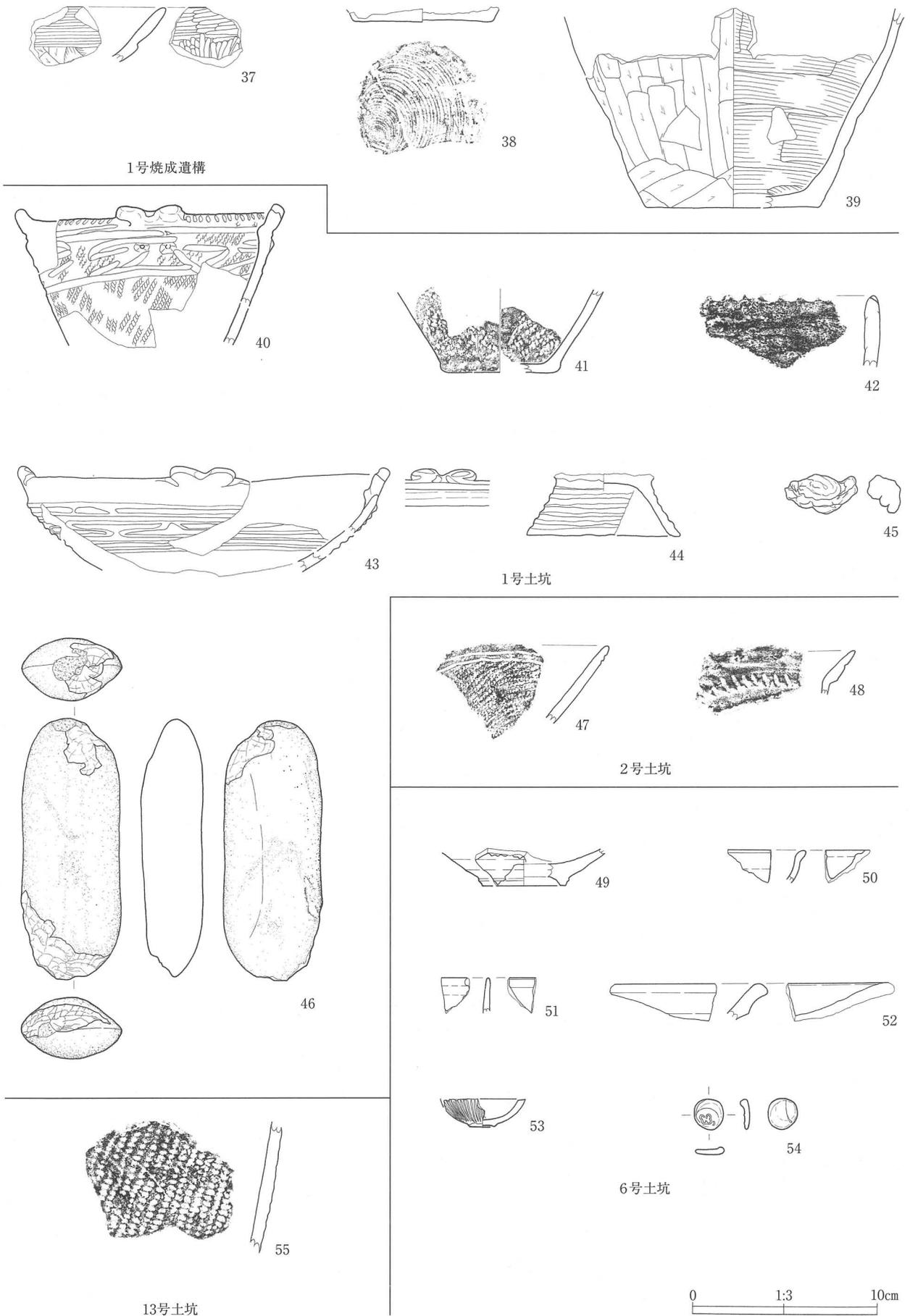
5号住居跡

3号住居跡

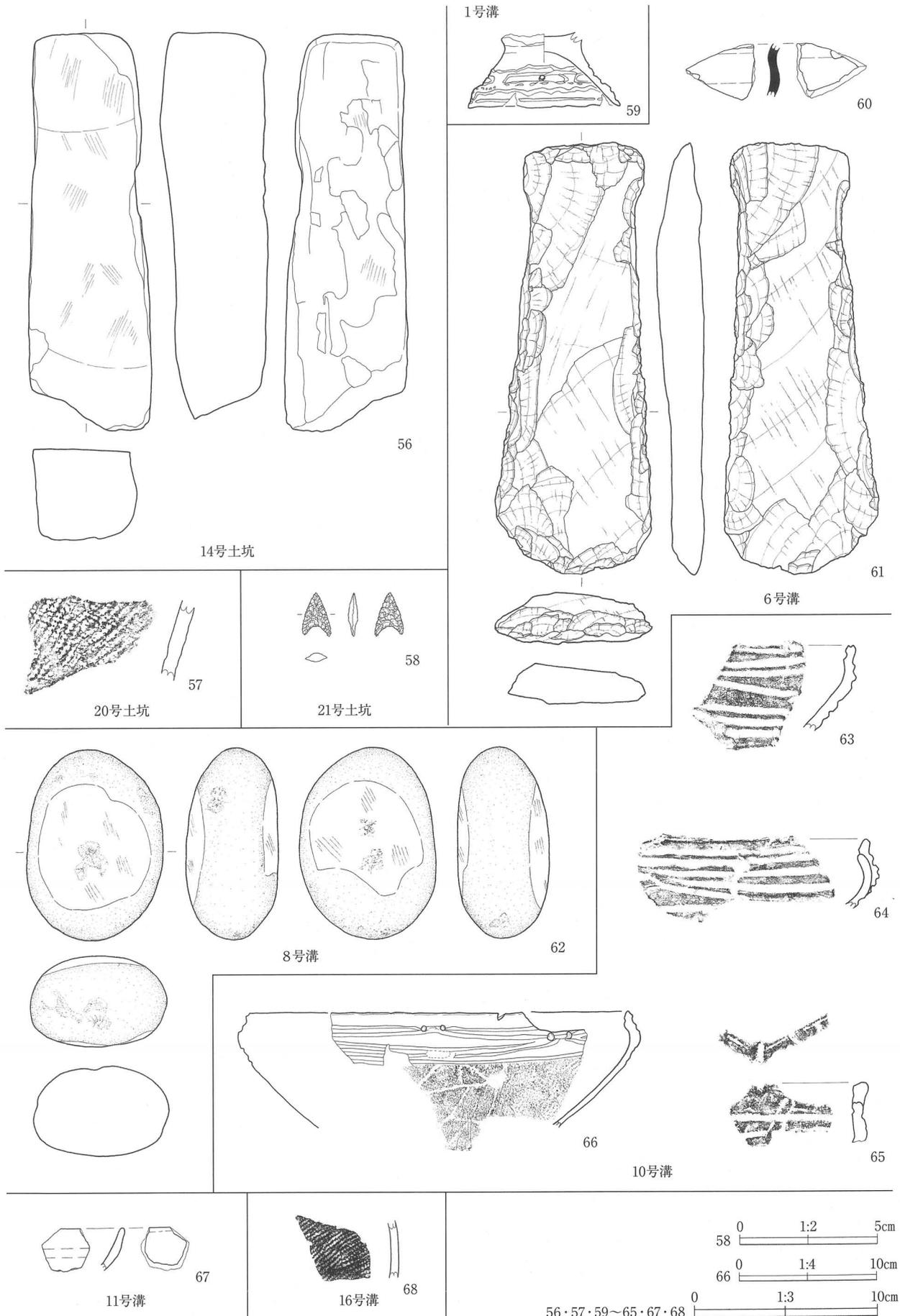
4号住居跡

0 1:3 10cm

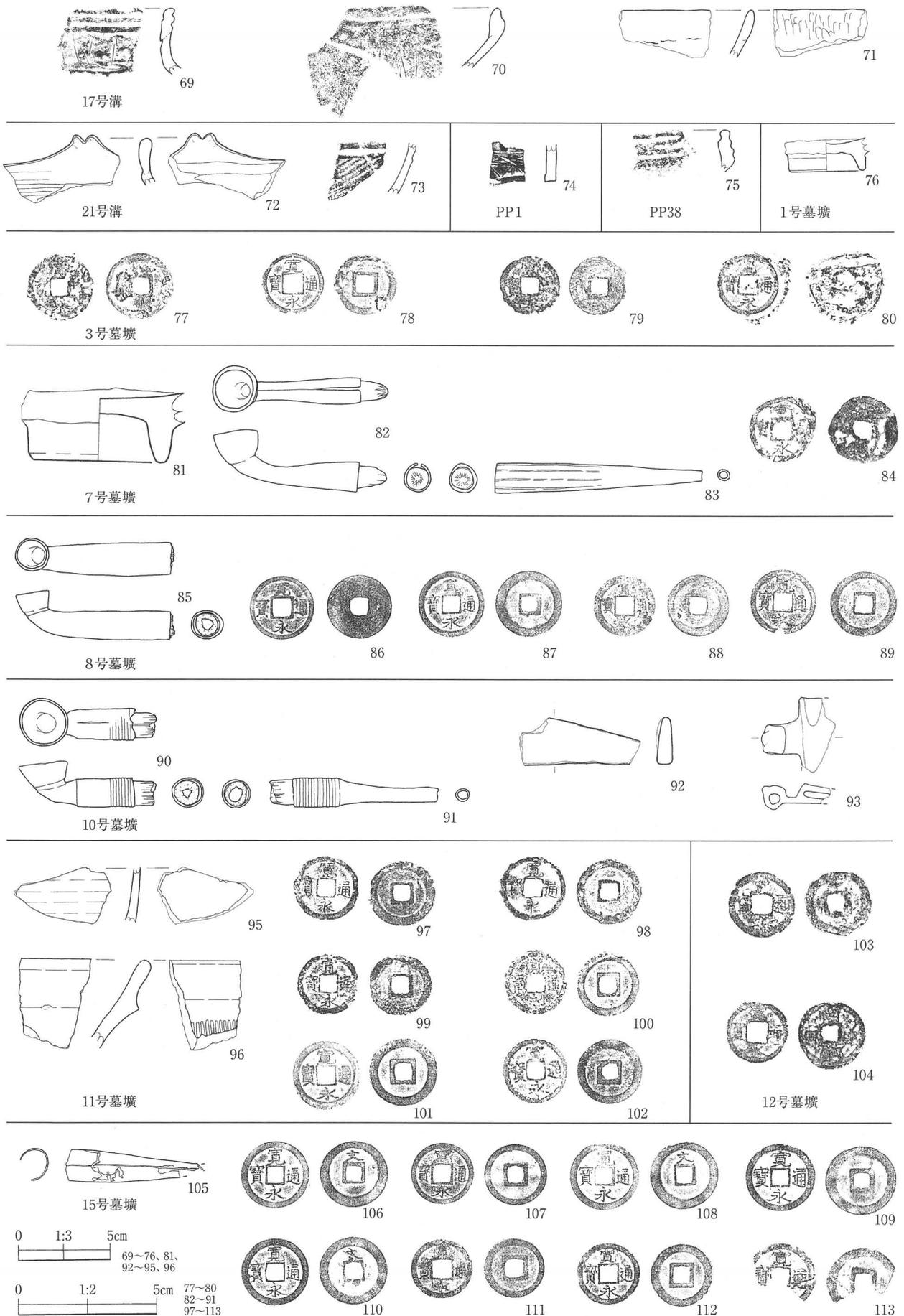
第77図 遺構内出土遺物(4)



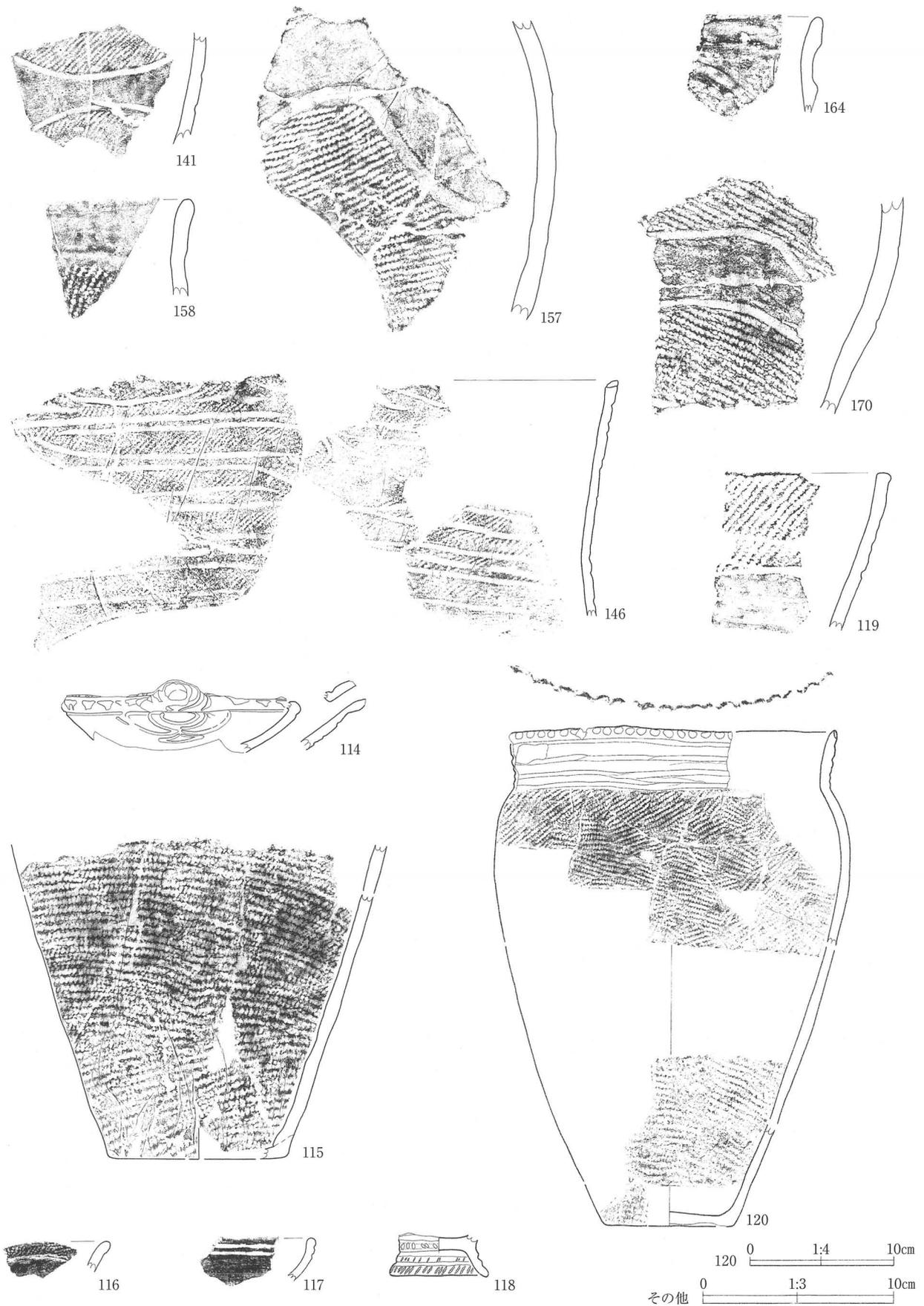
第78図 遺構内出土遺物(5)



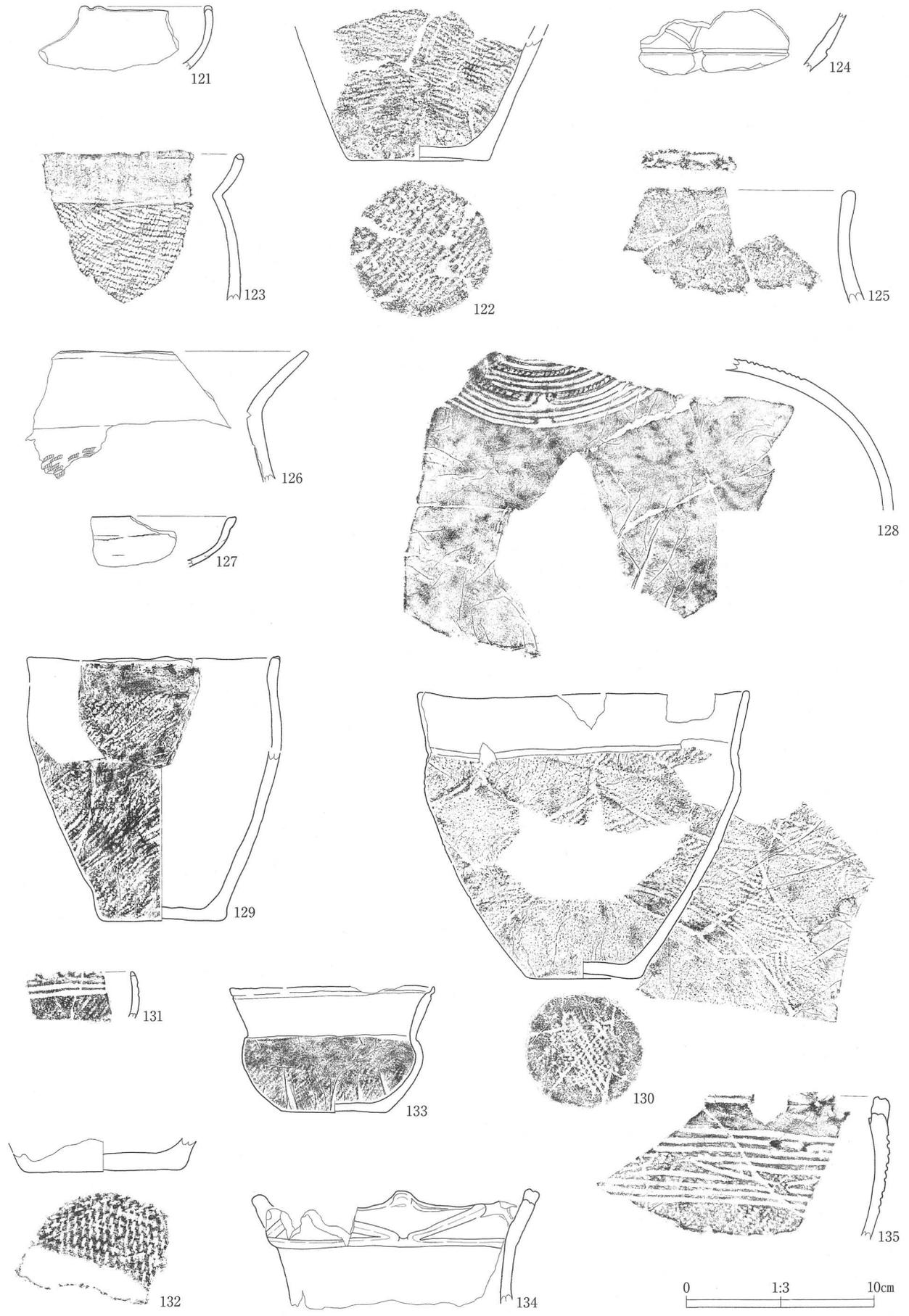
第79図 遺構内出土遺物(6)



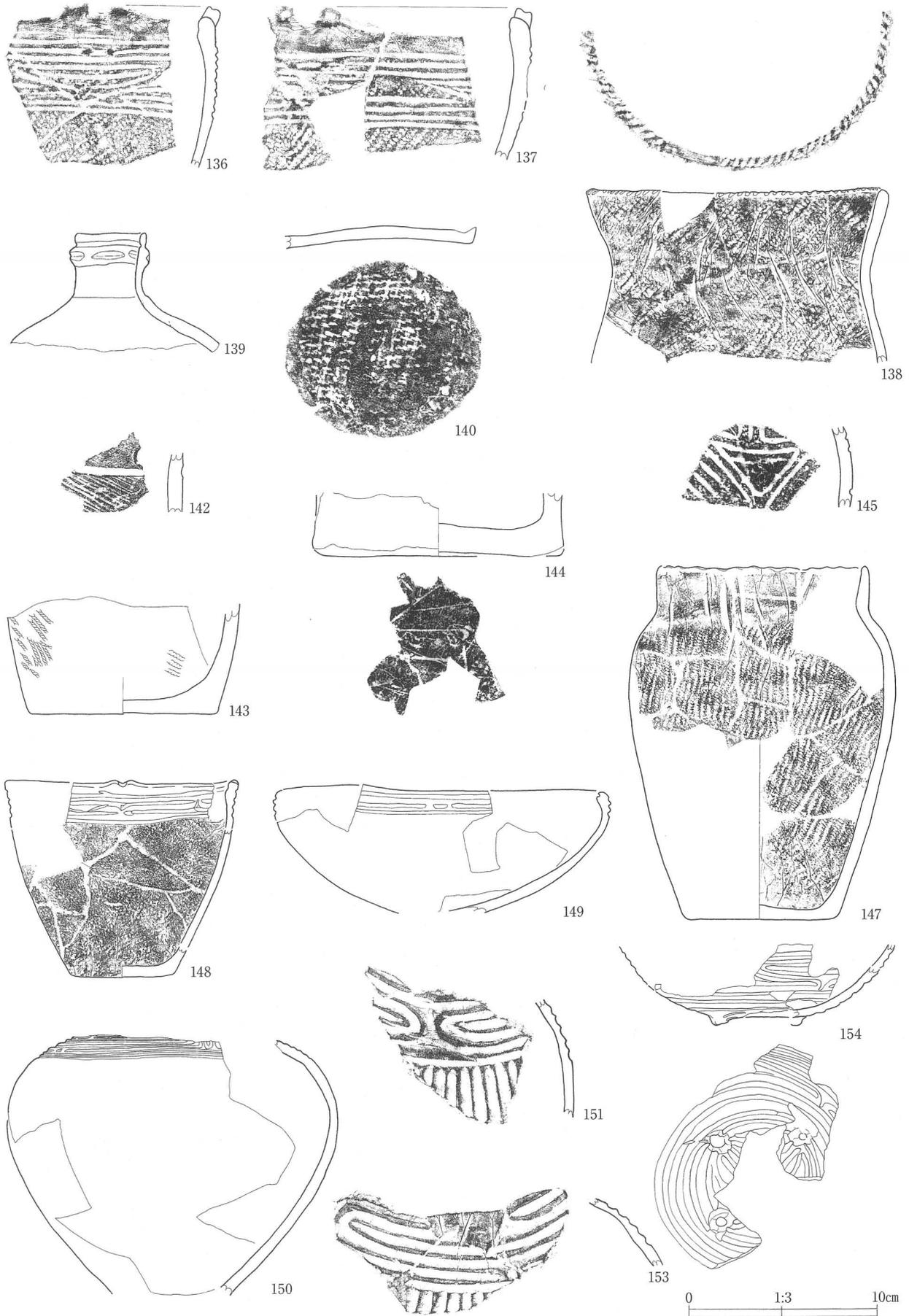
第80図 遺構内出土遺物(7)



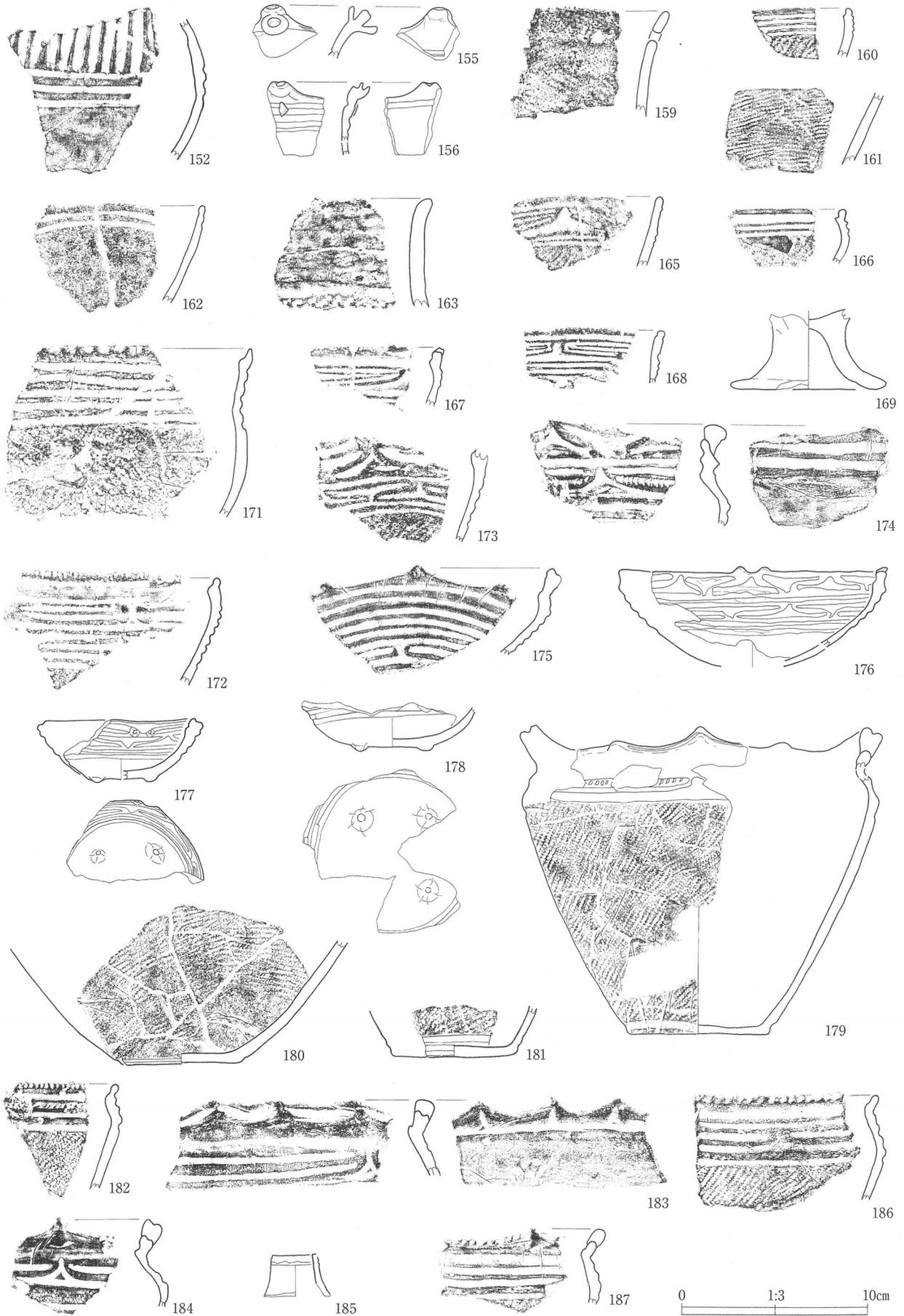
第81図 遺構外出土土器(縄文・弥生1)



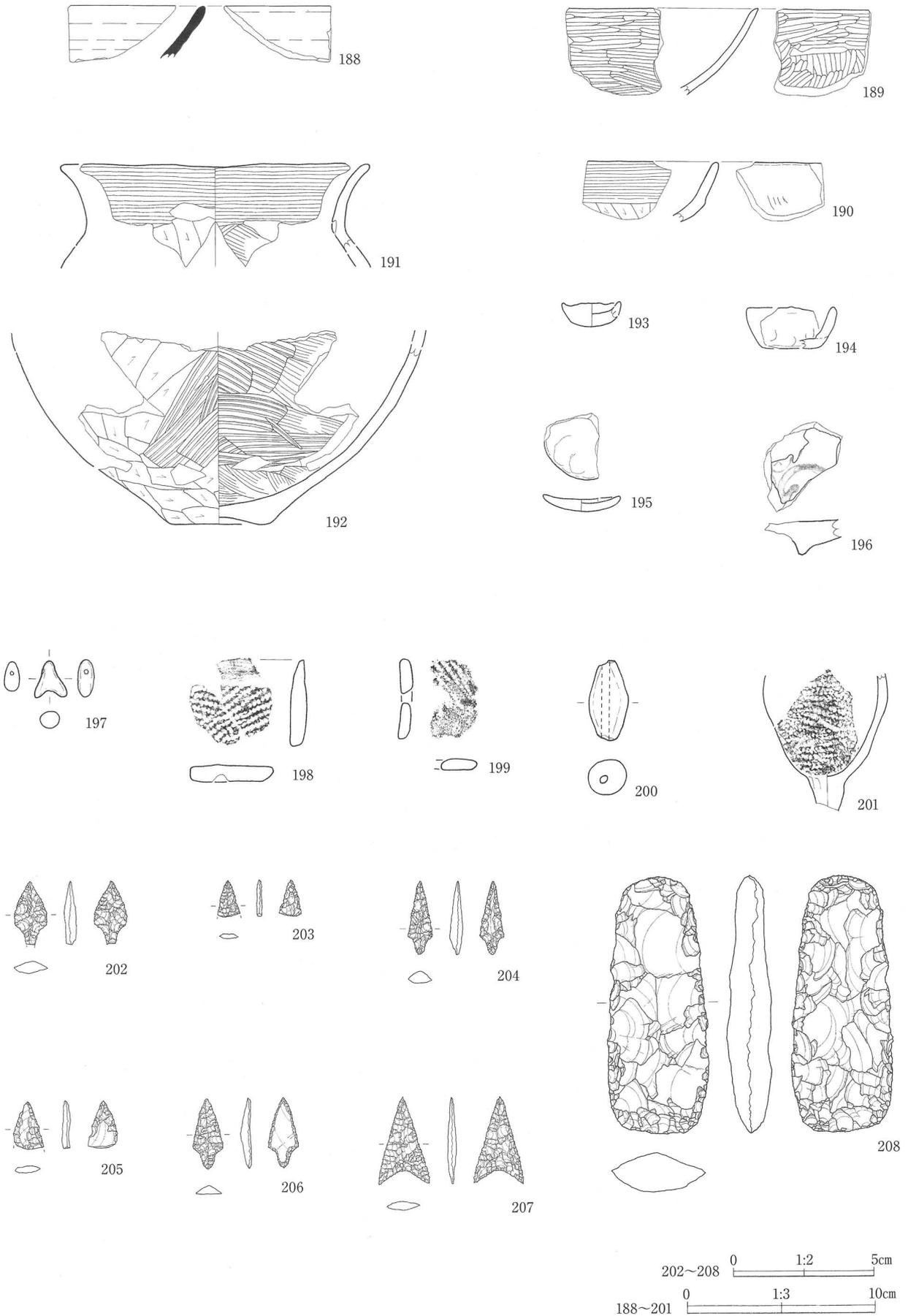
第82図 遺構外出土土器(縄文・弥生2)



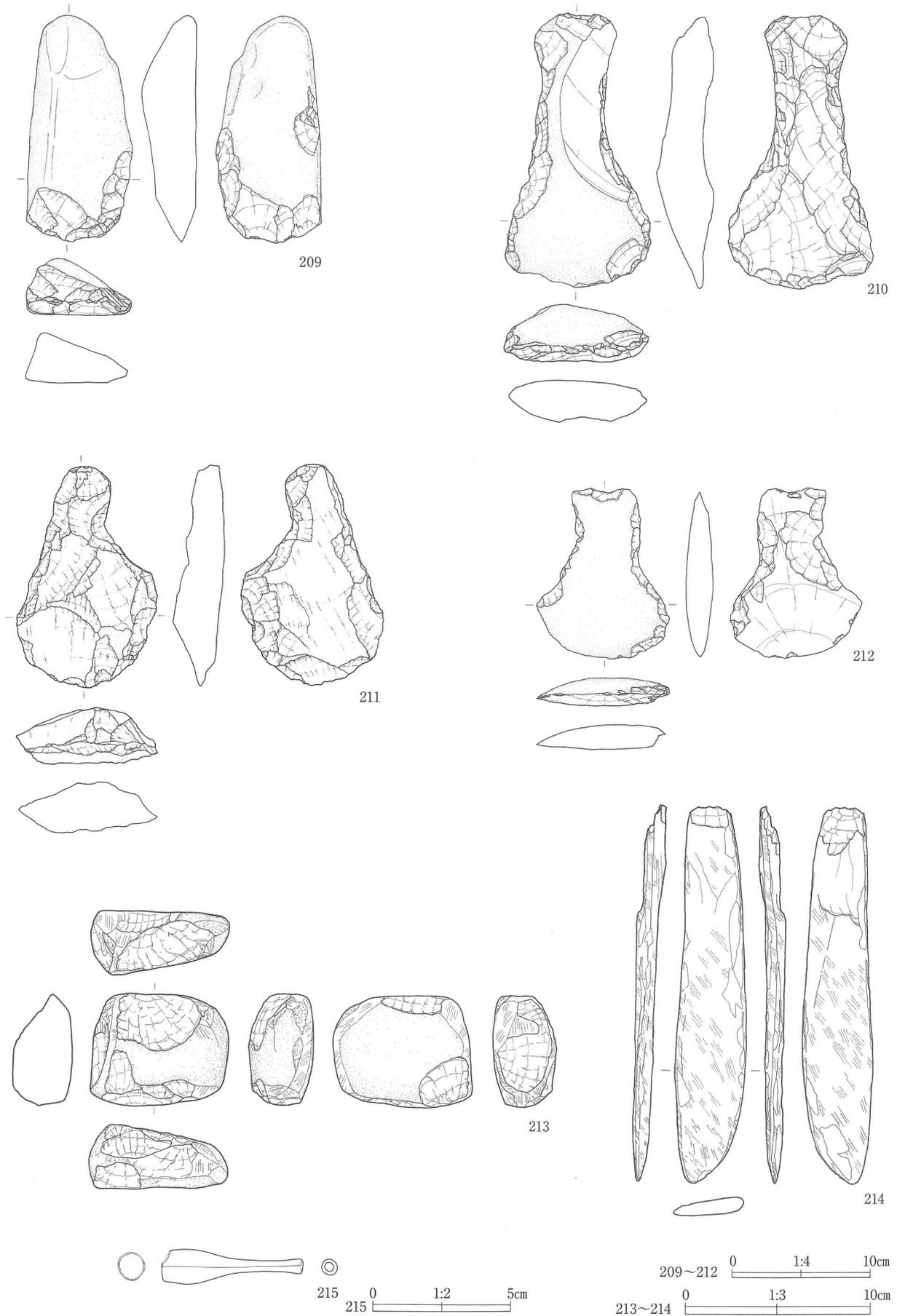
第83図 遺構外出土土器(縄文・弥生3)



第84図 遺構外出土土器(縄文・弥生4)



第85図 遺構外出土遺物(古代土器・ミニチュア土器・陶磁器・土製品・石器)



第86図 遺構外出土遺物(石器・石製品・金属遺物)

第10表 縄文・弥生土器観察表

No	出土地点	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整	内面調整	煤附着 外面 内面	備考	図版 写真
40	1号土坑	埋土底面	深鉢	口縁部～胴部	(14.0)		(6.8)	口唇部:刻み目。二股突起、4単位 肩部～胴部:L R横	ナデ			78 60
41	1号土坑	埋土底面	深鉢	底部		(6.4)	(4.6)	L R斜め	ナデ			78 60
42	1号土坑	埋土	深鉢?	口縁部				口唇部:押圧→小波状口縁 頸部:ナデ	ナデ			78 60
43	1号土坑	埋土底面	浅鉢	口縁～胴部	(20.3)		(6.1)	ナデ。口縁部:二股突起4単位	突起内面に沈線。			78 60
44	1号土坑	底面	高坏	台		(7.8)	(3.4)	ミガキ	ミガキ			78 60
47	2号土坑	埋土	浅鉢	口縁部				口縁部:ナデ 胴部:L R横、斜め	ナデ			78 60
48	2号土坑	埋土	甕	口縁部				口縁部:ナデ 頸部:竹管?による刺突列	ナデ			78 60
55	13号土坑	埋土	深鉢	胴部				R L横	ナデ			78 60
57	20号土坑	埋土	深鉢	胴部				R L R横	ナデ			79 60
59	1号溝	埋土	高坏	台		8.3	(4.1)	ナデ	ナデ		2箇所に穿孔	79 60
63	10号溝	埋土	浅鉢	口縁部				ナデ。口唇部:沈線1	ナデ。口縁部:沈線1			79 60
64	10号溝	埋土	浅鉢	口縁部				ミガキ	ナデ。口縁部:沈線1			79 60
65	10号溝	埋土	浅鉢?	口縁部				ナデ。口唇部:突起(頂部に刻み目)。沈線1	ナデ。口縁部:沈線1			79 60
66	10号溝	埋土	浅鉢	口縁～胴部	(27.5)		(8.5)	口唇部:沈線1 口縁部:竹管? 縄文原体不明	ナデ。口縁部:沈線1			79 60
68	16号溝	埋土	深鉢?	胴部				ナデ。L R斜め	ナデ			79 60
69	17号溝	埋土中	壺	口縁～頸部				ナデ	ナデ。口縁部:沈線1			80 60
70	17号溝	埋土中	浅鉢	口縁部				ナデ	ナデ			80 60
72	21号溝	埋土	浅鉢?	口縁部				ナデ。口唇部:突起(頂部に刻み目)	ナデ。口縁部:沈線状の段			80 60
73	21号溝	埋土	深鉢	頸部～胴部				頸部:ナデ 胴部:L R横	ナデ			80 60
75	pb38	埋土	浅鉢	口縁部								80 60
114	Ⅲ A22 j	Ⅲ b層	注口土器	胴部			(4.0)	ナデ。肩部:刻み目	ナデ。肩部:沈線1			81 60
115	Ⅲ A21・22 j	Ⅲ b層	深鉢	胴部		(9.6)	(16.8)	L R縦	ナデ			81 60
116	Ⅲ A22 j	Ⅲ b層	甕	口縁部				ナデ。口縁部:L R横	ナデ			81 60
117	Ⅲ A22 j	Ⅲ b層	浅鉢	口縁部				ナデ	ナデ			81 60
118	Ⅲ A22 j	Ⅲ b層	高坏	台		5.3	(2.3)	L R横	ナデ			81 60
119	Ⅲ A23 j	Ⅲ b層	深鉢	口縁～胴部				ナデ。口縁部:L R横	ミガキ→ナデ			81 61
120	Ⅲ A25 j	Ⅲ b層	深鉢	口縁～底部	(23.1)	(9.1)		口唇部:押圧→小波状口縁 肩部:L R横、縦、胴部:L R横、縦、斜め 胴部下: L R横	ナデ			81 61
121	Ⅳ A 8 k	Ⅲ b層	浅鉢	口縁部				ナデ。口唇部:二股突起。	ナデ			82 61
122	Ⅳ A 8 o	Ⅲ b層	浅鉢	口縁部				ナデ	口縁部:ナデ			82 61
123	Ⅳ A14 j	Ⅲ b層	深鉢	口縁～胴部				口縁部:ナデ 胴部:L R斜め	胴部:ミガキ→ナデ			82 61
124	V A 7 m	Ⅲ b層	浅鉢?	胴部				ナデ	ナデ			82 61
125	V A13 n	Ⅲ b層	深鉢	口縁部				口唇部:押圧→小波状口縁	ナデ			82 61
126	V B 1 k	Ⅳ層	甕	口縁部				口縁部:ナデ 肩部:L R横	ナデ			82 61
127	V B 5 n・5 m	Ⅳ層	深鉢	胴部～底部		(7.6)	(7.6)	L R縦。底部:縄代痕	ナデ			82 61

No	出土地点	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整		内面調整		図版	写図
								外面	内面	外面	内面		
128	V B 8 o	IV層	壺	肩部				刺突。ミガキ、ナデ	ナデ			82	61
129	V B 20 y	IV層上	深鉢	口縁～底部	13.8	6.5	14.5	口唇部:押圧→小波状口縁 口縁部:ナデ 肩部:L R横 胴部:L R斜め	ナデ ナデ(ハケメ状)			82	61
130	V C 25 c	IV層	深鉢	口縁～底部	(18.0)	6.2	15.8	口唇部:ナデ 肩部:L R横 底部:網代痕 胴部:L R斜め、横	ナデ			82	61
131	V C 25 c	IV層	深鉢?	口縁部				口唇部:二股突起 縄文原体不明	ナデ?			82	61
132	VI A 3 w	III c層	深鉢?	底部	8.6	(1.8)		網代痕	ケズリ、ナデ			82	61
133	VI B 9 a	IV層	鉢	口縁～底部	11.1	5.6	7.0	口縁部:ナデ 胴部～底部:L R横	ケズリ→ナデ			82	61
134	VI B 9 b	IV層	壺	口縁～肩部	(15.6)		(6.4)	口唇部:沈線 I 口縁部～肩部:ミガキ	ミガキ			82	61
135	VI B 10 b	III層下	深鉢	口縁～肩部				口唇部:沈線 I、二股突起(頂部に沈線)	ナデ。口縁部:沈線 I			82	61
136	VI B 10 b	III層下	深鉢	口縁～肩部				口唇部:沈線 I、二股突起(頂部に沈線)	ナデ。口縁部:沈線 I			83	61
137	VI B 10 b	III層下	深鉢	口縁～肩部				口唇部:沈線 I、二股突起(頂部に沈線)	ナデ。口縁部:沈線 I			83	61
138	VI B 10 b・10 c	IV層 III層下	深鉢	口縁～肩部	(16.2)		(9.9)	口唇部:刻み目口縁部、肩部:L R横	ナデ		○	83	62
139	VI B 17 j	IV層	壺	口縁～肩部	2.7		6.5	頸部:沈線 I。沈刻された隆帯6単位 肩部:ナデ	ナデ			83	62
140	VI B 21 o	IV層	深鉢?	底部				網代痕	ナデ			83	62
141	VI C 5 k		深鉢?	胴部				ナデ? L R横	ナデ			81	60
142	VI D 16 a	III層	深鉢?	胴部				ナデ。L R横	ナデ			83	62
143	VI D 18 h	IV層	深鉢	底部	(6.4)	(9.5)		L R縦、斜め	ナデ			83	62
144	VI D 18 c	IV層	深鉢	底部	(13.2)	(4.2)		ナデ	ナデ			83	62
145	VI D 18 c	IV層	壺?	肩部?				ナデ	ナデ			83	62
146	VI G 13 c	III層	深鉢	胴部				胴部 L R:ヨコ	ナデ			81	60
147	VI G 15 h	III b層	深鉢	口縁～底部	(19.3)	(11.4)	(7.5)	口唇部:押圧→小波状口縁。ナデ、L R斜め	ナデ			83	62
148	VI G 15 h	III b層	深鉢	口縁～底部	(12.4)	5.6	10.8	突起4単位? L R斜め 縄文摩滅激しい	ミガキ。口縁部:沈線 I			83	62
149	VI G 15 h	III b層	浅鉢	口縁～胴部	18.2		(6.7)	ミガキ	ミガキ。口縁部:沈線 I			83	62
150	VI G 15 h	III b層	壺	肩部～胴部			(14.2)	ナデ	ミガキ			83	62
151	VI H 5 f	III層	壺	肩部				ナデ	ナデ			83	62
152	VI F 15 h	III層	壺	肩部				ナデ	ナデ			84	62
153	VI H 15 a・f、 VI F 15 h	III層	壺	肩部				ナデ	ナデ			83	62
154	VI H 5 f、 VI H 15 a・f	III層	脚付皿	口縁～底部	5.4	(4.4)		ナデ?	ナデ			83	62
155	VI F 2 g	III層	鉢?	口縁部				ナデ?	ナデ?			84	62
156	VI F 2 g	III層	鉢?	口縁部				ナデ?	口縁部:沈線 I ナデ			84	62
157	VI F 3 f	III層	深鉢	胴部				ミガキ。R縦	ミガキ			81	60
158	VI F 3 f	III層	深鉢	胴部				ナデ。R L斜め	ナデ			81	60
159	VI F 3 f	III b層	深鉢	口縁部				ナデ?	ナデ			84	62
160	VI F 3 l・n	ペルト	深鉢	口縁部				ナデ。L R横	ミガキ。口縁部:沈線 I			84	62
161	VI F 3 l・n	3層	深鉢	胴部				L R縦	ナデ			84	62

No	出土地点	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整	内面調整	煤附着		備考	図版	写真
										外	内			
162	ⅢF 4 e	Ⅲ層	深鉢	口縁部				不明	不明				84	62
163	ⅢF 4 e	Ⅲ層	深鉢	頸部				ナデ。縄文不明	ナデ				84	62
164	ⅢF 4 e	Ⅲ層	深鉢	口縁部				ナデ	ナデ				81	60
165	ⅢF 5 g	5層	深鉢	口縁部				摩滅が激しく不明	ナデ			5号住居埋土に混入	84	62
166	ⅢF 5 g	5層	浅鉢	口縁部				ナデ	ナデ			5号住居埋土に混入	84	62
167	ⅢF 5 h	Ⅲ層	浅鉢	口縁部				ナデ。口唇部:沈線1。突起に刻み目	ナデ。口縁部:沈線1				84	62
168	ⅢF 5 h	Ⅲ層	深鉢	口縁部				ナデ。口唇部:刻み目	ナデ			内外面黒色(内面一部剥落)	84	62
169	ⅢF 5 i	Ⅲ層	高坏	台		(8.4)	(4.4)	ナデ	ナデ				84	62
170	ⅢF 5 i	Ⅲ層	深鉢	胴部				ナデ。R.L斜め	ナデ				81	60
171	ⅢH 5 f	Ⅲ層	深鉢	口縁部				口唇部:押圧→小波状口縁。縄文原体不明。	ナデ				84	62
172	ⅢH 15 f	Ⅲ層	深鉢	口縁部				口唇部:刻み目 口縁部、肩部:L.R横	ナデ				84	62
173	ⅢH 15 f	Ⅲ層	深鉢	口縁部				ナデ?	ナデ			縄文部分は、摩滅が激しい。	84	63
174	ⅢH 15 f	Ⅲ層	浅鉢	口縁部				口唇部:沈線1	ミガキ。				84	63
175	ⅢH 15 f	Ⅲ層	浅鉢	口縁部				口縁部:ナデ 口唇部:沈線1	ナデ。口縁部:沈線1				84	63
176	ⅢH 15 f	Ⅲ層	浅鉢	口縁部	(14.4)		(5.0)	ナデ。口唇部突起(2個)6単位?	ナデ。口縁部:沈線1				84	63
177	ⅢH 15 f	Ⅲ層	四脚付浅鉢	口縁部	(9.0)		3.5	ミガキ。口唇部:沈線1	ミガキ。口縁部:沈線1				84	63
178	ⅢH 15 f	Ⅲ層	四脚付浅鉢	底部			(2.8)	ナデ	ミガキ				84	63
179	ⅢH 15・10 g、6号溝	Ⅲ層下、埋土	深鉢	口縁～底部	(19.6)		16.9	ナデ。口唇部:突起、2種。沈線1。L.R斜め	ナデ				84	63
180	ⅢH 15 g	Ⅲ層下	深鉢	胴部～底部		6.0	(6.6)	L.R横	ナデ				84	63
181	ⅢH 15 g	Ⅲ層下	深鉢	底部		(6.6)	(2.8)	ナデ。L.R斜め	ナデ				84	63
182	ⅢH 15 g	Ⅲ層下	深鉢	口縁部				ナデ。口唇部:刻み目。L.R横	ナデ。口縁部:沈線1				84	63
183	ⅢH 1 5 h	Ⅲ層	浅鉢?	口縁部				ナデ。口唇部:沈線1	ナデ。口縁部:沈線1				84	63
184	ⅢH 1 5 h	Ⅲ層	浅鉢	口縁部				ミガキ。口唇部:沈線1 L.R横	ミガキ。口縁部:沈線1			内外面黒色	84	63
185	ⅢH 1 5 i	Ⅲ層?	壺	頸部				ミガキ	ナデ				84	63
186	ⅢH 1 6 j	Ⅲ層	深鉢	口縁部				口唇部:刻み目。L.R斜め	ナデ。口縁部:沈線1				84	63
187	ⅢH 1 6 j	Ⅲ層	深鉢?	口縁部				ナデ。口唇部:突起。刻み。	ナデ。口縁部:沈線1				84	63

※ () は口径・底径が推定値、器高が残存値。

第11表 古代土器観察表

No	出土地点	層位	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整	内面調整	底部	備考	図版	写真
1	1号住居	床面	土師器	土師器	口縁～底部	(13.4)	(4.9)	(6)	ハラミガキ(縦)	ハラミガキ(縦) →黒色処理		非ロクロ成形	74	57
2	1号住居	床面	土師器	土師器	口縁～胴部	(13.4)		(5.5)	ハラナデ(横)	ハラミガキ		非ロクロ成形。黒色処理剥落	74	57
3	1号住居	床面	土師器	土師器	口縁～底部	17.6	7.7	24.2	口縁部:ヨコナデ 体部:ハラナデ(縦)	口縁部:ヨコナデ 体部:ハラナデ	木葉痕	内面:胴部中央部から頸部にかけてスラス付着、輪積痕明瞭	74	57

No	出土地点	層位	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整	内面調整	底部	備考	図版	写真
4	1号住居	床面、カマド周辺、2層、貼床	土師器	甕	口縁～底部	19.8	8.1	28.8	口縁部:ヨコナデ体部:ハラケズリ(縦)	口縁部:ヨコナデ体部:ハラケズリ(縦) 体部:ハラケズリ(横)ハラナデ	木葉痕	輪積痕明瞭	74	57
5	1号住居	床面、2層	土師器	甕	口縁～胴部	(18.2)	(8.2)	(24.3)	口縁部:ヨコナデ体部:ハラナデ(縦)	口縁部:ヨコナデ体部:ハラナデ(横)ハラナデ	木葉痕	輪積痕あり。図面上で復元	74	57
6	1号住居	床面	土師器	球胴甕	口縁～底部		7.4	16.8	口縁部:ヨコナデ 胴部:ヨコナデ→ハラナデ(横) 下部:ヨコナデ→ハラケズリ(縦) 体部:ハラナデ(横)ハラナデ	口縁部:ヨコナデ 胴部:ヨコナデ→ハラナデ(横)		非ロクロ成形	74	57
10	2号住居	ベルト、埋土1層	土師器	坏	口縁～胴部				ヨコナデ→一部ハラナデ→ハラミガキ	ヨコナデ→ハラミガキ		内外面黒色処理	75	58
11	2号住居	ベルト	土師器	坏	口縁部				ヨコナデ→一部ハラナデ	ハラミガキ		内外面黒色処理。焼成不良	75	58
12	2号住居	2層	土師器	坏	口縁～胴部				胴部:ハラミガキ	ハラミガキ		内外面黒色処理	75	58
13	2号住居	床面	土師器	坏	口縁～胴部				口縁:ヨコナデ	ハラミガキ→黒色処理			75	58
14	2号住居	6層	土師器	甕	口縁～胴部	(14.5)		(14.0)	口縁部:ヨコナデ→一部ハラケズリ(縦) 胴部:ハラケズリ(縦)	口縁部:ヨコナデ 胴部:ハラケズリ(横)		輪積痕あり	75	58
15	2号住居	ベルト	土師器	甕	口縁～胴部				口縁部:ヨコナデ 胴部:ハラナデ(縦)	口縁部:ヨコナデ 胴部:ハラナデ(横)		輪積痕あり。口縁部外面にハラ工具痕	75	58
16	2号住居	ベルト	土師器	甕	口縁部				口縁部:ヨコナデ	口縁部:ヨコナデ			75	58
17	2号住居	床面	土師器	甕	口縁部				口縁部:ヨコナデ 肩部:ハラナデ(縦)	口縁部:ヨコナデ 肩部:ハラナデ(横)		口縁部外面にハラ工具痕	75	58
18	2号住居	ベルト	土師器	甕	口縁部～頸部				口縁部:ヨコナデ 頸部:ヨコナデ→ハラケズリ	ヨコナデ→ハラナデ		焼成不良及び口縁部焼歪み	75	58
19	2号住居	ベルト	土師器	甕	頸部～胴部				頸部:ヨコナデ 肩～胴部ハラナデ	頸部:ヨコナデ 胴部:ハラナデ		焼成不良及び口縁部焼歪み	75	58
20	3号住居	検出面、埋土3・5層	土師器	坏	口縁～底部	(14.2)	(4.2)	(6.7)	口縁～胴部:ロクロナデ	ロクロナデ→ハラミガキ	回転糸切り無調整		76	58
21	3号住居	検出面、埋土2層	土師器	坏	口縁～底部	(15.0)	(6.4)	(4.8)	ロクロナデ	ロクロナデ→ハラミガキ	回転糸切り無調整		76	58
22	3号住居	3層	土師器	坏	口縁～底部	(14.2)	(6.4)	(4.4)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り無調整		76	58
23	3号住居	5層	土師器	坏	口縁～底部	15.2	6.8	5.1	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り無調整		76	58
24	3号住居	検出面、埋土3層	土師器	高台付坏	口縁～底部	(16.2)	(7.3)	(5.4)	ロクロナデ	ロクロナデ→ハラミガキ			76	58
25	3号住居	5層	須恵器	坏	口縁部				ロクロナデ	ロクロナデ			76	58
26	3号住居	検出面、埋土3層	土師器	甕	口縁～底部	(15.6)	7.7	14.1	口縁～胴部:ロクロナデ	口縁～底部:ロクロナデ	回転糸切り無調整		76	58
27	3号住居	5層	土師器	甕	口縁～底部	(14.8)	(7.6)	(12.8)	口縁～胴部:ロクロナデ	口縁～底部:ロクロナデ	回転糸切り無調整		76	58
28	3号住居	検出面、埋土3・5層	土師器	甕	口縁～底部	19.4	9.5	25.0	口縁～胴部中央:ロクロナデ 胴中央～底部:ロクロナデ→ハラケズリ(縦)	ロクロナデ			76	59
29	3号住居	検出面、5層	土師器	甕	口縁～胴部	(23.0)		(17.7)	口縁部:ロクロナデ 胴部:ロクロナデ→ハラナデ(縦)	口縁部:ロクロナデ 胴部:ハラナデ			76	59
30	3号住居	埋土3層	土師器	甕	胴部～底部		(7.4)	(8.1)	胴部:ロクロナデ	胴部～底部:ロクロナデ	回転糸切り無調整		77	59

No	出土地点	層位	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整	内面調整	底部	備考	図版	写真
31	3号住居	検出面、3・5層	土師器	甕	胴部～底部		(8.0)	(28.2)	胴部:ロクロナデ→ヘラケズリ	胴部:ロクロナデ→ヘラナデ			77	59
32	3号住居	埋土3層	土師器	甕	口縁部				ロクロナデ	ロクロナデ			77	59
33	3号住居	埋土3層	土師器	甕	胴部～底部		(10.0)	(13.8)	胴部:ヘラケズリ	胴部中央:ヨコナデ 胴部下:ヘラナデ(縦)			77	59
34	3号住居	5層、埋土3層	土師器	甕	底部		(8.2)	(7.8)	ヘラケズリ	ヘラナデ			77	59
35	4号住居	埋土	土師器	甕	口縁～肩部				口縁部:ヨコナデ 肩部:ヘラナデ(縦)	口縁部:ヨコナデ 肩部:ヘラナデ(横)		肩の段が明瞭	77	59
36	5号住居	床面焼土付近	須恵器	甕	肩部				タタキ	ヨコナデ(一部タタキ)			77	59
37	1号焼成遺構	埋土	土師器	坏	口縁部				口縁部:ヨコナデ 胴部下:ヘラケズリ、一部ヘラナデ	ヘラミガキ		内面黒色処理。胴部に明瞭な段あり。	78	59
38	1号焼成遺構	埋土1層	土師器	甕	底部		(7.6)	(0.7)		不明	回転糸切り無調整	内面剥落	78	59
39	1号焼成遺構	埋土1層	土師器	甕	胴部～底部		(9.3)	(11.0)	ヘラケズリ(縦)	ヘラナデ(横)			78	59
60	6号溝	埋土	須恵器	甕?	頸部				ロクロナデ	ロクロナデ			79	60
71	17号溝	埋土上面	土師器	坏	口縁部				ヨコナデ	ヨコナデ→ヘラミガキ		内面黒色処理	80	60
188	ⅥB9 a	Ⅲb層	須恵器	坏	口縁部			3.1	ロクロナデ	ロクロナデ			85	63
189	ⅣF2 g	Ⅲ層	土師器	坏	口縁～胴部				ヘラミガキ(横)→黒色処理	ヘラミガキ(縦)→黒色処理		内外面とも黒色処理	85	63
190	ⅣF2 g	Ⅲ層	土師器	坏	口縁部			(3.2)	胴部:ナデ、下部:ヘラナデ	ミガキ		胴部に段あり。	85	63
191	ⅣF7 o	Ⅲ層、カクラン	土師器	甕	口縁部	(15.6)		(5.6)	口縁部:ヨコナデ 肩部:ヘラケズリ(縦)	口縁部:ヨコナデ 肩部:ヘラナデ			85	63
192	ⅣF7 o・8 o	カクラン、Ⅲ層	土師器	甕	胴部～底部		(5.2)	(16.6)	ヘラケズリ、ハケメ	ハケメ		底部中央部に指圧痕	85	63
193	ⅣF2 g	Ⅲ層	土師器	ミニチュア	底部	1.4		(3.2)	不明	不明		丸底	85	63
194	ⅣF4 h	Ⅲ層	土師器	ミニチュア	底部	4.8	3.8	2.3	ナデ	ナデ			85	63
195	ⅣH15 f	Ⅲ層	土師器	ミニチュア	口縁～底部	(4.2)	0.7	0.9	ナデ	ナデ			85	63

※ () は口径・底径が推定値、器高が残存値。

第12表 土製品観察表

垂れ飾り

No	出土地点	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	図版	写真
197	ⅣF3 g	Ⅲ層	2.10	1.65	0.80	1.80	85	63

円盤状土製品

No	出土地点	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	図版	写真
198	ⅣF3 f	Ⅲ層	(4.4)	4.4	0.8	17.4	85	63
199	ⅣH5 f	Ⅲ層	4.5	(2.8)	0.7	9.1	85	63

第12表 土製品観察表

No	出土地点	層位	長さ (cm)		幅 (cm)		厚さ (cm)		重量 (g)	文様	図版写図
			Ⅲ層	Ⅳ層	Ⅲ層	Ⅳ層	Ⅲ層	Ⅳ層			
200	ⅢF 5 i	Ⅲ層	4.3	2.1	1.9	1.35			85	63	
不明											
No	出土地点	層位	長さ (cm)		幅 (cm)		厚さ (cm)		重量 (g)	文様	図版写図
			Ⅲ層	Ⅳ層	Ⅲ層	Ⅳ層	Ⅲ層	Ⅳ層			
7	1号住カマド	覆土中	2.65	1.45	0.90	3.60			75	63	
8	1号住カマド燃焼部	燃焼部中	3.90	0.90	0.90	2.20			75	63	
74	pp1	埋土	2.20	1.90	0.50	3.20			80	63	
201	ⅢH15 f	Ⅲ層	(7.40)	(6.60)	(0.40)	27.90			85	63	

※ () は残存値。

第13表 陶磁器観察表

No	出土地点	層位	材質分類	器種	部位	計測値 (cm)		器高	装飾		胎土	推定製作地	時期	備考	図版写図
						口径	底径		器高	絵付・釉薬					
49	6号土坑	埋土1	磁器	皿	底部		(4.5)	(2.1)	透明釉	見込み疵の目軸剥ぎ	白色	肥前系	18世紀	ロクロ削り高台	78 2
50	6号土坑	埋土1	陶器	皿	口縁部				灰釉(緑)		褐灰色(密)	在地産	19世紀		78 2
51	6号土坑	埋土	陶器	碗	口縁部				灰釉		灰色(密)	大塚相馬	18世紀		78 2
52	6号土坑	埋土3	陶器	搦鉢	口縁部				鉄釉		灰色(粗)	在地産	19世紀		78 2
53	6号土坑	埋土2	磁器	紅皿	胴部~底部	(4.6)	(1.4)	1.6	内面：白磁釉	外面：菊花文	白色	肥前系	19世紀前半	外面：無軸	78 2
54	6号土坑	埋土1	ガラス	おはじき		1.7	1.6	0.6			-	不明	不明	計測値：長さ×幅×厚さ	78 2
67	11号溝	埋土下	陶器	皿	口縁部				灰釉(緑)		褐灰色(粗)	瀬戸・美濃	16世紀		79 2
76	1号墓壙	埋土	陶器	碗	底部		3.9	(1.8)	透明釉		淡黄白色(密)	肥前系	18世紀前半	故意に打ち欠いている。	80 2
81	7号墓壙	埋土	陶器	碗	底部		4.8	(2.7)	透明釉(緑)		淡黄白色(密)	肥前系	17後半~18前半	故意に打ち欠いている。	80 2
95	11号墓壙	埋土	陶器	碗	胴部				灰釉		灰白色(密)	大塚相馬	18世紀		80 2
96	11号墓壙	埋土	陶器	搦鉢	口縁部				鉄釉		明褐色(粗)	在地産	19世紀		80 2
196	ⅢH 14c	カクラン	磁器	皿	底部			(1.8)	染付(青)		白色	肥前系	17世紀前半	高台砂目	85 2

※ () は口径・底径が推定値、器高が残存値。

第14表 石器観察表

No	器種	出土地点		層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質・産地・時代	備考	図版写図
		1号土坑	14号土坑								
46	砥石	1号土坑	底面		14.4	5.5	3.4	383.8	頁岩 北上山地 古生代後期		78 64
56	砥石	14号土坑	1層		22.1	6.7	5.7	1372.6	アイサイト 奥羽山脈 新生代新第三紀		79 65
58	石鏃	21号土坑	埋土		1.54	1.03	0.34	0.34	赤色頁岩 奥羽山脈 新生代新第三紀		79 64

No	器種	出土地点	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質・産地・時代	備考	図版 写真
61	打製石斧	6号溝	埋土	23.9	8.5	2.7	723.7	頁岩 北上山地 古生代後期		79 64
62	磨石類	8号溝	埋土下部	10.6	7.5	5.0	522.0	デイスイト 奥羽山脈 新生代新第三紀		79 65
202	石鏃	VI B 9 b	IV層	2.18	1.21	0.43	0.93	頁岩 奥羽山脈 新生代新第三紀		85 64
203	石鏃	VI C 14 x	カクラン	1.31	0.80	0.21	0.19	頁岩 奥羽山脈 新生代新第三紀		85 64
204	石鏃	VI G 14 c	III層	2.64	0.90	0.44	0.69	赤色頁岩 奥羽山脈 新生代新第三紀		85 64
205	石鏃	VI H 20 m	IV層上	(1.75)	(1.10)	0.26	0.45	頁岩 奥羽山脈 新生代新第三紀		85 64
206	石鏃	VI F 3 f	III層	2.55	1.11	0.36	0.64	頁岩 奥羽山脈 新生代新第三紀		85 64
207	石鏃	VI G 12 f	カクラン	3.20	1.80	0.30	0.99	頁岩 奥羽山脈 新生代新第三紀		85 64
208	石鏃	IV B 5 c	IV層	9.41	3.66	1.53	58.18	頁岩 奥羽山脈 新生代新第三紀		85 64
209	打製石斧	VI A 8 l	III b層	16.6	7.6	4.1	598.3	ホルンフェルス 北上山地 中生代白亜紀		86 64
210	打製石斧	VI B 21 n	IV層	20.1	10.5	4.3	690.6	ホルンフェルス 北上山地 中生代白亜紀		86 64
211	打製石斧	VI B 21 n	IV層	16.2	9.9	3.1	532.7	デイスイト 奥羽山脈 新生代新第三紀		86 64
212	打製石斧	VI B 21 n	IV層	12.5	10.6	2.1	238.0	デイスイト 奥羽山脈 新生代新第三紀		86 64

※ () は残存値。

第15表 石製品観察表

No	器種	出土地点	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質・産地・時代	備考	図版 写真
213	錐鉛石?	VI B 9 a	IV層	6.1	7.5	3.5	273.3	玄武岩 奥羽山脈 新生代新第三紀		86 65
214	石刀	VI B 10 b	III層下	20.6	3.9	1.5	116.6	頁岩 北上山地 古生代後期		86 65

第16表 金属遺物観察表

No	出土地点	層位	器種	素材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	図版 写真
9	1号住	2層	鎌	鉄	14.28	4.40	0.28	96.70		75 65
82	7号墓横	埋土	煙管 (雁首)	銅	6.65	1.70	0.10	5.10	幅は最大幅	80 65
83	7号墓横	埋土	煙管 (吸口)	銅	7.50	1.10	0.10	10.00		80 65
85	8号墓横	埋土	煙管 (雁首)	銅	5.75	1.45	0.10	10.20		80 65
90	10号墓横	埋土	煙管 (雁首)	銅	4.95	1.75	0.09	5.30		80 66
91	10号墓横	埋土	煙管 (吸口)	銅	6.20	1.10	0.09	4.70		80 66
92	10号墓横	埋土	板状鉄製品	鉄	6.65	2.75	0.85	20.26		80 65
93	10号墓横	埋土	鎌番?	鉄	4.03	3.90	1.39	13.87		80 65
94	次番	金属遺物保存処理前に93が二つに分かれるものと判断し掲載番号を付したため。								
105	15号墓横	埋土	煙管 (吸口)	銅	(5.00)	(1.15)	0.03	1.80		80 66
215	VI E 18 c	IV層	煙管 (吸口)	銅	5.10	1.30	0.03	4.90		86 66

※ () は残存値。

第 16 表 金属遺物観察表

墓壙内出土銭貨

No	出土地点	層位	銭名	素材	銭径(A)/(B)(mm)	内径(C)/(D)(mm)	銭厚(mm)	量目(g)	備考	図版	写真	
77	3号墓壙	埋土下	寛永通宝	銅	24.36	18.36	18.19	0.84 ~ 1.19	2.59		80	66
78	3号墓壙	埋土下	寛永通宝	銅	22.87	18.59	17.10	0.93 ~ 1.57	2.73	江戸亀戸村鑄(初鑄1700)厚肉抱寛	80	66
79	3号墓壙	埋土下	寛永通宝?	銅	21.77	17.18	17.18	1.21 ~ 1.45	2.46		80	66
80	3号墓壙	埋土下	寛永通宝	銅	22.37	18.27	18.16	0.92 ~ 1.35	4.44	江戸亀戸村鑄(初鑄1708)動永 量目は鑄を含む。	80	66
84	7号墓壙	埋土	寛永通宝	鉄	24.31	19.50	19.42	1.29 ~ 1.56	8.87	鉄一文銭(1739 ~ 1867)。4枚。	80	66
86	8号墓壙	埋土	寛永通宝	銅	23.58	19.97	19.42	0.96 ~ 1.09	2.88	江戸亀戸村鑄(初鑄1708)動永広寛	80	66
87	8号墓壙	埋土	寛永通宝	銅	24.73	19.69	19.55	1.35 ~ 1.46	3.86	江戸亀戸村鑄(初鑄1700)正永	80	66
88	8号墓壙	埋土	寛永通宝	銅	22.81	17.05	16.75	0.97 ~ 1.47	2.21	古寛永(1636 ~ 1659)	80	66
89	8号墓壙	埋土	寛永通宝	銅	24.07	19.49	19.75	1.19 ~ 1.42	3.43	古寛永(1636 ~ 1659)	80	66
97	11号墓壙	埋土	寛永通宝	銅	23.82	19.85	18.77	1.24 ~ 1.36	2.91		80	66
98	11号墓壙	埋土	寛永通宝	銅	24.25	19.96	19.56	1.23 ~ 1.29	2.31		80	66
99	11号墓壙	埋土	寛永通宝	銅	22.52	18.41	17.94	1.14 ~ 1.35	2.43	江戸亀戸村鑄(初鑄1700)厚肉抱寛?	80	66
100	11号墓壙	埋土	寛永通宝	銅	23.13	18.82	18.47	0.86 ~ 1.16	2.49	江戸亀戸村鑄(初鑄1700)厚肉抱寛	80	66
101	11号墓壙	埋土	寛永通宝	銅	24.77	19.36	19.42	1.07 ~ 1.18	2.96	古寛永(1636 ~ 1659)	80	66
102	11号墓壙	埋土	寛永通宝	銅	23.93	20.19	19.54	0.95 ~ 1.10	2.76	古寛永(1636 ~ 1659)	80	66
103	12号墓壙	埋土	寛永通宝	鉄	24.41	19.04	19.05	1.09 ~ 1.24	7.03	鉄一文銭(1739 ~ 1867)。3枚	80	66
104	12号墓壙	埋土	表:寛永通宝 裏:寛永通宝?	鉄	22.61	18.70	18.84	1.14 ~ 1.42	7.77	鉄一文銭(1739 ~ 1867)。3枚	80	66
106	15号墓壙	埋土	寛永通宝	銅	23.50	20.33	19.13	1.13 ~ 1.52			80	66
107	15号墓壙	埋土	寛永通宝	銅	25.09	20.08	19.92	1.23 ~ 1.27	3.39	江戸亀戸村鑄(初鑄1668)正字背文	80	66
108	15号墓壙	埋土	寛永通宝	銅	22.97	18.81	18.80	1.04 ~ 1.16	2.87	江戸亀戸村鑄(初鑄1708)跳永	80	66
109	15号墓壙	埋土	寛永通宝	銅	25.06	20.39	19.87	1.05 ~ 1.18	2.88	江戸亀戸村鑄(初鑄1668)正字背文	80	66
110	15号墓壙	埋土	寛永通宝	銅	25.12	19.62	19.98	0.93 ~ 1.10	2.83	古寛永(1636 ~ 1659)	80	66
111	15号墓壙	埋土	寛永通宝	銅	25.07	20.00	19.84	1.08 ~ 1.20	3.36	江戸亀戸村鑄(初鑄1668)正字背文	80	66
112	15号墓壙	埋土	寛永通宝	銅	22.18	18.03	18.14	0.83 ~ 0.91	1.99		80	66
113	15号墓壙	埋土	寛永通宝	銅	22.94	18.63	18.46	1.22 ~ 1.33	3.13	下野日光鑄(初鑄1708)巴千鳥	80	66
					(21.18)			0.76 ~ 1.29	1.20	江戸亀戸村鑄(初鑄1700)厚肉抱寛?	80	66

※銭径(A)・内径(C)は縦方向、銭径(B)・内径(D)は横方向の長さを計測したものである。

(6) 煙 管

VI E 18 c グリッド第IV層上面から215が出土した。215は煙管吸口である。対応する雁首は調査区内からは出土しなかったため、詳細の時期は不明であるが18世紀前半以降に属するものと思われる。215が出土した周辺は民家等が昭和時代まで存続し、地形改変等が幾度となく加えられた区域である。

6 ま と め

遺跡が所在する地形は、北上川左岸に形成された自然堤防上であるが、北上川に向かって注いでいたものと推測される旧沢跡等が見られ、この自然堤防上にも微かな起伏がある。遺構は起伏の高低に関わらず検出された。遺物は、基本土層第Ⅲ層から最も多く出土した他、第IV層上面からも出土している。

調査は、従前の舟渡 I 及び II 遺跡の範囲に加え隣接地も対象とした。その結果は、旧来の遺跡範囲に納まるものではなく、出土遺物及び遺構等の時期も類似していたことから、調査成果のまとめについても、時代毎に一つの遺跡として考察することとする。

(1) 縄 文 時 代

微量ではあるものの、中期末葉から晩期終末までに属するものと思われる遺物が、基本土層第Ⅲ層から出土した。しかし、縄文時代に構築されたと思われる遺構は検出されなかった。発掘調査に先立って県教育委員会生涯学習文化課が実施した試掘調査においても、後晩期の遺物は出土しているが、遺構は検出されていない。調査区外に竪穴住居跡等の遺構が所在していると思われる。

(2) 弥 生 時 代

大コンテナ約3箱分の遺物が出土し、弥生時代に属すると思われる1～3号土坑、1号溝が検出された。1号土坑からは、弥生時代前期に属する土器片、焼粘土塊、敲打石が出土し、埋土の一部に十和田b火山灰と思われる灰白色粒子が微量に含まれていた。貯蔵穴あるいは墓壙の可能性があると思われる。2号土坑は、出土遺物から弥生時代中期に構築されたものと思われるが、調査区境界で検出されたため、完掘しておらず用途は不明である。3号土坑からは遺物は出土していないが、フラスコ状の断面形をしており、貯蔵穴の可能性があると思われる。弥生土器は、当該時期に構築された遺構から出土したもの、他時代に構築された遺構に混入したものの、遺構外から出土したもので、時期については、弥生時代前期前半～中期中葉に属するものと思われるが、ほとんどが弥生時代前期のものであった。弥生土器は調査区全体から出土しているが、1・3号土坑が検出された区域周辺のⅢA・ⅣA大グリッドからも弥生時代前期の土器が比較的多く出土し、2号土坑が検出されたⅧG大グリッドに隣接したⅧF・ⅧH大グリッドからも数多く出土している。遺構が検出されていること、遺跡の立地が類似している野沢Ⅱ遺跡から弥生時代の竪穴住居跡が1棟検出されていることなどから、調査区外ではあるため推定の域を出ないが、ⅢA・ⅣA大グリッド隣接区域、ⅧF～ⅧH大グリッド隣接区域の2箇所当該期の集落が所在している可能性があると思われる。

(3) 古 代

竪穴住居跡5棟、焼成遺構1基が検出された。検出された竪穴住居跡は、同時に存在していたのではなく、時期差があると思われる。出土遺物と共伴関係から1・2号住居は8世紀、5号住居は8世紀～9世紀前半、3・4号住居は9世紀に属すると思われる。2号住居跡についてであるが、カマド及び燃焼部等の痕跡すら検出されていない。しかしながら、焼土、炭化物及び炭化材（クリ）が床面の広範囲で検出されている。住居壁面等に火を受けたと思われる痕跡は確認できなかった。検出状況から焼失住居であると思われるが、詳細は不明である。3～5号住居跡は一部のみの精査であった。1号焼成遺構は4号住居廃絶後に構築されている。隣接する野沢Ⅱ遺跡からは焼成遺構が5基検出され、1～4号焼成遺構は概ね竪穴住居跡分布域で検出されている(岩文振埋文セ2010)。検出状況・立地等から1号焼成遺構は土器焼成遺構の可能性はあるが、野沢Ⅱ遺跡で検出された焼成遺構とはその平面プランにおいて相違している。1～5号住居は、ⅧF大グリッドの比較的標高の高い畑地及び水田から、互いに隣接して検出されている。このことに加え、遺構外から出土した古代土器の約75%が同大グリッドから出土していることも考え合わせると、当該区域は本遺跡における8～9世紀にかけて営まれた集落の中心域であると推定される。

(4) 近 世 以 降

堤防構築（昭和40年代頃）以前まで民家等が所在していた区域を中心に近世に属する土坑、柱穴状土坑、溝、墓壙が検出された。墓壙16基は比較的標高の高い荒地で検出され、この場所にあった墓地は耕地整理前に改葬したとの話を地元で聞いたが、今回の調査で検出された墓壙は改葬されずに残ったものであると思われる。出土遺物から、この区域は、江戸初期から幕末・明治期にかけて墓地として使用されていたものと思われる。11号溝からは16世紀に属すると思われる瀬戸・美濃産陶器皿の口縁部片が出土し、6号土坑から18～19世紀に属する遺物も出土していること等から、16世紀から現代までも集落が営まれていたと思われる。

以上のことから、本遺跡は、複数の時代に集落が営まれていた場所であることがわかった。また、時代毎でその中心域が変遷していたと推定される。最後であるが、複数年にわたる発掘調査で得られた資料は、大切な共有財産であり、本遺跡を含めた地域の歴史を紐解く一助となっていくものと思う。

参考文献

- 岩手県教育委員会 1981 『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書-XⅡ-(石田遺跡)』
(岩手県文化財調査報告書第61集)
- 北上市教育委員会 1997 『南部工業団地内遺跡Ⅲ』(北上市埋蔵文化財調査報告第27集)
2002 『立花南遺跡』(北上市埋蔵文化財調査報告第49集)
2006 『八幡遺跡(2004年度)』(北上市埋蔵文化財調査報告第78集)
2009 『八幡遺跡(2006・2007年度)』(北上市埋蔵文化財調査報告第98集)
- 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
1996 『江川鉄山跡発掘調査報告書』(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第237集)
1997 『瀬原Ⅰ遺跡第2次・3次発掘調査報告書』(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第257集)
2006 『河崎の柵擬定地発掘調査報告書』(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第474集)

- 2006 『金附遺跡発掘調査報告書』(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第482集)
- 2007 『細谷地遺跡第15次発掘調査報告書』(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第514集)
- 2008 『市の川 I 遺跡・市の川 II 遺跡・山口遺跡・小川屋敷遺跡・六日市遺跡・
八天北遺跡発掘調査報告書』(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第543集)
- 2010 『野沢 I・II 遺跡・戸桜遺跡・舟渡 I 遺跡発掘調査報告書』
(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第567集)
- 小泉 弘 1985 「江戸の町の出土遺物」『季刊考古学』第13集51-55頁
- 鈴木克彦 2001 『北日本の縄文後期土器編年の研究』雄山閣
- 杉本 良 2001 「赤彩球胴甕再考(1)」『北上市立博物館研究報告第13集』北上市立博物館 1-8頁
- 2002 「赤彩球胴甕再考(2)」『北上市立埋蔵文化財センター紀要第2号』
北上市立埋蔵文化財センター 15-24頁
- 高橋千晶 2007 「第II章 東北・北海道における6~8世紀の土器変遷と地域の相互関係 vii.岩手県南部」
『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト文化交流の研究』210-244頁
- 永井久美男編 1996 『日本出土銭総覧1996年版』兵庫県埋蔵銭調査会
- 1998 『近世の出土銭II-分類図版篇-』兵庫県埋蔵文化銭調査会

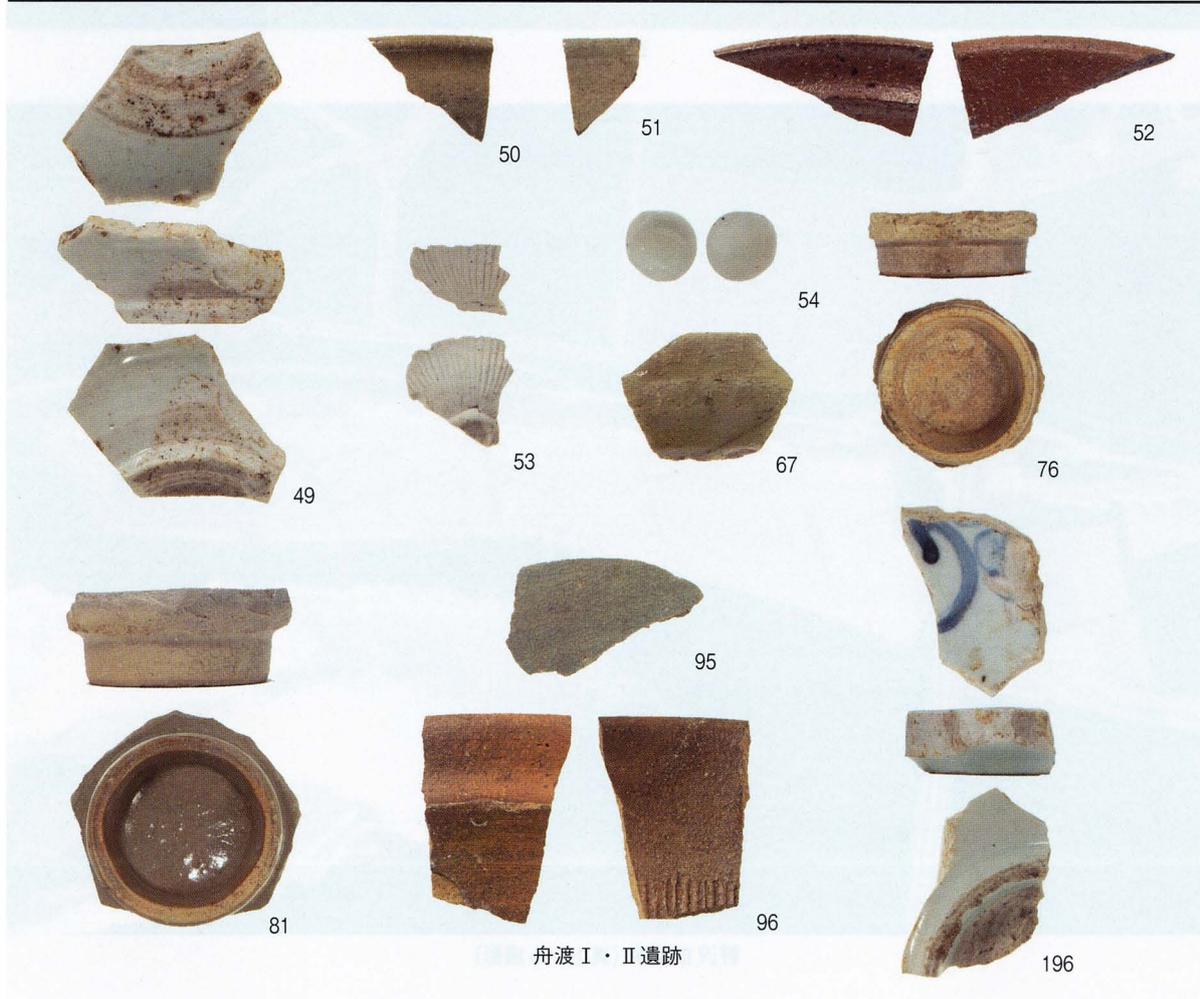
写 真 图 版



遺跡遠景



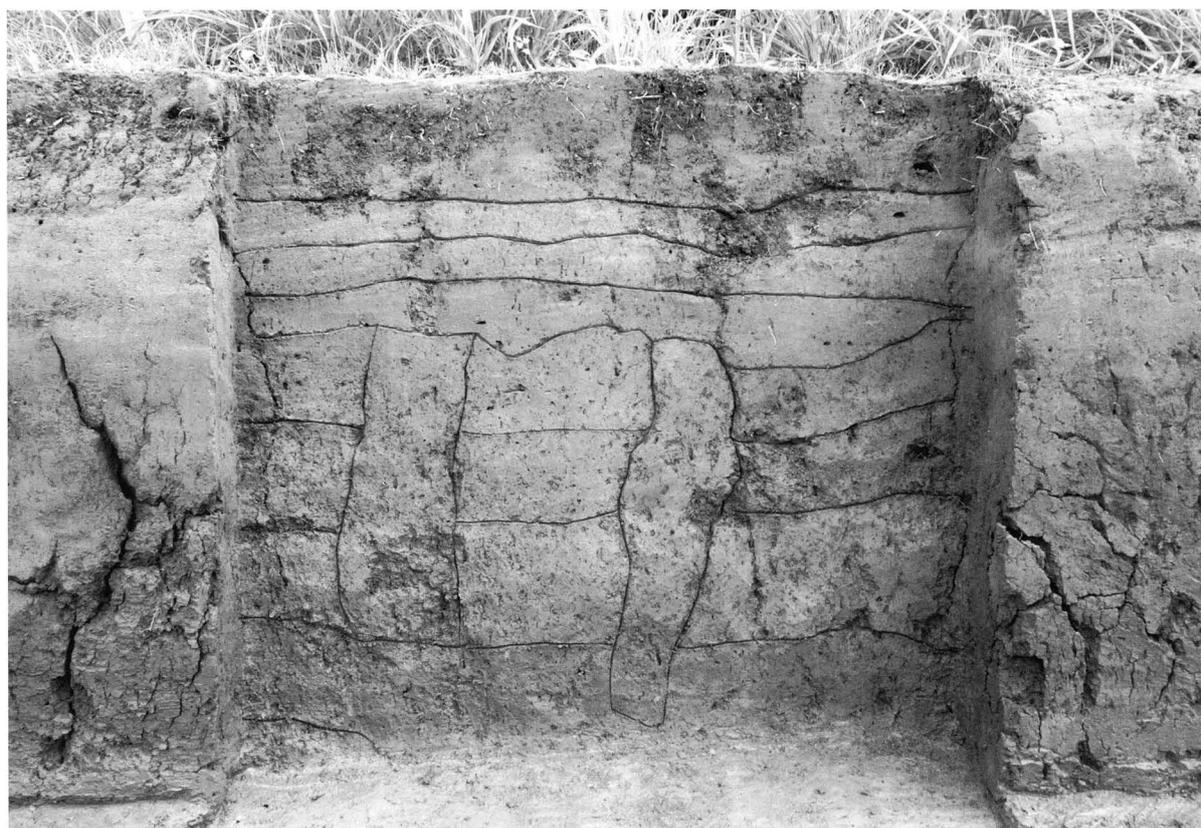
野沢Ⅱ遺跡（真上から撮影）



写真図版2 出土陶磁器



調査前風景 (E →)



基本土層 (N →)



1号住居跡平面 (W→)



埋土断面 (N→)



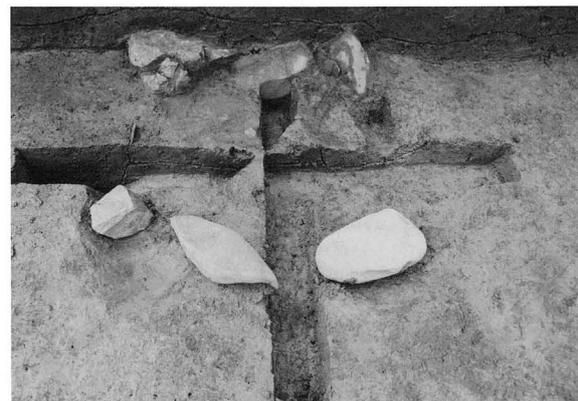
炉平面 (N→)



覆土断面 (N→)



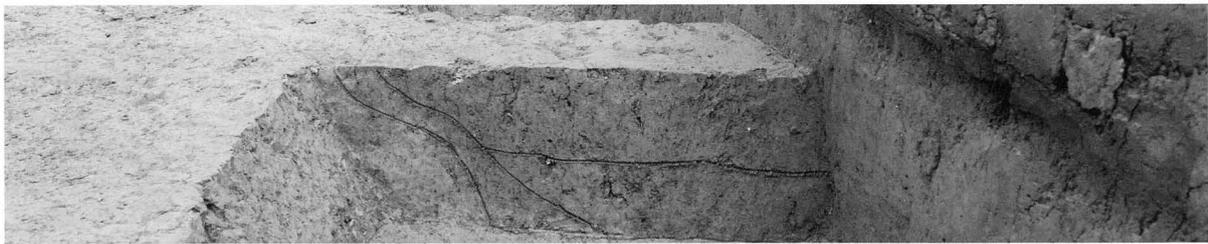
断ち割り (W→)



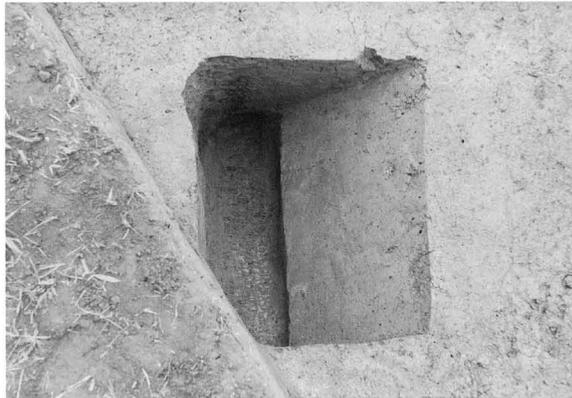
断ち割り (N→)



2号住居跡平面 (N→)



埋土断面N-Sベルト (W→)



カマド煙道部平面 (SE→)



カマド煙道部断面 (NE→)



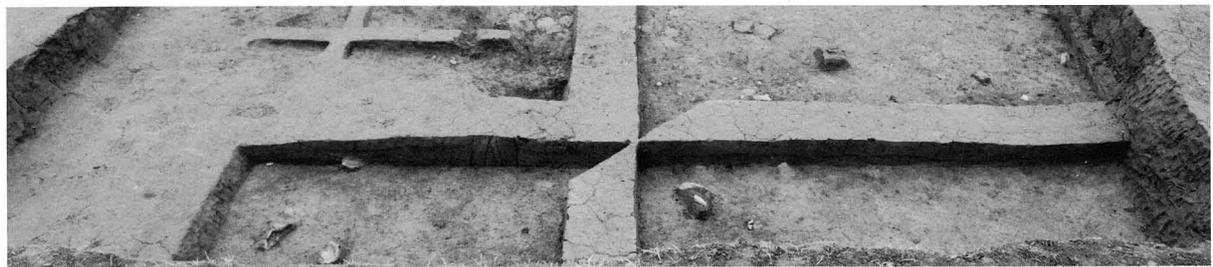
土器出土状況 No. 1 (・W→)



住居完掘 (NE→)



3号住居跡古段階平面 (W→)



埋土断面E-Wベルト (N→)



埋土断面N-Sベルト (W→)



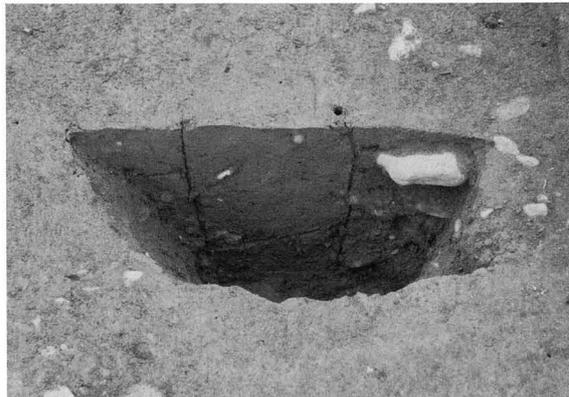
カマド平面 (W→)



カマド煙道部断面 (N→)



PP 1 平面 (S→)



PP 1 断面 (W→)



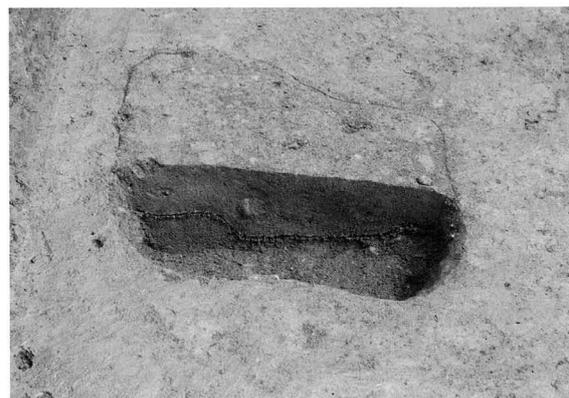
PP 2 平面 (S→)



PP 2 断面 (W→)



PP 3 平面 (S→)



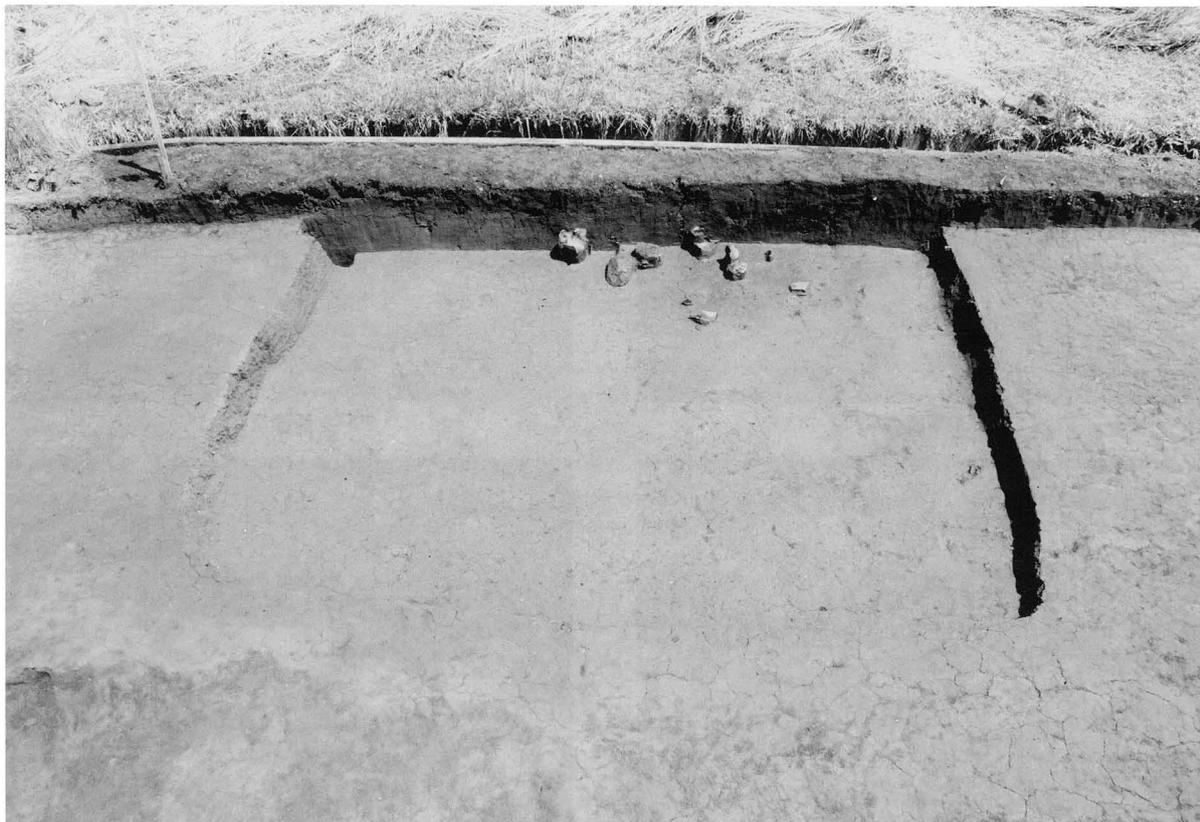
PP 3 断面 (W→)



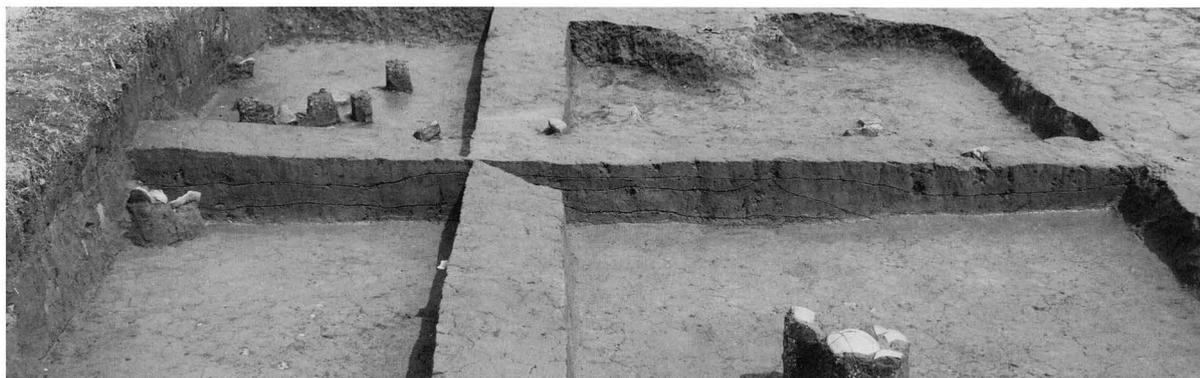
土器 No. 5 出土状況 (S→)



住居完掘 (W→)



3号住居跡新段階平面 (S →)



埋土断面 N-S ベルト (W →)



土器出土状況 No.15 (N →)



土器出土状況 No.12 (SW →)



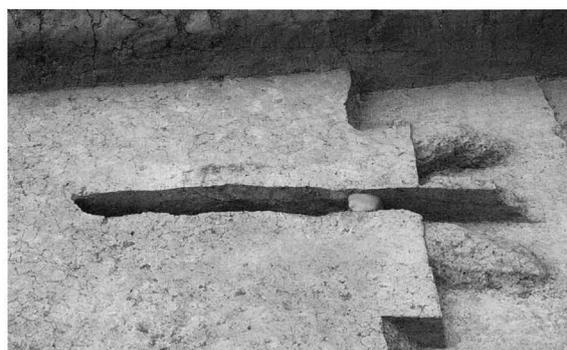
4号住居跡平面 (W→)



埋土断面N-Sベルト (W→)



カマド平面 (W→)



カマド煙道部 (N→)



カマド燃烧部断面 (N→)



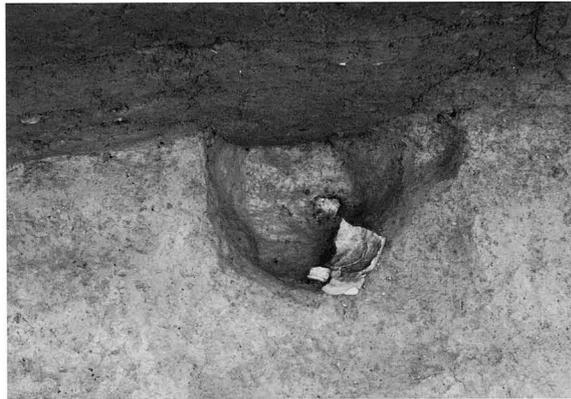
遺物出土状況 (N→)



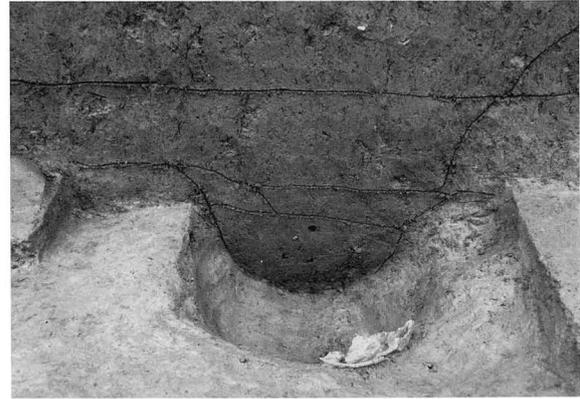
PP1平面 (W→)



PP1断面 (W→)



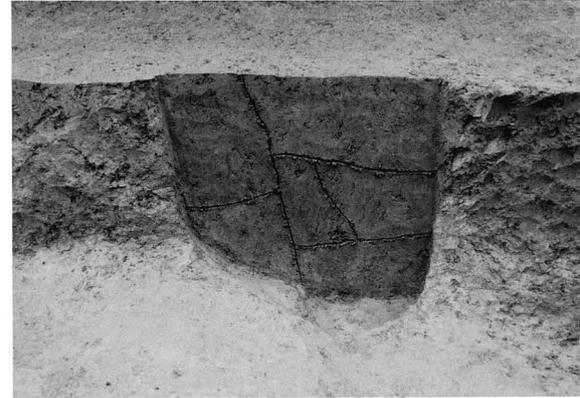
PP2平面 (N→)



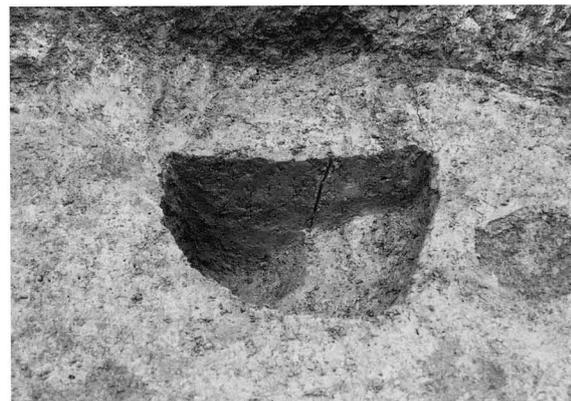
PP2断面 (N→)



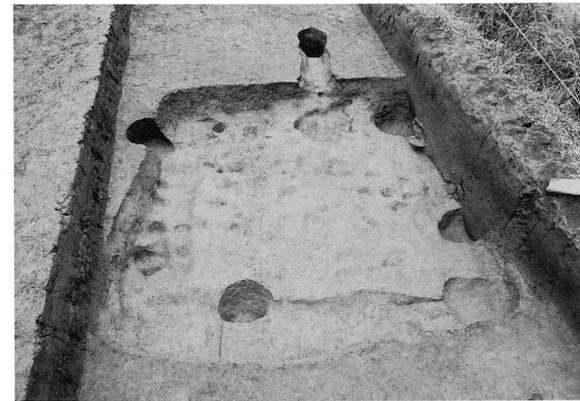
PP3断面 (W→)



PP4断面 (S→)



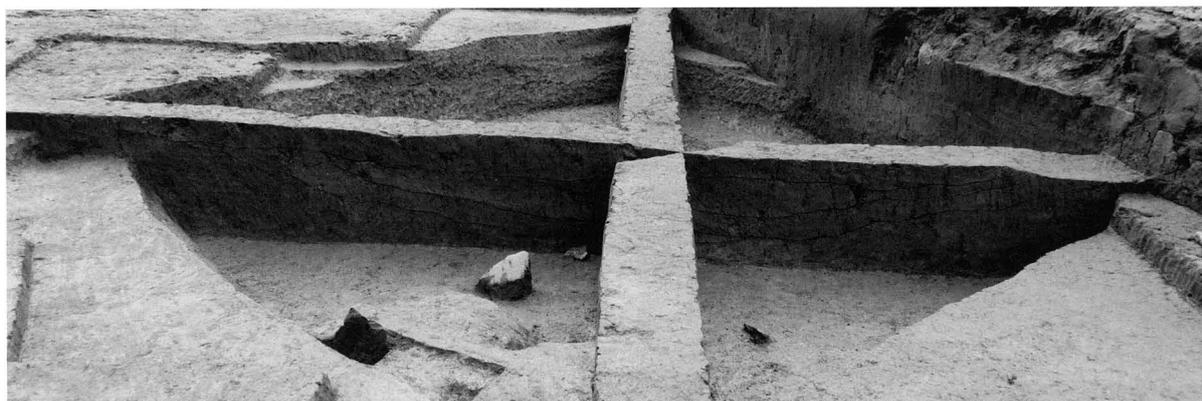
PP5断面 (S→)



住居完掘 (W→)



5号住居跡平面 (N→)



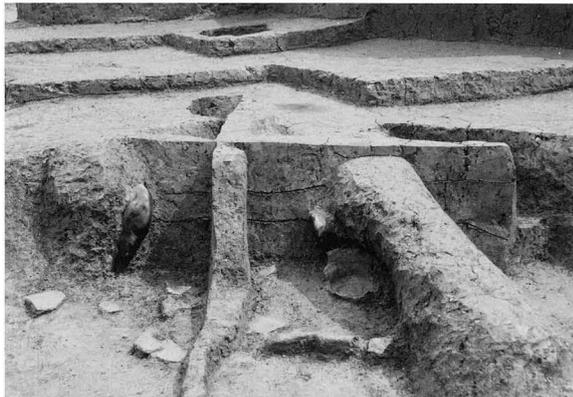
埋土断面 SW - NE ベルト (SE→)



カマド平面 (NW→)



カマド煙道部断面 (NE→)



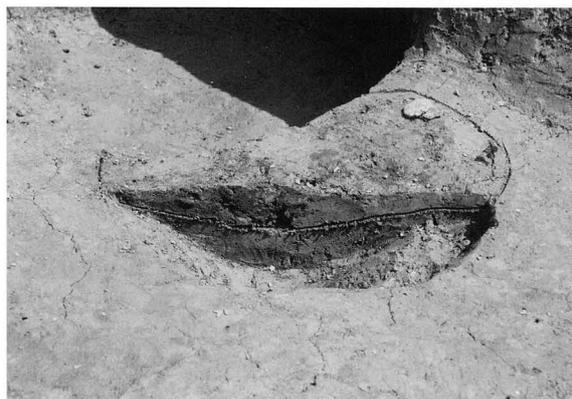
カマド袖部・燃焼部断面 (NW→)



カマド袖部・燃焼部断ち割り (NW→)



カマド燃焼部断ち割り (NE→)



焼土1断面 (NW→)



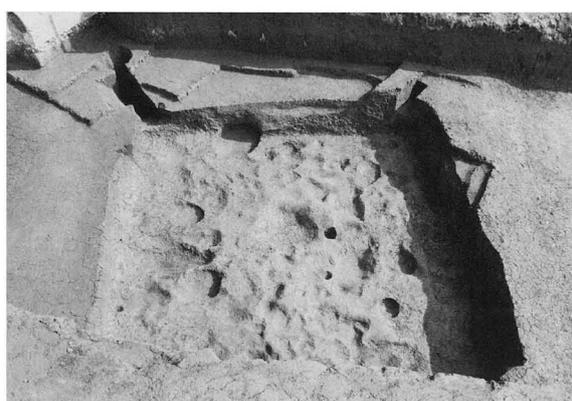
PP1平面 (N→)



PP1断面 (N→)



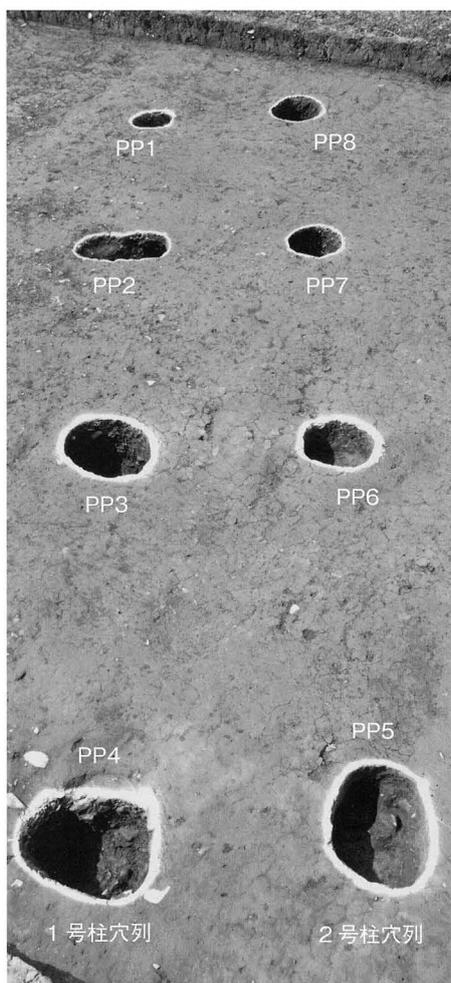
PP6平面 (N→)



住居完掘 (N→)



1号掘立柱建物跡 (SE →)



1・2号柱穴列 (S →)



PP 1 (W →)



PP 5 (E →)



PP 2 (W →)



PP 6 (E →)



PP 3 (W →)



PP 7 (E →)



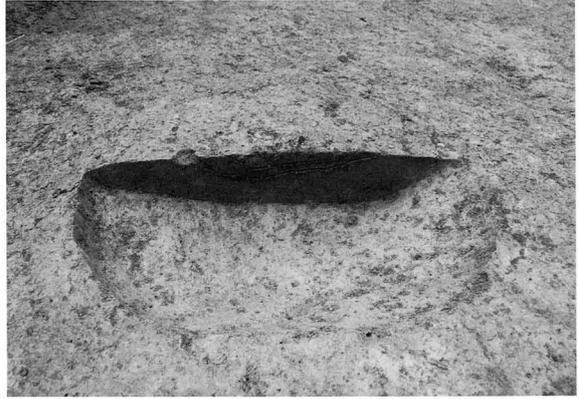
PP 4 (W →)



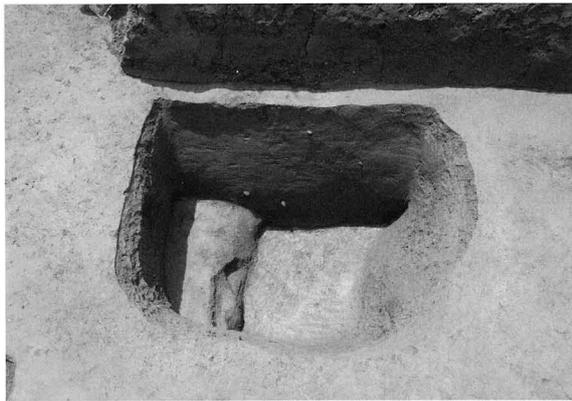
PP 8 (E →)



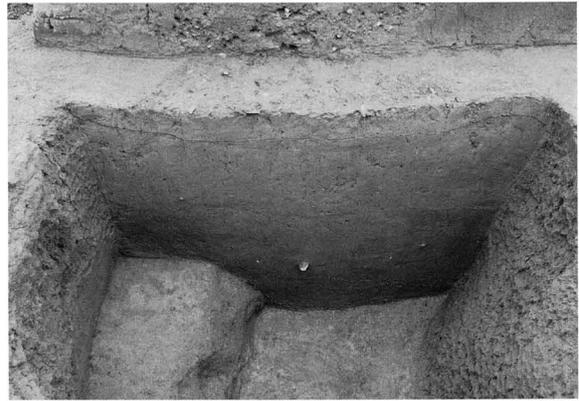
1号土坑平面 (S →)



1号土坑断面 (SW →)



2号土坑平面 (N →)



2号土坑断面 (N →)



3号土坑検出 (E →)



3号土坑断面 (N →)



3号土坑平面 (E →)



3号土坑完掘 (E →)



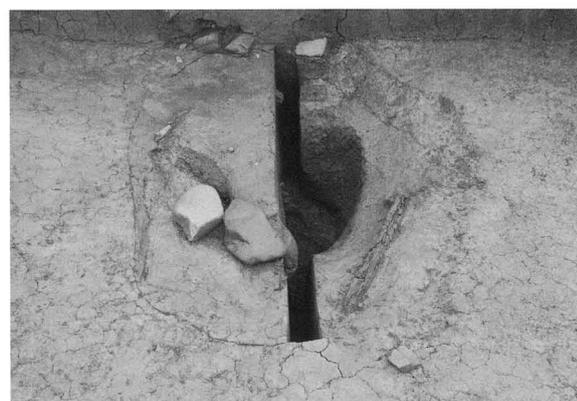
性格不明遺構平面 (N →)



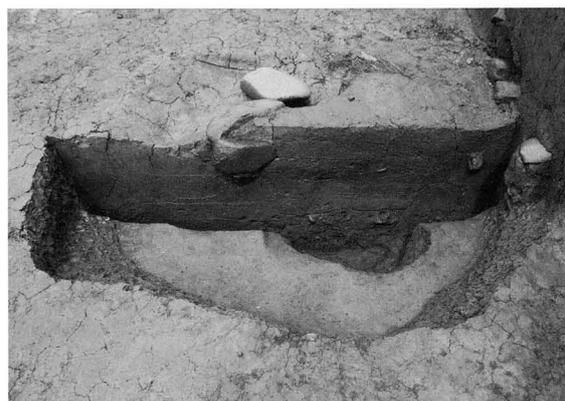
性格不明遺構内焼土断面 (NW →)



性格不明遺構内焼土完掘 (N →)



1号井戸跡平面 (S →)



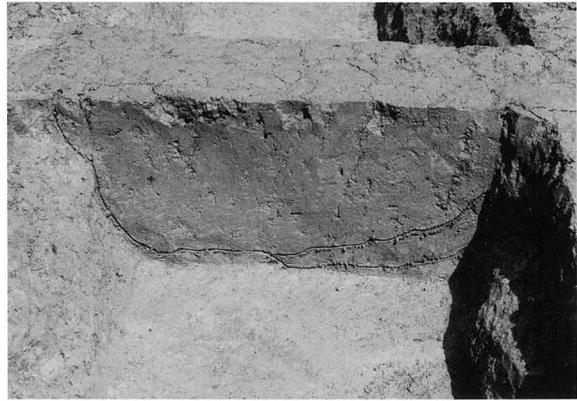
1号井戸跡断面 (E →)



1号溝平面 (SE→)



1号溝北側断面 (SE→)



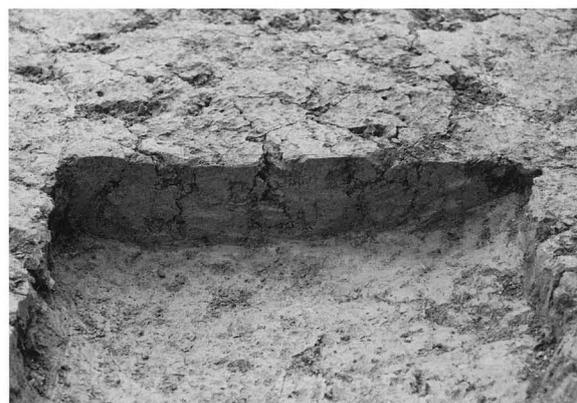
1号溝南側断面 (SE→)



2号溝平面 (SW→)



2号溝北側断面 (SW→)



2号溝南側断面 (SW→)



3号溝平面 (SE →)



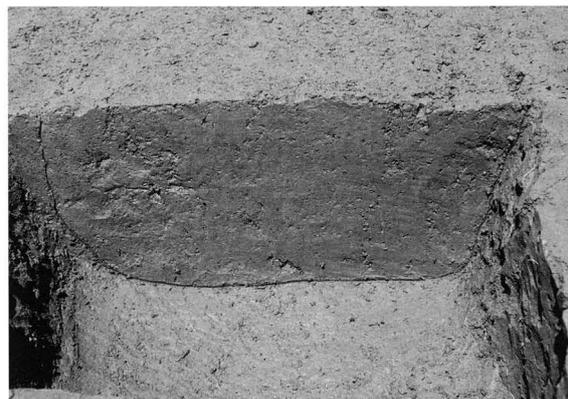
3号溝北側断面 (SE →)



3号溝南側断面 (SE →)



4号溝平面 (SE →)



4号溝北側断面 (SE →)



4号溝南側断面 (SE →)



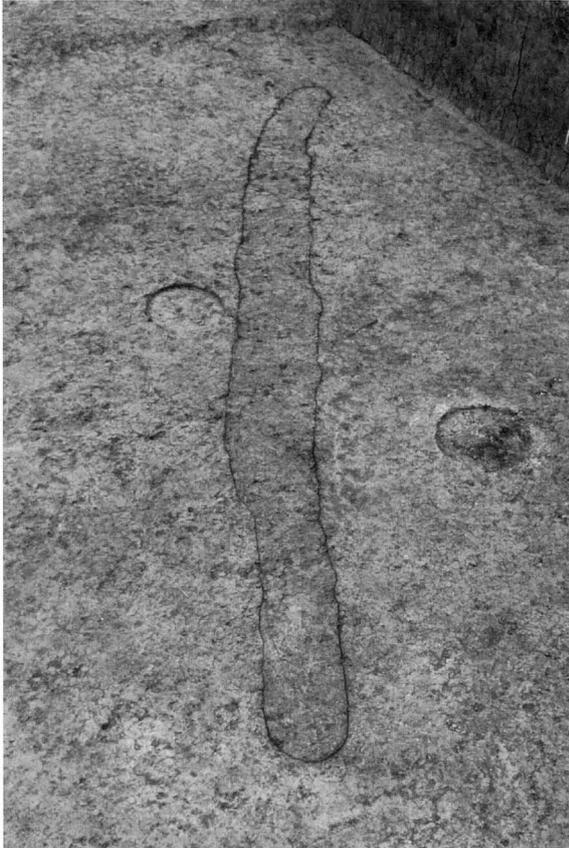
5号溝平面 (SE→)



5号溝北側断面 (SE→)



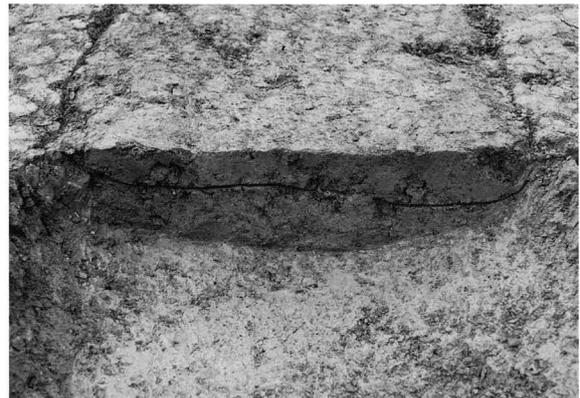
5号溝南側断面 (SE→)



6号溝平面 (SE→)



6号溝北側断面 (SE→)



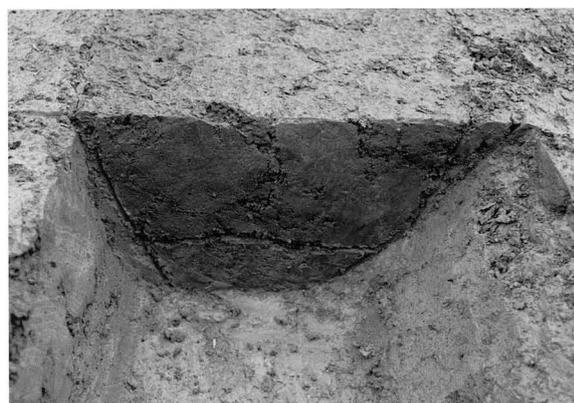
6号溝南側断面 (SE→)



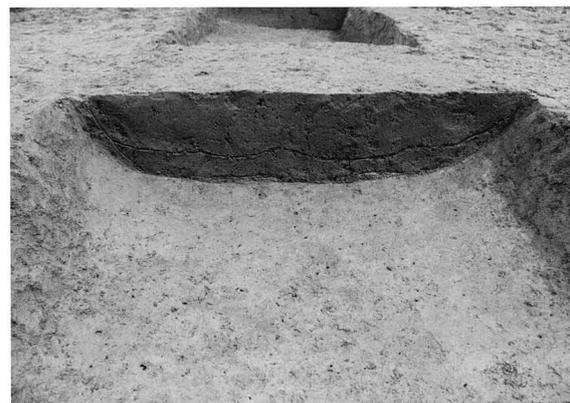
8号溝平面 (N→)



9号溝平面 (N→)



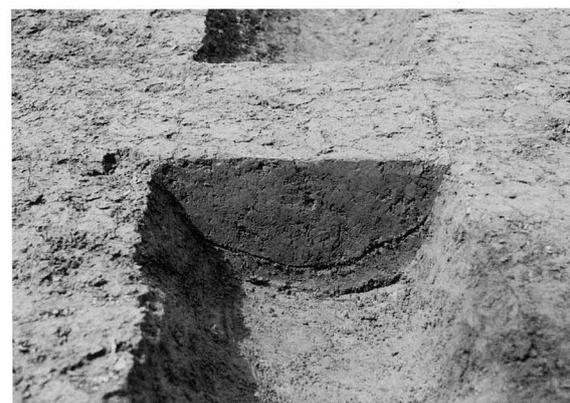
8号溝断面 (S→)



9号溝断面 (S→)



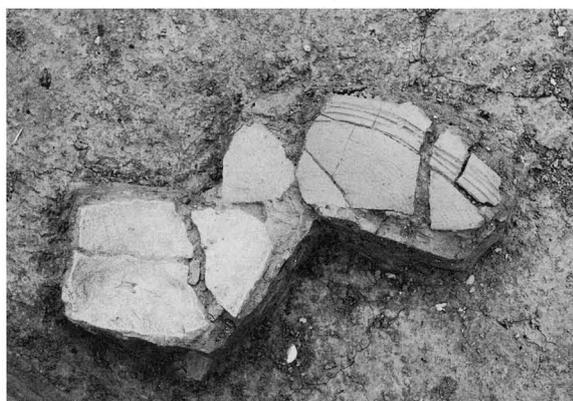
7号溝平面 (S→)



7号溝断面 (S→)



弥生土器出土状況Ⅸ K 3 p グリッド付近 (E→)



土器出土状況 No.65 (W→)



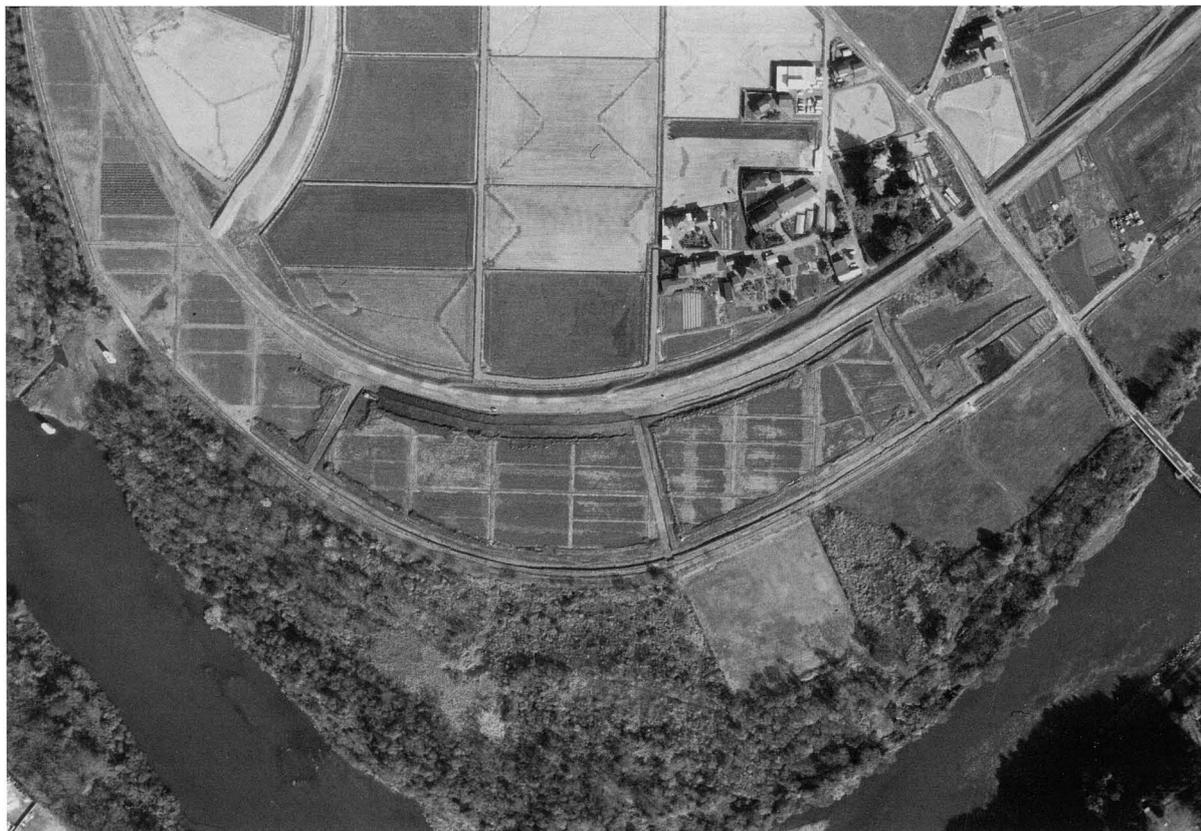
土器出土状況 No.68 (E→)



土器出土状況 No.60 (W→)



土器出土状況 No.61 (W→)



舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡（西側真上）



調査前風景（県道より東側）



基本土層 A-A' (県道東側)



基本土層 B-B' (県道西側)



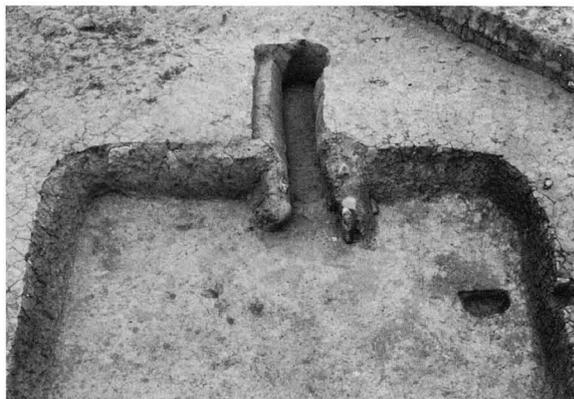
1号住居跡 (SE→)



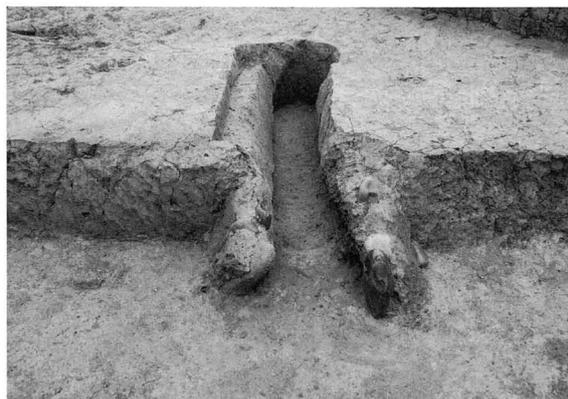
埋土断面SW-NEベルト (SE→)



埋土断面NW-SEベルト (SW→)



カマド平面 (SE→)



カマド平面 (SE→)



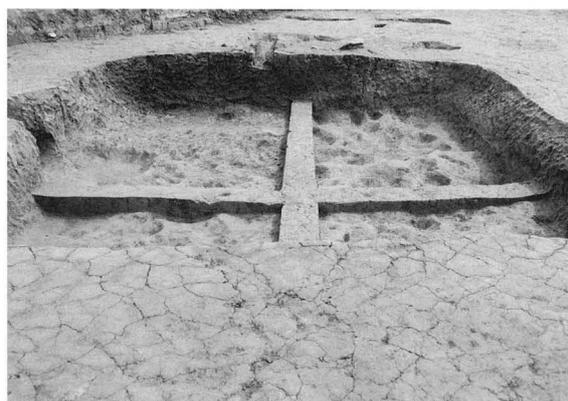
カマド煙道部断面 (SW→)



カマド燃烧部断面 (SE→)



カマド燃烧部断面 (NW→)



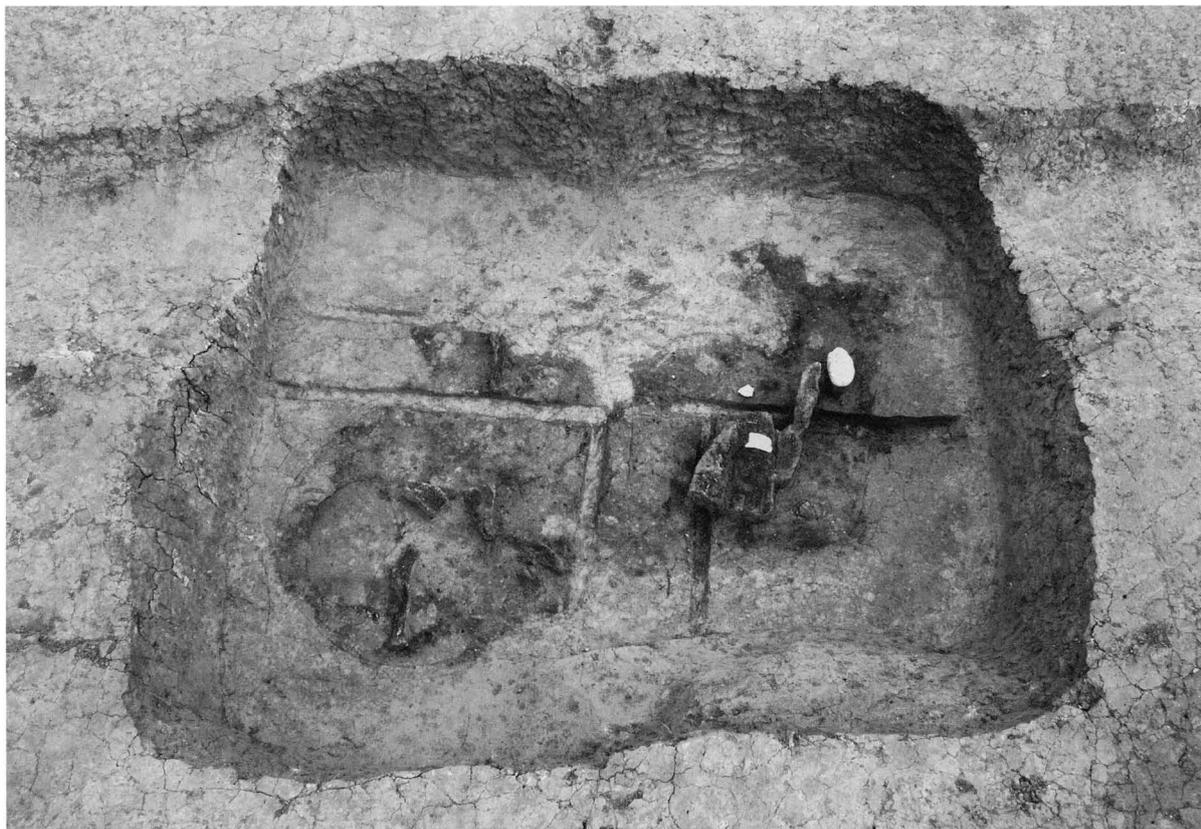
貼り床SW-NEベルト (NW→)



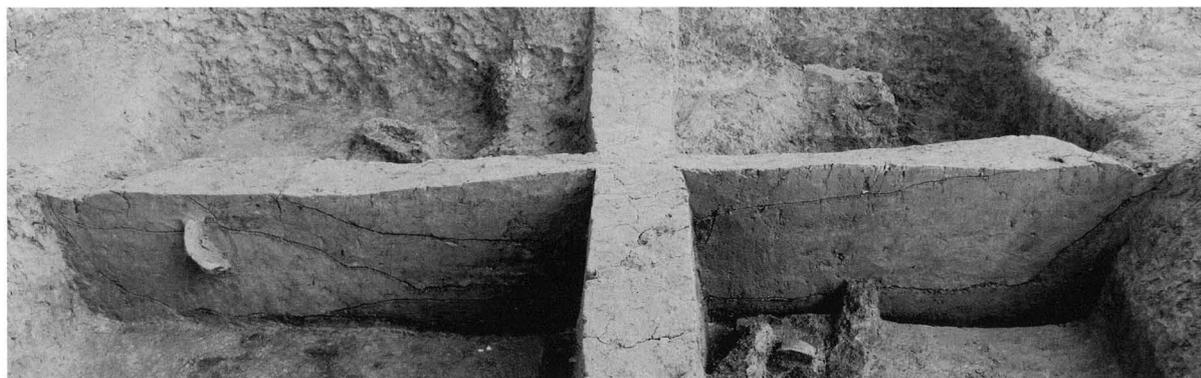
貼り床断面 (SE→)



完掘平面 (SE→)



2号住居跡平面 (NW→)



埋土断面NE-SWベルト (NW→)



埋土断面SE-NWベルト (NE→)



貼床断面NE-SWベルト (NW→)



貼床断面SE-NWベルト (NE→)



完掘平面 (NW→)



検出状況 (NE→)



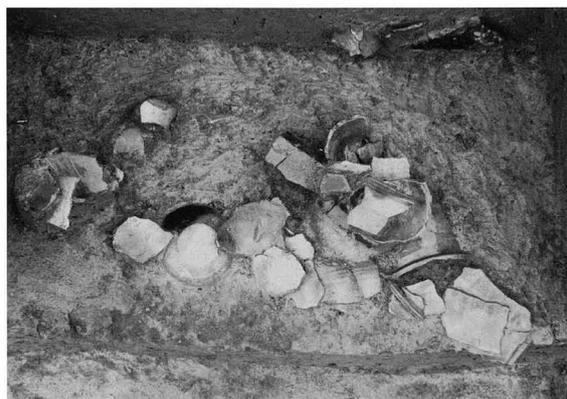
住居埋土断面 (NE→)



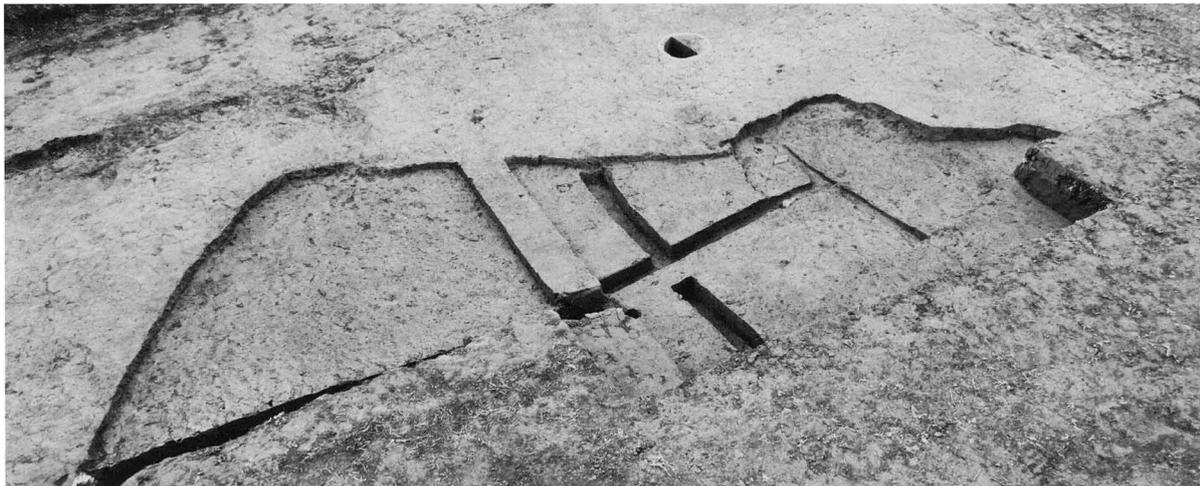
トレンチ完掘状況 (NE→)



遺物出土状況 (NE→)



遺物出土状況 (NE→)



4号住居跡検出状況 (SE→)



検出状況 (S→)



埋土断面N-Sベルト (NW→)



埋土断面W-Eベルト (SW→)



5号住居跡検出状況平面 (N→)



埋土断面E-Wベルト (N→)



1号焼成遺構検出状況 (NW→)



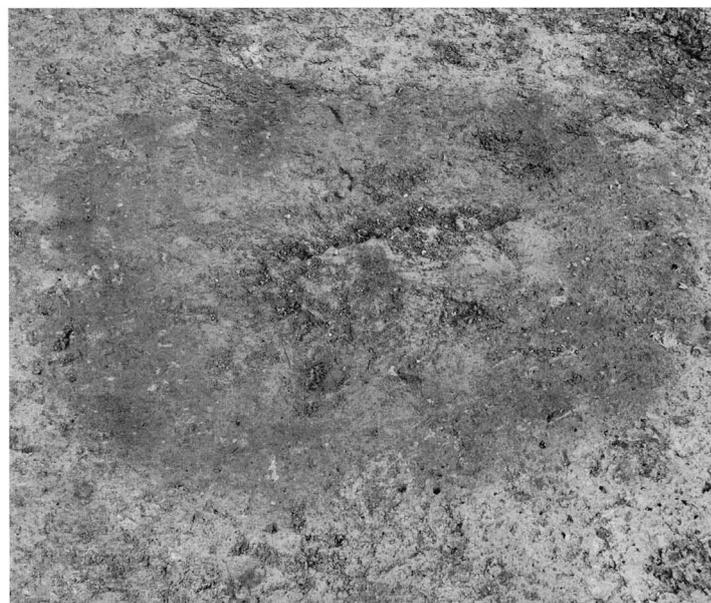
1号焼成遺構完掘状況 (NW→)



1号焼成遺構埋土断面NW-SEベルト (SW→)



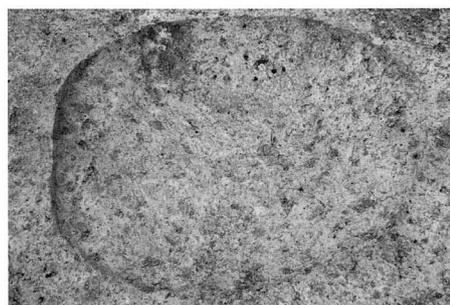
1号焼成遺構埋土断面NE-SWベルト (NW→)



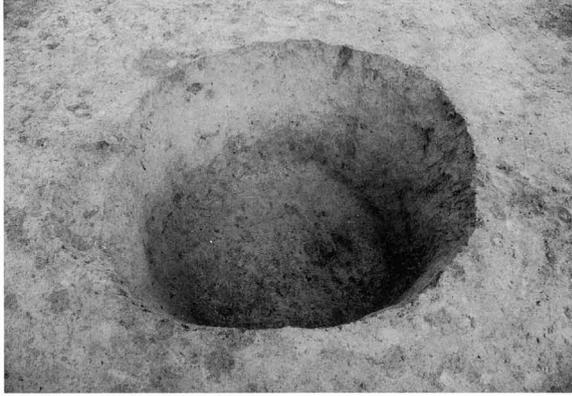
1号焼土検出状況 (S→)



1号焼土断面 (S→)



1号焼土平面 (S→)



1号土坑平面 (W→)



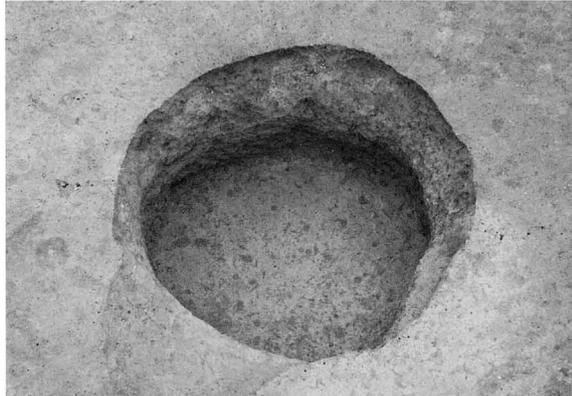
1号土坑断面 (W→)



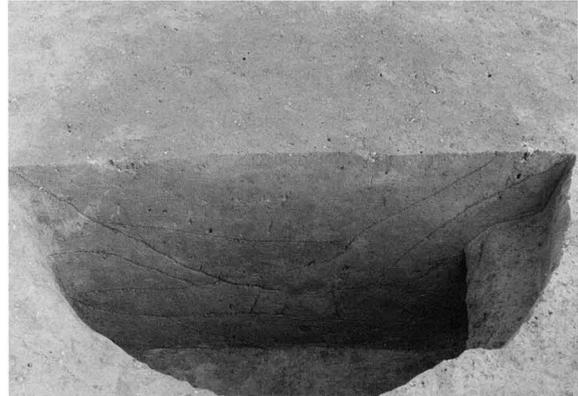
2号土坑平面 (N→)



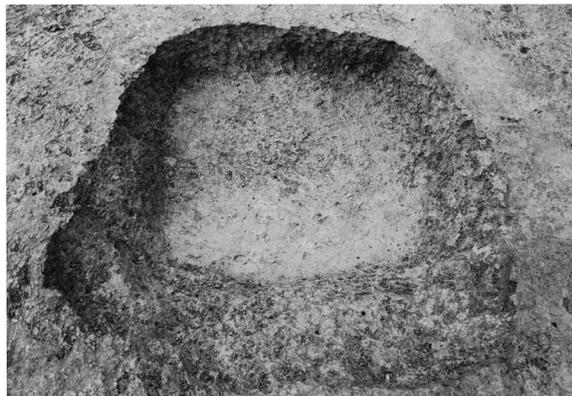
2号土坑断面 (N→)



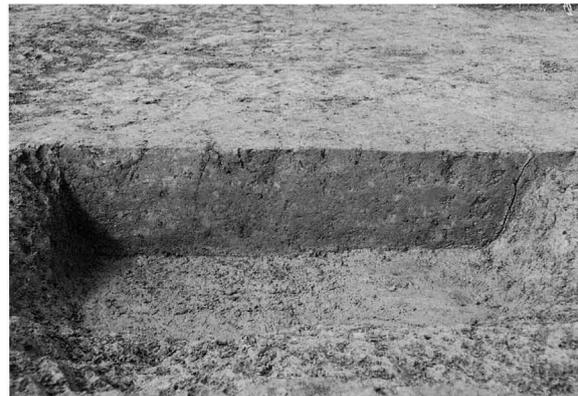
3号土坑平面 (SW→)



3号土坑断面 (SW→)



4号土坑平面 (SW→)



4号土坑断面 (SW→)



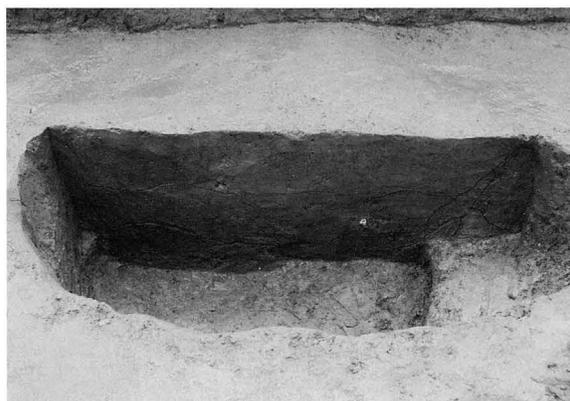
5号土坑平面 (NE→)



5号土坑断面 (NE→)



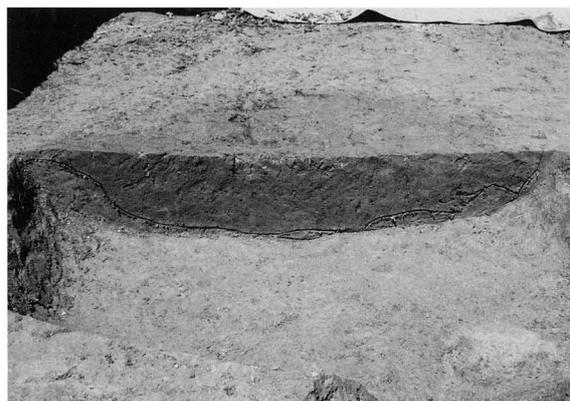
6号土坑平面 (N→)



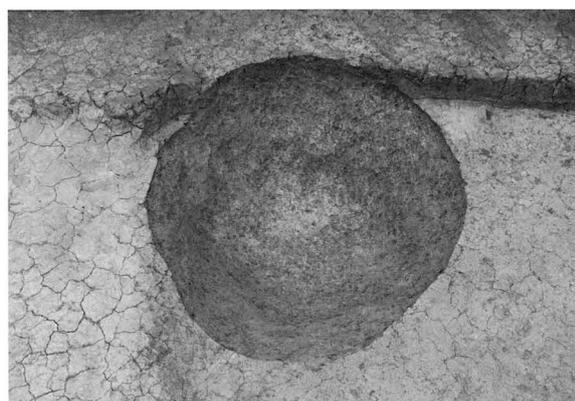
6号土坑断面 (N→)



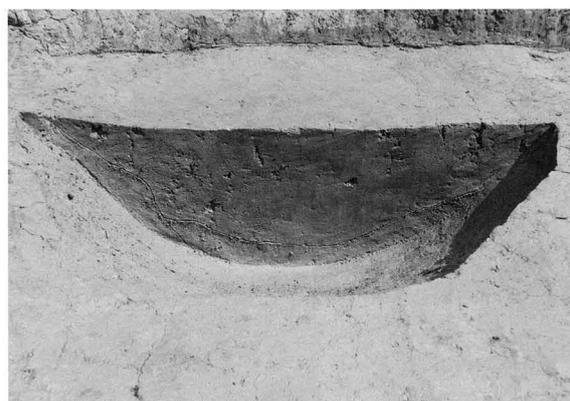
7号土坑平面 (SE→)



7号土坑断面 (SE→)



8号土坑平面 (S→)



8号土坑断面 (S→)



9号土坑平面 (S E →)



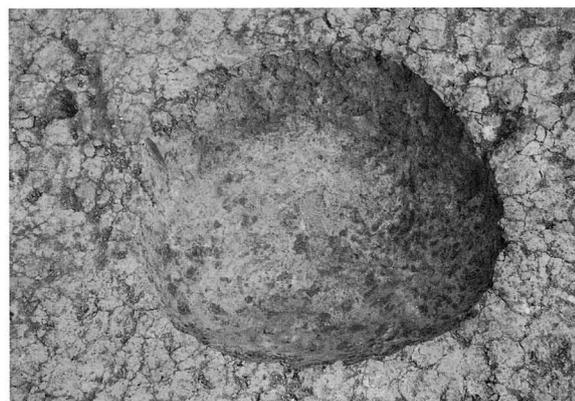
9号土坑断面 (S E →)



10号土坑平面 (S E →)



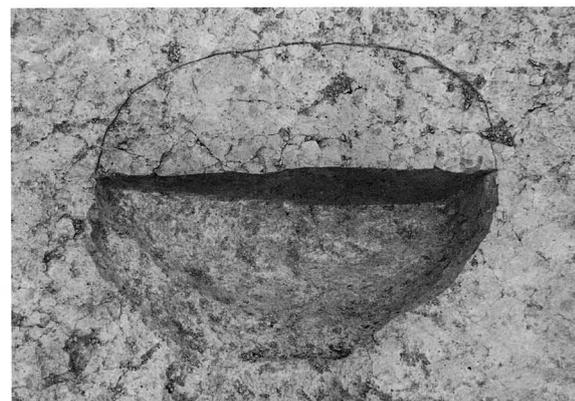
10号土坑断面 (S E →)



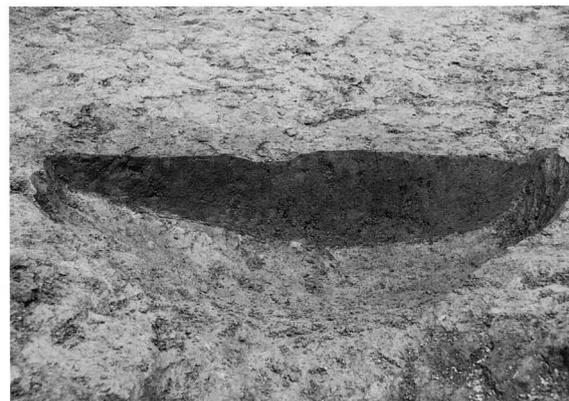
11号土坑平面 (S W →)



11号土坑断面 (S W →)



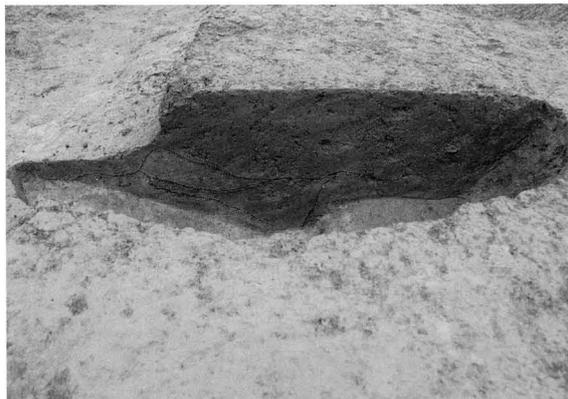
12号土坑検出段階平面 (S →)



12号土坑断面 (S →)



13号土坑平面 (SW→)



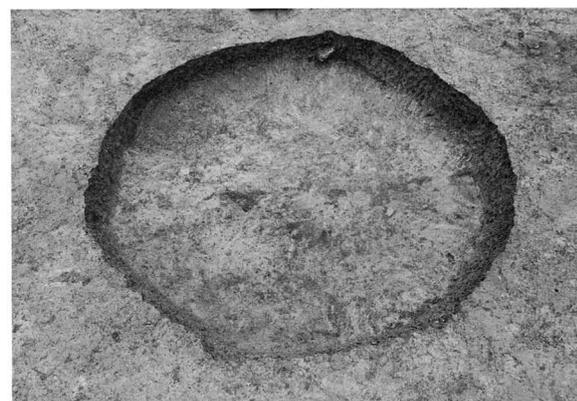
13号土坑断面 (SW→)



14号土坑平面 (S→)



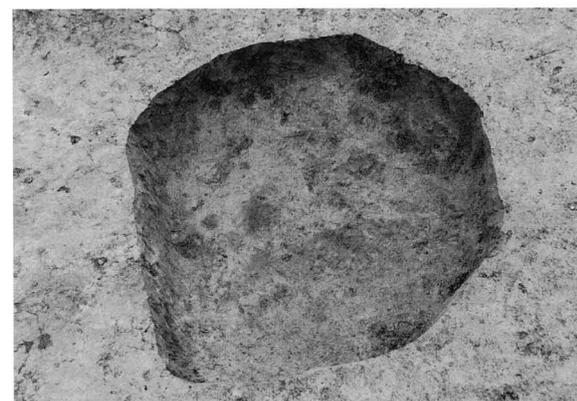
14号土坑断面 (S→)



15号土坑平面 (SW→)



15号土坑断面 (SW→)



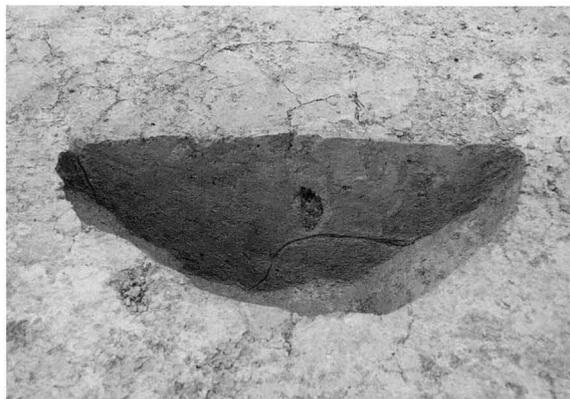
16号土坑平面 (SW→)



16号土坑断面 (SW→)



17号土坑平面 (NW→)



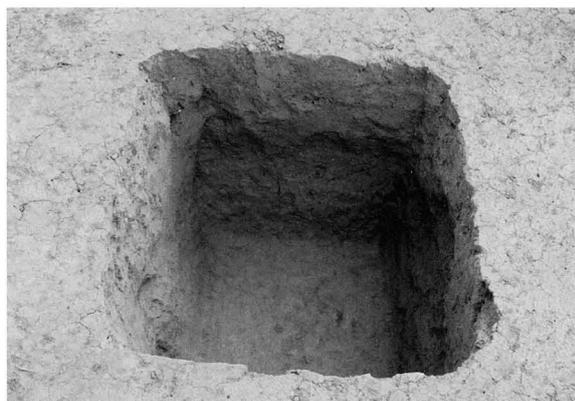
17号土坑断面 (NW→)



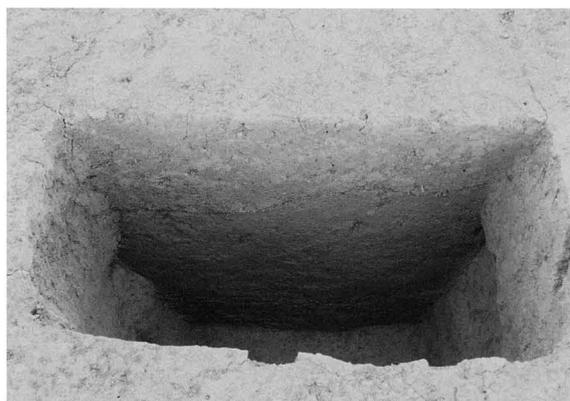
18号土坑平面 (NE→)



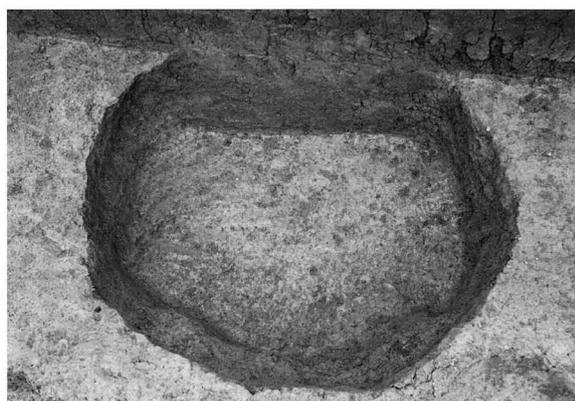
18号土坑断面 (NE→)



19号土坑平面 (NE→)



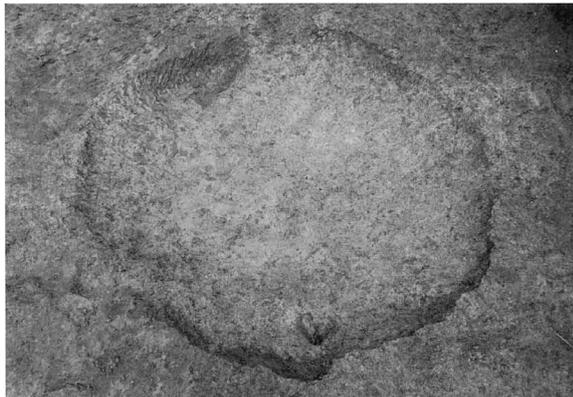
19号土坑断面 (NW→)



20号土坑平面 (S→)



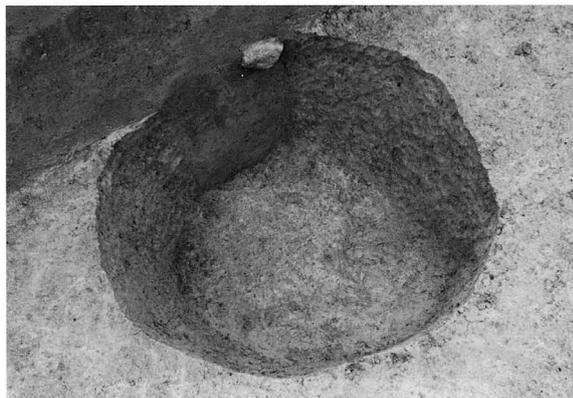
20号土坑断面 (S→)



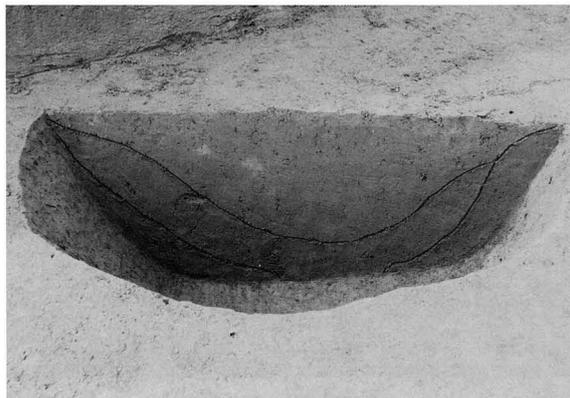
21 号土坑平面 (E→)



21 号土坑断面 (W→)



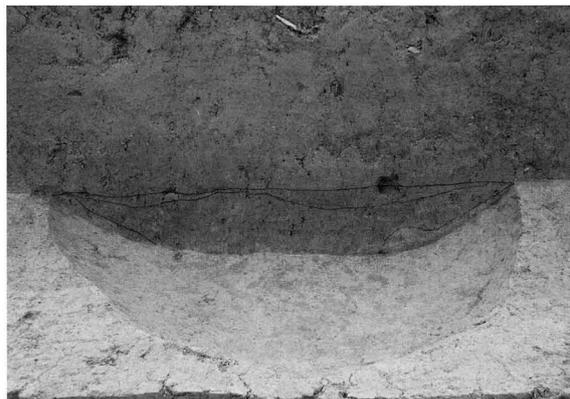
22 号土坑平面 (NE→)



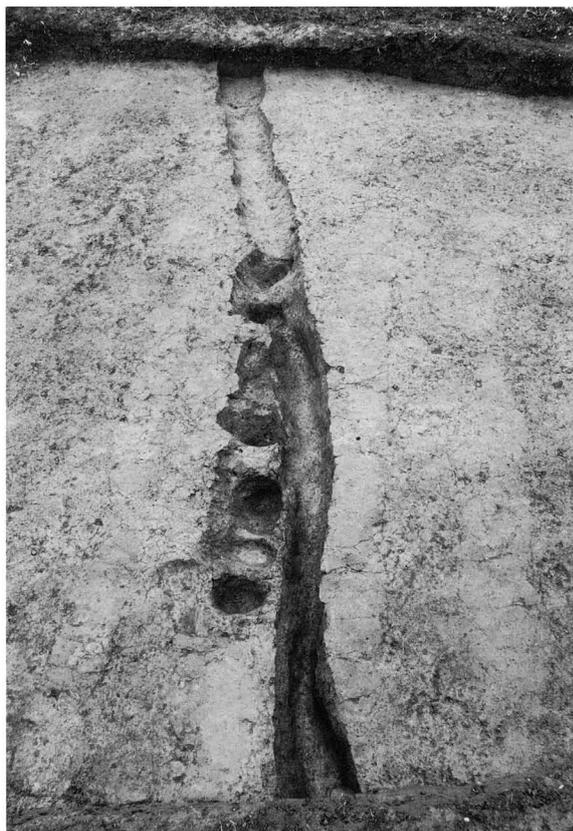
22 号土坑断面 (NE→)



23 号土坑平面 (N→)



23 号土坑断面 (N→)



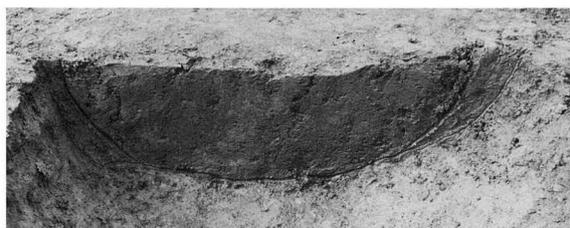
1号溝平面 (S→)



2号溝平面 (S→)



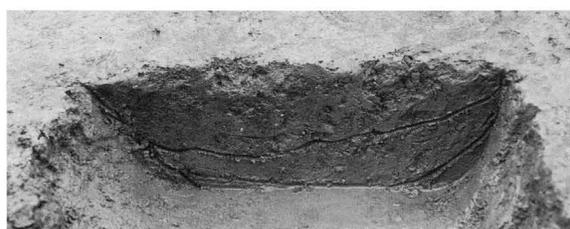
3号溝平面 (S→)



1号溝断面 (S→)



2号溝断面 (N→)



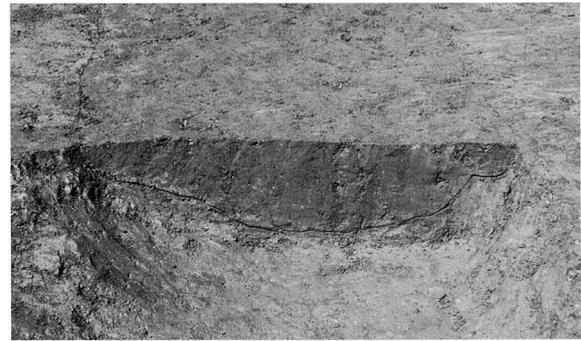
3号溝断面 (S→)



4号溝平面 (SW→)



4号溝北側断面 (S→)



4号溝南側断面 (SW→)



5号溝平面 (E→)



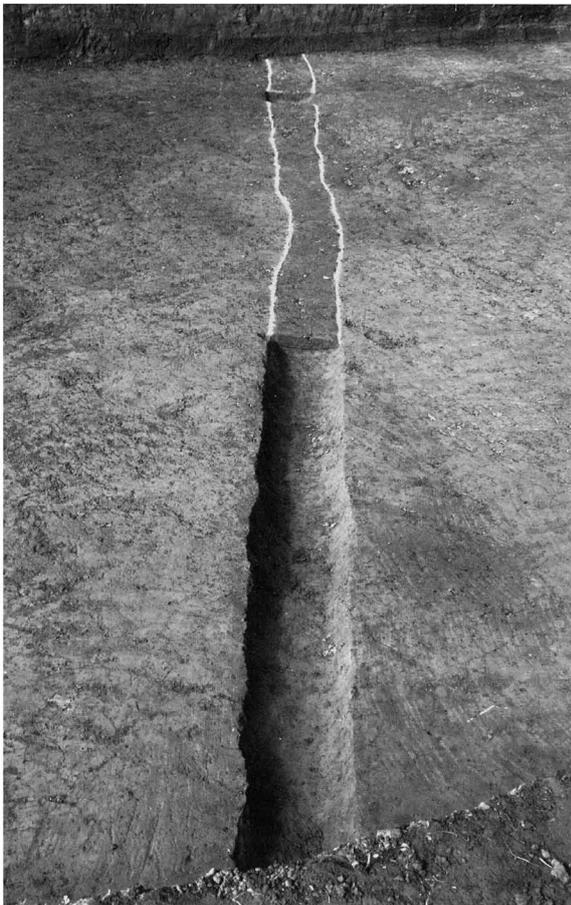
5号溝西側断面 (W→)



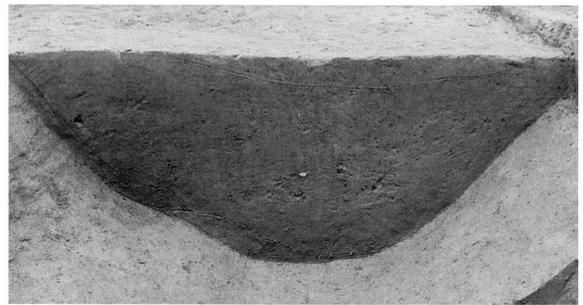
5号溝東側断面 (W→)



6号溝平面 (S→)



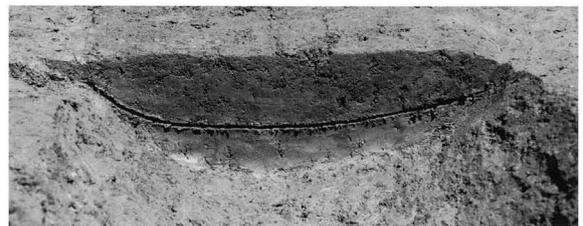
7号溝平面 (S W→)



6号溝断面 (S→)



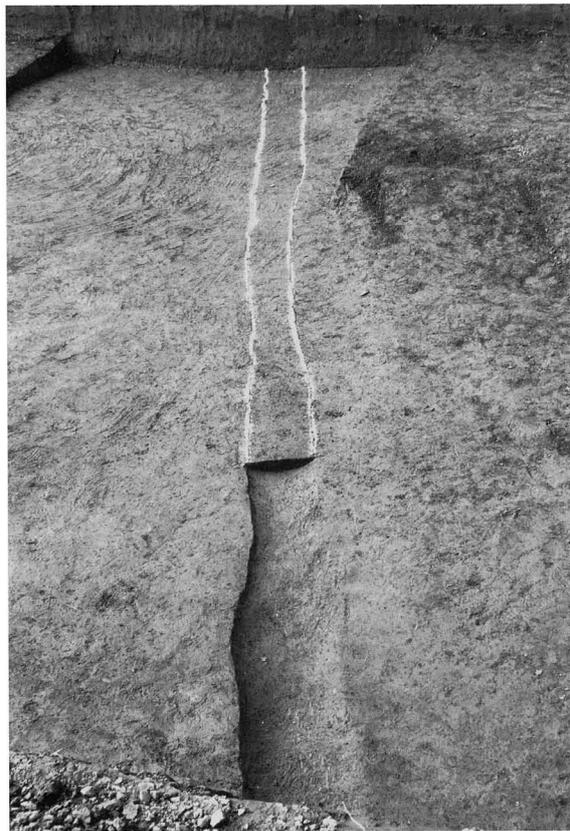
7号溝北側断面 (S W→)



7号溝南側断面 (S W→)



8号溝平面 (SE →)



9号溝平面 (S →)



8号溝北側断面 (SE →)



13号溝平面 (S →)



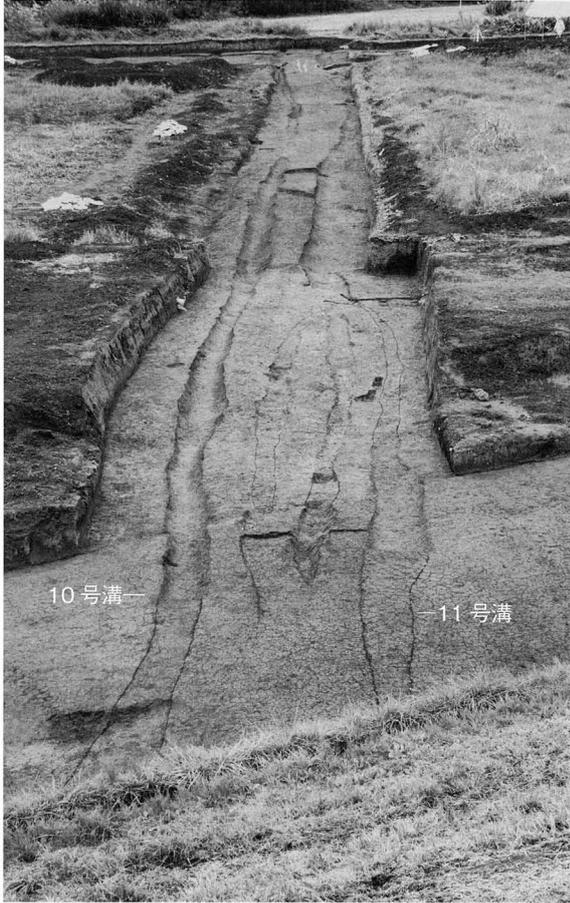
8号溝南側断面 (SE →)



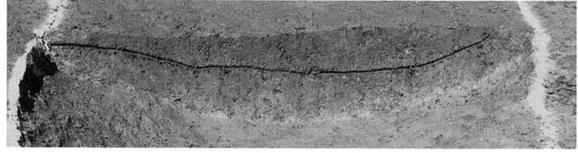
9号溝断面 (S →)



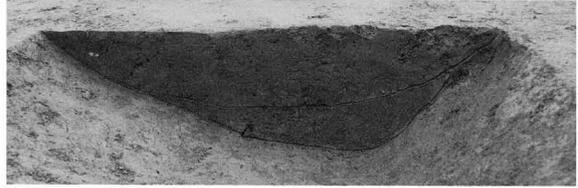
13号溝断面 (S →)



10・11号溝平面 (NE→)



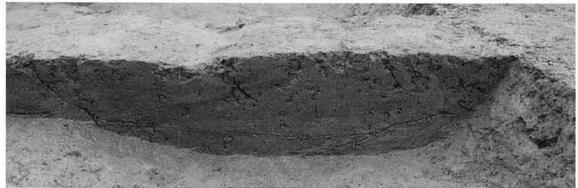
10号溝北側断面 (SW→)



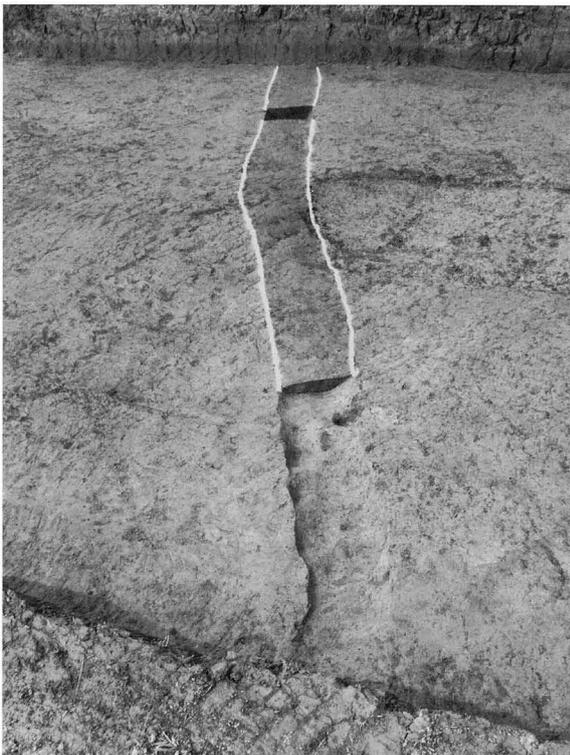
10号溝南側断面 (SW→)



11号溝北側断面 (SW→)



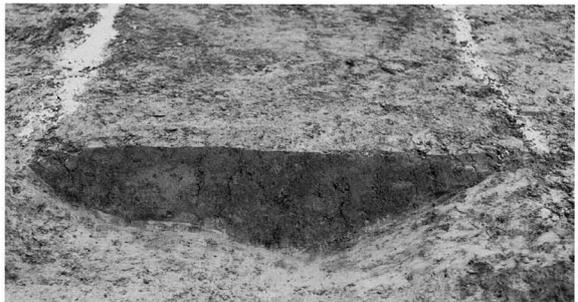
11号溝南側断面 (SW→)



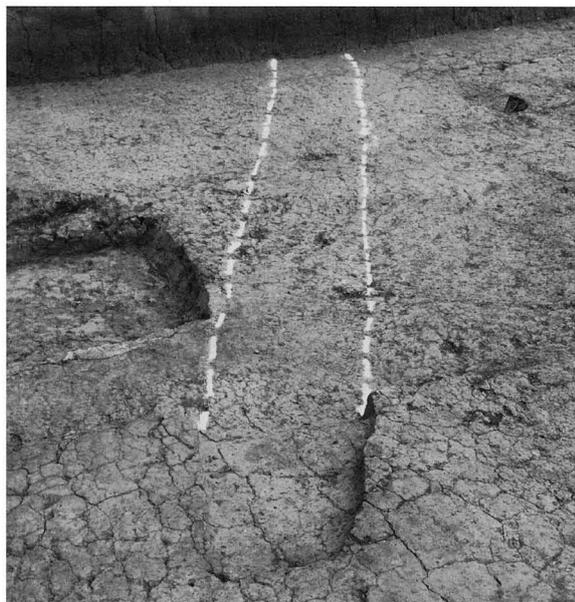
12号溝平面 (SE→)



12号溝北側断面 (SE→)



12号溝南側断面 (SE→)



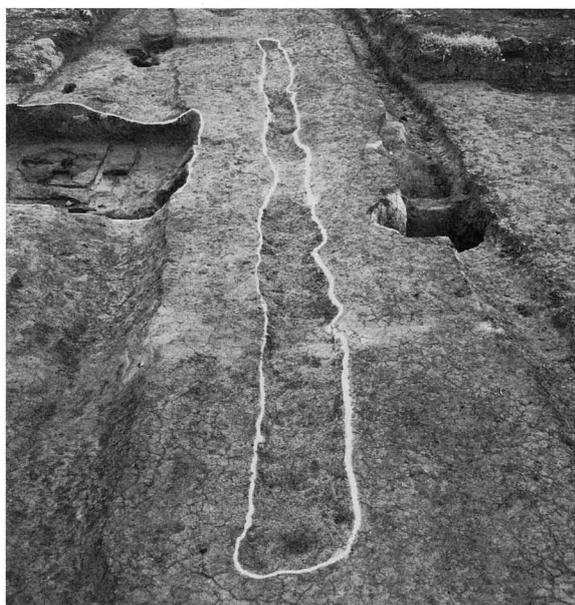
14号溝平面 (S W→)



14号溝北壁断面 (S W→)



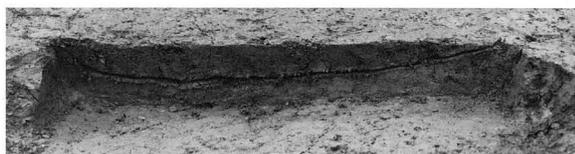
14号溝南側断面 (S W→)



15号溝平面 (S W→)



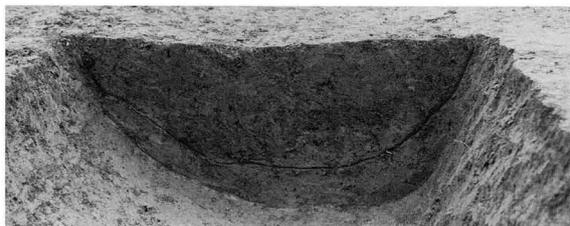
15号溝北側断面 (S W→)



15号溝南側断面 (S W→)



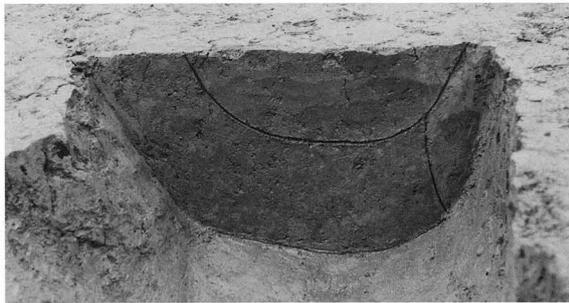
16号溝平面 (N→)



16号溝断面 (S→)



17号溝平面 (NW→)



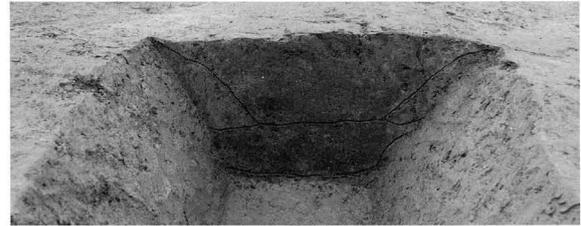
17号溝東側断面 (NW→)



17号溝西側断面 (NW→)



18号溝 確認調査区平面 (SE→)



18号溝 確認調査区断面 (SE→)



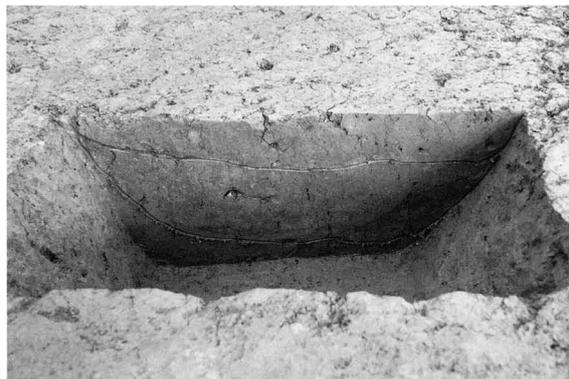
18号溝平面 (SE→)



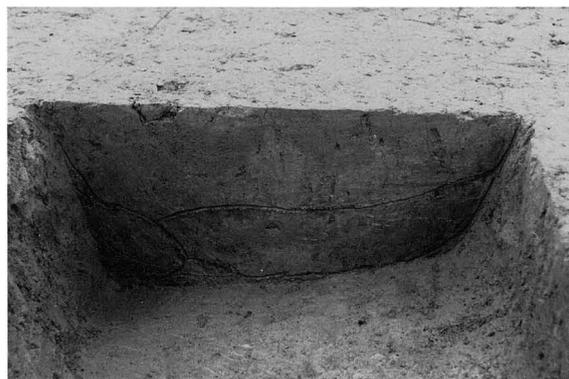
18号溝断面 (SE→)



20号溝平面 (SW→)



20号溝北側断面 (SW→)



20号溝南側断面 (SW→)



21号溝平面 (SE→)



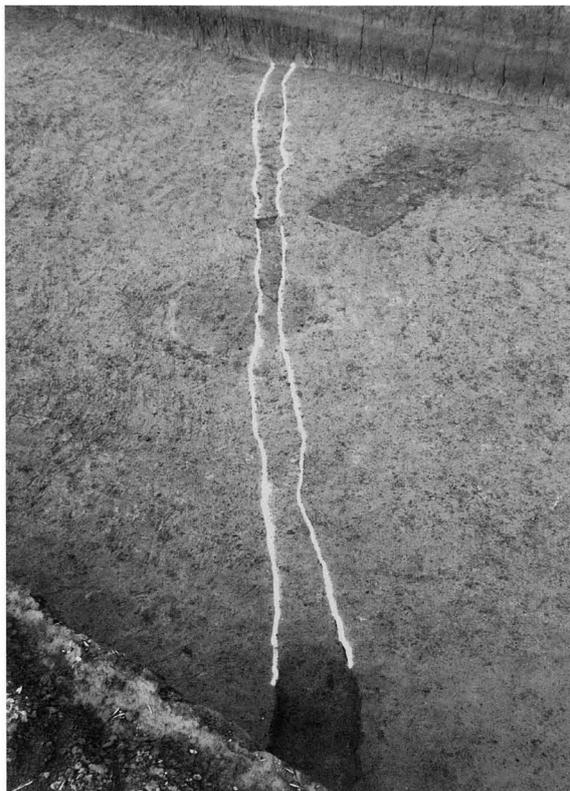
21号溝北側断面 (SE→)



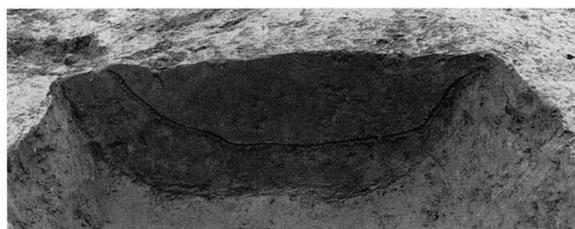
21号溝南側断面 (SE→)



19号溝平面 (SW→)



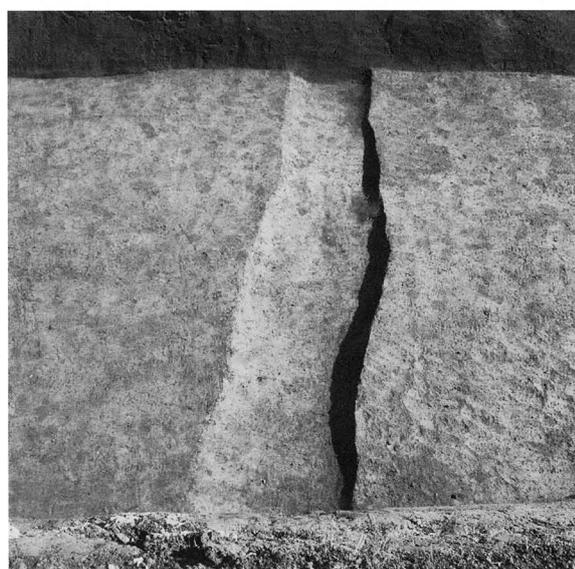
23号溝平面 (S→)



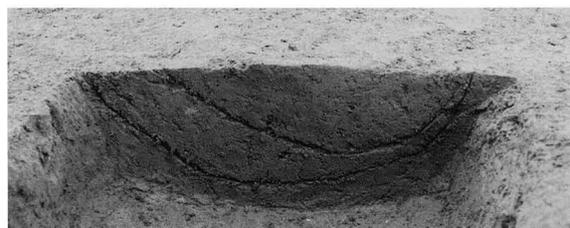
19号溝断面 (SW→)



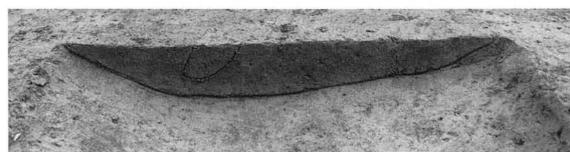
23号溝北壁断面 (S→)



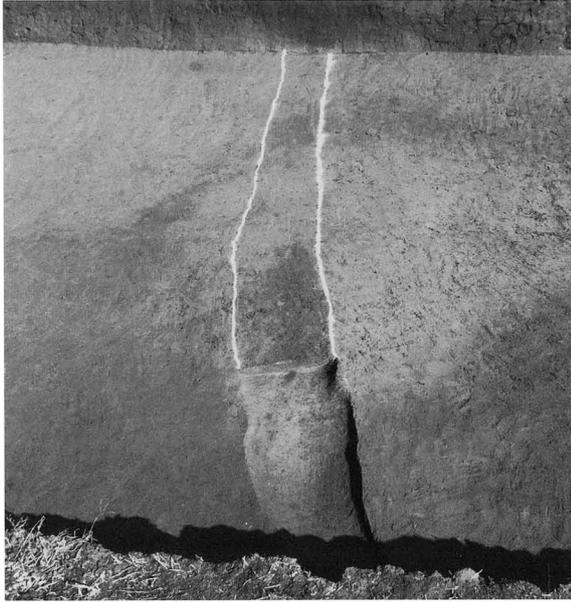
22号溝平面 (SW→)



23号溝南側断面 (S→)



22号溝断面 (SW→)



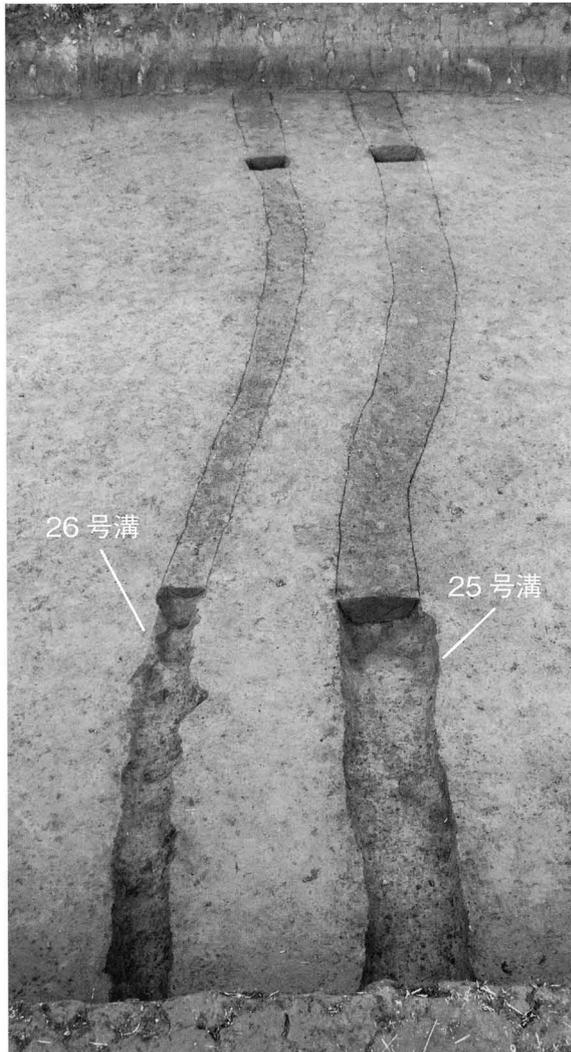
24号溝平面 (SW→)



24号溝北側断面 (SW→)



24号溝南側断面 (SW→)



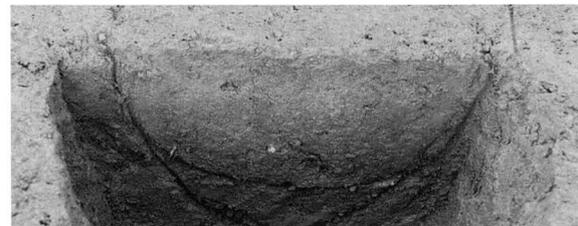
25・26号溝平面 (SW→)



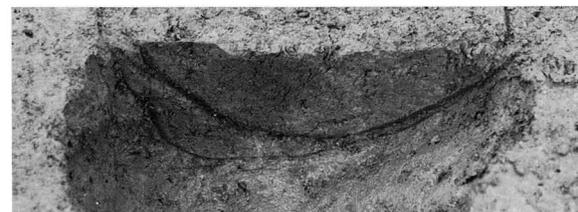
25号溝北側断面 (SW→)



25号溝南側断面 (SW→)



26号溝北側断面 (SW→)



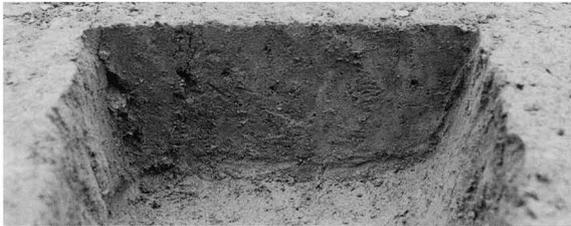
26号溝南側断面 (SW→)



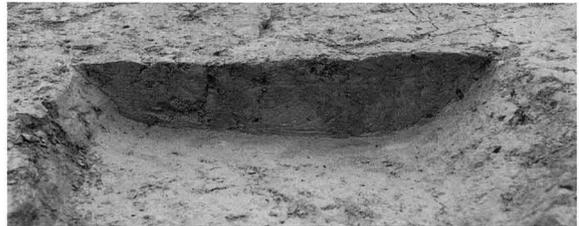
27号溝平面 (SW→)



28号溝平面 (SW→)



27号溝断面 (SW→)



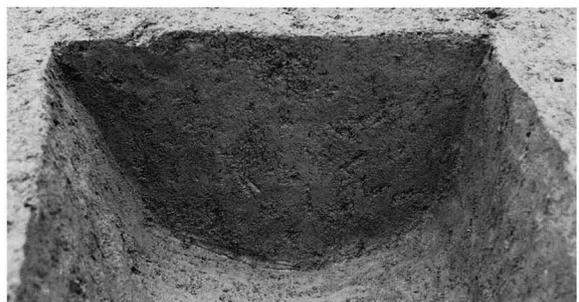
28号溝断面 (SW→)



29号溝平面 (W→)



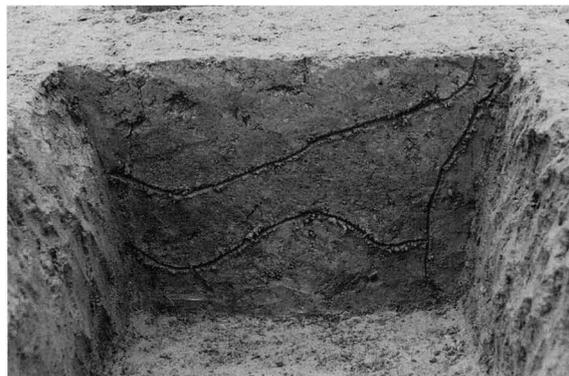
29号溝東側断面 (W→)



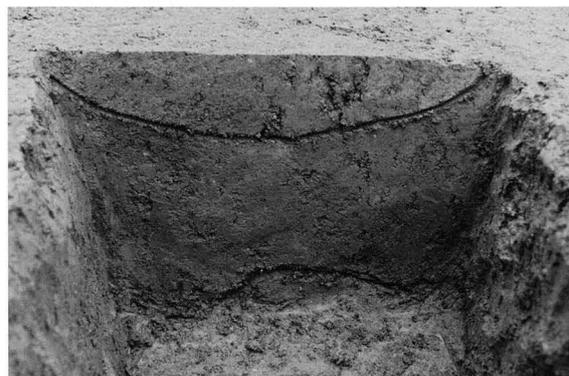
29号溝西側断面 (W→)



30号溝平面 (SE→)



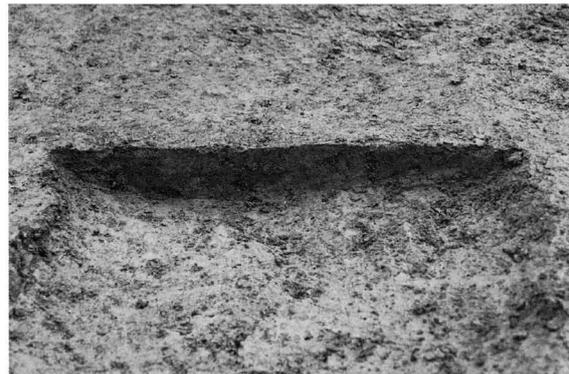
30号溝北側断面 (SE→)



30号溝南側断面 (SE→)



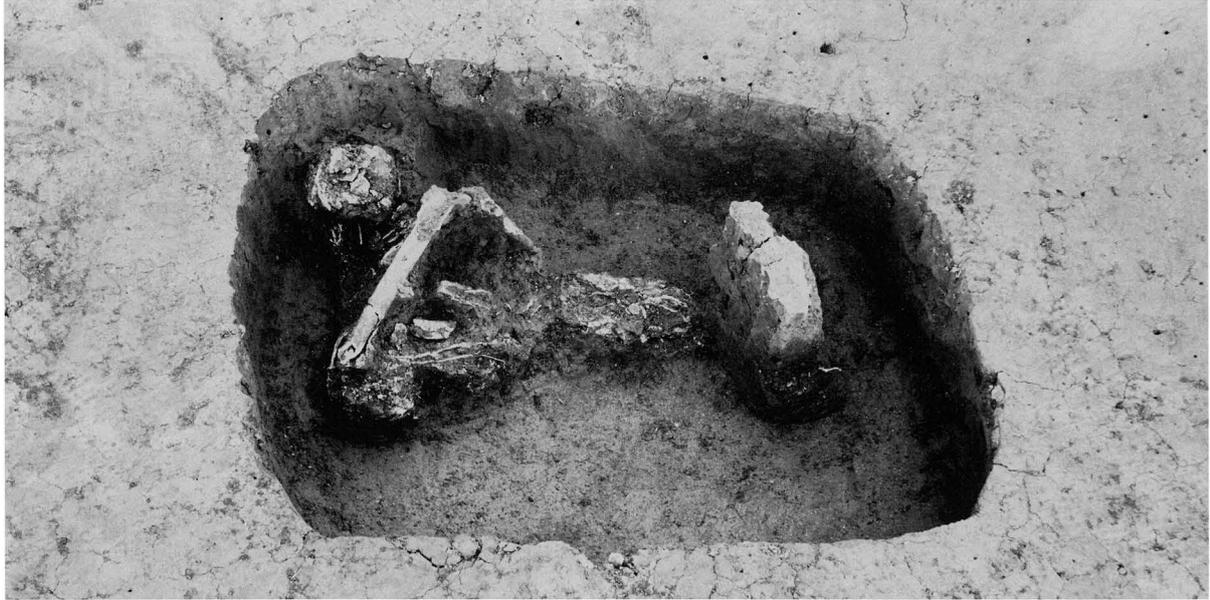
31号溝平面 (SW→)



31号溝東側断面 (SW→)



31号溝西側断面 (SW→)



1号墓墳平面 (SW →)



2号墓墳平面 (SW →)



4号墓墳平面 (NW →)



5号墓墳平面 (SW →)



3号墓墳平面 (SW →)



6号墓墳平面 (NE →)



7号墓墳平面 (SW →)



8号墓墳平面 (S →)



9号墓墳平面 (SE →)



10号墓墳平面 (SW →)



11号墓墳平面 (S →)



12号墓墳平面 (NW →)



13・14号墓墳平面 (S →)



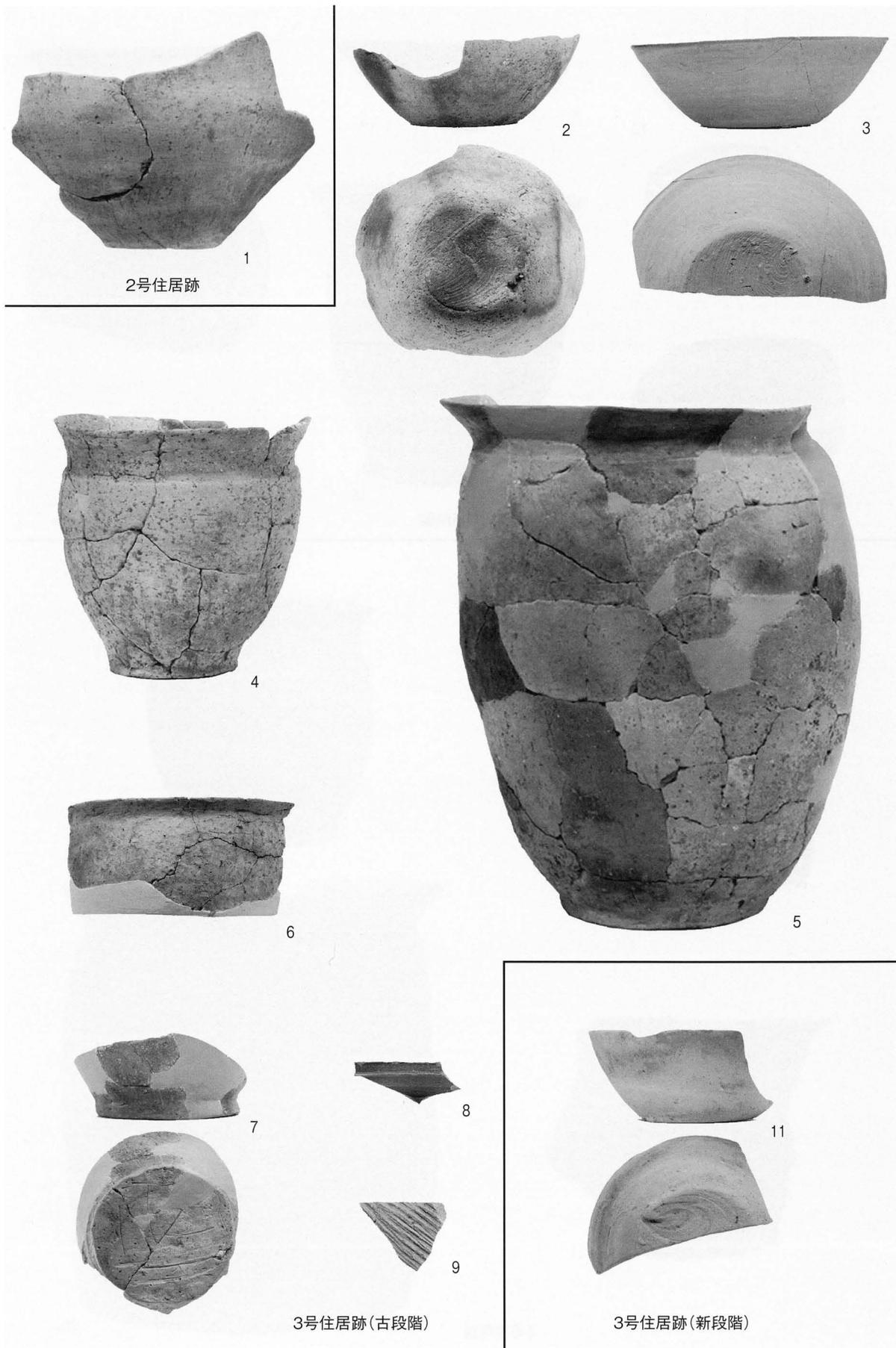
15号墓墳平面 (SW →)



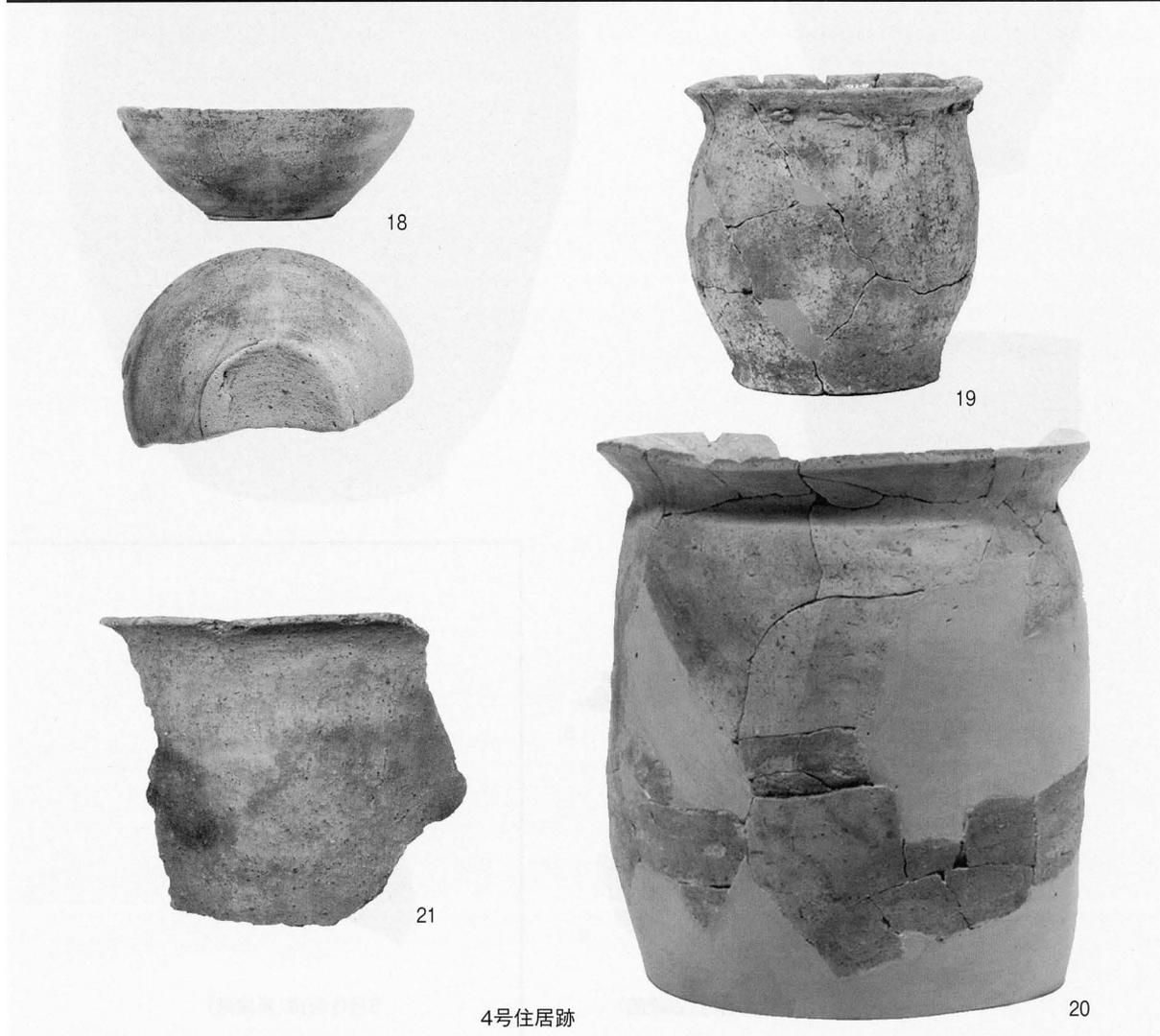
16号墓墳平面 (SW →)



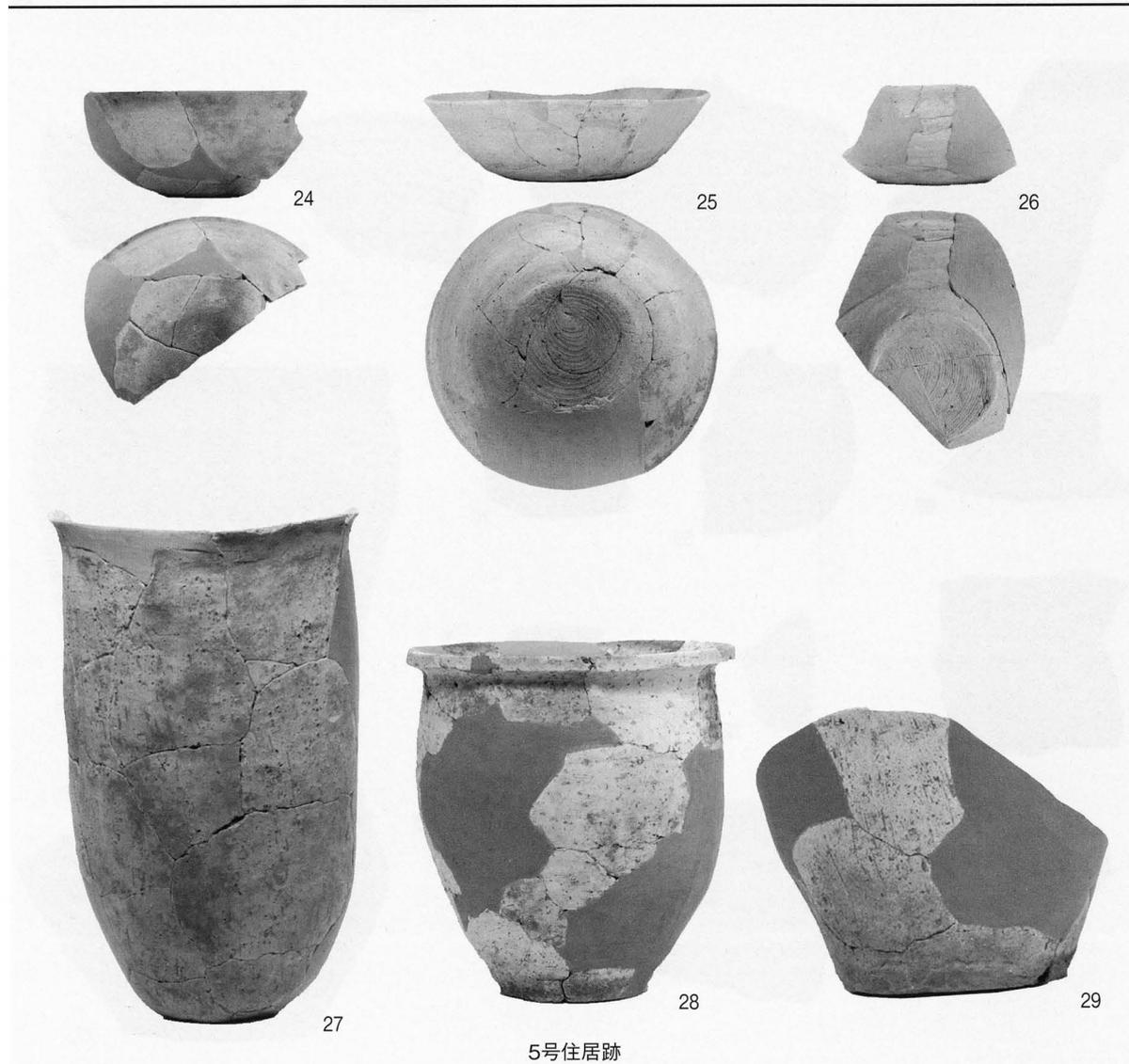
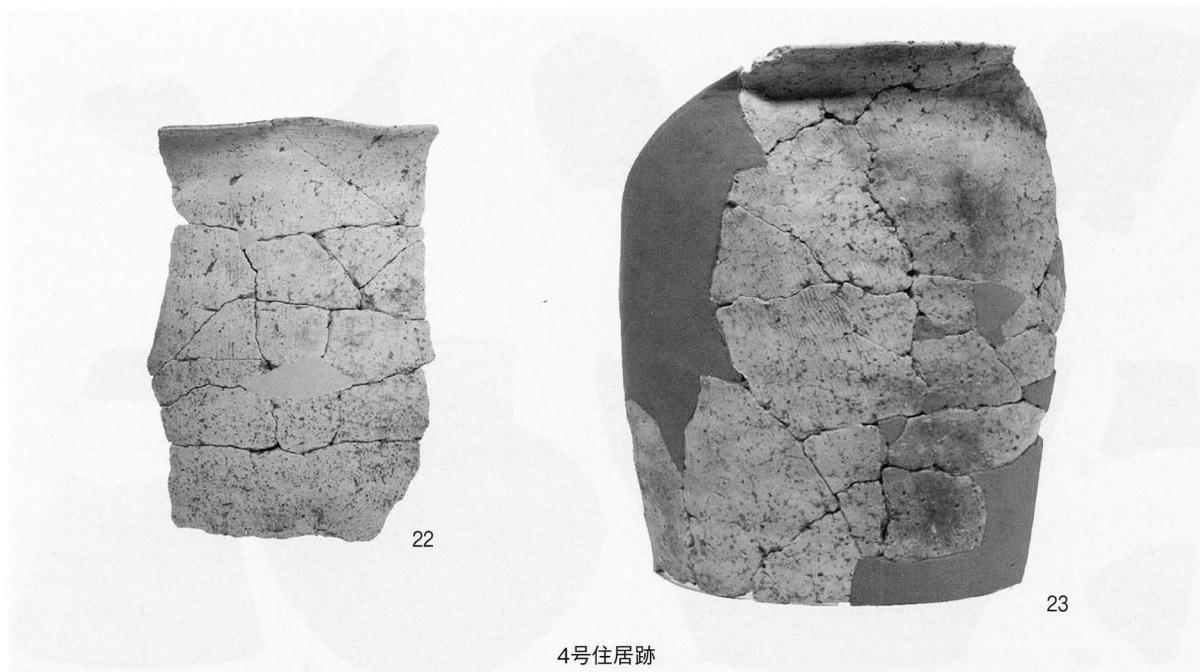
墓域全景平面 (NW →)



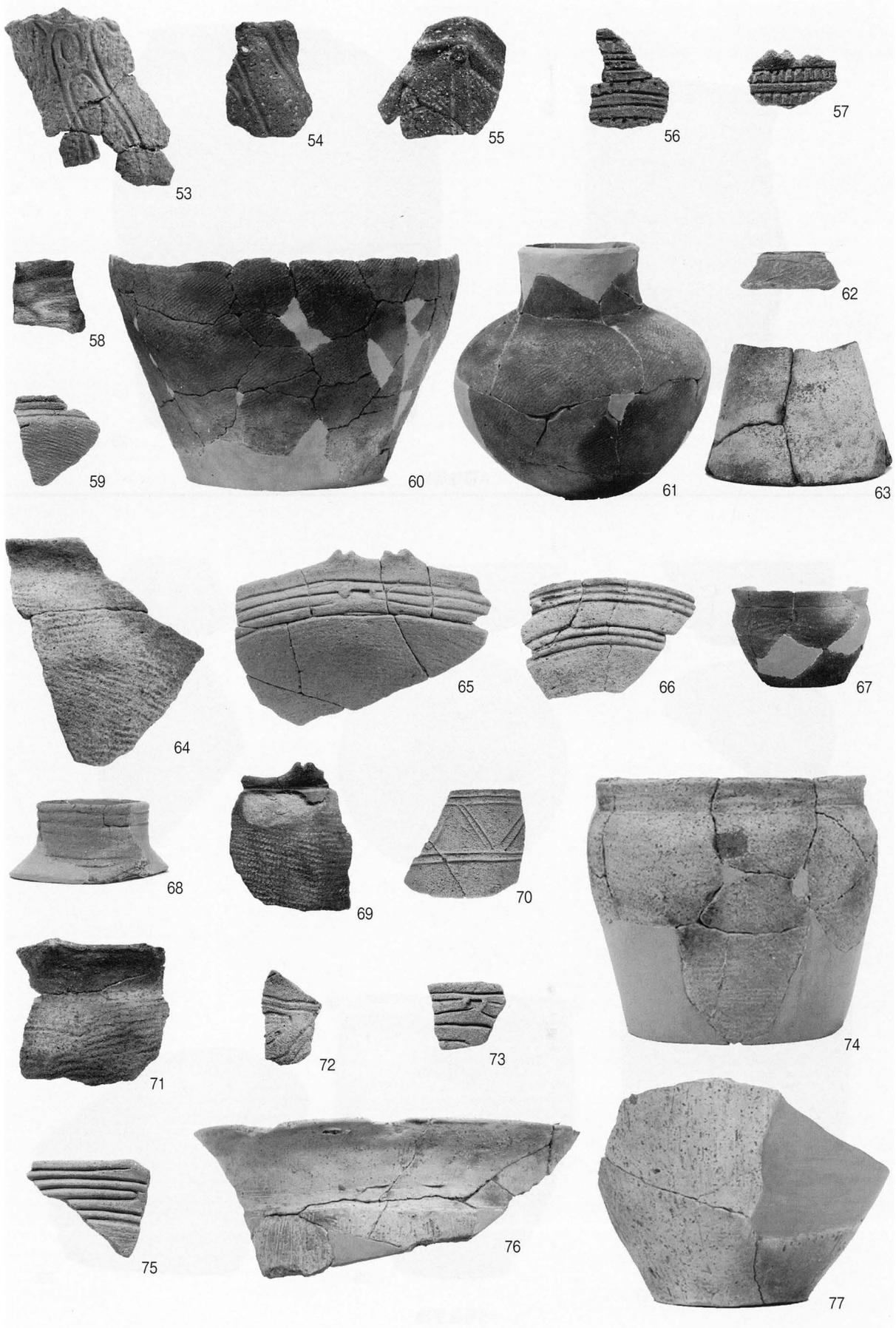
写真図版 51 遺構内出土土器 (1)



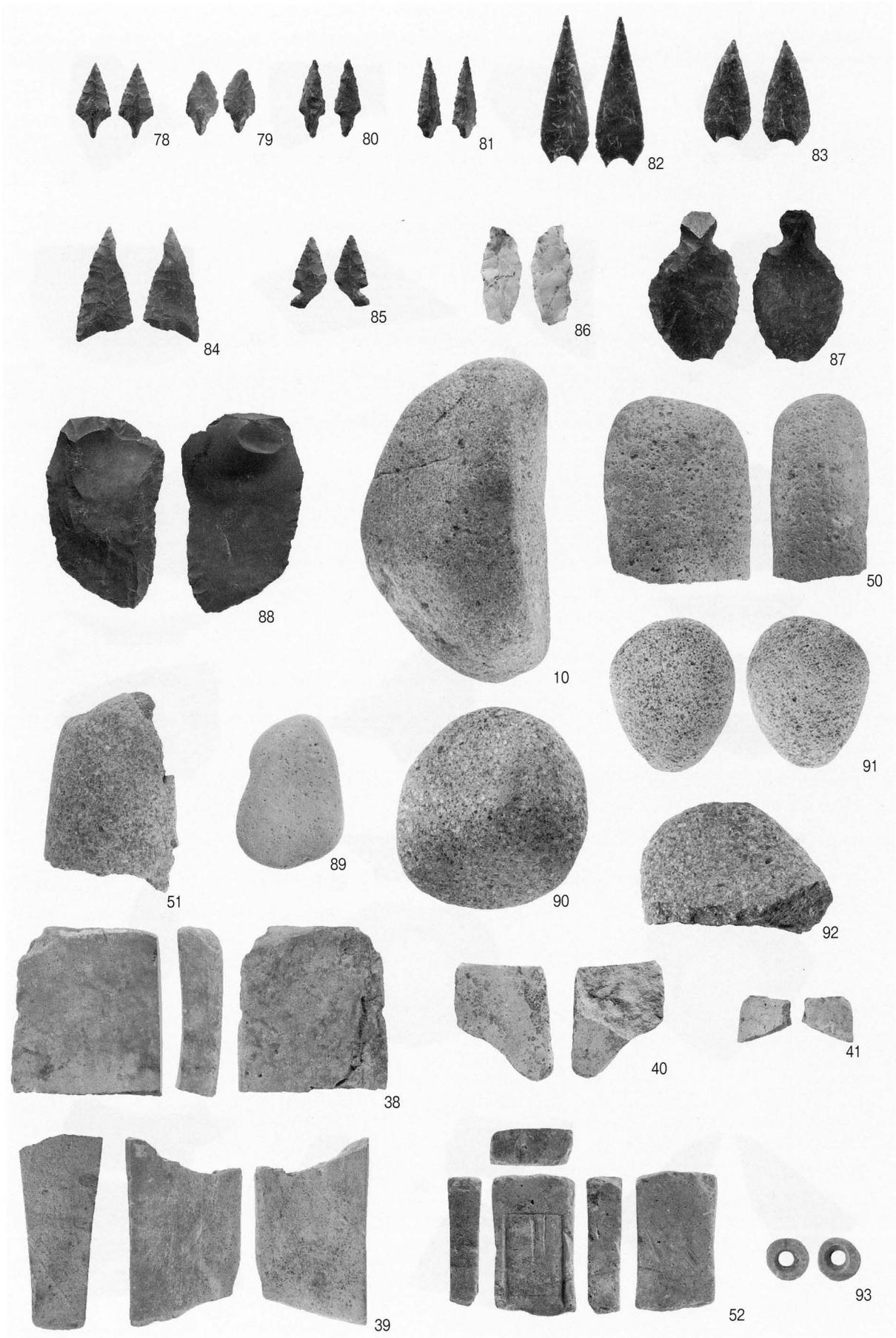
写真図版 52 遺構内出土土器 (2)



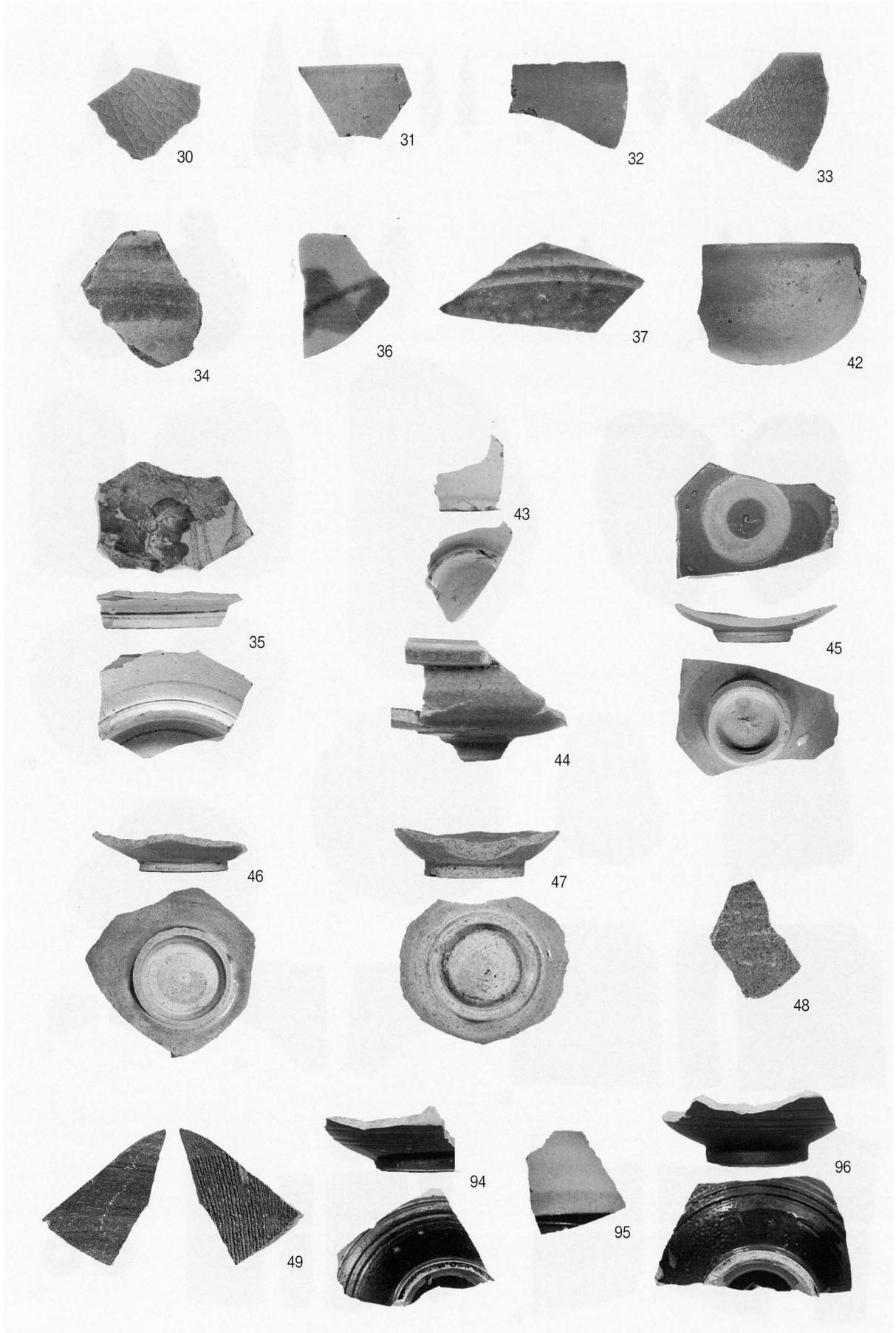
写真図版 53 遺構内出土土器 (3)



写真図版 54 遺構外出土土器



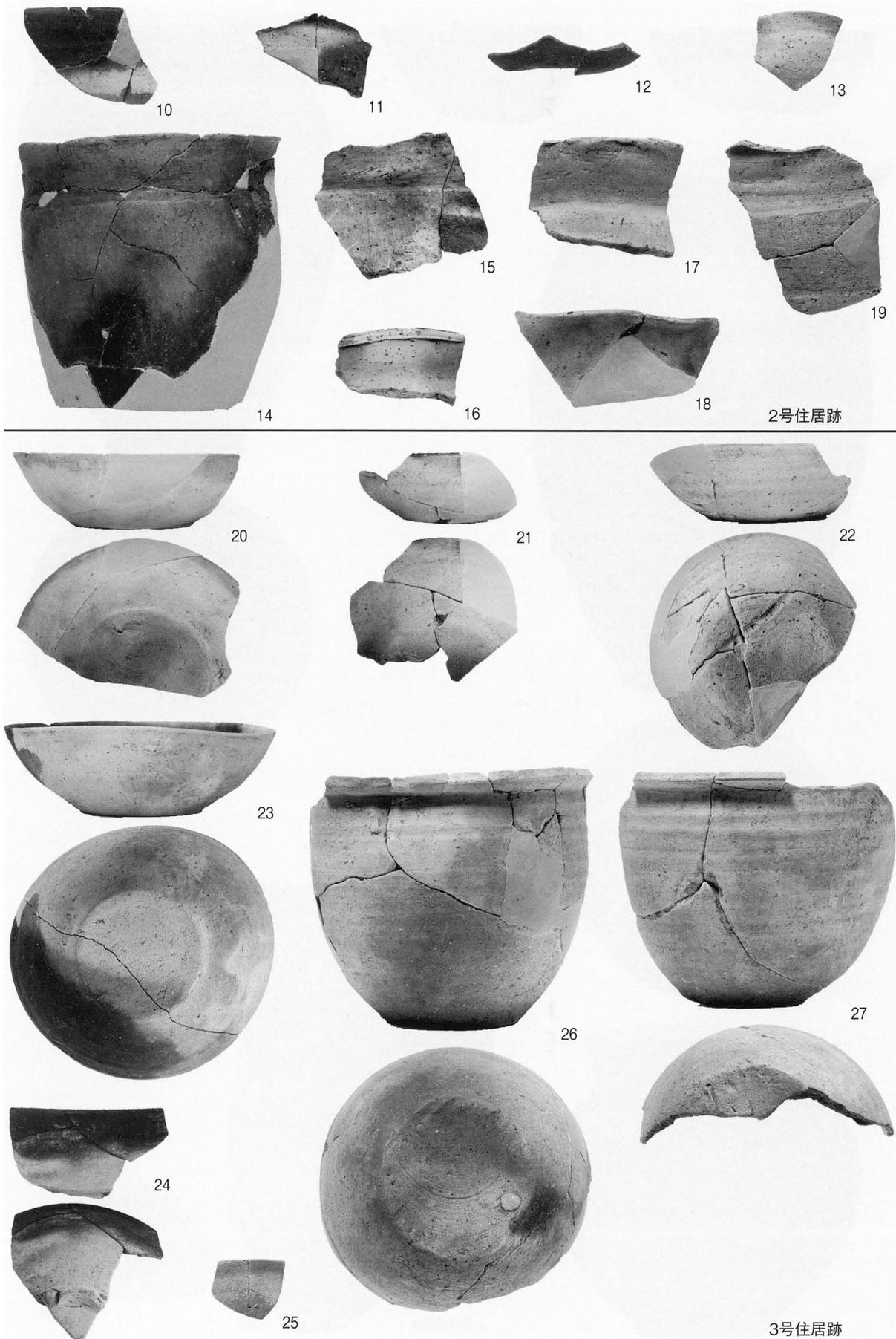
写真図版 55 石器



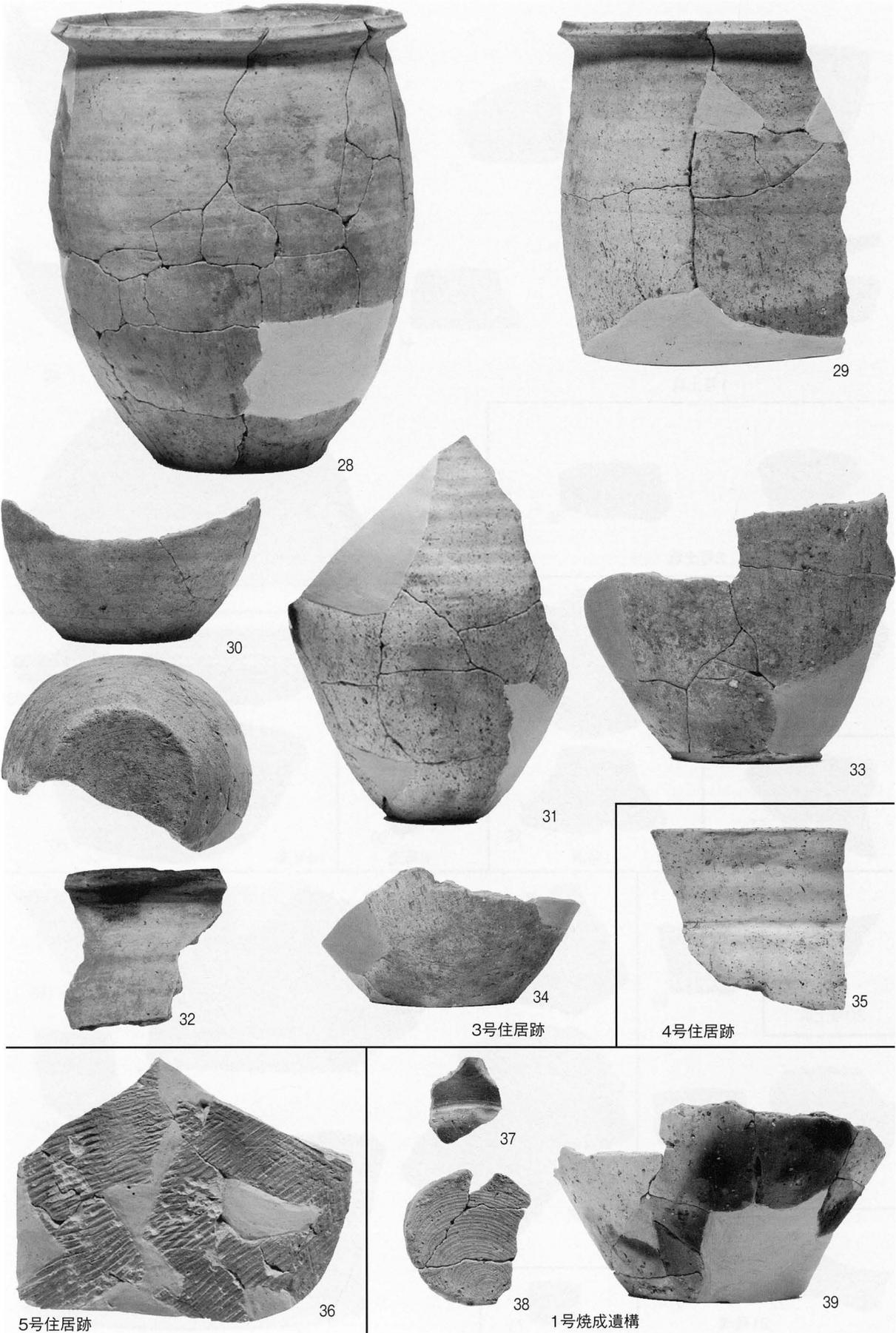
写真図版 56 陶磁器



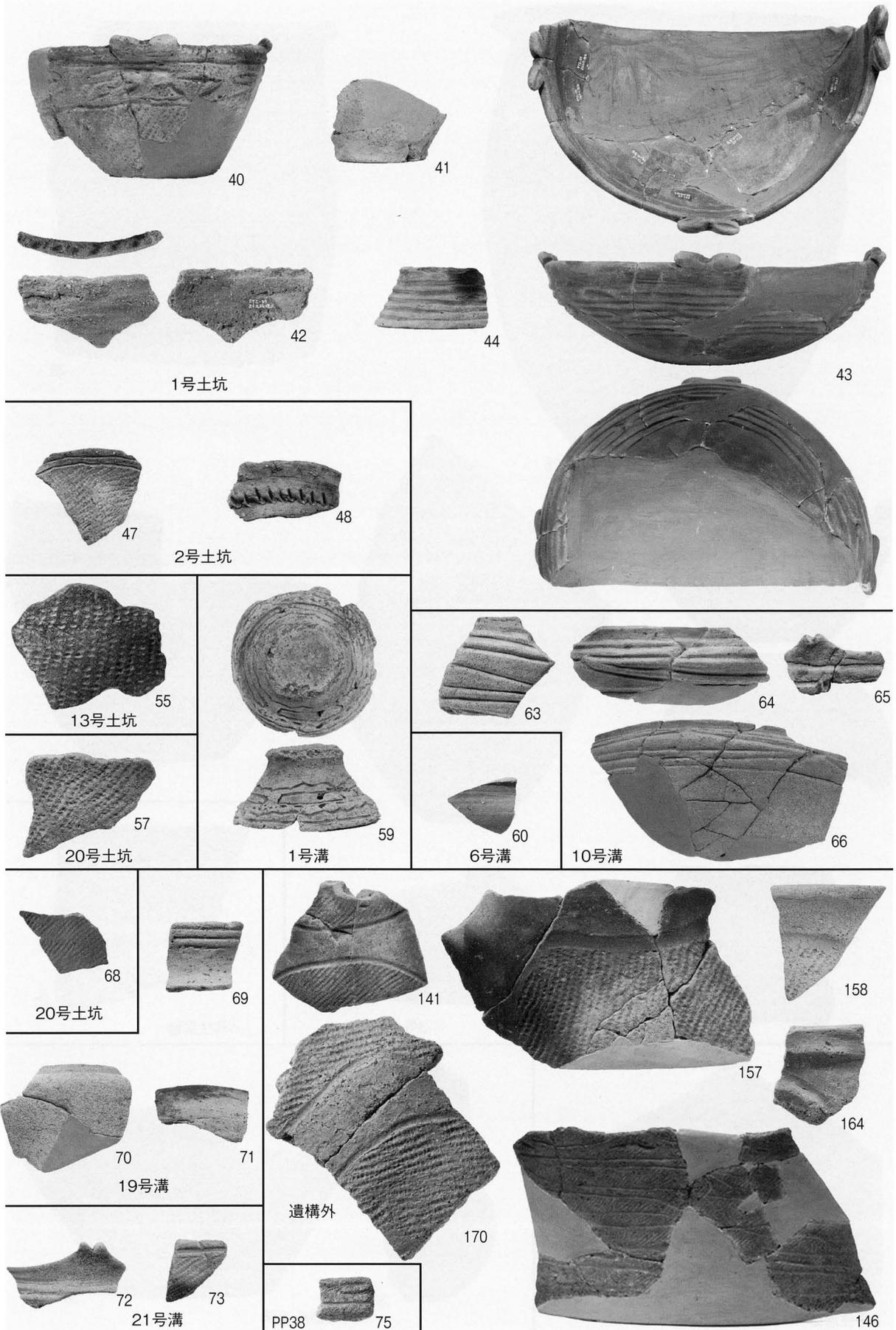
写真図版 57 遺構内出土遺物 (1)



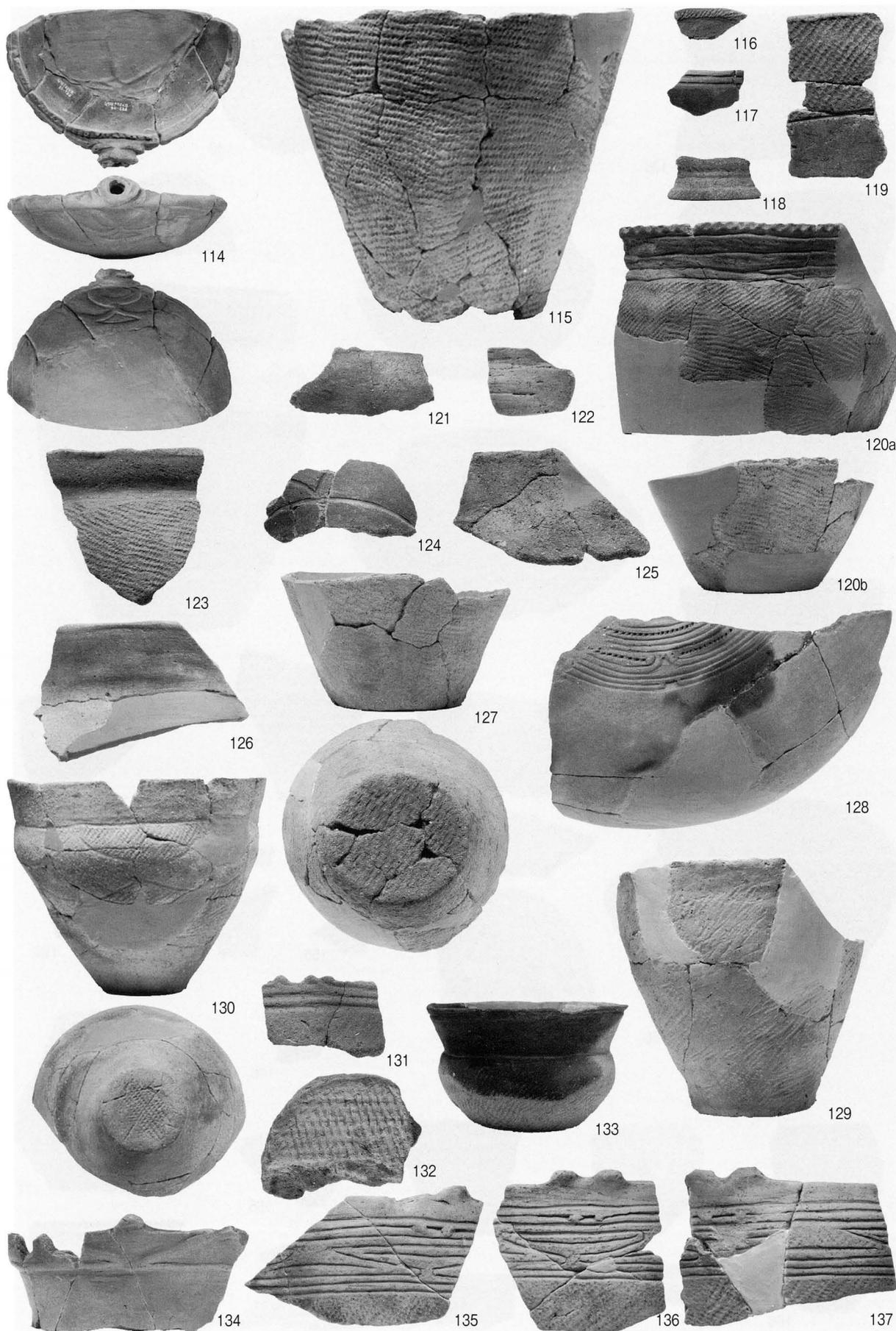
写真図版 58 遺構内出土遺物 (2)



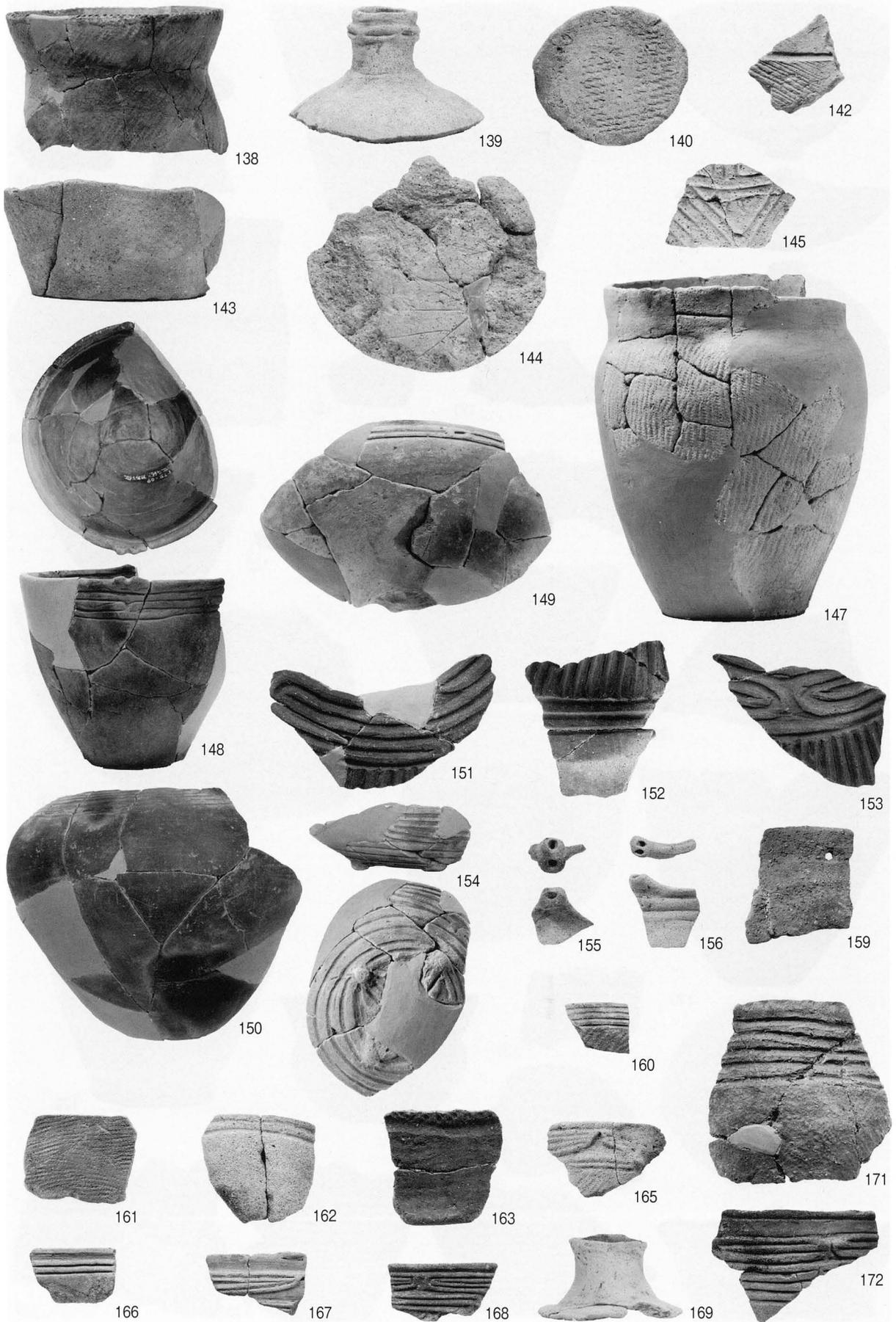
写真図版 59 遺構内出土遺物 (3)



写真図版 60 遺構内出土遺物 (4)、遺構外出土土器 (1)



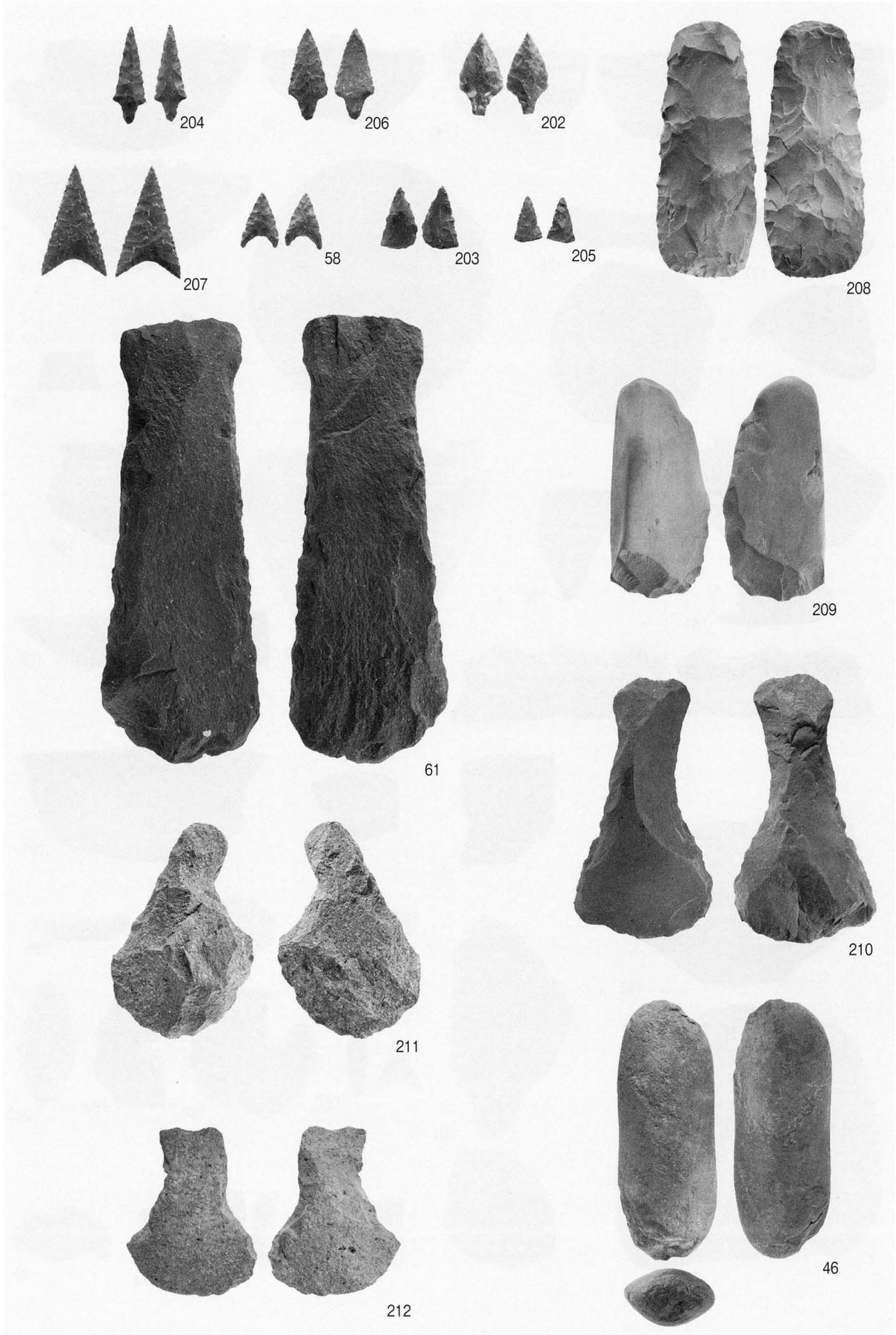
写真図版 61 遺構外出土器 (2)



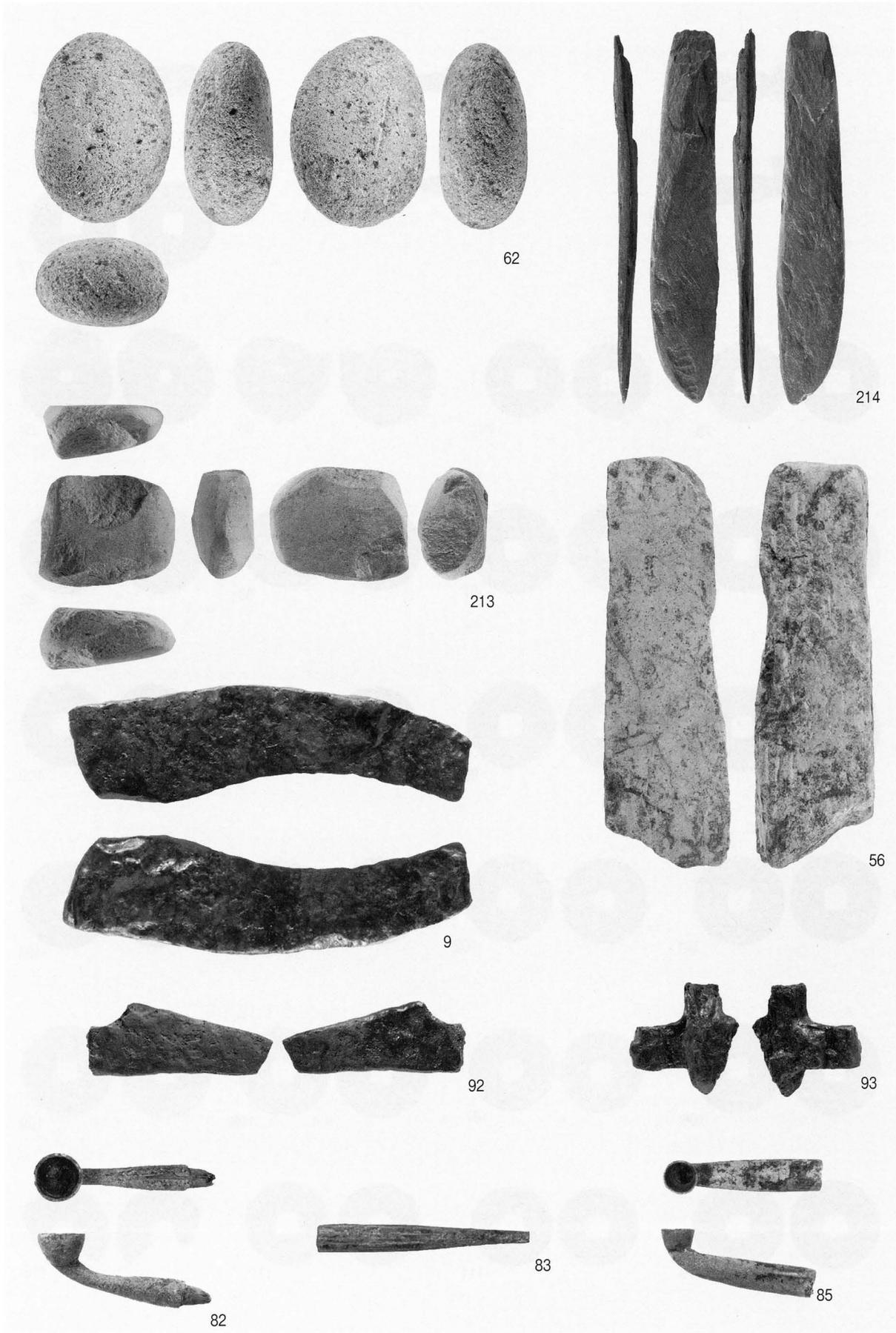
写真図版 62 遺構外出土土器 (3)



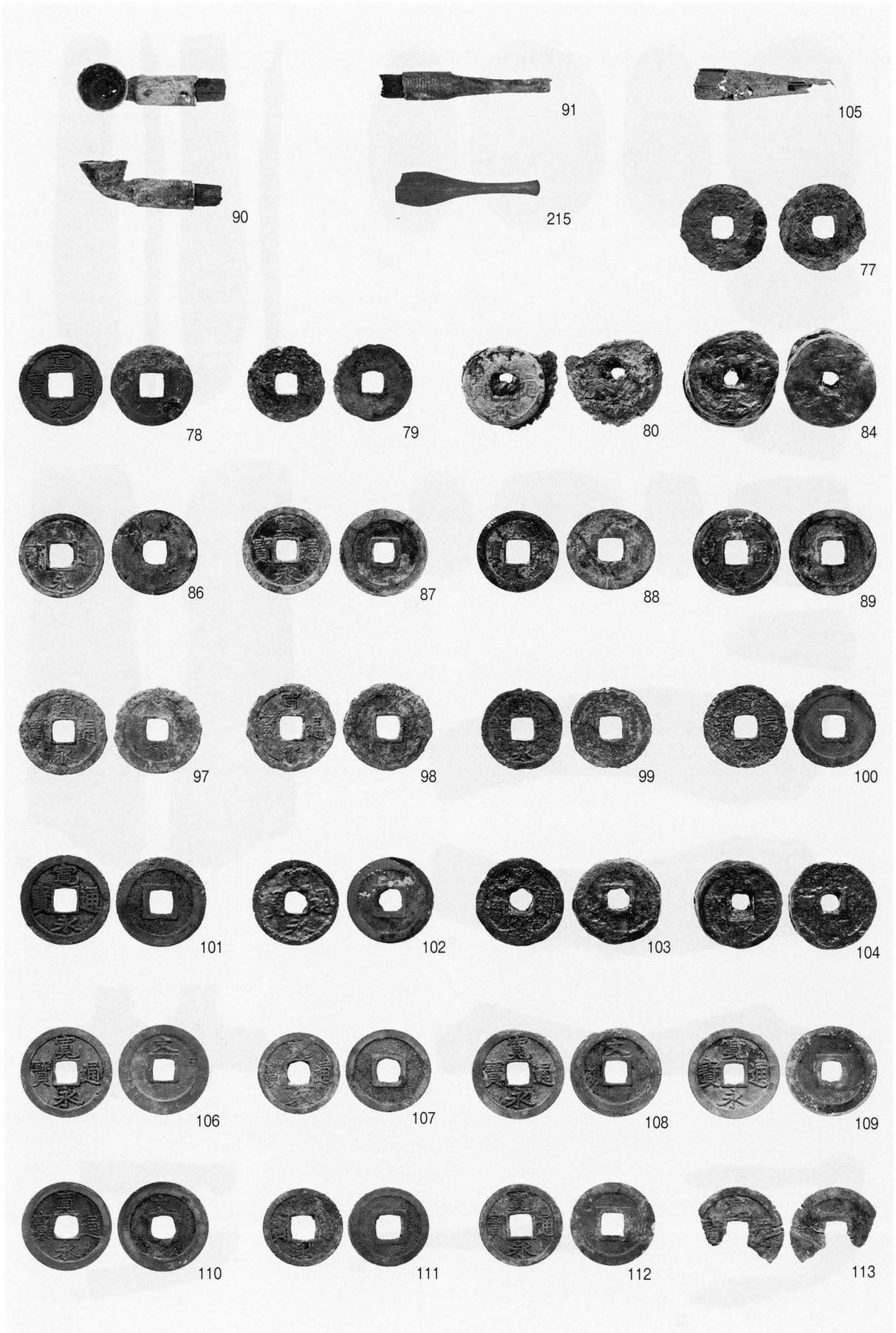
写真図版 63 遺構外出土土器 (4)、土製品



写真図版 64 石器 (1)



写真図版 65 石器 (2)、石製品、金属遺物 (1)



写真図版 66 金属遺物 (2)

報告書抄録

ふりがな	のぞわ2いせき・ふなと1・2いせきはつちようさほうこくしょ							
書名	野沢Ⅱ遺跡・舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書							
副書名	経営体育成基盤整備事業更木新田地区関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第586集							
編著者名	菅 常久・溜 浩二郎・山田めぐみ							
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL (019) 638-9001							
発行年月日	2011年1月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
のぞわ2いせき 野沢Ⅱ遺跡	いわてけんきたかみし 岩手県北上市 さらき ちわり 更木19地割79-1ほか	03206	ME46-2306	39度 20分 02秒	141度 09分 09秒	2009.04.10 ～ 2009.08.05	4,500㎡	経営体育成 基盤整備事 業更木新田 地区事業に 伴う緊急発 掘調査
ふなと1・2いせき 舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡	いわてけんきたかみし 岩手県北上市 さらき ちわり 更木6地割61-1ほか	03206	ME46-1390 ME46-2314	39度 20分 15秒	141度 08分 25秒	2009.05.11 ～ 2009.11.13	11,847㎡	
所収遺跡名	種別	おもな時代	おもな遺構		おもな遺物		特記事項	
野沢Ⅱ遺跡	散布地	縄文・ 弥生時代	竪穴住居跡1棟 土坑1基		縄文・弥生土器、石器、 石製品		弥生・平安時代の集落跡	
	集落跡	平安時代	竪穴住居跡4棟 溝跡1条		土師器、須恵器			
		近世以降	掘立柱建物跡1棟 土坑2基 井戸跡1基 溝8条 柱穴状土坑137個 性格不明遺構1基		陶磁器			
舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡	散布地	縄文・ 弥生時代	土坑3基 溝跡1条		縄文・弥生土器、石鏃、 石製品		平安時代の集落跡、近世 墓地	
	集落跡	平安時代	竪穴住居跡5棟 焼成遺構1基		土師器、須恵器、土製品、 金属遺物			
		近世以降	土坑20基 焼土1基 溝跡30条 柱穴状土坑65個 墓壇16基		陶磁器、金属遺物			
要約	今回調査を行った野沢Ⅱ遺跡、舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡は縄文～近世まで断続的に利用されてきた複合遺跡で、縄文～弥生時代は土器散布地、古代・近世は集落跡であったことが判明した。							

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第586集

野沢Ⅱ遺跡・舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書

経営体育成基盤整備事業更木新田地区関連遺跡発掘調査

印刷 平成23年1月24日

発行 平成23年1月28日

編集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
TEL(019)638-9001

発行 岩手県南広域振興局農政部北上農村整備センター
〒024-8520 岩手県北上市芳町2-8
TEL(0197)65-2733

(財)岩手県文化振興事業団
〒020-0023 岩手県盛岡市内丸13番1号
TEL(019)654-2235

印刷 有限会社ジロー印刷企画
〒020-0066 盛岡市上田二丁目17番4号
TEL(019)651-6644
FAX(019)652-2610

